

プリンセスブレイド団体戦・個人戦優勝RTA_男子TSチャート_1時間
15分33秒

にじくじやく

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

お色気スポーツでもが女子ひん剥いてお姫様目指す話。

(※PCでの閲覧推奨)

目 次

入学～一年目S・H・I・N・E・優勝

Part 1 キャラ作成～春合宿 | 1

Part 2 指希先輩信頼Lv. 2～レギュラー獲得 | 14

part 3 指希先輩信頼Lv. 3～S・H・I・N・E・予選

団体一回戦 | 26

Part 4 S・H・I・N・E・予選団体決勝～個人決勝

39

Part 5 再戦～S・H・I・N・E・予選優勝 | 53

part 6 高旗先輩信頼Lv. 2～S・H・I・N・E・本戦

団体一回戦 | 64

Part 7 S・H・I・N・E・本戦団体準決勝 | 78

Part 8 S・H・I・N・E・本戦団体決勝 | 90

Part 9 S・H・I・N・E・本戦個人一回戦～決勝 | 103

修行フェイズ～一年目終了

Part 10 修行フェイズ移行～指希先輩信頼Lv. 4 | 119

Part 11 イスカ信頼Lv. 4 | 133

Part 12 高旗先輩信頼Lv. 3～高旗先輩離脱・奏加入

146

Part 13 奏信頼Lv. 2・3～正月初詣 | 161

Part 14 ほも覚醒 | 175

Part 15 イスカ信頼Lv. 5～奏信頼Lv. 4 | 186

Part 16 バレンタイン～指希先輩信頼Lv. 5 | 203

二年目開始～二年目S・H・I・N・E・優勝

Part 17 二年目開始～なびき加入～なびき信頼Lv. 2・3

エンディング・エピローグ	444	
おまけ		
Part 32	プリンセスブレイド個人一回戦&決勝	423
Part 31	プリンセスブレイド団体決勝	410
Part 30	プリンセスブレイド団体一回戦	397
Part 29	みけ信頼Lv. 4・5&選抜個人特訓	384
Part 28	みけ信頼Lv. 3&選抜団体特訓	370
Part 27	日本代表フェイズ移行&チーム結成	359
日本代表フェイズ&プリンセスブレイド優勝		
343		
Part 26	S.H.I.N.E. 本戦個人一回戦&決勝	
Part 25	S.H.I.N.E. 本戦団体決勝	332
Part 24	S.H.I.N.E. 本戦団体準決勝	320
Part 23	S.H.I.N.E. 本戦団体一回戦	308
295		
Part 22	S.H.I.N.E. 予選個人一回戦&決勝	
279		
Part 21	S.H.I.N.E. 予選団体一回戦&決勝	
Part 20	なびき信頼Lv. 5&レギュラー獲得	262
Part 19	奏信頼Lv. 5	249
Part 18	春合宿&なびき信頼Lv. 4	234
		220

入学く一年目S.H.I.N.E. 優勝
Part1 キャラ作成く春合宿

へ行こう(迫真)

目標:学校

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

BP: (4BP) (9BP)

休: 0 1 2 3 4 5 6

7 8 8 9

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

なびき in

↑ S. H. I. N. E.

!!

プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

——ヒロインバトル。

長い歴史を持つ、不可思議で可憐な装いに身を包んだ女子達が互いの全力をぶつけ合う競技。

あらゆる国の戦う女子高生達が、磨き上げた力と技で目指す頂はただ一つ。

それこそが二年に一度開かれる高校ヒロインバトル国際選手権大会、

またの名を、

『プリンセスブレイド』である——。

お姫様は女の子だけの専売特許じゃねえぜ！ なRTA、はあじまあるよー！

今回走るゲームは変身ヒロイン育成スポーツバトルアクション『プリンセスブレイド』！

女子が不思議アイテムで変身して戦うスポーツ『ヒロインバトル』がある現代を舞台に、主人公の女子高生（女子とは言っていない）を操作してヒロインバトル高校世界大会『プリンセスブレイド』での団体戦、個人戦両方の優勝を目指します。

まずはオプション画面で文字表示速度を最大に。OK? OK!
(ズドン)

んじやタイトル画面に戻りシナリオモードの〈NEW GAME〉
を押して早速始めて行きましょう。

はい、よいスタート(棒読み)。

最初に難易度の選択が出ますので最高難易度のベリーハードに。

主人公の性別は男。名前は姓名どちらかがあれば片方は無くても
進められるので入力速度を考慮し姓はなし、名を『ほも』にします。当
たり前だよなあ?

【本当に性別を男にしますか? (難易度上昇)】

男を選ぶとこのように注意が出ますが、構わず進みます。

この難易度上昇は最初に出たものとは別枠で、本来女子限定の競技
を扱っている本作に男子を割り込ませる弊害といった感じで、女子に
比べいくつか縛りプレイを強いられますが詳細は後ほど。

次に初期ステータスの割り振りと、得意ステータスと苦手ステータ
ス、通常攻撃タイプの選択。

ステータスは筋力(物理攻撃・HP)、耐久(物理防御・HP)、魔
力(魔力攻撃・SP)、精神(魔力防御・SP)、敏捷(移動・行動速
度)の五つ。

得意苦手はそれぞれステータスに十と一補正が掛かります。まる
でポ●ケモンみたいだあ……。

とりあえず必要なのは魔力と敏捷なので7:3の割合で振りましよ
う。得意は魔力、苦手は耐久に。

魔力型なら筋力苦手にした方が無駄がないのでは? と思われる
かもしれませんが、今回のチャートでは後々一定の筋力が必要になる
ため耐久を削る事にしました。

通常攻撃は遠距離を選択。初期ステータスが魔力に傾いているの
で自動的に魔力依存の遠距離攻撃『マジックショット』になります。

お次は特徴選択ですがここで早くも男のデメリット。

選択枠三つのうち一つが、『テイレシアスの印』という名前の特徴
で固定されてしまいます。誰だよ(ピネガキ)。

特徴画面のフレーバーテキスト曰く、由来はギリシャ神話に登場する女体化した盲目の預言者だそうで、これがあるから男でも変身ヒロインになれるっていう理由付けですね。この特徴自体にゲーム的な効果は一切ありません。

気にせず残りの特徴を選びましょう。二つで十分ですよ！（BLDRNN）

《テイレシアスの印》《根性》《魅力的》

◇《テイレシアスの印》OBP 条件：キャラ作成で男を選ぶと強制取得。

何の効果も無し。枠を圧迫するゴミ。

◇《根性》OBP

HPが0以下になっても10%の確率でHP1で耐える。自分が持つてると頼りなく、敵が持つてるとクソうざい。

オートセーブ進行のこのゲームでは通常プレイでもぶっちゃけ微妙。

しかしこいつのランクアップ先に用があるため採用。

◇《魅力的》OBP

チームメイトや監督の信頼度上昇に補正が付く。

チームメイトの信頼レベルが一定以上で得られる、

団体戦の相互バフと練習効率上昇ボーナスを早期に狙えるのが利点。

《根性》はポケモン●ンで言う所の気●合のハチマキですね。

あつちにも根性って名前の特性あるから紛らわしい……紛らわし

くない？

《魅力的》は他キャラの信頼度上昇に補正が付きます。

序盤に有利な団体戦の相互バフが欲しいのでこれも採用。

続いてほも君の見た目ですが、RTAなのでランダムデフォルト設定の中肉中背黒髪の平凡少年で行きます。

男子を選んでも場合は引き続き女体化後のキャラデザもやらされますが、こちらもそのままです。

ほもちゃんは女子にしてはやや高め的身長と、おっぱい大きめな黒髪ショートボブの子になりました。

最後にほも君の通う高校を決めましょう。

ここではバリエーション豊富な十六の学校から好きな入学先を選ぶ事が出来ます。

基本的に各校のヒロインバトル部には固有の選手が三〜四人ずつ、その他フリーの選手が数十種類からランダムで三人と、モブの一般部員がいます。

個人戦だけなら仲間の能力はあまり関係無いです、団体戦も狙うなら学校選びは超重要。

このゲームの団体戦は主人公一人で無双出来るほど甘くないので、育成方針に合わせてバランスの良いチームをガッチリ組まなければなりません。

主力の部員以外にも各校細かな違いがありますが、そこは時間が空いたときにでも。

そして今回私が選ぶ学校はこちら。

『音咲女子高校』

はい、マーチングバンドガール達が集う音咲（おとさき）女子高校です。

女子校？ え、そんな関係ないでしょ（真顔）。

音咲女子高校（以下音咲）は吹奏楽や合唱といった音楽系の部活が盛んで、ここを選ぶと変身後のコスチュームが見ての通りマーチングバンド風になります。可愛い（語録無視）。

決定押してキャラクリ終了！ 学校個別のオープニングデモは

キャンセルだ。

んじゃほんへスタート。オツスお願いしまーす！

「全員集合ー！ ……うん、集まったかな。新入部員の皆、ようこそヒロインバトル部へ！」

わたしは部長の調辺 指希（しらべ しき）、よろしくね。

まだお互い名前も知らないし、このまま全員自己紹介から始めよつか。上級生から順番に……

はい、じゃあ次の人。

……なるほど、ほもちゃんね。よろしく！」

一年、ほもです（威風堂々）。

指希先輩オツスオツス！ 彼女が音咲の部長にして本チャート団体戦の要である二年の調辺 指希（しらべ しき）先輩です。お前の事が好きだったんだよ！（唐突）

彼女は部長キャラ特有の高ステータスを精神・耐久寄りにしたサポートタイプの選手。

団体戦ではその硬さとそこそこある敏捷、凶悪な特徴とスキルで味方全体にバフをばら撒きつつ自衛能力も併せ持った超クツソ有能な指揮官になります。

逆に単体で有利な能力はステの高さ以外ほぼ持ち合わせていないので、私人マシーンが跋扈する全国レベルの個人戦でお目にかかる機会は滅多に無いでしょう。

▽音咲女子高校ヒロインバトル部。今日から自分はここの一員となった。

▽この学校は音楽の他にヒロインバトルが盛んで、団体戦では全国にも出ている強豪だ。

▽はたして自分はその舞台に上がれるだろうか。頑張ってみよう。

そんなこんなで初日が終わりましたね。なおここでは初心者が試

合の操作を覚えるための最初の模擬戦が挟まれますが、特にうまあじがないので見学（スルー）一択。

無事に入部初日を終えたほも君のモノログが入った所で、いよいよ本格的な操作開始です。

早速週ごとの練習メニューを組んでほも君をビシバシ鍛えてやりましょう。

キャラクリ時に話した通り序盤はとにかく魔力と敏捷の育成が急務なのでトレーニング内容は魔力メインの『魔力コントロール』、敏捷メインの『短距離ダッシュ』を中心に、一緒に練習してる部員がいるとステ上昇にボーナスが付くのでより人の多い方を優先していきま

す。
ただし指希先輩がいたらたとえ二人きりでも最優先で信頼度を稼ぎに行きましょう。何なら他の部員と固まってるときは精神メインの『瞑想』でも多少魔力が伸びるので可です。

おっ、言ってるそばから絶好の機会がやってきましたね。

『短距離ダッシュ』に指希先輩含めた部員多数確認！俺も仲間に入れてくれよ（マジキチスマイル）。

「ほもちゃん、お疲れ。頑張ってるね！」

＜部長を見習おうと思つて。

「そう？　なんか照れるなあ……。えへへ、それじゃ一緒にもう一セットいこっか」

＜＜調辺 指希（しらべ しき）の信頼度が上がった！

こんな具合に、他の部員と一緒に練習時は追加でステータスとそのキャラの信頼度が上昇し、そこからランダム会話イベントが発生すれば更に信頼度が上昇します。

信頼度が一定以上のキャラはステ上昇のボーナスも強化されるので、通常プレイでも育成相性の良いキャラは積極的に狙っていけるようスケジュールを管理したいですね。

次の週も『短距離ダッシュ』に人が集まっています。いいづくこれ。

一緒に練習出来る部員の数は最大五人までで、トレーニングは各能力値に直結した軽トレ五種＋能力値を複合した重トレ五種の計十種。

休養を挟まずより多くの練習回数と信頼度を稼ぐため、基本的に軽トレのみで回します。

モブ部員の数は学校によりけりで、音咲は平均よりやや多い方ですが、主人公同様に休養にあてた週は練習自体参加しないため中々思うように行きません。

一週間も休むって何だよって話ですが、そういうゲームだからね。しようがないね。

何にせよ二、三人もいれば効率がそこそこ違ってくるので、なるべくぼつちにならないよう祈りましょう。

画面の方では序盤ゆえのチュートリアルイベントがバンバン挟まっていますが、本作にはテキストスキップ機能がない・表示速度最大でもギリギリ目で追える程度なので、発生する度そこそこ時間を取られてしまってますね。

なので、今の暇な時間にこのゲームの概要についてお話し致しとうござりまする。

本作のジャンルは変身ヒロイン育成スポーツバトルアクションとなっており、プレイヤーが自分の分身である主人公を操り、魔女っ子だとか姫騎士とかに変身して仲間やライバルと切磋琢磨しながら大会優勝を目指すゲームです。

ざっくり言うと閃乱カ●グラの見た目とバトルアクション要素にパ●ワプロの育成要素を足したような感じ。

この手の3D美少女アクションバトルにありがちなダメージ脱衣や特殊性癖、キラキラ要素も一通り備わっているのでそっち方面の知名度がありますね。

シナリオというかゲームの目的としては、一年生の主人公が入部してから二年目の冬に開かれるプリンセスブレイドで優勝を目指すという至ってシンプルなものとなっております、そこに所属先の学校や特定キャラ達のイベントで細かい味付けが変わる感じです。

主人公に関しては何か特別な来歴とか使命がゲーム側から語られるわけでもなく、傍から見ると普通の一高校選手として名を上げたり上げなかったりします。

いわゆるドラマはプレイヤー自身の想像に任せるタイプでしょうか。

……ところでこのほも君、おそらく行われたであろう戸籍偽装に始まり女子校への不法入学、常時女体化したまま今も画面内で女子に混じって何食わぬ顔で部活に励んでいるわけで。

何が言いたいかと言うと、これだけの事をしでかしながら多分彼には具体的な目的は何も無いだろう、という事です。

多分変態だと思っんですけど（名推理）。

こういう主人公がTS（女体化等の性転換）や女装して女の園に潜入するシチュって大抵やむにやまれぬ事情から渋々始まるパターンが定番ですが、男を選んで女主人公と一切変わらない会話文とイベントのせいで女体化に妥協を許さないとんでもない変態少年になってるわけですね。

実際本作で選べる学校の多くは女子校ですが、たとえ共学の場合もほも君は当然の権利のように女子として通学しますし自室以外では頑なに変身を解こうとしません。意識高過ぎイ！

TS作品において時に「Q. 何でこの作品TSするの？ 意味無くない？」といった感想を目にする事もありますが、「A.（男が美少女になれたら）嬉しいだろ？」そんな声がこのゲームからは聞こえてくるような気がします。

と、ここで重要イベント発生。

～ゴールデンウィーク初日。

～早朝の音咲女子高校の校門前にバスが停まり、ヒロインバトル部の面々が整列している。

「点呼確認！ ……よし、全員揃っているな？」

今日から部員同士の連携能力を高めるため三泊四日春の強化合宿を行う。荷物を積んだ者からバスへ乗れ」

これは毎年五月の冒頭にある音咲固有イベントの春合宿。

ターン消費無く目当てのステータスを大きく伸ばせる上におまけまで貰える良イベですね。

〈自分の順番になりバスに乗り込む。

〈なるべく学年バラバラに座るよう指示され、ほとんどはその通りバランス良く埋まっていた。

〈が、どうも最奥の目立つ空間にだけは一年生が寄り付いていない。
「……………」

〈その中央にどっしり座っているのは、体格が良く険しい顔立ちで近寄りたいたい雰囲気の子。 〉三年生の高旗 立(たかはた りつ)先輩だ。

〈これ見よがしに両隣を一つ空け、周囲の上級生は面白そうに一年生達の様子を窺っている。

〈折角なので、その隣にお邪魔する事にした。

「…………む、お前は確か…………一年のほもか」

そうだよ(迫真)。

「おつ、今年一度胸試しはほもちゃんが一等賞か。やるねー」

「おらっ、お前もこつち来い。だーいじょーぶ取って食ったりはしな
いから」

「はっはい……………」

〈最後にやってきた調辺部長が、三年の先輩と一緒に乗り込んでくる。

〈残った一年生を高旗先輩の隣もう片方に押し込むと、ニマニマしながらこちらの隣へ座った。

「うちの伝統行事だね。この春合宿って学年間、特に新入部員と上級

生との交流を深めるのが目的だから、まずは余興に一番強面の先輩の隣をわざと開けておいて、趣旨を理解してもらおうってわけ」

◁目を合わせ、悪戯っぽい笑みを浮かべながら言う。

◁反対側で腕を組んだ姿勢の高旗先輩が心底不服そうに息を吐いた。

仲良くなるのが目的なら威圧する必要ない……なくない？（正論）
パワハラ怖いなくとづまりすとこ。」

「ちなみに、去年はわたしが高旗先輩の隣に座ったんだ。

こう見えて後輩には面倒見良くてすつごく優しい先輩だから、みんなどんどん頼っちゃってね。

それじゃ監督、出発お願いしまーす！」

「まあ、あたしには全然優しくないけどな」「横の繋がりもっと大事にしろー！」

「……お前達が去年から、私をこの役に全力で推薦した恨みは忘れてないぞ」

◁冗談めかしたやり取りに、一年生達の緊張も幾らかほぐれたようだ。

◁チームワークを重んじる強豪校ともなると、こうした場の盛り上げも上手くなるのだろうか。

◁にわかには賑やかになった車内が小さく揺れ、音咲ヒロインバトル部を乗せたバスが動き出す。

「あ、それとほもちゃん。今回どんな練習がしたい？」

◁唐突に調辺部長が聞いてきたが、何だろう。

◁今やりたいのは……

? 筋力を鍛えたい。

? 耐久を鍛えたい。

◁ ? 魔力を鍛えたい。

? 次へ↓

「そっかそっか。」

それじゃ見た目のこわ〜い先輩も恐れない勇敢なほもちゃんには、魔力理論の基礎から実践まで、わたし達が三泊四日付きつきりで見つちり教えてあげちゃおう！

—— 勿論合同練習にもちゃんと参加してもらおうから、一緒に頑張ろうね！」

〈これは……………〉

「大丈夫！ わたしだって去年最後まで行けたんだから、ほもちゃんならやれるよ絶対！」

俺もやったんだからさ（同調圧力）。

やっぱりパワハラじゃないか（憤慨）。

それはさておき、今回は敏捷が順調なのに対し魔力が足りてないの
で魔力を選択しました。

体力を消費しますが怪我はしないし事前にギリギリまで調整しとけば実質ノーデメリットな上、元々一年目は練習連打で丁度いいタイミングになるから安心！

「おらっ、新入り！ お前も好きなの選べ！」

「ひいひい！！ 取って食わないって言ったのに！！！」

「実力を伸ばすチャンスだぞっ！ 光栄に思え！」

〈…………やはり強豪校の合宿、明るく楽しいだけとはいかないらしい。

〈その後、毎夜うなされる新入部員が出るほど厳しい練習が続いたが、何とか脱落者はゼロ。

〈上級生達も疲労が濃い中で余裕を残すレギュラーメンバーに、音
咲の強さの一端を垣間見た。

〈体力が大きく減少した！

〈魔力が大きく上昇した！

〈BP（ボーナスポイント）を1獲得した！

あぁ〜！ BPの音オ〜！

このように特定のイベントや、試合に勝ったり練習を六週分こなす

事で、新しいスキルや特徴を取得するために必要なボーナスポイントが貰えます。

どちらも取得数に上限はありませんが、強力なものは相応のポイント、ステータスの高さなどを要求される点に注意。

またスキルは試合に三つまでしかセット出来ず、特徴は取得する毎に要求ポイントが多くなるので、おおむね最初に決めた通常攻撃タイプと得意ステータス、そして特徴を活かすように育成するのが基本でしょう。

無節操にあれこれ取ると強化系なのに操作系と具現化系にメモリ無駄遣いした力●ストロ兄貴みたいなのが出来上がるので、（無駄遣いは）やめようね！

さしあたっては来たる難所に備え、このBPはちやーンと取っておきま

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 2 指希先輩信頼Lv. 2 > レギュラー獲得

嫌取り

目標：()機

しかるのちお礼参り

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1

レギュラー選抜戦 ↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン ♥

B.P. (4BP) (9BP)

休： 7 8 1 2 3 4 5 6

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月： 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9

月 10月 11月 12月

なびきin

↑ S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP:

(33BP) (38BP)

(52BP)

休: 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

合宿で世話になった先輩方に報復するRTAパート2、はあじまあ
るよー!

前回は春合宿で純真無垢なほも君が全国強豪校の可愛がりを受け
たところまで。

運動部怖いでしょう…… (帰宅部並感)。

今回はすつからかんになった体力を休養で回復した後、再び練習漬
けの日々を送るところから。画面の方ではお目当ての指希先輩の信
頼レベル上昇イベントが起きましたね。

部員の練習メニュー出現率はおおむねそのキャラの得意ステータ
スに偏るため、精神得意の指希先輩は今の育成方針と噛み合いません
が、隙あらばストーキング行為に及んだ甲斐あって中々順調なペース
です。

「〜♪ ふふふ」

「〜お疲れ様です、調辺部長。機嫌良いですね。

「あ、ほもちゃん。えっ、そ、そう……見える?」

今日のチーム練習はみんな調子良くて楽しかったから、そのせい
じゃないかな?」

おうおうしらばつくれてんじゃねえぞ姉ちゃん！

このほも君の眼光の前に嘘は通じぬ！（ご都合エスパー洞察力）

〈視線が泳いでいる……機嫌が良いのは一昨日からなので、どうやら部活とは関係なさそうだ。

〈確かその辺りで、スマホを手に落ち着かない様子で文字を打つ姿を何度か見た覚えがあるが。

〈……………。

「あつ、いたいた部長！ どうも練習用の備品が一気に駄目になっちゃってみたいで、さつき先生からお小遣い貰ったんで買い出し行くの手伝ってくれませんか？ うちら以外にもう何人か人手が欲しくって……………」

「えっ」

「お願いします！ この機材とかマジで重いですよー！」

「えっあつ、えっ……………」

あつ、おい待てい（江戸っ子）。

ここはオレに任せて先へ行けッ!!（バトル漫画あるある）

〈…………先輩方、よければ部長の分も重いの持たせてもらっていいですか？

〈丁度今重たい武器の取り回しに悩んで、少しでもコツが掴めるように。お願いします。

「！」

「おっ！ なんだほも気合入ってんじゃん」

「それわかるわー、重武器って中学じゃ基本触れないから最初すごい振り回されるんだよね。

バランスの取り方から全然違うっていうか」

「よっし、そう言うことならここは先輩としてうちらがバッチリ教えてやるよ！ へばるなよー？

あ、それじゃ部長、お疲れ様ですーす！」
「よろしくお願いします。部長、お疲れ様です。」

アヤツ→ス!! (体育会系特有の万能言語)

「あ、うん。お疲れさま……」

「……………ハッ！ いけない、わたしも準備して早く行かないきゃ。」

時間はまだあるから、とりあえずシャワー浴びて、あとはメイクも最低限……」

「……………ひよつとして、わかってて気を使ってくれたのかな？」

「<>調辺 指希 (しらべ しき) の信頼レベルが2に上昇した！
LEVEL UP

そうだよ (恋に浮かれる先輩をそつと後押しする後輩の鑑)。

今のが指希先輩の信頼レベル2上昇イベントでした。

指希先輩の場合は、彼女の恋愛をほも君がさりげなくフォローする所から始まります。

レベルは全キャラ最大5までの、計四回ですね。

信頼レベル上昇イベントは、

レベル3になると一緒に練習時やチーム組んで戦う際にボーナス付与。

レベル5では味方キャラの真の力が解放され、更にキャラ毎に対応する能力値上昇とBPを貰える重要なイベント群です。

当然余分な時間が取られますゆえ、それに見合う価値のある者だけを選びませう。

とりま、詳細は進めながらその都度茶々入れ……もとい補足していく方向で。

スポーツ強豪校の部長に身を置きながら片思いの恋との両立に悩む少女を、味方するフリして心へぬるりと入り込んで行きますお、イクイク……

次のイベントが来るまで練習風景を眺めつつ、当RTAの基本について軽くご説明をば。

このゲームを走る上での要点は主に三つ。

①コンマ一秒を争う練習コマンド選択の判断速度。

②試合を早期決着するための操作技術。

③ビルド含め、無駄イベや練習試合を可能な限り省くチャート構築。

このうちアドリブ最多でぶつちぎり難しいのが①練習コマンド選択。

とにかく瞬時の判断力を要求され続けるので、試合前後の演出で休める上にほとんどパターン対処出来る試合よりよっぽど神経使います。おまなこ壊れちゃう→う(ドライアイ)。

特にさつき話した信頼度上昇イベをいらんキャラで発生させるとロスになるので、部員の数だけ見て無暗に突っ込んだりしてはいけない(戒め)。

次は②試合での操作技術。

慣れない内は難しく感じますが、一年目と二年目の共通AIの変化と、一部の厄介なキャラ対策を覚えだすとかなり楽になるでしょう。

なおクリティカル狙いの最速撃破を突き詰めると再び難易度が上がる模様。

このゲームはオートセーブ進行で区間練習にはそこそこ苦勞するため、その辺も考えてチャートは安定よりで試行回数稼ぐのをおすすめします。頑張るしかないよ！

最後は③チャート構築。

走る際にはカンペ置いてりや大体何とかありますが、ここが駄目だとどれだけ神プレイングで豪運引こうが無意味なので、チャートはちやーんと作りましょう(激ウマギャグ)。以上です。

………普通だな！

まあどんなスポーツも当たり前の積み重ねが記録を作ってくもんだから、多少はね？

さて、そこそこ喋った所でほんへの様子ですが………なんか、今回やけに部員が『短距離ダツシユ』に集まりますね。お前ら陸上部か？

おかげで敏捷はうまあじですが、代わりに合宿以外一切鍛える機会が来ない魔力の伸びが気になってきました。

最初の難関までに目標値に達していなければチャート崩壊の危険性大なのですが、現在のカレンダーは六月一週。地区予選は七月二週からなので慌てず便乗作戦のまま練習を続けましょう。

君一人かあ………ままええわ。

んんん！ 『瞑想』に指希先輩抜きの人………ギリ許容！

魔力トレーニング来て！ 魔力トレーニング来て！ ほも君一人じゃ寂しくて死んじゃうの！！

お願いします誰か来てください！ 来いっつってんだろ（豹変）。

「ほもちゃん、お疲れ。頑張ってるね！」

先輩！ 好きッス！

ああ〜（魔力+信頼度）うめえなあ！ だからあとちよつと来て！

〜監督が部員の皆をフィールドに呼び集めた。

〜何だろうか。

「よく聞け、そろそろS・H・I・N・E（シャイン）本戦前の地区予選が始まるというのは話したな。

今日はそのメンバーを選考するための模擬戦を行う」

アツーーーーー♂（高音）

これが来たって事は……（もう猶予）ないです。クウーン……
ほも君の魔力は……微妙ーに足りてない。これは暗雲が立ち込めてきましたね……。

あと監督が急に耳慣れない専門用語使ってきましたが、S・H・I・N・E。っていうのは正式名がやたら長ったらしい夏の全国大会の略称で、ヒロインバトルの甲子園みたいなもんです。

それはそれとして、イベント解説に移りましょう。

ヒロインバトルには個人戦と団体戦の二種目あり、この模擬戦イベントの成績と、監督からの信頼度によって主人公は公式戦のメンバーに参加出来るようになります。

練習メニューで部員達に紛れてチラチラ見てた体育教師風の女がそうですね。こいつへのアピールを怠ると、模擬戦で好成绩でもうっかりレギュラー落とすのがこのゲーム序盤の罠です。

指導者ならちゃんと全体を見る（半ギレ）。

なお今回は最低限のご機嫌取りは出来ているので、あとは正規レギュラーや思い出出場の三年生を實力でねじ伏せてやりましょう。模擬戦の結果でも監督の信頼度が上下するため、多少の不足は『魅力的』の補正で何とかかなります。

「まずは団体戦から始める。今回は模擬戦のため三人一組でやってもらう。チーム分けは……以上だ。

今から三分間のミーティング後に、呼ばれたチーム毎にフィールドで戦ってもらおう」

＜ざわざわ。

＜周囲に即席で集められた三人組の部員達がそれぞれ話し合う声がする。

＜自分も同じチームの二人と今のうちに作戦を決めておこう。

と言うわけで団体戦のオーダー画面に入りました。ここの味方は近接バランス型二人で固定なので、揃って前衛で守りを固めるよう指

示しましょう。

それに合わせてほも君のカスタマイズも出来るのですが、今は通常攻撃だけで十分です。

団体戦のルールについては別枠で解説を。

・三対三で行われるヒロインバトル。

・各チーム出場選手は六名で、試合前の見せ合い後に実際に戦う三名を選出する形式。

・チームワークのみならず、相手の裏を読む選出の駆け引きが最大の見所。

・ほぼほぼ交換できないトリ●プルバトル。

ちな、前回触れた通りこのゲームのHP全損＝脱衣KOなので、こつからはほも君(♂)が自慢の銃で少女達をひん剥く絵面が頻発します。

まあサムネ見りや一目瞭然ですが。こういうの、好きでしょう？(ニッコリ)

「次、Cチーム対Eチーム！ 前に出ろ！」

初戦の相手は音咲固有キャラその2、三年の高旗 立(たかはたりつ)先輩率いるチーム。

彼女は敏捷を犠牲に得た屈強な耐久と範囲の広いガードスキルで味方をかばう典型的なディフェンダーです。

当然指希先輩との相性は抜群で、一年目の音咲を相手にした際は速やかに彼女のガードを崩さなければ全体バフがどんどん積み上がり、手の付けられない状況に追いやられるでしょう。強い(確信)。

まあこの模擬戦じゃただの硬い顔なんですけどね(ゲス顔)。

「それでは試合……始め！」

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす！（開幕マジックショット）

「きゃあっ!!」

試合開始と同時に高旗先輩が広範囲ガードを張ろうとしますが、それより早くほも君の召喚したライフルから魔力弾が発射、棒立ちの相手後衛一人の変身アイテムにクリティカルヒットしKOさせます。

遅れて高旗先輩の広範囲ガードのエフェクトが発生、同時にもう一人の後衛から攻撃が飛んできますがこれは余裕でステップ回避。

高旗先輩の弱点はその鈍足さ故に速攻にはガードが間に合わない所です。

こちらに十分な敏捷と遠距離火力とエイム力があれば、自衛能力を持たない低耐久の取り巻きは簡単に処理出来るわけですね。

（AI反応速度）こんなゆるいんかよ！ 笑っちゃうぜ！（嘲笑）

あとは前衛二人に足止めしてもらいながら、相手の遠距離攻撃を避けつつ高旗先輩をチクチクする作業です。

今回は火力が微妙に足りてないので変身アイテムの初手スナイプに失敗したら撃ち漏らすところでしたが、この試合は最悪三対一でも引き撃ちしてりや勝てるので小ロスで済みます。

おらっ、大人しくパンツ見せろ！ 脱ぎづらいなら手伝ってやるよ
ホラホラホラ！

「ぐううう……ッ！」

落ちたな（衣類）。

残った取り巻きもパパパッとやって、終わり！（銃札）

やっぱ遠距離を……最高やな!!

「よし……では、次は勝ったチーム同士で二戦目を行う！ 呼ばれた組み合わせはフィールドに出ろ！」

……………

……次、AチームとEチーム！」

〽仲間と力を合わせて、高旗先輩のチームに勝つことができた。

〽どうやら、今度は調辺部長のチームと当たるらしい。

「よろしく！ お互い遠慮はいらないから、全力でね！」

お次は指希先輩&前衛アタッカー×2のチーム。

こちらにも先程と同様取り巻きが大了た事ないので、その弱みに存分に付け込んでやりましょう。

ビーーーーーッ

戦法はさつきと変わりません。指希先輩はほも君より速いので先制して防御バフを掛けられてしましますが、肝心のバフを受ける取り巻きがガバガバ守備なため開幕スナイプが入ります。

残った方を味方前衛に数的有利で抑え込んでもらいつつ、こちらは指希先輩を狙いましょう。

ここの指希先輩は味方が一人でもいればバフに集中して殴りに来ない甘ちゃんなので、望み通り遠慮なく辱めて差し上げろ。

じゃあ今まで（合宿）のちかえしをたつぷりとさせてもらおうじゃないか。

おらあ！ てめえら俺のおもちやでいいんだ上等だろ（新入部員の屑）。じつとしてろお前！ 逃げられねえぞお前！

へっ、可愛い下着履いてんじゃねえか（ゲス顔）。

「つう、しくじっちゃったかも……」

工事完了です……（残心）。

ライフルくるくる回してポーズ決めるマーチングバンド姿のほも君セクシー……エロいつー！

「そこまで！……Eチームは良い動きだったな、よくやった」

〽一緒に戦ったチームメイトと喜び合う。なんとか調辺部長のチームにも勝つ事が出来た。

「各自休憩は済んだな、ではここからは個人戦を行う。呼ばれた者はフィールドに出るように」

さて、続く個人戦ですが一年目の模擬戦では二戦行われる相手がどちらでも一般部員の完全接待ステージとなっています。

先の団体戦では相手チームの弱みを突く作戦が有効でしたが、流石に現時点で指希先輩とガチタイマンさせられたら運ゲーに持ち込んでも勝てるかどうかくらいでしょう。

個人戦が得意でない指希先輩が相手の音咲ですらこれですから、個人戦の鬼が在籍する他の学校なんかでは当然一年目の公式戦個人出場が厳しくなり、序盤のBP入手もままなりません。

そうならないための配慮ですね。

モブ部員といえどこの時点では合計ステータスは格上、難易度補正もあって多少動きはいいですが、そもそもこんな所で苦戦するようではRTAは務まりません。

サクツと片付けてありがたくBPを頂戴しましょう。そのキレイな顔を吹っ飛ばしてやる！

「やるなほも。これなら個人戦は期待できそうだ」

〽息を整えながらぐつと手を握り締める。なんとか二回とも勝つ事が出来た。

〽今回の模擬戦は団体戦、個人戦共に良い結果を出せた。

〽監督からも褒められ、確かな手応えを感じる。

〽〽監督の信頼度が上がった！

〈〈 B P (ボーナスポイント) を2獲得した!

〉翌日……

「皆、集まれ。」

昨日の模擬戦と普段の練習を考慮した、S・H・I・N・E. の出場メンバーを発表させてもらう。

まずは団体戦から……

……

……ほも!」

アヤツ→ス!! (体育会系特有の万能言語)

「次に個人戦だが……

……ほも! 以上のメンバーで出場する!」

〈団体戦、個人戦の両方に選手として出られる事になった。

〈初めての公式戦、どうなるだろうか……気を引き締めて行こう。

無事にレギュラーの座を射止めましたね。

まだ一年生のほも君に、監督の熱い期待をビンビンに感じるぜ。

(ヒロインバトル界スーパーホープの括約) 見たけりや見せてやるよ。

来週の地区予選に備え、ここまで稼いだB Pでほも君をしっかりと強

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

part 3 指希先輩信頼L.V. 3(S.H.I.
N.E.予選団体一回戦

目標：指希

先輩と仲良くなる

一年目

高旗先輩out奏in

秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿

← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P :

(4BP) (9BP)

休 : 0 1 2 3 4 5 6

7 8 8 9

1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

なびき i n

↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

先輩と♀乙女の契り♀を結ぶRTAパート3、はあじまあるよー！
前回はお荷物背負った先輩方をハメてレギュラーの座を奪取した
ところまで。

来週はいよいよ初の公式戦であるS. H. I. N. E. の地区予
選が始まりますが、その前に予定通り指希先輩の信頼度レベル上昇イ
ベントが来てくれました。

「お疲れほもちゃん。良かったら今からちよつとお茶でも飲みに行か
ない？ お姉さんが奢っちゃうよ！」

▽ 調辺部長……

▽ ? ? それでは……一緒させていただきます。

? 疲れを取りたいので、すみませんが……。

ああ……いいつすね…… (呑気)。

「うんうん、素直でよろしい。じゃ、着替えたらわたしオススメのお店
に連れてってあげる！」

▽ 調辺部長に連れられ、駅までの通学路から少し外れたお洒落な雰

困気の喫茶店に入った。

「値段もそこそこするようで、近所の学生の姿はあまり見られない。良い感じでしょ、ここのパンケーキセット好きなんだ。最近は練習漬けでお小遣いを使う暇もなかったから、たまにはこうやって贅沢しないとね。」

「まあ、流石にがつつりご飯食べる感じだとちよつぱり困る、かも、だけれど……あはは………しない、よね？」

「ちらりと財布を確認してから一瞬硬直すると、気まずそうな視線でこちらを窺う部長。」

「懐事情は思っていたほどではなかったようだ。」

「無難にオススメらしいパンケーキセットを頼む事にした。」

指希先輩に限らず、このゲームのキャライベはどいつもこいつも外食描写率が高いです。

バイトもしてない学生の頃から飲み食いに金掛けるってどうなんすかね？（素）

「うーん……この前といい、ほもちゃんにはいまいち締まらないところばかり見せちゃうなあ」

「この前と言うと、大事な予定か何かがあつて特に機嫌が悪かったときの話だろうか。」

「やっぱり、わかつてあの時助けてくれたんだ。ありがとうね。」

「………実は、その鋭さを見込んでほもちゃんに相談したいんだけど………」

「はい。」

「………その……わたし、あ、あ………」

「んっんっ！………隣の学校に……幼馴染っていうか、すっ、すきな男の子がいて……」

「はい。」

「リアクション軽ー!? ちょっと、本気なんだってば！

もくもく、今の言うだけでもすごい緊張したのにつ」

違う！ もっと真剣になるのだ！（皇帝）

まあノロケ混じりの恋愛相談とか真面目に聞いてらんないし、多少はね？

＜言葉通り、一目でわかるほど調辺部長の顔が赤い。

＜日頃から余裕ある振る舞いで部員達に頼られてる部長の珍しく取り乱した表情だ。

＜しかしそうになると、以前の一件はその男子と会う約束の日だったのだろう。

＜二人分の荷物持ちを買って出た甲斐があつたようで何よりだ。

「そう、そうなの。あの時はおかげで何とか切り抜けられたけど、それから彼との予定を作れたと思つたら部活の断りづらい急用が重なってきて……。

恥ずかしながら、そうなったときにまたほもちゃんの力を貸してくれたらな、って」

＜……部長が事情を説明してお願いすれば多分みんな協力してくれるのでは？

＜うちの部は恋愛はグレーゾーンらしいので、監督はどうかかわからないが。

「……良い事教えてあげるほもちゃん。その恋愛グレーゾーンになった原因、わたしの前の代の部長なの。

当時三年の彼女は全国でも団体戦最優秀候補の選手だったけど、S・H・I・N・E 本戦を目前にした最後の追い込み中、恋人に振られてボロボロに調子を崩しチームは初戦敗退。

その年のプリンスブレイド日本代表に選ばれたものの、結局落ち込んだ調子は戻らないまま辞退しちゃったんだよ」

はえ〜絵に描いたようなメンタル管理ミスだあ。

雑誌とネットで好き放題言われてそう（小並感）。

「よくそれでグレーゾーンで済みましたね。」

「そこは一応、部活を休む事だけは絶対しなかったからね。」

「凄い立派な人だったよ。見てるこっちは逆に痛々しくて辛かったけど……」

「過去の様子を思い出しているのか、コーヒーを息で冷ましながらかい笑みを浮かべている。」

「思わぬところで部の裏話を聞いてしまった。」

「そんなわけだから部員みんなには言い出しづらいんだ、もちろん監督も。」

「つい去年の事だもん。二年生以上は嫌でも記憶に残ってる……でもほもちゃんとは違う。」

「お願い、この通りっ。乗り掛かった舟と思って力を貸して！」

「部活の練習相手にアドバイスとか、わたしもほもちゃんに出来る限りの事はするからっ」

「ん？ 今何でもするって言ったよね？（ホモは言質を逃さない）」

「いいですよ。」

「ほんと!?! えっ、ほっほんとに……? 返事早くない……?」

「はい。別にそこまで困るような頼みじゃないので、最初から手伝うつもりでした。」

「あ、ありがとう〜! ほもちゃん大好き!!」

「突然席から身を乗り出した調辺部長に抱き着かれた。少し苦しい。」

「申し訳ないが軽率な「大好き」発言とボディタッチは勘違いしちゃうのでNG。」

「中身男のほも君がこれで動じないのは、彼が同性愛者であるという確たる証拠ですね（断定）。」

「ひとしきり抱き締めて落ち着いたのか、部長は満足気な表情で座

り直した。

「……どうやら部での責任ある立場との両立にかなり悩んでいたらしい。」

「でも、それなら最初から部長にならなければ良かったのでは？」

「それはその……わたしもその時はまさか自分がこんな風になるとは思ってなくて……。」

「ずっと近くにいた幼馴染だし油断してたというか、男子三日会わざれば刮目せよ？ っていうか………もー、しょうがないじゃん、好きになっちゃったんだから！」

「おつ、そうだな（同意）。しょうがねえなあ（恋は唐突）。」

「んん！ とにかく、交渉成立って事で！」

「こっちもちゃんと約束は守るから、ほもちゃんもよろしくねっ。」

「あと折角だし、これからは秘密を共有する仲間って事で、名前で呼んでよ」

「<と言うと……指希部長ですか？」

「……何かそれ、チヨウチヨの名前みたいじゃない？」

「<では、指希先輩で。」

「うん、それで行こう！ これからよろしく！」

「<指希先輩と約束を交わした。」

「<<調辺 指希（しらべ しき）の信頼レベルが3に上昇した！」

「<<調辺 指希（しらべ しき）と練習時、追加でステータスが上昇するようになった！」

「<<調辺 指希（しらべ しき）とチーム時、互いのステータスが上昇するようになった！」

LEVEL UP

やはりピンクは淫乱（確信）。

というわけで、指希先輩の信頼レベルが3に上がり、練習時の追加ボーナスと、団体戦で二人揃って選出した際ステータスに+補正が入るようになりました。やったぜ。

特にこのステータス補正が重要で、全能力が「固定値」で上昇するため、まだキャラの育っていない一年目のS・H・I・N・E・予選く本戦ではかなりのアドバンテージが見込めます。

スタメン確定のほも君と指希先輩なら発動は容易なため、これで相対的にキツイ団体戦を乗り切るといなのが本チャート序盤の動きです。

そのための『魅力的』？ あとそのためのストーキング？

育成に必要なBPを試合で手に入れるため、通常プレイでもプレイヤーは基本的に個人と団体の両方出場するのですが、本命でない方は大体地区予選優勝までで切り上げになります。

全国からはそれぞれ特化型の選手が溢れて片手間では競り負けるからですね。以前話した個人戦での指希先輩が良い例でしょう。

じゃあ両方鍛えりゃいいじゃんアゼルバイジャン……とは行かないのも、そこで説明した通り。

BP消費が激しくなっって育成が間に合わないとあつては本末転倒。

どのみち無駄を抑えるにはどちらかをメインに寄せて、もう片方はその応用で誤魔化していく形になる、というわけですね。

「お、調辺さん！ 今年のヒロインバトル部の調子はどう？ 全国行けそう？」

「練習の後片付けをしていると、近くを吹奏楽部の一団が通りがかった。」

「彼女達は音咲女子高校で最も大きい部活で、様々な運動部の大会でもお呼びがかかる存在だ。」

音咲限定の季節イベントがまた来ました。

今回は吹奏楽部の紹介という、特にゲーム的な意味の無いフレーバーイベントです。

「ん、中々良い感じだと思っんですけど、こればかりはやってみたいとどうにも……」

「あははっ、まあそれもそうか！でもウチらもちゃんと曲用意してるからさ、頑張つて全国行つて、ついでにウチらもテレビにばーんと写しちゃうつてよ！」

「相変わらずちゃっかりしてるなあ。はーい、頑張らせていただきまーす！」

「おーし！ んじゃお願いねーっ！」

＜楽器ケースを担ぎ、元気の良いあちらの部長を先頭に吹奏楽部の面々が去っていく。

＜途中、クラスメイトの何人かと目が合ったので会釈をしておいた。
「……だつてさ、おーいみんな聞こえてたー？」

ほぼわたし達のためだけに、自分達のコンクールも大変な所を毎年応援してくれてるんだから、皆でちゃーんと応えてこーっ！」

「はーい！」「うちなら全国出場くらい余裕つすよ！」「でもすぐ負けたら余計ダメじゃない？」「じゃ優勝？」「まっ、目指すなら当然つぺんでしょ！」「おー!!」

おいやつちまおうぜ！ やつちやいますか!? やつちやいましたよ
うよ！（全国制覇）

＜指希先輩の声掛けに、ヒロインバトル部も元気では負けていないようだ。

＜自分もその一員として全力で頑張ろう。

意気込みを新たに練習に励む音咲ヒロインバトル部のメンバー。
青春してんねえ！

そんなこんなで地区予選団体戦のイベントがやって来ました。
競技場を背景にバスから降りるほも君達。この地区予選では一回戦はモブ、決勝はプレイヤーが選ばなかった同地区の学校と固定で対戦となっています。

一見してマーチングバンド部といった趣きの我らが音咲ですが、他の学校の仮装パーティーっぷりはこんなもんじゃないから見とけよ見

とけよく。

「オー……ッホッホッホ!! よくいらしたわね音咲女子高校の方々。そして調辺 指希さん!」

オッハー……!!! (答礼)

「あ……去年振りだね、黄金十条さん」

〈突然、向こうのやけに高級なバスから黒服の人達が赤いカーペツトを伸ばしてきた。

〈その上をこれまた派手な髪型をした女子を先頭に、豪華なドレス姿の生徒達が歩いて来る。

「去年は思わぬ不覚を取りましたが、今年は我が校も団体戦への備えは万全。」

あなた方ご自慢のチームワークを上回り、個人戦同様この黄金十条 薫子（こがねじゅうじょう かおるこ）率いる黄金十条女学院が美しく完全勝利して差上げますわ。

……今度は、言い訳は効かなくてよ?」

「あれはそういうつもりじゃないんだけど……まあ、うん、お互い全力で当たろうね!」

「薫子様、そろそろ時間になります」

「よろしい。では後ほど、決勝戦でお会いしましょう。オー……ッホッホッホ!!」

〈運動場の入口まで伸びたカーペツトを踏み、ドレス姿の女子達が遠ざかっていく。

〈何だろう、凄い熱量を感じる集団だった。

全員デカイスカートにハイヒールとクツソ動き辛そうなんですけど、ゲーム的に何の問題も無いとは言え彼女達は自分のユニフォームに疑問を持たなかったんでしょか。

リアルだったら足首の故障率ヤバそう（無料ツツコミ）。

「あれが毎年うちと全国の出場権を争ってる黄金十条女学院で、あの子は二年の黄金十条さん。

……色々凄い所でしょ？

去年の地区予選決勝ではわたしが彼女に個人戦で負けて、代わりに団体戦はうちの勝ち。

わたしも黄金十条さんも両方に出て、おまけに学年も同じだったからか、それから妙にライバル視されちゃってね……」

✓確かに、金持ちそうな学校だ。

「うちの部も強豪って呼ばれるだけあって予算と設備は充実してる方だけど、あつちは学校全体にすごいお金掛かっているみたいだよ。広い敷地に生徒専用のサロン、娯楽施設もあるんだって。

ちよつと通つてみたい気もするけど、多分学費がいくらあつても足りないだろうね……。

まあ、うちはうち、よそはよそつて事で！ さつ、わたし達も中に入ろう」

突如高密度のお嬢様力をほも君一行にぶちまけてきた、金髪縦ロールこと黄金十条薫子様。今のはその顔見せイベントでした。

彼女のいる黄金十条女学院は見ての通り舞踏会のドレスを意識したユニフォームのお嬢様感溢れる学校です。

一部特待生を除き家柄確かな女子達のみを集めた正真正銘の金持ち校で、主人公をここに入学させると薫子様のイベントを中心に、会話からBGMから非常にハイソでエレガントかつ熱血硬派な空間に放り込まれるのが面白いですね。

マリみて口調のほも君が見れるのはここだけ！

では地元ライバル校の顔見せも済んだところで、スタメン揃えた音咲の団体戦の強さをお披露目と行きましょう。見とけ見とけよ（意気軒昂）。

一回戦のお相手ですが、ネームドキャラのいない一般弱小モブ校な

ので、サクツと片付ける……前に、今のうちにオーダー画面からほも君の強化を済ませておきます。

どうせ勝つてもこの団体戦と来週の個人戦が全て終わるまで試合のBPが入らない仕様なので、次の黄金十条戦まで溜めておく必要はありません。

現在の所持BPはイベント分と練習分と模擬戦分の合わせて4。

……普通だな！

取得するのは遠距離単体攻撃スキル『Fスタンバレット』（2BP）と『ハイパーシユート』（2BP）。この二つでBPを丁度使い切れません。

性能はそれぞれこんな感じ。

◇『Fスタンバレット』2BP（OP込み） 条件：敏捷8以上

スタンバレット自体は確率で怯みを与える筋力依存の攻撃スキル。

FIIファストの略で、初手にしか使えない代わりにスキル性能が強化されるオプション。

ようするに初手限定の確定怯み。ねこだ●まし。

個人戦では実質敵の体力をこの威力分削った状態で始められ、

団体戦では初手の妨害、味方のコンボを通す露払いと無駄がない。

ファストと言いつつ弾速は速いながら先制効果は特に無く、

当てるにも最低限エイム力が要求される点に注意。

某ゲーム経験者ならその優秀さは知つての通りでしょう。

実際の使用感は大分異なりますが、それでも強力なスキルに違いはありません。

威力が筋力依存なのだけが玉に瑕。次！

◇『ハイパーシユート』2BP 条件：魔力10以上

魔力依存の高威力、長射程、劣悪燃費と三拍子揃ったメイン火力。同じ威力のスキルに比べ特殊な効果が無い代わり、取得BPが1少ないのが魅力。

あと軌道上に残る光の粒子みたいなエフェクトが地味にカッコイイ。

こっちはあんまし説明する事ないです。普通に強い。

今のほも君だと一試合二発しか撃てませんが、一年目は全国レベルの相手でも二発直撃させたらまず勝てる（一発じゃほぼ倒せない）ので、通し練習を繰り返してキャラ毎の動きの癖を覚えましょう。

それぞれ取得条件に敏捷、魔力を一定値要求しますが、そこに絞って育成しているほも君ならこの時点で問題なく覚えられます（1敗）。

出来上がりましたほも君は魔速偏重の遠距離専門にして、RTAの王道を往く高速アタッカー。

やられる前にやる♂（ホモはせっかち）。

さっそく新しいスキルの試し撃ちといきましょう。

選出メンバーは前衛に高旗先輩、後衛ほも君・指希先輩です。

「それではただ今より、音咲女子高等学校と川上第一高等学校の試合を行います。

試合……………始めっ!!」

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす！（開幕ハイパーシユート）

「ぎゃあっー」

こちらの攻撃目標にされ生意気にもバリアを張ってきた敵後衛を

バリアごと貫いて変身エネルギー切れのリタイアにしてやりました。
ああ〜くたまらねえぜ!! (火力厨)

今のは指希先輩との信頼バフ込みで確札圏内でしたね。スナイプ狙いじゃ失敗して微ロスだったので早速チャートが生きてきてます。遠距離攻撃の手段を失った敵チームの前衛二人が攻め込んできませんが、指希先輩の全体防御バフを受け取った高旗先輩の前に物理攻撃はまるで通りません。

後衛の心配をする必要が無いので高旗先輩も普通に殴り返してくれますね。

んじゃ高旗先輩が殴ってない方にもう一発ぶち込んで、残りはそのまま殴り倒してもらって終わりっ! ええチームやこれは……。

「みんなお疲れ。文句なし、だねっ」

∟ 調辺 指希 (しらべ しき) の信頼度が上がった!

∟ 高旗 立 (たかはた りつ) の信頼度が上がった!

指希先輩が指揮棒振ってる (公式 H H E M ギャグ) 勝利パフォーマンスが入った所で

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 4 S.H.I.N.E. 予選団体決勝
個人決勝

目標：S.H.

I.N.E. 地区予選突破

難易度★★★★★

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月	11月	12月	1月	2月	7月	8月	9月	1
					▼			

レギュラー選抜戦 ↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン ♥

B.P. (4BP) (9BP)

休： 7 8 1 2 3 4 5 6

二年目

春合宿②

選拔メ

ンバー特訓

月： 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9

月 10月 11月 12月

なびきin

↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP:

(33BP) (38BP)

(52BP)

休: 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼||現在地点

BP||総獲得B

P目安 休||総休養回数目安

! 姫サーをクラッシュ(物理)するRTAパート4、はあじまあるよー

! 前は新技引っさげたほも君と音咲のレギュラー陣が弱小モブ校の夏を粉碎した所まででした。君もう帰っていいよ!(電車賃投げ渡し)

「良い感じだね、この調子で頑張ろう!」

「ああ。団体戦全国常連校の看板に恥じない実力を、私達で示してやろう」

「一回戦突破後、続く勢いで勝利を重ねた音咲女子高校は、とうとう決勝まで駒を進めた。」

「フィールドに上がり意気込む指希先輩、高旗先輩達に頷き返す。このメンバーならばきつとやれるはずだ。」

「オーオーッッホッホッホ!! ……やはり、来ましたわね!」

オッハーハーハー!!! (答礼)

「黄金十条(こがねじゅうじょう)さん……うん、さつきぶりだね」

「ここまでの対戦相手はどこも歯応えの無い方々でしたが、お互いに、ようやく本気を出せそうですね?」

「大した自信だな」

「愚問ね、ヒロインバトルにおいて自らを信じられない者が勝てる道理があつて?」

「……………わたし、黄金十条さんのそういうところ好きだよ。負けてあげる気はないけどね」

「ええ結構、こちらから負かして差し上げますわ!」

バチバチの舌戦いいゾ〜これ。薫子様に触発されて指希先輩も静かに熱くなってますね。

オーダー画面に移りました。黄金十条のメンツは……ヨシ! 厄介なランダム加入キャラはいないな! (2敗)

ネームドの対戦校はランダムで入部する部員とシナジーを組めるか、こちらの主力に対し大きく有利を取れる場合を除きほぼ学校固有のメンバーを選出して来ます。

黄金十条は一年目から固有の部員が三人揃ってるので、よほどでない限り攻略法が安定するのが良いところ。

なおこちらにも当然固有メンバー以外のランダム部員がPart 1からほぼ君達と一緒に練習したり、今もベンチに鎮座してるわけですが、基本スポット参戦以外に彼女達の出番はありません。

RTAでこんな運ゲー要素頼るわけないだろ! いい加減にしろ!! (チャート断念)

吟味を重ねればスタメン六人から大半の学校に有利選出取れるドリームチームも作れますが、それでもカバーしきれない相手ってのは出て来ます。

むしろそこにリソース割くよりヤバイ敵チームが生まれない、当たらない方がよっぽどタイム短縮に繋がるので、安定チャートの試行回数で攻めるのだ!

\ パパラ パパ パラ パッパッ パッ パッ パッ パッ パッ
 パッ パッ パッ パー デン デン パー パー デン デン
 パパラ パパ パラ

高旗 苅
 音咲女子高校 VS 黄金十条女学院

1	1
7 耐久	8 0 HP
0 7	0 9
0	0
8 筋力	8
1 0	1 0
0 0	1 4
0 3 3	0 0
2 精神 魔力	S P
0 1	0
1 4 1	7
4	0
	7

ほも

富沢麗奈

調辺指希

1	5	1	3
3 精神	S	1 3 魔力	2 1
0 5 0 0	0 0	0 0	0 0
7 耐久	0 0	9	0 0
0 1 6	1	0	4 0 0 1 4
0 1 0	0	精神	3 3 3 0
0 7	0	1 耐力 筋力	0 0 0
	0	6 5 7	0 0 0
		0	0

宝川まき

公式戦かつネームド校相手の場合、こんな感じで試合直前のファンファーレと共に両者のステータス画面が出てきます。まるでモンスターファームだあ（直喩）。

「それではただ今より、音咲女子高等学校と黄金十条女学院の決勝戦を行います。

試合……………始めっ!!」

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす！（開幕Fスタンバレット）

「薰子様！」「お願いします！」

「受けなさい、我が黄金の……………くっ！」

取り巻きの後衛二人から先制効果の付いた攻撃バフを受け、薰子様が渾身の必札技を放とうとしますが阻止。足止めいいゾ。

薰子様の敏捷は指希先輩を上回りこの場の誰より早く行動出来ませんが、彼女の開幕行動は専用の広範囲多段攻撃スキル『ロイヤルゴールデンスラッシュ』で確定。

味方全員を射程に捉えるための飛び込みから、武器の二刀レイピアを大きく振るうまでの予備動作中にほも君のFスタンバレットが間に合います。

こ→こ←隙だらけに見せかけてスナイプ狙うと普通に防がれて氏ゾ（試走数敗）。

◇『ロイヤルゴールデンスラッシュ』

金色に輝く十条の斬撃が扇状に次々と飛び交う黄金十条薰子の専用必札スキル。

広範囲の多段攻撃で、筋力＋魔力依存の威力に対しそれぞれの数値が耐久と精神で

軽減される独特な計算式を持っており、

本人の両刀型ステータスも相まって相手の防御ステータスに左右されず安定した

ダメージを与えられる。

撃つ前も後もそれなりの隙があるが、射程中心部からの回避は極めて困難。

こんなものを開幕ぶっぱしてはいけない（戒め）。

これが間に合わないとかツソ激烈に痛い範囲ダメージで味方はほぼ壊滅、指希先輩の防御バフの上からほも君が消し飛ぶ大惨事となり当然敗北コースです。

公式二戦目でいきなりこの札意の高さとかブルツちまうよ……（畏怖）。

「ここから先は通さない。絶対にだ」

ただ無事初撃を凌いだので高旗先輩の広範囲ガードが展開、以降範囲攻撃を含む味方への攻撃は音咲が誇る鉄壁が引き受けてくれます。

きた！メイン盾キター！これで勝つる！（BLNT）テレテー♪テレテー♪テレテーテーテー……カカカカッ！

「耐えるよっ全員守備隊形！」

怯みが解け強制対面させられた薫子様の素早く強烈な攻撃を高旗先輩が防ぐ中、指希先輩の二度目の防御バフが味方全体に行き渡り、これで相手の攻撃バフと並びました。

もう許さねえからなあ？（一転攻勢）

敵取り巻き二人は初手先制バフのデメリットで怯みと同等の硬直

状態になっていたため、再び動き出す前にほも君のハイパーシユート
により敏捷の高い方から処理します。

そしてここでスナイプ成功!! ナイスデース（レ）。

「薫子様……！ 申し訳……！」

すぐに皆仲良く剥いてやるから安心しろよ（ゲス顔）。

残った取り巻きが今度は普通の全体攻撃バフを重ねますが、敏捷の
関係で先に指希先輩の全体防御バフが高旗先輩に重なるので、ここで
バフ合戦の優劣も逆転。

HPを半分以上残した高旗先輩を薫子様が突破するには更に倍近
い手数が必要になりますが、その間フリーになったほも君の攻撃を受
け続ける事は不可能です。

「またしても、届かないなんて……っ！」

「うううっ！ 薫子、様……！」

君達お高そうな下着履いてんねえ！（品評）

というわけで地区予選団体決勝、黄金十条戦を難なく突破。やりま
したわ（変態糞お嬢様）。

チャート通りに作戦勝ちが決まって、気持ちがいい!!

∨∨ 調辺 指希（しらべ しき）の信頼度が上がった！

∨∨ 高旗 立（たかはた りつ）の信頼度が上がった！

∨一緒に戦ったチームメイトと喜び合う。地区予選の団体戦で優勝
する事ができた。

∨激しい戦いと緊張でとにかく疲れた、来週の個人戦に備えて帰っ
たらゆっくり休もう。

初の公式戦にほも君はお疲れの様子ですが、こっちとしてはここか
らが本番なので気合入れて行きましょう。

特にイベントも挟まる事なく翌週へ移行、全国大会地区予選の個人戦が始まりました。

団体戦と同様に、試合回数は一回戦と決勝の二回ですが、個人戦は初っ端から同地区ライバル校の選手とぶつかり、決勝戦ではライバル校エース格と固定で戦います。

一回戦のお相手は、先ほどの団体戦では選出されなかったランダムキャラのイスカちゃんですね。

ランダムキャラは全員本来の出身校が設定されており、変身コスチュームも基本の衣装に加入先の意匠を取り入れたものに変わります(激ウマギャグ)。

彼女は忍ヶ岳高校出身のシノビガールなので、太股剥き出し長袖くノ一装束の手甲などの小具足、髪留めが黄金十条特有の煌びやかな高級感に彩られ、長い無地のマフラーは鮮やかなレース柄になっています。

まさに姫騎士ならぬ姫忍者、非常に新鮮で……非常にエロい(ソマリエ感)。

オーダーは飛ばしてとつとと試合に入りましょう。

パッパッパッパッパッパッパッパッパッパッ パーデンデン パーパッパッパッ

ほも VS イスカ

??????

060SP0500
?01筋力07
?01耐久03

????????????

11魔力04
10敏捷16
??02精神05
?????

????????????????

| | | | | | | | | | | | | | | | |

個人戦は指希先輩との信頼度補正無しなんで、ほも君の悲惨なフィジカル面が丸見えですね。

まあ見てて下さい。ほも君が一人でもただのガガンボではない事を証明してやりますよ。

「それではただ今より一回戦、音咲女子高等学校所属ほも選手と黄金十条女学院所属イスカ選手の試合を行います。

試合……………始めっ!!」

ビーーーーーッ

イスカちゃんは忍者だけあってかなり素早く、敏捷だけなら薫子様をも上回るスピードキャラなので決してこちらから攻めてはいけません。

彼女の得意戦法は高い敏捷を活かし回避しながら飛び道具でチクチク攻める中距離でのヒットアンドアウェイ。

この距離からほも君が撃っても回避余裕からのカウンタースリケンが飛んでくるだけなので、逸る気持ちを抑え先手を譲ってババ引かせましょう（紳士の鑑）。

互いに攻撃を誘うように前後左右へうろろしてますが、こっちに攻める気が無いと見るや否やイスカちゃんが煙玉を取り出し地面に叩きつけ……………今です！（孔明）

「くっ?」

煙幕で姿を隠し、こちらの視界を全て覆ってから奇襲を掛けてくるのがイスカちゃんの膠着時に取るパターンですが、《壁走り》の特徴を持つ彼女は壁が近くにある場合、そこから回り込んでくる可能性が非っ常に高いです。俺知ってるんですよ？（ねっとりボイス）

◇視界悪化

デバフの一種。

耐性を持たない場合、プレイヤー側は視界が遮られる。

AIに対しては単純に攻撃・防御・敏捷を若干減少させる。

◇《壁走り》2BP 条件：敏捷10以上。

フィールドの壁や障害物に貼り付き、移動・行動出来るようになる。発動中は高度に比例してSPが徐々に減り、行動速度も遅くなる。

なので開始時からじつくりフィールド横の壁近くほどほどに誘導してやれば、AIの性質上、煙幕後はまっすぐ真横の壁に向かってくれます。

後は軌道を予測しての置きFスタンバレット。このときは優先順位の関係で厄介な回避行動も取ってきません。

怯みボイスで命中確認したらそのまま同じ位置にハイパーシュート撃って止め。最後の一発くれてやるよオラ！（無敗）

「あたしが捕まるなんて……っ」

煙で（下着姿）見せないのはルール違反スよね？ ままええわ（寛容）。

完全勝利！！ F○○→気持ちいい。

イスカちゃんは真面目にやり合ったらかなりの強敵ですが、このようにハメ手が通用するので能力の割には対処が簡単です。紙耐久なものもRTAに優しい。

弱い相手でもひたすら硬い遅延クスとか行動が不規則な連中はタイムに響くから来年もまた来てくれよなく頼むよ。

▽一回戦突破後、様々な選手と戦いながらどうにか決勝まで勝ち進

んだ。

〽フィールドに上がり、小さく深呼吸する。

〽観客席の一角で応援する音咲の仲間達の姿が見えた……………よし。

さてここが序盤の最難関。

S・H・I・N・E 地区予選のトリを飾るお相手は、当然薫子様。

こちらの育成が絶対的に足りない一年目序盤、高い総合力、読めてもどうしようもない行動パターンと厳しい要素が詰まった、本RTA屈指のリセットポイントです。

「準決勝で調辺さんを下したかと思えば、決勝まで音咲の子が相手だなんて。そちらは個人戦にも力を入れ始めたのかしら。

……………あなた、準備はよろしくて？」

〽白線を隔てたセンターエリアに対峙した黄金十条さんが、眼光鋭く構えを取る。

〽領きを一つ返した。

「個人戦全国出場の切符、決して安くはなくてよ」

十分知ってんだよなあ……………（本走46敗、試走無数敗）。

戦闘開始直前の時間にほも君をセンターゾーンのギリギリいっばいまで下げましょう。

フィールド半径20mという距離が彼のライフポイント（直喩）です。

パパラパパラパパラパッパッパッパッ／
デンデン パーパー／

ほも VS 黄金10条薫子

??020HP090
?????????

????????????	1	1	??????
????????????	1	魔力	0
1	敏捷	1	6
1	4	????????????	0
????????????	??	0	SP
0	2	精神	0
4	4	0	7
?????	0	耐久	0
?????	7	1	筋力
????????????	1	1	??????
????????????	?????	?????	??????

負けイベみたいなステ差してんなお前な。

馬鹿野郎俺は勝つぞお前！（敢闘精神）

「それではただ今より決勝戦、音咲女子高等学校所属ほも選手と黄金十条女学院所属黄金十条選手の試合を行います。

試合……………始めっ!!」

ブーーーーーッ

オッスお願いしまーす！（開幕バクステ+Fスタンバレット）

「くっー」

胴体に命中確認ヨシ！（現場猫）

薫子様とのタイムマンは簡単に言うのと突っ込んでくる薫子様に全力で引き撃ち、斬られる前に三発ぶち込むゲームです。

ほも君は敏捷で負けてますが射程の関係上確実に先手を取れるので、弾速が速く確定怯みのあるFスタンでまずは距離と時間を稼ぎます。

次に怯みが解けた直後の彼女へ、バクステ継続しながらハイパーシユートを直撃させます。

Fスタンより弾が若干遅く距離も開いてるためここが一番難しい！

オラツFPSで鍛えたジャンピングゲームを喰らえ!!

「ちい……っー!」

命中ヨシ!!

構わずガンダッシュする薫子様ですが、ここでも君がクールタイム終了とほぼ同時にフィールド端に到達、良い具合に当てやすい距離に来てる薫子様にとどめのハイパーシユートをお見舞いしてやりましょう。

ちよろいもんですわ! (IS)

余談ですが、ほも君は試合中HP全損のKO状態になると変身が解け男の姿に戻ってしまい、人目にその現場を晒した結果敗北を飛び越え即GAMEOVERとなってしまう。

これが男を選ぶもう一つのデメリットで、実質的なKO負け縛りです。

RTAでは意図的でない敗北||リセなのであまり意味はありませんが、美少女の鎧を打ち砕かれ、女物の下着を身に着けたまま倒れ伏すほも君を背景にタイトル画面へ戻される画は、変質者の末路めいた絶妙な笑いと悲哀を感じさせます。

あ、ちようどこんな感じですよ。

R
|

|
G

A

M

E

O

V

E

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 5 再戦くS.H.I.N.E. 予選優勝

縦ロールに

目標：金髪

リベンジする

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月
 ▼4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

(4BP) (9BP)

休： 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

二年目

春合宿②

選抜メ

ナンバー特訓

月 10月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

なびきin

↑ S.H.I.N.E.

!!
プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP) (38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

お姫様は女の子だけの専売特許じゃねえぜ！ なRTA、はあじ
まあるよー！（再放送）

今回走るゲームは変身ヒロイン育成スポーツバトルアクション『プリンセスブレイド』！

女子が不思議アイテムで変身して戦うスポーツ『ヒロインバトル』がある現代を舞台に、主人公の女子高生（女子とは言ってない）を操作してヒロインバトル高校世界大会『プリンセスブレイド』での団体戦、個人戦両方の優勝を目指します。

まずはオプション画面で文字表示速度を最大に。OK？ OK！（ズドン）

んじやタイトル画面に戻りシナリオモードの〈NEW GAME〉を押しして早速始めて行きましょう。

はーい、よーいスタート（棒読み）。

.....

.....そうです、再走です。

前回はS・H・I・N・E地区予選個人の決勝戦、止めのハイパーシユートが薫子様のおステップ回避で僅かに直撃を逸らされ、HPミリ残しからの反撃でほも君一刀両断、変身解除KO負けで人生終了したところまででした。もう許さねえからなあ？（半ギレ）

きつと次のほも君は上手くやってくれるでしょう。

とりあえず画面ではキャラ作成く地区予選個人一回戦まで怒りの1.6倍速で飛ばしながら、先ほどの敗因について説明致しようございます。

まず一つ、本来あの戦闘は一発だけなら直撃を避けられても倒せるようにダメージ計算してチャートを組んでいたのですが、ここで危惧していた魔力が目標値に届いていなかったツケがきっちり回ってきました。クソわよツツ!!! (お嬢様並感)

最も避けられやすい!一発目のハイパーシールドにはしつかり当たってぬか喜びさせられた分、余計に怒りが募ります。あーあもう滅茶苦茶だよ。

もし本走中の音声録ってたら、多分この辺ストレスで台詞飛ばしのボタン連打音が地味に大きくなってるとでしょう。

そしてもう一つ、ああいった状況に陥っても最後にワンチャン《根性》が発動すれば駄目押しノ通常攻撃で逆転の目があったのですが、所詮気休め程度の確率なので根性無しなほも君はあっさり負けましたとき。金玉ついてんのか? (理不尽)

……まあ、ざつとこんな感じですかね。

薫子様にFスタンを外す確率がほぼ0、ハイパーシールド直撃を避けられる確率が平均五割ほど、《根性》発動が一割なので、チャート上の勝率は基本的に五分と五分となっています (90戦47敗)。

ここから団体戦の味方まで吟味してたら狂いそう……! (静かなる怒り)

ともあれ、『短距離ダッシュ』をはじめ練習での部員の集まりが良く総合ステータス自体は理想的な伸びだったのと、個人一回戦のイスカちゃんタイムも好調だったんでちょっと精神ダメージが入りましたが、このくらいは普通によくある事です。

一年目地区予選個人決勝までの平均タイムは14分前後、ネット麻雀の半荘戦東二局で親の役満振り込んだとでも思っって切り替えてい

け（ハコテン不可避）。

どうせこの後すぐ再戦になるし、この際本チャートの大ボス解説一回目として薫子様の能力についても詳しく触れておきましょう。

薫子様は力魔両刀型のステータスを持つ近く中距離高速アタッカーです。

この手の戦闘要素を持つ多くのゲームで、二分された攻撃属性をどちらにも伸ばす型はいわゆる器用貧乏の代名詞と呼ばれがちですが、彼女に関しては万能に両足突っ込んでる感じ。

その理由は高ステータスな部長勢の中でもトップクラスの合計値と、両刀のデメリットを踏み倒すような専用特徴《黄金十条流舞踏剣》の存在。

◇《黄金十条流舞踏剣》

黄金十条薫子専用特徴。

近距離攻撃（通常攻撃含む）に限り筋力の0.7倍＋魔力の0.7倍で威力を計算する。

その際の攻撃属性はスキルに依存。

一年目は筋力スキルしか使ってこないが、二年目はきっちり弱点に打ち分けてくる。

それズルじゃん！（憤慨）

実質1.4倍の威力から繰り出す近接攻撃を主力に、中距離では牽制用スキルとこれも力魔計算な専用必札『ロイヤルゴールデンストラッシュ』で二択を迫るステータス配分詐欺常習犯の一人です。

専用ばっかじゃねえかお前んビルド!!

富豪にしてサマ師のクズが……遊●戯王で介護用の専用サポートカード増やしまくった旧テーマみたいなキャラ性能しやがって、聡を

知れッ!! (K I B社長)

実際本気出した部長連中及び一部の強キャラは大体こんなもんです。難易度ベリーハード故、敵エースは最初から皆専用全開放のガツチガチのガチです。

うちの指希先輩も今はまだ大人しいですが、弾けたらすごいんで楽しみにしといて下さい。

ほも君? まま、そう焦らないでよ (大器晩成)。

そんなこんなで聴かずしながら戻って参りました (不撓不屈)、S.

H・I・N・E 地区予選は個人一回戦。

今世のほも君の育成状況は特に可もなく不可もなく、指希先輩の信頼度稼ぎも想定通りの至って平凡な及第点ボーイですが、RTAは無事これ名馬ってそれ一番言われてるから (至言)。

さて、気になる対戦相手の方は……ヌツ! 不思議ちゃん率に定評のある精霊殿女子学習院出身のランダム加入キャラ、土門 夕呼 (どもん ゆうこ) ちゃん!! すっげえいいゾ (ニツコリ)。

彼女の地元校は多数の精霊が住まう信心深い土地に建てられた、彼らと交信を取れるシャーマンを養成するための教育機関です。

魔力依存の精霊召喚術を用いた戦闘スタイルが主流で、土門ちゃん は名前の通り土の精霊を呼び出して戦わせるゴーレムサモナーですね。

見た目は魔術的な刺青が所々にある肌を大きく露出した民族衣装が、やたら高級感あるアクセサリーで飾られて謎のヒラヒラ布もレース仕様。君実家の部長より偉そうだね (並ツツコミ)。

◇ミニオン

召喚系スキルで呼び出されるサモナーの味方。

独立したHPを持ち、それが尽きると消滅するものを指す。

自立行動するものやサモナー本人が操作するもの、移動の可否など出来る事はそれぞれ異なるが、逆に言うところ召喚という過程を経由さ

すれば大抵の事が可能。
具現化系能力者かな？（H×H）

サモナーは基本的にひたすら肉壁をけしかける遅延クスですが、土門ちゃんならほも君で丁度いい具合にカモれちゃうんだなあ（舌なめずり）。

パッ
デンデン パーパパー／

ほも VS 土門夕呼

????????	1	2	魔力	0	8	0	8	敏捷	0	7	??	0	2	精神	1	0	????????	5	3	??????
????????	0	8	敏捷	0	7	??	0	2	精神	1	0	????????	5	3	??????	0	8	敏捷	0	7
????????	0	7	0	SP	1	1	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
????????	0	7	0	SP	1	1	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
????????	0	7	0	SP	1	1	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0

「それではただ今より一回戦、音咲女子高等学校所属ほも選手と黄金十条女学院所属土門選手の試合を行います。
試合……………始めっ!!」

ビーーーーーッ

オツスお願いしまーす！（開幕ハイパーシュート）

「精霊よ、応えたまえ……………」

サモナーの欠点である開幕の無防備を補う特徴《開幕召喚》で、初手に限り土門ちゃんの召喚系スキルは先制効果を持ち、代償としてスキル使用後の硬直に怯みと同等のロスが啜ります。

彼女の手前の地面が一瞬にして盛り上がり高さ2mほどある土のゴーレムを生成、ほも君の射線が遮られました。が心配ゴム用。

土のゴーレム君は見たまんま物理防御に優れたミニオンですが、反面魔力での攻撃には角砂糖くらい脆いです。

ほも君のスキルはどれも直線的な遠距離攻撃のためこれで筋力型だったらほとんど詰んでる組み合わせですが、もちろん彼は魔力型。TDNカカシですな(煽り)。

「っそんな……っ」

物量で攻めるミニオン故に大して多くないHPを一発目のハイパーシユートで丸ごと消し飛ばし、ガラ空きになった硬直中の土門ちゃんに余裕の二発目をぶち込んでeasy winいただきました。

うん、(タイム) おいしい！

前世のイスカちゃんも安定して速攻撃破出来る相手でしたが、土門ちゃんは更にうまあげ淑女な極上のおやつです。

地区予選の面子は地元ライバル校一つのみ、つまり来年の一回戦も彼女に当たる可能性がかなり高いので、これはどうやら再び好記録チャンスが巡ってきてますね。

だから今度は勝ってくれよなあ〜頼むよ〜(懇願)。

◁一回戦突破後、他の学校の選手達と戦いながらどうにか決勝まで勝ち進んだ。

◁フィールドに上がり、小さく深呼吸する。

◁観客席の一角で応援する音咲の仲間達の姿が見えた……………よし。

「準決勝で調辺さんを下したかと思えば、決勝まで音咲の子が相手だ

なんて。そちらは個人戦にも力を入れ始めたのかしら。

……あなた、準備はよろしくて？」

＼白線を隔てたセンターゾーンに対峙した黄金十条さんが、眼光鋭く構えを取る。

＼頷きを一つ返した。

「個人戦全国出場の切符、決して安くはなくてよ」

十分知ってんだよなあ……（本走47敗、試走無数敗）。

もう許せるぞオイ!!

ここで散ってきた数多のほも君達の無念、今こそ晴らすとき!

というわけでS・H・I・N・E地区予選決勝、黄金十条 薫子

(こがねじゅうじょう かおるこ)リベンジマッチです。イクゾー!

デッデッデデデ!

／パパラパパラパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッ／
デンデン パーパー／

ほも VS 黄金十条薫子

???????	1	0	7	0	SP	0	7	0	??	0	2	0	HP	0	9	0
???????	2	8	敏	捷	1	4	??	0	2	精	神	0	4	????	????	????
???????	魔力	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
???????	0	8	敏	捷	1	4	??	0	2	精	神	0	4	????	????	????
???????	1	0	1	筋	力	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
???????	0	1	0	1	筋	力	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
???????	0	1	筋	力	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
???????	0	1	筋	力	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
???????	0	1	筋	力	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

「それではただ今より決勝戦、音咲女子高等学校所属ほも選手と黄金十条女学院所属黄金十条選手の試合を行います。

試合……………始めっ!!」

ビーーーーーッ (カーン)

オッスお願いしまーす!

衝撃のファーストブリッドオ!! (開幕バクステ+Fスタンバレット)

「くっ!」

胴体に命中確認ヨシ!

すかさず二発目喰らえ!! げえーカス当たり! やっぱセカンドブリッドは駄目だな!!

「受けなさい、我が黄金の刃ツ!!」

おいコラア!!! (震え) ここで必札パターン引くのはやめロツテ!!!!
避けるほも! 抹札のラストブリッドオ!!!

「なんて事……一騎打ちで敗れるなど……っ!」

ペツ雑魚がよ (瀕死)。

勝ちました。黄金十条 薫子、討ち取ったり!

∨仲間達の歓声が観客席から聞こえてくる。

∨試合終了のブザーが鳴り、集中を解き……少し遅れて勝利の実感が湧いてきた。

初の死闘でコスチュームを半裸に剥かれたほも君も、勝利の余韻にご満悦の様子。

ハイパーシユート初撃カス当たりまでは許容範囲でしたが、二射目直前の中距離射程ギリギリでロイヤルゴールデンスラツシユ飛んできたときはヒヤつとしましたね。

頻度は高くないんですが、壁を背負った状況でこれをされると横へダツシユした後転がるように大きく跳んで避けつつ（全部避けられるとは言っていない）当てる西部劇スタイルを決めないと、ハイパーシュート撃つ前にほも君がズタズタにされて氏んでしまいます。

多段攻撃なのでただでさえ低い発動率の《根性》ワンチャン耐えも絶望的、その上こっちは直撃当てなきゃいけない中々シビアな場面でした。

〽表彰式と閉会式が終わった。

〽帰り支度を済ませ音咲の皆とバスへ戻ろうと会場を出たところで、黄金十条さんが待ち構えるように立っていた。

「音咲の皆さん……此度の試合、団体戦、個人戦共に完敗でしたわ。見事と言う他ありません。

それと……あなた、お名前は何と言ったかしら？」

〽こちらに向き直り、しっかりと目を合わせて黄金十条さんが問いかける。

〽ほもです。

「そう、ほもさん……確かに覚えておきましょう。

より一層の研鑽を積み、次こそは勝って見せますわ。もちろん、調辺さんとの団体戦も含めましてよ」

「うん、わたし達も黄金十条さん達に負けないように頑張るよ」

「フツ……わたくし達よりは全国を見なさいな。

特にほもさん！ 初戦敗退で去年のわたくしよりも劣るなど絶対に許しませんわよ！」

大丈夫だって安心しろよ（1敗）。

〽言いたい事を言って気が済んだのか、黄金十条さんはどこからともなく現れた黒服達の広げた赤いカーペットの上を堂々とした足取りで去っていった。

「……だつてさ。すっかり目を付けられちゃったみたいだね、ほも

ちゃん」

「激励を受けたからには、結果でもって応えなければな」

「あはは、団体戦も去年の記録越えなくちゃね」

◇踏み出した全国への一步に、部の仲間達がやる気になっている。
◇学校までの帰りのバスに揺られながら、まだ見ぬ大舞台と強敵に
思いを馳せた。

◇◇チームメンバー全員の信頼度が上がった！

◇◇監督の信頼度が上がった！

◇◇BPを4獲得した！

(優勝BP×2) あゝ、うめえぜ!!

この一気にドカンと来る感じが(両優勝チャート)やめられないっ
すね!

ここから先は大会の度にほも君が爆発的成長を遂げてくから見と

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

part 6 高旗先輩信頼Lv. 2 S.H.I.
 N.E. 本戦団体一回戦

I.N.E. 本戦(団体)優勝

目標:S.H.

難易度★★☆☆☆

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 7月 8月 9月 1
 月 月 月 月 月 月 月 月 月
 レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P: (4BP) (9BP)

休: 7 8 1 2 3 4 5 6
 0 8 8 9

二年目									
春合宿②									
選拔メ									

ンバー特訓

月: 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

月 10月 11月 12月

なびきin

S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP: (52BP) (33BP) (38BP)

休: 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

ヤンキー撲滅RTAパート6、はあじまあるよー!

前回は激闘の末、薫子様を打ち破り個人・団体共にS.H.I.N.

E. 本戦出場を決めたところまで。

ドカンと手に入ったBPでも君に更なる強化を施す前に、画面では公式戦で稼いだ信頼度で高旗先輩の信頼レベル上昇イベントが入ったんで流しましょ。

「ほも、少し良いか」

アヤツ→ス!! (体育会系特有の万能言語)

武器に重りを加えて行うウェイトコントロールの練習中、高旗先輩に声を掛けられた。

「はい、なんですか。」

「そのままの姿勢で構えててくれ。」

ほも、ここから相手に接近を許し、競り合いになったときを想定して欲しい。

相手は力押しが得意で、武器を手放さずにどうにかしていなす必要

がある状況だ。やってみろ」

氏ぬまでハイパーシユートぶつ放せばいいと思うんですけど(特攻精神)。

「そう言つて高旗先輩は自分の武器をこちらに合わせ、ぐつと体重を乗せて押し込んできた。

「手加減されているのはわかるが、それでもかなり重い。早く逸らさなければ。

「しかし思うように重心移動が出来ず、もう限界だと感じる一歩手前で先輩が圧力を解いた。

「多分、いつも通り受け流そうとしても重量が増した武器では上手く行かなかつたはずだ。

これは弱体化スキルを使ってくる相手との試合によくある事で、慣れてないと痛い目を見る」

「確かに、武器で受け流そうとしたとき大きな違和感があった。

「一人で振っているだけなら多少苦に感じる程度の重りが、こうなるととても無視出来ない。

(敏捷デバフ入れられて操作感狂うの) ありますねえ!

スキルの追加効果で稀にやられると確定で入るよりウザいんだよなあ…… (怒り)。

「前衛ならやって当然、後衛でも危険はある以上やって損は無い訓練だ。

「私で良ければ手伝ってやる」

「ありがとうございます、よろしくお願いします。

「ああ」

「高旗先輩は少しだけ楽しそうな顔をしている。

「よかつたな立! 今年は素直な良い後輩が出来たぞ!」

「立は後輩構いたがるけどビビられるからなー、ほもは珍しく逃げな

いから喜んでるんだぜ！」

〈横で同じように練習していた先輩達のはやし立てる。

〈……親切で丁寧だけど、声のトーンの低さや見た目の迫力は仕方ないかもしれない。

「ほも、この後の模擬戦では実際に本気の競り合いの手本を見せてやろう。

相手の重量が大きく上回っている場合も、弱体化を受けているのと似たようで違う厄介な状況だから、勉強になるはずだ。

丁度いい相手がここに二人もいる事だしな」

「おいやめろー！ 勝てるかそんなの!!」「悪かったって！」

〈その後、模擬戦の時間は宣言通りに競り合いの駆け引きを見学させてもらった。

〈先輩方には申し訳ないが、大変参考になる試合だった。

〈高旗 立（たかはた りつ）の信頼レベルが2に上昇した！

LEVEL UP

後輩思いの強面先輩あざとくていいゾ。

以上、高旗先輩の信頼レベル2への上昇イベントでした。

彼女も音咲の主力メンバーなので信頼度は可能な限り上げときたいんですが、出現しやすい練習メニューが耐久系でほも君の育成方針とは噛み合わず、更に三年生なのでゲーム中盤には卒業して離脱しちやく→うのが大きな痛手。

三年生キャラは信頼レベル3以上なら二年目加入の新人部員に一定量の信頼度ボーナスが入るので、団体戦のチームメンバー信頼上昇なんかを活用して離脱までに無理なく3まで上げておくのが無難でしょう。

下手に4まで上がるとイベント分逆にロスです。最大レベルの5ならキャラ毎に特別ボーナスがありますが、高旗先輩のそれには今回用がありません。

じゃけん用がある指希先輩のケツ追っかけましょうね。はやく本気出して♥

ここからは精神のステも必要になるので練習でのストーキングも

拂りませ。

〈部員全員でバスに乗り、S・H・I・N・E。本戦が行われる会場へとやってきた。

〈近づくにつれ窓からの景色に人込みが増えていたが、現地はまさに圧巻の様子だ。

〈ここが、全国の舞台……。

「うーん、やっぱり本戦は人が多いなあ……あ、ほもちゃんこつちこつち、はぐれないでね」

「選手としてここへ初めて来たときは緊張に飲まれたな。大丈夫か？」

大丈夫つすよ、バッチェ冷えていますよ（明鏡止水）。

〈心配してくれる先輩達の姿に、浮足立った気持ちが少しずつ落ちていくのがわかった。

〈はい、やれます。

「……ふ、良い顔つきだ」

「頼もしい後輩を持ってよかったよかった。それじゃ、行こうか」

八月二週目を迎え、やってきましたS・H・I・N・E。本戦。

ここではプレイヤーが入学先に選べる高校から各地区合わせて八校と、実際には当たらない数合わせを含めた全三十二校が出場し、一回戦、準決勝、決勝の最大三試合を行います。

更に一年目は主人公の所属先の部長の得意種目、団体か個人どちらかの決勝で因縁のある相手が固定出現となっています。いわゆるシナリオボスですね。

さて、初戦のお相手は……ヌツ！ 脳筋ヤンキー動物園、もとい百獣学園高校！

この学校は名前の通り、様々な獣娘に変身して戦う物理近距離偏重な暴力！ 暴力！ 暴力！ って感じのクツソ野蛮なケダモノ共で

す。

健全なスポーツ大会に不良紛れ込んでんよ（密告）。ヒロインバトル協会仕事しちくり〜。

三年部長のスケ番、オレオ先輩こと獅子王 玲央（ししおう れお）先輩が指希先輩とは対照的に攻撃面で強力な指揮官なので、出来ればもうちよい楽なのと当たりたかったですね……タイム的には良くも悪くもないですが。

試合の前にオーダー画面から忘れずにほも君の強化。

地区予選の分と練習分の合わせて5BP、がつつり使っていくましよう。

今回取得するのは特徴から《クイックドロ》（2BP）と《ド根性》（3BP）の二つです。

◇《クイックドロ》0BP（+累積コスト2BP）

射撃系攻撃スキルの発生が早くなる。

相手の動きを見てから差し込みやすくなるシューターの鉄板。

攻撃モーション全体の硬直時間は変わらない点には注意。

初期に選べる特徴の一つ。

《根性》と悩んで検証した結果、薫子様戦はお祈りワンチャン狙いの方が若干勝率あったのであちらを採用。

◇《ド根性》3BP 条件：《根性》からランクアップ。

HPが0以下になっても一度だけ確定で1残して耐える効果。

要するに食いしぼり。そこはタスキじゃないのか……（困惑）。

敵が持つと厄介だけど、正直《根性》で運良く何度も耐えられる方が精神に来る。

《クイックドロ》は射撃スキルに限り出が早くなる特徴。攻撃

「オオオオオオオオオーッ!!」
「オ……グッ!?」

開幕は確定で玲央先輩が専用必札『百獣王の咆哮』を使い、味方全体に攻撃と敏捷上昇と怯み・状態異常耐性付与のクソつよバフを掛けてきますが、彼女とほも君の敏捷はほぼ同じ。

《クイツクドロ》含めスキル速度の差でFスタンが耐性を得る前の取り巻きに当たります。

◇『百獣王の咆哮』

獅子王玲央専用必札スキル。

精神を参照に、味方全体に攻撃・敏捷上昇と怯み・状態異常耐性付与。

バフの威力補正が高く、本人のそこそこレベルな精神でも十分強い。

これが本人に撃てたらより話は早いんですが、あいにく《精神力》という怯み無効耐性を自前で持っているため断念。またポケモンが壊れるなあ……。

「オオオオオオオーッ!!」

残った取り巻きと玲央先輩がそのまま後衛目掛け殴りかかりますが、こちらもすでに指希先輩の全体防御バフが掛かっています。

既に一度行動した玲央先輩は間に合わず、取り巻き一人が指希先輩を一発殴ったところで高旗先輩の広範囲ガードが発動。半透明なバリアが自陣後衛に入り込んだ相手を強制的に弾き出し、高旗先輩以外の攻撃を許しません。出ていけえ!!! (レ)

いかに物理耐久に優れた高旗先輩と言えど脳筋三人に囲まれて腹

筋ポコボコにパンチ食らっては撃沈不可避なので、最初に怯ませた脆い方の取り巻きにハイパーシユート！　が、微妙に倒しきれず。

ダメ押しの通常攻撃で落ちましたが、二度目の防御バフを受けつつも高旗先輩が余計に削られてしまいました。やべえよやべえよ……（焦燥）。

残る二人の脅威度はほぼ同じなので、より柔らかく、専用特徴《特攻隊長》（直喩）で前衛にいる限り味方全員の攻撃速度を上げる大上さんの方を先に狙います。

地区予選からここまでの練習メニューに精神を啜えた成果で、今のほも君なら指希先輩との信頼度バフ込みで三発のハイパーシユートが撃てます。三回だよ三回。オラア！（動物虐待おじさん）

しかしここで薄汚いケダモノ達の猛攻にとうとう高旗先輩がダウン。抑えつけられていた野生の牙が、後衛二人にその本能を解き放たんと迫ります。おうこつち来んなや!!（KO即リセ）

「ぶつとベオラアアツツ!!」

バクステからのハイパーシユート二連打直撃で特攻隊長も落ちましたが、その隙に最後に残った玲央先輩が颯爽と剛腕を振るい……

オイ！（精一杯の威嚇）痛つてえ!!（HP全損）オイ!!（《ド根性》発動）

防御バフ三積みの上から十割持つてかれるとか、笑っちゃうぜ!!（震え声）

「やせないっ」

こちらに接近した指希先輩がバフから魔力依存の近距離通常攻撃でのフォローに切り替えるのを見て、すかさず彼女の攻撃範囲内でゴリラ（ライオン）腕力の巻き添えを喰らわせないよう気を配りつつガン逃げトレインに移行します（MMO式狩猟術）。

威力はほも君に劣りますが、近距離通常攻撃特有の回転効率で良い

具合にダメージを稼いでくれます。近づかれても迎撃出来るこの行き届いた隙の無さ、まさに指揮官の鑑。日本の心。

覚悟しろオレオ野郎！ てめーは指希先輩が必ずぶっ倒す！（他力本願）

「畜生ッ……！ やるじゃあねえか……ッ」

動物はてめーだろ（屑発言）。

あと上がサラシで下はエロい勝負パンツなのはこれはこれでアリっすね（畜生並感）。

ともあれ、こつちがヘイトを維持してる間に、無事指希先輩がやってくれました。

あわやほも君KOからの変質者発覚全国紙デビューかといったところでの決着。

初っ端から気の抜けない試合でした。

しかし両チームとも脱がされまくりで、興行的に取れ高十分といったこの様子。

本当にこんなのが世界的大人気スポーツでいいんすかね……（冷静）。

「っふー、危ないところだったね……っ」

∠ 調辺 指希（しらべ しき）の信頼度が上がった！

∠ 高旗 立（たかはた りつ）の信頼度が上がった！

本戦に入って敵のステータス面が若干強化されてるとは言え、こちららはBP面で相対的により強化してる事を考えると、今しがた苦戦した百獣学園は予選で完封した黄金十条より一見格上のように感じます。

まあ大体合ってるんですが、これが必ずしもそうとは限りません。どつちだよ（自問自答）。

三年生かつ部長で団体戦に特化した玲央先輩の存在でチームの総

合力に軍配が上がる百獣学園ですが、ゲーム的にありえない話なのはさておき、もしこの二校が実際に戦った場合かなりの確率で黄金十条が勝つと思います。

お互い対応力よりやりたい事押し付けるチームなので行動パターンは決まっただけで、ここまでのそれぞれの試合から言って、多分薫子様がまとめて吹っ飛ばして終わるでしょう。

前衛三人のガン攻めスタイルなので距離を詰める必要すらなく、ステータス等を計算したところ例の開幕バフ×2からの範囲必札で大体ケリが付きます。

あの出オチクソコンボほんま……。

反面ほも君 in 音咲のような小細工と肉壁で耐え凌いでから逆転するチームに対しては真つ向から突き破る力があつたので、百獣学園は百獣学園で紛れもない強敵という事で、まさに相性、そして怯み耐性の重要さがよくわかる一戦でした。

「わあ、なんか結構良い流れというか……わたし達、ひよつとして行けちゃう感じ?」

「こら調辺、部長のお前が勝つ気でなくてどうする」

「わ、監督! あはは……すいません、つい」

〈トーナメント表を眺めて思わず零れた眩きを聞き咎められ、バツが悪そうに笑う指希先輩。

〈だがそんな言葉が出るのも無理はないと思う。

〈一回戦突破後、続く勢いで勝利を重ねた音咲女子高校は、準決勝まで駒を進めている。

〈S. H. I. N. E. 本戦。その団体戦での優勝、全国制覇が現実味を帯びてきていた。

「あなた達、音咲のメンバーですね」

「そうだけど、そう言うそっちは……次に当たる明治魔動産業高校さん、だよな?」

〈背後から届いた声に振り返ると、そこにはつば広の三角帽とマントに身を包んだ女子がいた。

〈細い眼鏡をかけた理知的な顔立ちで、とても大人びた雰囲気だ。

あつ、設置厨OL姉貴オツスオツス!! 相変わらずおっぱいデカ
いっすね! (セクハラ)

「はい。明治魔動産業高校ヒロインバトル部、部長の真木 佳奈絵(ま
き かなえ)と言います。

本日はよろしくお願ひします」

「わたしは音咲女子高校の部長、調辺 指希だよ。よろしくね、真木さ
ん」

「ええ……もう時間なので、お先に失礼します。お互い良い試合をし
ましょう」

〈綺麗なお辞儀をしてから、真木さんは自分達の控室のある方向へ
去っていった。

〈……何だろう、凄く礼儀正しいというか、まともな部長だった。
「ほもちゃん? ヒロインバトル部の部長がみんな黄金十条さんみた
いなわけじゃないからね?」

第一わたしだってまともでしょ!」

「まあ、ある意味高校生らしくないというか、大人のようにしっかりし
た振る舞いだったな。

珍しくはあるだろう」

〈それなら高旗先輩も負けてないと思います。

「……………それはどっちの意味でだ…………?」

多分見た目の話だと思うんですけど(天地明察)。

それはともかく準決勝の明治魔動産業(めいじまどうさんぎょう)
高校ですが、魔力を利用した産業に関する研究、発展を目的とした学
校で、見ての通り部員はミニスカ女魔法使いコスチュームです。シン
プルにエロい(直球)。

当然戦闘スタイルは魔力依存の遠距離攻撃がメインなんですが、こ
れが物理盾の高旗先輩に対しクツソ刺さるのが問題でして、百獣学園

戦の比じゃないくらい一瞬で蜂の巣にされてしまいます。固定メン
バーで不利を取る、音咲一年目で当たりたくない相手ですね。

しかし安心魔界神。今回のランダム加入キャラに丁度いい娘がい
たので、ここは彼女に働いてもらいましょう。

……RTAでこんな運ゲー要素には頼らない？ なんのこったよ
(すつとぼけ)。

あれはあくまで積極的には吟味しないというだけの話。平安時代
の剣豪にして哲人ミヤモト・マサシもこのようなコトワザを遺してい
る、「何でも使え」。

メイジマドウ・インダストリの醸し出すヤバイ級の魔力にRTAを
不穏めいたアトモスフィアが包んだかに見えた瞬間、オトサキの窮地
に一人のニンジャが

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 7 S.H.I.N.E. 本戦団体準決勝

I.N.E. 本戦(団体)優勝
 目標: S.H.

難易度 ★★☆☆☆

一年目
 高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
										▼				

レギュラー選抜戦 ↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン ♥

B.P. (4 B.P) (9 B.P)
 休 : 0 1 2 3 4 5 6
 7 8 8 9

二年目
 春合宿②
 選抜メ

ナンバー特訓

月	10月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月

なびきin

↑

S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP)

(38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

ニンジャが走り、ニンジャが跳ぶ！ なRTAパート7、はあじまあるよー！

前回はS・H・I・N・E。本戦団体一回戦で危険動物共を駆除して、やり手OL女魔法使い（現役高校生）と顔合わせしたところまで。

待ち受ける圧倒的魔力の集中砲火に、あなやタカハタ || サンがネギトロめいた物体に変わってしまうのか、否！ オトサキ・クランのベチから一人、ニンジャが前方宙返りで飛び出した！

シノビガタケ・クランの家出娘、イスカ || サンのエントリーだ!!

はい、というわけで今日はスペシャルゲストオ……大体わかってるだろうけど……

前世の地区予選個人一回戦、黄金十条所属として戦ったイスカちゃんです。今世ではくノ一装束をマーチングバンド風の帽子に飾緒やブーツと飾り立てた音咲の一員になりました。

画面では時折普通に映ってたので驚きもないでしょうが、明治魔動戦では役割を持ってない高旗先輩に代わり、彼女に回避盾として頑張ってもらいます。

このイスカちゃん、敏捷得意でも君の育成方針と相性が合うので練習効率も良く、放つといっても信頼度が上がってくれるんですね。

なので実は現時点で指希先輩と並ぶ信頼レベル3の子でして、二人

で挟むと友情パワーでほも君のステータスがかなり底上げされます。勝ちまくりモテまくり!! (札束風呂)

オーダー画面に入りましてナイトとニンジャを入れ替え、前衛イスカちゃん、中衛ほも君、後衛指希先輩で。イスカちゃんは中距離専門ですが、明治魔動の固定メンバーが揃って後衛なので相対的に丁度良くなります。

後はイスカちゃんに回避優先、指希先輩には敏捷バフをお願いしましょう。これが音咲スピードフォーメーションじゃない!

――――

／ピーッピッピッピッピッ パッパラパパーパーパッパ
パパーパーパッパパーパーパッパッパパーパーパー

／ワァー ワァーワァー
／ワァー ワァーワァー

音咲女子高校 VS 明治魔動産業

イスカ

赤坂コルト

????????????
1 8 敏捷 0 9
????????????
????????????
筋力 0 0
0 0 1 7 7
精神力 0 0 耐久 0 0
0 0 0 6 8
0 0
????? ????
????????

稲妻春子

????????????
1 6 魔力 1 0
????????????
0 9
S?????
???????? P 0
0 0 0 5
4 4 7 0
耐久 筋力 0 H
0 0 0 7
8 4 0
????????
????????

調辺 指希

1	2	敏捷	0	6	0	5	精神	0	5	?????
1	2	敏捷	0	6	0	5	精神	0	5	?????

1	4	精神	1	7	0	0	P	0	4	0	????
1	3	敏捷	1	1	0	0	0	0	0	3	???
1	4	精神	1	7	0	0	P	0	4	0	????
1	3	敏捷	1	1	0	0	0	0	0	3	???

信頼バフ×2のおかげで、ほも君がクツソ強くなってますねこれは
……（粉飾決算）。

友達二人に履かせてもらったデカイ下駄で思う存分暴れてやりま
しょう。

「それではただ今より、音咲女子高等学校と明治魔動産業高等学校の
準決勝戦を行います。

試合………始めっ!!」

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす！（開幕Fスタンバレット）

「Ouch!」

まずは挨拶代わりにFスタンで敵後衛にしれっと混じってたラン
ダム加入キャラのガンマン衣装の物理型シューターを怯ませます。

奴はほも君とよく似たタイプなので、狙いは間違いなく指希先輩へ

のFスタン。属性一致で威力もそこそここちらの出鼻を挫くつもりだったでしょうが、勝ちモテ状態の今のほも君ならば早撃ち対決も難なく制します。今よ！ セーラー●ムーン!!! (MCR)

「全隊ステップ！ 動きを止めないで！」

指希先輩の全体敏捷バフ入りました。超スピード!? (レ)
ぎゆうううう……くぎゆううううう!!! (ゼロ●の使い魔)

「おっそ」「そんなもん？」

行動後の隙を晒したほも君と指希先輩を敵の取り巻きが撃とうとしますが、射程内に入り構えたイスカちゃんを無視できず迎撃。しかし当たらない！

部長の佳奈絵さんが後退しつつ召喚した追従式浮遊魔法陣『マジックミサイルビット』が横からフォローするように追撃、しかしこれも当たらない!!

ゴウランガ！ なんとるニンジャ反射神経か！

◇『マジックミサイルビット』2BP 条件：魔力・精神8以上。
サモナーを自動で追い掛けて援護するミニオンの一種。

最も近い相手を狙い、ミサイルには多少の追尾機能があり避けづらい。

威力・同時召喚可能数は魔力に依存する。

ここで互いに怯みとスキル硬直が解け一瞬睨み合う敵ガンナーとほも君、仲間達をよそに西部劇空間を作り出した二人は同時に横跳びからのFスタンとハイパーシユート。

馬鹿め、シューター同士のタイマンは大得意よ!! (無敗)

「ぐ……良い腕してんじゃん」

完璧な偏差射撃から変身アイテムスナイプ成功。ビューリホー…
初撃をキャンセルさせたいので速いFスタンプが飛んできて被弾したら危ない所でしたが、うまいぞ回避（自画自賛）。

そして指希先輩の全体敏捷バフが再び入ります。あ、佳奈絵さんが魔法陣二つ目出したせいでフリーになった取り巻きが、イスカちゃん無視して今度こそ指希先輩にハイパーシユートの麻痺追加版『サンダーボルト』を当ててきました。

しかし心配ゴム用、高い精神・耐久ステを持つ指希先輩はほも君のハイパーシユートでも二発までなら素で耐えます。消費SPのデカい全体バフ連発出来るのは伊達じゃありません……が、麻痺の効果でスキル再使用のクールダウンを増やされるのが地味に痛い。

指希先輩は物理面も並以上に硬いんですが、魔防ほどじゃないので被ダメを抑えるためにも物理アタッカーは先に落とす必要があったんですね。

万全を期すなら前線で弾避けしてるイスカちゃんを援護すべく、佳奈絵さんの魔法陣を丁寧撃ち抜いていきたい所ですが、RTAにそんな正攻法はフヨウラ！

敏捷バフを一時的に封じられた指希先輩が代わりに防御バフを配りながら敵取り巻きのタゲを引き受けてくれるのを確認し、ほも君をおもむろに敵陣へガンダツシユさせます。

途中、佳奈絵さんが更に召喚した魔法陣の攻撃は全てこの時点で最も近いイスカちゃんに、取り巻きのサンダーボルトも再び指希先輩へ飛んで行きました。計画通り（ゲス顔）。

周囲の攻防に目もくれず駆け抜け……そろそろ来ますね。

「充填完了、仕切り直させてもらおうわ」

そんなことしたらパパに怒られちゃうだろ！！！！
（走者並感）

試合開始から三回スキルを使い、条件を満たした佳奈絵さんがバクステから専用必札スキル『メテオシャワーシューティングシステム』を発動。

自陣奥深くまで下がった彼女の背後一面をまばらに覆うほど大量の魔法陣が展開、それぞれランダムな敵を対象に、魔力の流星が数秒間降り注ぐと思っていたのかあ？（旧ブ●ロリー）

◇『メテオシャワーシューティングシステム』

真木佳奈絵専用必札スキル。

当たると痛い・避けづらい・反撃してる暇ないのクソ技。

本人はその間ビット増やしたり気まぐれに『ハイパーシュート』ぶち込んだりやりたい放題。

まともに対処したら味方の被害甚大不可避。

勝ちモテ状態に敏捷バフ二枚積んだほも君の前でそんな大技構えてたらなあ！

こうだぞ!!!（至近距離スナイプ）

「計算違い、ね……」

佳奈絵さんと共に発射寸前の魔法陣達が消えていき、残った取り巻きはイスカちゃんともほも君で。パパパツとやって、終わり！

「まっ、あたしにかかれればざつとこんなもんってわけ」

◇調辺 指希（しらべ しき）の信頼度が上がった！

◇イスカの信頼度が上がった！

おっそうだな（素直）。イスカちゃんありがとナス！

彼女のおかげでほも君の機動力と生存性が想定より上がったので、この試合は終始動きやすかったです。

明治産業と当たったら高旗先輩を引っ込めるのはまず確定なんです。控えによって物理アタッカーを介護するか、回避・魔防盾にタゲ取ってもらって特攻かけるか択になります。

どれもいないなら、苦肉の策として調辺先輩に盾をお願いして突っ込みましょう（1敗）。

今回のイスカちゃん回避も出来る、物理アタッカーも出来る、ビキビキニ1, 2, 3のぐう有能なので、RTAらしくタイム優先で特攻させてもらいました。

魔防高い上に密着状態じゃないと魔法陣が身代わりになってスナイプはおろかダメージも与えられないのほんと頭来ますよ（憤怒）。
ともかく明治魔動戦も無事突破、これで決勝進出です。

この後息つく間もなく会話イベントから決勝戦が始まりますが、本編は一旦ここまで。

代わりにせっかくなので倍速中飛ばしていたイスカちゃんの信頼レベル2と3の上昇イベントでも流して終わりたいと思います。

続きが気になる人はここ飛ばしちゃって、はい、ヨロシクう！

「ちよつと、あんたまたまた部活に行くわけ？ 他の連中といい、熱心なもんね」

＜放課後、いつものように部室へ向かう途中の廊下でイスカに呼び止められた。

＜同じ部の仲間なのでこのまま一緒に部室へ行くのかと思うと、どうも付いてくる様子が無い。

＜もしやサボりだろうか。

「あつたり前じゃない！ こんな毎日毎日部活ばっかやってたら息が詰まりそうよっ。

何のためにわざわざ家を離れてここまで来たんだかわかりやしないわ！」

＜当然と言わんばかりの態度で憤慨するイスカ。

〈しかし、確か彼女はバトルヒロイン部の特待生としてこの学校へやって来たはず……。〉

「良いじゃないちよつとくらい休んだって、一度や二度なら平気よ！」

〈どうにも、今日のところは部活を休まなければ気が済まないらしい。

〈この感じからして、放っておけば一度や二度では到底足りなさそうだが。

〈サボりが続けば部内でも良くない目で見られるだろう。

〈……………〉

「な、なによお」

〈じつと顔を見つめながら考えていると、気まずそうに目を逸らすイスカ。

〈わかった、一緒に休みを貰いに行こう。

「は、はあ？ 何言ってるの、そんな馬鹿正直に頼みに行ったら怒られるに決まってるでしょ！」

〈多分大丈夫。

〈しっかり休みが欲しい事、その分頑張る事を監督に伝えておけば、黙ってサボるよりマシだ。

〈それに、駄目だった時は一緒に怒られるから安心して欲しい。

「何よそれ！ 大体あんた休む気なんて無かったじゃないの」

〈今日休む気は無かっただけで、元々どこかで息抜きを申し出るつもりだった。

〈ここは二人で共犯になろう。

「……………ふんっ！ いいわ、それならあんたのやり方に乗ってあげる。

言つとくけど、もし駄目だったら普通に抜けてやるんだからねっ」

〈謎に偉そうな態度でああだこうだ言いつつ後ろを付いてくるイスカ。

〈ただ、彼女のクラスが自分よりも部室から離れている事は知っている。

〈他に一年生の部員を待っていたのでもない限り、あそこにわざわざ

ざ立っている意味はない。

「ちよつと、こつち見てないでさつきと進みなさいよっ」

＜こちらを急かす口調ほど、イスカの機嫌は悪くなさそうだ。

＜その後、監督から無事休みの許可を得たので、二人で大手を振るい街へ遊びに出かけた。

＜イスカの信頼レベルが2に上昇した！

LEVEL UP

「ほも、今日もちよつと付き合いなさいよ」

＜部活が終わり、残りは自主練習の時間になるとイスカが向こうからやって来た。

＜前に二人で理由を付けてサボってから、彼女とはたまに自主練を切り上げて遊びに行く仲だ。

＜？わかった、行こう。

？今日は残ってもう少し練習したい。

「そう来なくつちや。そうと決まればさつきと着替えて行きましよ」

＜上機嫌に部室のロッカーを指して歩くイスカ。

＜頻度はまちまちだが、あれ以来練習自体はサボらず一応真面目にやっている事、特待生として期待されている結果はきちんと出している事で、監督や部員からの評判は悪くない。

＜後を追うように、自分も部室へ引き返した。

「この間の練習試合の相手は武器の扱いが中々だったわねー」

まっ、あたしに攻撃を当てるにはまだまだだったけど」

＜新しく出来た喫茶店でパフェを食べながら、二人で部活の話をする。

＜確かに、相手は取り回しの難しい長い鞭のような武器を綺麗に使いこなしていた。

＜イスカはその複雑な軌道の攻撃を全て紙一重でかわし続け、更に反撃まで合わせていたが。

「ん〜おいしっ ♥ そのままでも十分だけど、運動の後のパフェは最っっ高ね〜」

＜心から幸せそうな表情でイチゴパフェを頬張るイスカ。

＜一緒にサボった日、初めて食べたと言った時はあまりの感動に涙を零すほどだった。

＜実家を飛び出してきたと彼女は語っていたが、一体どんな所に住んでいたのだろうか。

「ええ……。あんまり家の事思い出さたくないんだけど……。まあいいわ、教えたげる。

うちは山奥にある代々続く古くい忍者の一門でね、生まれた子供は男も女も物心つく頃からそりやもう厳しい修行の日々だったわけ。

あたしの上にも三人兄貴がいてさ、どいつも筋肉ムツキムキで妹相手でも容赦しないわ顔つきは殺し屋みたいに鋭いわ……。いや、実際似たようなもんだけど。ああ、あと門下生も沢山いたわ、全員男。

つまああとにかく娯楽の無いむさつ苦しい男所帯だったんで、耐えきれなくて親の金ちよこつと抜いて出てったの。以上！ おしまい！」

＜話すうちに記憶が脳裏をよぎったのか苦々しい顔で言い切ったイスカは、嫌な事は忘れるとばかりに再びパフェを食べる作業に取り掛かった。

＜……ちよつとした家出娘程度に思っていたら、何やら凄い環境で生まれ育ってきたらしい。

＜しかし、それならバトルヒロインの腕前にも納得がいく。

＜それと同時に、不可解な点もあったが。

「はあ？ 何よ」

＜食後のホットコーヒーを飲みながらイスカが問い返す。

＜話を聞く限り、少なくともその三人の兄や、おそらく父親もイスカ以上の凄腕なのは。

「ふんっ、まあそうね。ムカつくけど真つ向勝負じゃ絶対無理」

＜そんないかにも気配に敏感そうな家の人達が、みすみす娘の家出を見逃して、まして資金まで持って行かせてくれるだろうか。

＜ひよつとしたら男所帯の厳しい家なりに、娘の希望を叶えてやったのでは？

「……………」

………

「……まあ、そういう考え方もあるわね」

「かなり認めたくなさそうに、口を尖らせてイスカが答えた。

「実力を良く知っている相手だけに、元々本人にも思い当たる節はあつたのだろう。」

「ミルクと砂糖を多めに入れたコーヒーをぐつと飲み干すと、こちらを睨んできた。」

「ほもー。明日からの練習はちよつと本気で行くから、あんたも付き合いなさい！」

「いいけど、なぜ急に？」

「親父達の掌でいいように転がされるのが気に入らないから、こつちにいる間も腕を磨いて、あんな時代遅れな連中追い抜いてやるのよ！」

「あと思い出させた八つ当たり！」

「……何だか、そんな思考まで読まれてる気がしないでもないが。」

「それは口にしなさい。前向きなのは良い事だ。」

「イスカと約束を交わした。」

「イスカの信頼レベルが3に上昇した！」

「イスカと練習時、追加でステータスが上昇するようになった！」

「イスカとチーム時、互いのステータスが上昇するようになった！」

LEVEL UP

「イスカちゃんちよろすぎい!!」

「お手本みたいな生意気系ツンデレ家出娘ですねクオレワ……。」

「何気にほも君の強かさなんか垣間見えて、確かにこいつなら戸籍偽造もやりかねないなという信頼感を与えてくれます。そこんどこどうなんだ？（設定皆無）」

S・H・I・N・E 団体戦も次でいよいよ大詰め、決勝の舞台へ
いざ鎌

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 8 S.H.I.N.E. 本戦団体決勝

I.N.E. 本戦(団体)優勝

目標:S.H.

難易度★★☆☆☆

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

レギュラー選抜戦 ↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン ♥

B.P. (4BP) (9BP)

休: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月

二年目

春合宿②

選抜メ

ナンバー特訓

月 10月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

なびきin

↑

S.H.I.N.E.

!!
プリンセスブレイド!!!
レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP)

(38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

巨大ドラゴン討伐RTAパート8、はあじまあるよー!

前回は味方を盾にシューティングゲーお姉→さんをキャンセルし、
S・H・I・N・E・本戦団体決勝に進出したところまで。ちやっ
ちやと進めて行きましょう。

◁会場内を一際大きな歓声が包み込む。

◁S・H・I・N・E・本戦の団体決勝戦。両チームの選手達が
フィールドに立ち、場内アナウンスの紹介を受けながら行う見せ合
いは、応援団のパフォーマンスもあり大変な盛り上がりを見せていた。
「あはは、やっぱうちの学校は応援気合入ってるなあ。

決勝用の曲なんて、わたし練習中以外で初めて聞いたよ。

……………みんなで、しっかりと勝って応えたいね」

「ああ。

「ここまで来たんだ、全力を出し切ってやろう」

◁チームの皆の士気は高い。もちろん、自分も。

「決勝は音咲と当たる事になったか……」

調辺さんに高旗さん、去年の一回戦ぶりになるね」

◁対面に立つ、相手チーム竜ヶ峰(りゅうがみね)女子高校の部長、

竜胆 武瑠(りんどう たける)さんが調辺部長に話しかけてきた。

◁竜の意匠が入った鎧を纏った優れた体格に、闘志の宿った力強い

目つき。

「まるで全身から気迫が形になって溢れているような人だ。」

「お久しぶりです竜胆さん。」

「今年のうちが勝たせてもらいますね」

「そうはいかない。」

三年の私にとってはこれが最後の夏。

あの時はこちらが運良く勝ちを拾わせてもらったが、今日はまぐれ無し、真正正銘の実力で勝って見せよう。

……元部長の彼女がいなくなってしまうた後なのが残念だが」

「いいえ。」

今のわたし達の方が、あの時よりも上です」

「……………ふっ、確かに。」

「ここまで来た君達に言うのは無礼だったな。では、後は心置きなく」

「ええ、勝負といきましょう」

「見せ合いが終わり、踵を返す両チームの選手達。」

「どうやら過去に音咲と戦った事もあるワケありの相手らしい。」

「皆の一步前を歩く指希先輩の背中から、竜胆さんに負けないほどの強い気迫が伝わってきた。」

キャラライブの色ボケっぷりが鳴りを潜めて完全本気モードの指希先輩。

「そんなにやる気あるならここで専用全開放してくれよなあ〜頼むよ〜（届かぬ願い）。」

「と言うわけで決勝のお相手は竜ヶ峰女子高校。一回戦の百獣学園に続いてドラシコ勢歓喜の竜サーです。」

「と言っても百獣学園が変身時点で獣化するのとは違い、こっちはスキルによる二段変身だったり召喚だったり騎乗したりと色々ですが。コスチュームも竜っぽい飾り付きマント以外は鎧にローブと幅広い感じ。」

あと会話文でわかる通り、指希先輩の信頼イベントで語られてた去

年の全国一回戦で、先代部長の失恋ショックで負けた相手がここですね。一年目S・H・I・N・E。限定の学校毎の固定決勝戦&イベントです。
 そんな竜ヶ峰戦ですが、黄金十条同様に固定戦闘なため対策は万全です。

固有メンバーも一年目の時点で三人揃ってる学校なので、不安定な要素はほぼなし。ほも君を啜えた音咲なら問題なく勝てるでしょう（無敗）。

オーダー画面でイスカちゃんを高旗先輩と再び入れ替え、陣形はそのまま前衛高旗先輩、中衛ほも君、後衛指希先輩で。

ここ重要、高旗先輩には今回広範囲ガードではなく自身の守備に専念してもらいましょう。

んじやS・H・I・N・E。本戦団体決勝、竜ヶ峰戦、イクゾー!
 デッデッデデデ!

—————
 —————
 \ ピーッピッピッピッピッ パッパラパーパーパーパ
 パパーパーパッパパーパーパッパッパパーパーパー
 \ ワー ワー ワー /

音咲女子高校 VS 竜ヶ峰女子高校

	1	90HP	
	18耐久	150	
	2	0	
筋力	0	4	0
精神力	0	3	0
敏捷	1	8	5

高旗 竜胆武留

ほも

「くうっ！」

敵の編成は想定通りの固定メンバー。

まずは敵後衛の二人、弓使いの物理型シューター杏奈さんの強烈なスキル攻撃を回避。

もう片方のヒーラー兼デバフ役の八重ちゃんが指希先輩の全体敏捷バフに対し全体敏捷デバフをかけるのを確認し、杏奈さんに反撃のハイパーシユートをぶちかまします。

体感速度がぐるぐるして、もう気が狂いそうや（操作不良）。

無事命中。スナイプは出来ませんでしたがまあええわ（寛容）。

八重ちゃんは手が空かない限りデバフより回復を優先するAIなので、初撃は仕事させないよう立ち回らないといけません。ほも君より足が遅い&スキル硬直の差で二発目は邪魔される事なく撃てます。

「こんな、はずじゃ……っ！」

計算通り半分以上HPを削られた弓使いの当たれば即乙級な一撃を反復横跳びで華麗にかわし、もっかいハイパーシユート直撃させて沈めてやります。下手くそでちゅね〜！www（煽り）

「はああああ!!!」

「このt」「このて」「この程度k」「効かん！」

指希先輩と八重ちゃんが補助合戦をしてる一方、竜胆さんの槍を用いた強力な物理スキルの連撃を高旗先輩ががっしりと受け止め続けています。ナイスです！（レ）

普段はもっぱら広範囲ガードで味方をかばうだけの頑丈なサンドバッグこと高旗先輩ですが、広範囲ガードを貼らなくていい相手に対しては他のスキルを存分に活用した超クツソ頑丈なサンドバッグと化します。

これがどのくらい硬いかと言うと、クールタイムそこそこで次のスキルによる被ダメ無効化の『Sグレートシールド』、クールタイム短めの自己小回復『Sセルフヒール』でこのまま竜胆さんとのタイマンを時間切れまで粘れるレベル。硬スギイ!!

「ここからは全力で行かせてもらおうぞ……ッ!!」

試合開始からスキルを三回使用という明治産業の佳奈絵さん同様の条件を満たし、竜胆さんが専用必札スキル『ドラゴンブラッド・リンドヴルム』を発動してきますが、その直前のタイミングを見計らい竜胆さんにバクステから三発目のハイパーシユートを当てておきます。

「うううおおおおオオオオオオオオ”オ”オ”——ツツツ!!!!」

胸のヒロインギアが輝き、彼女を中心に巨大な光の柱が立ち上ると残った味方も光の玉に変わり吸い寄せられるようにその中へ。

ちなみにこ→こ←演出で時間止まってるんで攻撃出来ません。当たり前だよなあ? (隙を晒さない変身ボスの鑑)

「——ツツツガアアアアアアア!!!!」

一〜二秒ほどで光の柱が消えていくと、そこから現れたのは鋭い爪と牙、大角を持ち、翼を広げた体高10mはある二足歩行の巨大な真紅の竜。

ザ・王道って見た目のこのドラゴン変化が竜胆さんの専用必札です。つよそう (小並感)。

◇『ドラゴンブラッド・リンドヴルム』

竜胆武留専用必札。合体変身スキル。

味方全員のHP・SPを合わせ、他ステータスは本人を基礎に他メンバーの三分の一を加算。

怯み・状態異常・強制移動・クリティカル無効と強力な専用攻撃スキルを得る。

弱点はKOされれば当然まとめてKO扱いになると、変身時に他メンバーが近くにいないといけない事。そしてこの手の合体変身持ち全般に言えますが、先に頭数を減らしておくのが鉄板の攻略手順です。

これじゃいつもと変わりないわね！（戦の常道）

「どけエッツ!!」

巨竜と化した竜胆さんがその長大な尾を振るい、味方前衛から中衛までノックバツク付きの強烈な薙ぎ払いをしますが、ほも君はすでに後衛に退避したあと。

そして高旗先輩は強制移動無効の特徴《不動》と『Sグレートシールド』でこれを完全防御。カスが効かねえんだよ（天下無敵）。

この特徴があるから百獣学園戦でも、脳筋ヤンキー共の激しい突進を受けても吹っ飛ばされずに済みました。

まさに音咲の屋台骨、その粘り強さ誉れ高い（CNCN亭）。

◇『Sグレートシールド』4BP（OP込み） 条件：耐久10以上。

次の攻撃スキルによる被ダメージを一回無効化する自己バフ。

SIIスマートの略で、消費SPが軽減されるオプシヨン。

クールタイムは長いが発生はそこそそ早く、発動まで効果が持続する。

単発の必札攻撃に特に有効だが、逆に多段攻撃に対してはほぼ無力。

◇『Sセルフヒール』2BP（OP込み）
クールタイム短め・低燃費な自己小回復。

SIIスマートの略。少ないSP消費を更に少なくしている。

◇《不動》3BP 条件：耐久16以上、《やせ我慢》からランクアップ。

被ダメージ時の硬直を大きく減少し、強制移動を無効化する。

攻撃のノックバックをはじめ、トリッキーな強制移動系スキルも全て防げる。

とても強力だが、一部の多段攻撃をもろに受けてしまうデメリットも。

「ヌ”ウ”ウン!!! オオオツツ!!」

竜胆さんは竜化する前後とも近距離メインの物理アタッカーで、その攻撃力を増強する敵チームで最も筋力の高かった弓使いはすでに撃破済み。

不動持ちの高旗先輩は押し込めず、デカイ図体が邪魔して回り込む事も出来ないクツソ哀れな竜は音咲の陣形に成す術がありません。その羽は飾りか？（マジレス）

ご自慢の爪の連続攻撃で必死に超合金サンドバッグを叩く姿を眺めつつ、取り巻きのヒーラー分無駄に硬くなった魔防の上からほも君の通常攻撃で削り切ってやりましょう。

「ヴァ”オオオオオ”オ”ツツツ!!!」

チツ（舌打ち）、無駄な抵抗しやがって（頂点捕食者）。

チクチクされてヘイトがこつちに向いた竜胆さんから唯一の遠距離かつ範囲攻撃である炎のブレスが飛んできますが、これは予備動作を見てから前ステでかわせます。

そうなると尻尾の射程内に入るわけですが、ブレスが終わったら再び後退してしまえば無問題。炎の海と化した地面からスリッパダメージが入りますが、直撃貫うのに比べれば大した事はありません。許せ調辺……（巻き添え直撃&スリッパダメージ）。

「ガッツ、ア……ミ、みごとだ……ッ」

「私こそが音咲の旗手……決して倒れはしない」

◁調辺 指希（しらべ しき）の信頼度が上がった！

◁高旗 立（たかはた りつ）の信頼度が上がった！

というわけで、紅蓮竜リンドヴルム討伐達成。もとい、竜ヶ峰戦勝利です。

高旗先輩最大の見せ場と言えるでしょう、大括約の試合でした。

◁試合終了のブザーが鳴った直後、それをかき消すほどの割れるような大歓声が会場に響く。

◁S. H. I. N. E. 本戦団体部門。自分達が今その頂点に立ったのだ。

「やった……やったよ！ほんとに優勝したんだ、わたし達っ!!」

◁フィールドに立つ仲間の元へ、音咲のメンバーが全力で駆け寄ってくる。

◁指希先輩がこちらに飛びつくなり思い切り抱き締めてきて、少し息が苦しい。

二人ともブラ丸出しで抱き合うとか性に開放的過ぎるでしょ。深夜バラエティか？

若干焦げ臭そうですがスリッパダメージ君が良い仕事してますね……。

「おい調辺、あまりはしやぎすぎるな。ほもが苦しそうに、してるぞ」
「後ろから高旗先輩がたしなめてくれた。が、どうも声が震えてい
るような。」

「先輩、もしかして嬉し泣きしそうになってます？」

「馬鹿を言うなつ、これはつ、そんなものでは……………つ」

ゴリ……………！ (SKRG)

「声を出す内にどんどん感情が溢れてきたのか、高旗先輩はじつと
震えたまま立ち尽くしてしまった。」

「優勝、おめでとう。音咲の皆」

「センターラインを挟んだ向こう側で、見せ合いの時と同じく竜ヶ
峰のメンバーが並んでいた。」

「こちらと同じようで、だけど違う涙を流す部員達。」

「それを大人びた表情でなだめながら、竜胆さんが話し掛けてきた。
「試合前に言われた通りだったよ、調辺さん。」

「私達は去年の、君達の前の代の部長がいた音咲を純粋な実力で越え
ている自信があった。」

「だが、今ここにいる君達は、間違い無くそれをも上回る強者だった」
「竜胆さん……………」

「改めて言おう。見事な戦いぶりだった、君達の勝ちだ」

「……………はいっ！」

「選手整列——ッ！ 気を付け——礼ッ!!」

「「ありがとうございますごいしました!!!」」

「アヤツ→ス!!! (体育会系特有の万能言語)」

「歓声が鳴り止まぬ会場を後に、音咲の皆と選手達に用意された宿

舎へ戻っていく。

〈来週はS・H・I・N・E。本戦個人部門。〉

〈団体戦は終わったが、自分の戦いはまだ続いている——。〉

そうだよ（便乗）。これからがほんとうの地獄だ……（王子並感）。
言うて最低限強化する余裕がある分、薫子様戦ほどのキツさじゃないんですけどね。

ただこっちは対戦相手がランダムなので、場合によっては更にしんどい試合になるかもしれないのが難しい所（10敗）。

宿舍併設の練習場を背景に練習コマンドを選択しつつ、なるべくサクッとおやつ感覚で狩れる相手、そうでなくてもタアイムのために短期決着を狙える奴と当たるようしっかりお祈りしときましよう。

〈翌週。S・H・I・N・E。本戦の会場に、再び足を踏み入れた。〉

〈開会前の選手控室は団体戦の時より人が少なく、ピリピリした静かな緊張感に包まれている。〉

〈やがて開会式は問題なく終わり、観客席の声援を受け選手達の試合が始まった。〉

「音咲のみんなまで応援してるから。頑張つて、ほもちゃん！」

「場に呑まれそうになったら練習してきた事を思い出すんだ。身に着いた技術は、決して裏切らない」

先輩方からありがたいお言葉を頂けますが、ぶつちやけほも君は本番直前に都合良く急成長したり新技閃くタイプの人類ゆえ、そのアドバイスは当てはまりませぬ（バトル物主人公の風格）。

でも走者的にはまさにその通りなんでアリシヤス！（素直）

〈控室へ入る前、音咲の仲間達を代表して、指希先輩と高旗先輩から激励の言葉を受け取った。〉

〈そうしてしばらく待っていると、係の人に自分の名が呼ばれる。〉

〈行こう、試合の時間だ。〉

短い付き合いながら共に激戦を切り抜けてきた仲間の声に、静かに闘志を燃やしたほも君。

さあ、まず最初のお相手

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 9 S.H.I.N.E. 本戦個人一回戦
 決勝

I.N.E. 本戦(個人)優勝

目標:S.H.

難易度★★★☆☆☆

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 7月 8月 9月 1
 レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P. (4BP) (9BP)

休: 7 8 1 2 3 4 5 6
 8 8 9

二年目								
春合宿②								
選抜メ								

ンバー特訓

月: 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9

月 10月 11月 12月

なびきin

S・H・I・N・E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

百合に割って入るRTAパート9、はあじまあるよー！

前回はS・H・I・N・E。本戦の団体決勝でかわいそうなりゅうを退治し優勝したところまで。残る個人戦を今回は一気に駆け抜けていきますよーイクイク……。

さて最初のお相手は……ヌツ！ ZMC（ザックメカニカルコーポレーション）学園工業高校の一年生、本作のパッケージ中央を飾っている大ピンチヒロインこと大品 ちひろ（おおしな ちひろ）ちゃん！ 大品 ちひろちゃんじゃないか！！

ZMC学園工業高校は機械科学をヒロインバトルに取り入れたSF系の学校で、特撮の女隊員みたいなミニスカコスチュームが特徴的。ミニ四駆強そうな名前してんなお前な（爆走兄弟）。

余談ですが、団体戦で当たった明治産業とここは同地区で、更に部長同士が双子の姉妹となっております。こっちは姉の佳奈絵さんより大分はしゃいだ性格で、巨大ロボとかドリルミサイルとか出して来ますね。

話をちひろちゃんに戻しまして、彼女は部長でないにも関わらず専用スキルを二つも持ち、サイバーなバトルスーツに多段変身するSF系バトルヒロインの王道みたいな子です。

個人戦ではかなりの強キャラですが、まあほも君の敵ではありません。この試合でどちらが真の主役かはつきり思い知らせてやりましょう。

／ピーッピーッピッピッピッ パッパラパパーパーパ
／パパーパーパパーパーパーパッパッパッパパーパー
／ワァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァァ

ほも VS 大品ちひろ

????????
13 魔力 04
09 敏捷 08
02 精神 08
01 耐久 09
01 筋力 09
07 0 SP 06 0 HP 100
????????

「それではただ今より一回戦、音咲女子高等学校所属ほも選手とZM C学園工業高等学校所属大品選手の試合を行います。
試合……………始めっ!!」

oooooooooooo
オッスお願いしまーす！（開幕バクステ+Fスタンバレット）

「くう……っ！」

セオリー通り挨拶代わりにFスタンで怯ませつつ距離を取ります。彼女は近距離メインの物理アタッカー。素の敏捷はほも君が上な

ので安定して先手を取れますが、ここはあえて構えたまま待機しましょう。

どうした？ 変身しないのか？（^U^）

「負けない……！ エクストラ・フォームチェンジ!!」

◇『エクストラ・フォームチェンジ』

大品ちひろ専用スキル。

味方が自分一人の時のみ使用可能。

全ステータス上昇、更に直前に受けたダメージの属性に対し防御バフを得て、もう片方の属性に対し防御デバフを受ける特殊な自己強化スキル。

属性ダメージを受けていない状態の場合、属性防御バフ・デバフは付かない。

出ました、ちひろちゃんの専用スキル『エクストラ・フォームチェンジ』。

全ステータス上昇、直前の被ダメージにより対応属性の防御バフも得られる優れモノですが……。

一瞬デジタルな01模様の光帯に包まれ、物理耐性を示す赤いバトルスーツを身に纏い……かかったなアホが！（DIE）

「あツぐ!？」

変身直後の隙を突いて、逆に薄くなった魔防にハイパーシユートをぶち込んであげましょう。

Fスタンの属性不一致が役に立つ数少ない場面です。ホラもう一発殴られながら耐性張り替えてみるよホラ（テンポロス不可避）。

「まだやれる……!!　これが、わたしのとっておきツ!!」

二発目のハイパーシュートの直撃を《ド根性》で強引に耐えながら、ピンチに強い専用必札『リバーサルフォトンエッジ』で突っ込んできました。

◇『リバーサルフォトンエッジ』

大品ちひろ専用必札スキル。

防御無視・追尾機能付き、残りHPが少ないほど威力が上がる貫通突進攻撃。

追尾性能がエグい。

多少敏捷で上を取っている程度では避けられず、障害物も貫通してくるので対策必須。

使った後の隙はかなり大きいので、凌いだ後は良い的。

――

同じく残りHP減少で与ダメージが上昇する特徴《背水》の補正も乗った彼女の一撃は、そこまでどれだけリヨナられていようが全部ひっくり返すイカサマコンボの一つです。

だがこのほも君にラスト1Pの逆転は通じんツツ!!（二次ドリエンド否定派）

「きゃあああああツツ!!」

一瞬で距離を詰めたちひろちゃんのアームガードから出たエネルギー刃がほも君の胸に突き刺さりますが、こっちも《ド根性》で我慢。

意趣返しの高パーシュートで吹っ飛ばし、工事完了です……。

「うう……っ、負けちゃった……!」

スポーツブラとパンツのセットが健康的だあ（品評）。

こ→こ←ある程度距離開いてないと手前で止まらず轢き逃げされるので微注意。

あと油断して棒立ちしていると変身アイテム直撃からのクリティカルKOになるので、両方ちゃん覚えておきましょう（0敗）。

これでまずは一勝。

ちひろちゃんは対策取ればあっさり片付くうまあじな相手でした。次の試合もこの調子で行きたい所さんですが、はたして……。

◁一回戦を無事勝利し、続く二回戦、三回戦も流れに乗って勝ち進む事が出来た。

◁次で準決勝。個室の中継モニターで試合を眺めている内に、係の人に名前を呼ばれる。

◁静けさを増す選手控室の並んだ通路と反比例するように、観客席のボルテージの高まりを肌で感じながらフィールドへ入った。

「お前……大品ちひろに勝ったみたいね」

ちひろちゃんが何だよ？ お前の彼か？（大体合ってる）

つうか主人公（仮）のお次はライバルまで出てくるのか……（困惑）。

◁ヒロインギアをかざし変身コスチュームに身を包んだ対戦相手の少女。

◁フィールドへ入って向かい合うなり、鋭い目つきでこちらに話しかけてきた。

◁大品ちひろ……前に戦った相手だ。知り合いだろうか？

◁見れば胸元に収まったヒロインギアの形やコスチュームなど、どこか似ている気がする。

「私はあいつみたいに甘くない。このエクストラ・ギアの本当の力、見せてあげる」

彼女はZMC学園出身のランダム加入キャラ、真対 御影（まつい みかげ）ちゃん。

フアザコン承認欲求こじらせた家庭崩壊ガールで、なんやかんやあって自分と同じ特別な変身アイテムを持つちひろちゃんを敵視してる、絵に描いたようなライブルキャラです。

ちひろちゃん共々仲間になると特殊イベントで露骨に百合……もとい友情してるのもあざとい。まあこの辺は特定キャラの組み合わせで起こるイベント全体の傾向とも言えますけど。

今回はメイドさんだらけな名戸（めいど）女学館に所属してるらしく、ゴシック柄のミニスカ隊員服にカチューシャを身に着けてますね。

〽静かに研ぎ澄ました戦意を向けてくる彼女に、応じるように構えを取った。

〽大品さんとの間柄はいまいちよくわからないし少しだけ気になるが。

〽何であれ、勝負の場に余計な考えはいらない。

「そう。……………そうね。じゃあ、行くわ」

何だかまるで二人の因縁の対決を邪魔しちゃったみたいな展開ですが、人生なんてすれ違いが常って事で、ふくらむ前の百合の花をほも君のほも君で仲良く散らしてあげましょう（ゲス並感）。

／ピーッピーッピッピッピッ パッパラパパーパーパッパ
／パパーパーパッパパーパーパッパッパパーパーパーパー／

／ワアー ワアー／
／ワアー ワアー／

ほも VS 真対御影

???????
070SP060
??????HP090
???????

??????????????	1	3	魔力	0	5	?????	?	?
??????????	0	9	敏捷	1	3	?????	0	1
??????????????	0	2	精神	0	5	?????	0	7
							7	7
							????????????	????????????

「それではただ今より準決勝、音咲女子高等学校所属ほも選手と名戸
 女学館高等学校所属真対選手の試合を行います。

試合……………始めっ!!」

ビー—————

オツスお願いしまーす！（開幕横ステ+Fスタンバレット）アッー
 ♀（かすり被弾）

「止まれ！……………ぐッ」

まずは安定のFスタン。ただし御影ちゃんも本職スタンバレット
 使いの遠距離高速物理アツカーで、更にAIのエイム力が高いため
 今のほも君では若干回避が安定しません。

ここも一応避けるつもりでしたが相打ちになってしまいました。
 初撃のダメージはこつちが魔力型なので不利ですが、彼女も
 ちひろちゃん同様追加変身で弱点晒してくれるので問題ないです。
 オラッハイパーシユート喰らえッ！

「エクストラ・フォームチェンジ!! ……ッあああ!!」

◇『エクストラ・フォームチェンジ—オルタナティブ』
 真対御影専用スキル。

名前が長くなっただが、性能はちひろの物と全く同じ。

このたわけが（叱責）。ライバルの敗北から何も学んでねえじゃん
お前！

実際遠距離からスタンバレットで足止めしてから使ってるだけ
ちひろちゃんよりマシですが、悠長にバフを積むスタイル自体が遠距離
速攻に対して相性悪いですね。おおタスカル、タスカル。

「覚悟しろ……ッ」

しかし油断大敵。ここから御影ちゃんは回避重点ガン逃げムーブ
しながら通常スタンバレットをばら撒いて、運良く怯んだとみるや容
赦ない必札追撃をかましてきます。人間の屑がこの野郎……（憤怒）。
彼女もまた《ド根性》持ちなので、ギリギリになるまで積極的な攻
めに転じてくれません。防御面は並以下なのでさっきのハイパー
シユートでそこまで持っていけたら良かったんですが、惜しくも素で
耐えられてしまいました。

じゃけんこつちも気合入れて避け撃ちしましょうね（反復横跳
び）。

おう撃ってこい撃ってこい（無敵）。

動くと当たらないだろ!? 動くも当たらないだろお!!!?（四連外し）

シヤアツ!!（五度目の正直）

「チツ……い！これで、決める!!」

それはこつちの台詞じゃない！

御影ちゃんがちひろちゃん同様の射撃版専用必札『リベリオンシヤ
ドウシヨット』を撃ってきますが、ド根性の前にはやはり無力。

◇『リベリオンシャドウショット』

真対御影専用必札スキル。

防御無視・追尾機能付き、残りHPが少ないほど威力が上がる貫通射撃攻撃。

こちらでも使用後の硬直は大きいですが、射程の長い遠距離攻撃な点に注意。

手持ちの攻撃手段によっては反撃が間に合わない事も。

クリティカルだけ避けて、構わず通常攻撃で隙を狙い撃ちます。

「そんな……お父さん、ごめんなさ……ッ」

ペット雑魚ガキが紐パンなんぞ履いて色気づきやがって、今夜はパパに怒られる夢でも見てぐずってな！（瀨氏）

それにしてもほも君のコスチュームが脱衣芸人並みに破れやすすぎ。サービス精神旺盛か？

これにて準決勝も無事突破。タイムは……んまあ、そう、やや口スつすね。

ハイパーシユートのダメージ下振れに、その後のリカバリをちよつと外し過ぎました。

他の試合が軒並み短めに済んでるので差し引きまだまだ好ペースですが、全試合短期決着なんてほぼありえないし、マアコンナモノダロウ（殿下ボイス）。

そしてここまでの二戦で、個人戦において《ド根性》が人権レベルの超重要特徴なのがおわかりいただけただけでしょうか。

全国レベルの個人戦はああいう札意の高い一撃を持つ選手達で溢れてます。やだ怖い……やめてください……！（ワンパンKO）

一年目は敏捷特化ビルドでもない限りあれらの攻撃を安定してかわすのは困難なので、攻撃力も疎かに出来ないRTAとしては目には目を、ド根性にはド根性で対抗し、互角の条件にするのが丸いってわ

けですね。

薫子様や佳奈絵さんみたいな多段攻撃持ちにはあまり役に立ちませんが、一年目の彼女達はド根性ほか厄介な特徴も持っていないので、そこは割り切って対処しましょう。

〽周囲が完全に静まり返った控室で、椅子に深く腰掛け身体を休める。

〽ここまで激闘の連続だったが、緊張と興奮のせいか、思っていたほど疲れは感じていない。

〽他に観れる試合のなくなった観戦用モニターはもう消した。

〽今頃は解説や応援団のパフォーマンスで、最後の休憩中の場を持たせてくれているだろう。

〽ここまでの試合VTRの再放送でも流して盛り上げてんですかね？

スクリーンに映る肌色面積が昼間にお出ししている範囲超えてる……超えてない？（心配）

業界に下着メーカーのスポンサーとかいそう。

〽S・H・I・N・E 本戦、個人決勝戦。

〽全国でただ一人の頂点を決める勝負に、今自分は身を置いている。

「ほも選手、時間になりました。フィールドへ入場してください」

〽係の人に呼ばれ、熱狂の舞台へと足を踏み入れた。

「「キャーキャーキャーッッッ!!」」

〽対戦校の応援席から一際大きな歓声上がり、向こうから相手はやって来る。

〽聖オリーブエ女学院の三年生。名前は確か……

「蒲江 留美（かまえ るみ）よ。よろしく」

アヤツ→ス!!（体育会系特有の万能言語）

〈センターライン前まで歩いて手を差し出す彼女に、こちらも歩み寄り握手で応じた。

〈ほもです。よろしくお願いします。

「一年生でここまで来るなんて、とんでもない実力ね。」

中学であなたの名前を聞いた覚えはなかったはずだけど、その才能、一体今までどこに埋もれさせてたのかしら」

気になります？ 俺もソーナノ（経歴不詳）。

少なくともほも君KOして補導したらある程度はわかるかもしれませぬね（調書作成）。

「正直羨ましいわ。私が三年かけて辿り着いたこの舞台に、あなたはたった一年でやって来た。

……でも、勝てばそれも気にならなくなる」

〈ほんの少し握る力が強まったかと思うと、蒲江さんはすつと手を引いて離れていった。

「戦うわ。私は私の誇りを賭けて。あなたはどうか？ ルーキース」

「ほもちゃーん!! 頑張ってーッ!!」

〈ゆっくりと目を閉じ、開く。

〈観客席の一角、音咲の応援団や生徒達に混じって手を振る指希先輩や皆の姿が見えた。

〈盛大な音楽と歓声に包まれ何か言ってるのかわからないが、それで十分だった。

任せんしゃい！ 音咲に優勝トロフィー二つとも持ち帰ったる!!
(奮起)

「……………なるほど、手強い選手の顔つきね」

〈選手紹介の時間も終わり、こちらも元の立ち位置へと戻る。

◇ 決着をつけよう。

そんなわけで決勝のお相手は天使軍団こと聖オリビエ女学院の三年部長、蒲江 留美（かまえ るみ）さん。近く中距離の高速アタッカーです。三連有利マッチいいゾ（ご満悦）。

聖オリビエは名前の通りミッション系の学校で、コスチュームもシスター要素強め、そして何より彼女達は全員共通して天使の翼を模した《飛行》の特徴を持っています。

◇ 《飛行》OBP

試合開始から自動的に浮き上がり、そのまま移動と行動が可能。

ジャンプすると近距離攻撃はほぼ当たらず、相手の上から回り込みだり攻守とも地味に役立つ。

《飛行》は試合開始直後、自動的に地面から1mほど浮いた状態になる効果。

どっちかと言うと浮遊の方がイメージに近いですね。

プレイヤー的には近接系を中心に攻撃モーションが当てにくく、都度照準を上向きにしないといけないなど感覚を微妙に狂わされる厄介なヤツです。

他にも竜胆さんの炎のブレスで発生してた燃える地面などの地形効果も無効になったり何かと便利なんです、この特徴には大きな弱点があるんでまあ、見たってください（もったいぶり）。

／ピーパーーパーーパー パッパパラパーパーーパー パパ
／ワーパーーパーーパー パッパッパッパーパーーパー

／ワーパーーパー

ジャンプ速度と高さを大きく上げる。

《飛行》状態と合わせた最高高度は遠距離以外では完全に攻撃が届かない。

◇《滑空》3BP 条件：敏捷12以上。

ジャンプ中、高速横移動とその間の落下速度を任意で緩やかに出来るようになる。

《飛翔》《壁走り》等と組み合わせた立体的で緩急のある高速移動が非常に強力。

「もらったわ！」

この飛んで降りてのクツソエグい攻防一体ムーブが彼女の基本戦術ですが、当然開幕パターンは予習済みです。ここが良いんだろ？
(ノータイム照準ハイパーシユート)

「きゃあああツツ!!」

急降下付きの攻撃スキルを放つ寸前、ほも君のラストシユートイング体勢からのカウンターが綺麗に決まりました。特徴で短縮してない予備動作が差を分けたな！

「っあ、ぐッ！」

そしてこれが《飛行》というかバツタ戦法最大の弱点。「一定高度を取った状態で怯みもしくは大ダメージを受けると操作不能になり落下、追加ダメージを受ける」です。

蒲江さんは《精神力》で怯み対策は万全ですが、だからこそ当たっても痛くないFスタンをわざわざジャンプで避けたのはAIの悪手

と言えるでしょう。

重力のまま背後に落下し追加ダメージと合わせボロボロの蒲江さんに、悠々と二発目のハイパーシユートをぶち込んでやりましょう。

「…………ツ、やつ、と、ここまで…………のに」

俺の勝ち（ドヤ顔）。

ほな、いただきます（勝利の美酒）。

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

修行フェイズ〜一年目終了
Part 10 修行フェイズ移行〜指希先輩信頼L
v. 4

標：信頼レベル上げ
目

&育成

一年目

高旗先輩out奏in
秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月
レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E!!
▼9月
1

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

(4BP) (9BP)

休 BP : 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月： 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月
10月 11月 12月

なびき in ↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

B P : (33BP) (38BP)

(52BP)

休： 9 10 11 12 13 14
15 16 16 17

▼ || 現在地点

B P || 総獲得 B

P目安 休 || 総休養回数目安

テキスト送りが地味に苦痛RTAパート10、はあじまあるよー！
前回はS・H・I・N・E。本戦の個人戦を一気に駆け抜けたところまで。

んじゃ試合後のイベント進めて行きましょ。

◁ 決着が付き、割れんばかりの大歓声が会場に響いた。

「……負けたわ。完敗よ」

◁ よろけながら立ち上がった蒲江さんと、再び間近で向かい合う。

◁ 潔い言葉と裏腹に、ぐつと堪えるように細く歪んだ目元がその内心を窺わせていた。

◁ きつとこれまでも、この時、この場所で一人の選手がしてきた表情だった。

◁ ありがとうございます。またいつか、戦いましょう。

グッドゲーム
G G。よく頑張りましたね (煽り)。

「つ……ええ、私、卒業してもヒロインバトルを続けるわ。」

これで終わりにするつもりだったのに、自分の可能性、まだ諦めきれないの……っ」

〈握手をする。今度は固く、強く。〉

「あなたも……簡単にやめたりしないので頂戴ね」

〈ええ、もちろん。〉

「ハイ、みんな笑って笑って！ あっ、おい立ー！ また表情固くなってるぞー！」

「もう何度目だ……ここはバスの中だぞ。大体写真なら会場で撮っただろう」

「まあまあ、高旗先輩も楽しむときは目一杯楽しまなくちゃ。こんな機会滅多に無いんだし」

「限度があるだろう……あのときの感動が逆に引いてしまったぞ」

「あはは……それは確かに。」

……すいませーん！ これ最後でお願いしまーすー！」

「えー何だよー」「ノリ悪いぞレギュラーー！」「あたしらにも感動分けろーっ！」

〈S・H・I・N・E 本戦。激闘の渦を巻き起こした夏の全国大会はこうして幕を引いた。〉

〈宿舎へ戻ると待ち構えていた部の皆から凄い勢いでもみくちやにされ、胴上げまでされた。〉

そら（全国制覇したら）そうよ。

団体・個人両優勝とあっては、母校音咲の校長先生もさぞかし鼻が高いでしょう。

校長、その立役者、女に化けた変態なんすよ（大問題不可避）。

「えー、そんじゃS・H・I・N・E 本戦、団体・個人ともめでたく優勝を果たした我らが音咲を祝しまして………はい、チーズー！」

〈そうして皆でバスに乗り、学校へと戻りながらの自由解散。〉

〈まっすぐ家に帰ってベッドに倒れると、そのまま泥のように眠っ

た。

〓 チームメンバー全員の信頼度が上がった！

〓 監督の信頼度が上がった！

〓 B Pを6獲得した！

うーん青春。

これがリアルなら陰キャ帰宅部的にはモグラにとっての日光くらい縁遠い光景ですね。

まま、こつちも漫画とゲームで何度も青春してるんで（震え）。

対戦相手にも恵まれ、ここまでの区間記録は自己べの一つ下くらい。

そつちは後半グダってしまったので画面の前では今回こそはと若干や意気込んでます。

総合自己べ出したる！

それはそれとしてB Pですよっ！ B Pっっ！（ア●イマス）

流石に六連戦を勝ち抜いただけあって大漁だあ。（強化ビルド）仕込み甲斐があるぜえ？

次の公式戦までに練習分その他も合わせて使う時が楽しみです。

現在カレンダーは八月。

ここから冬に開かれる東西別大会W・H・I・T・E。（ホワイト）まで時間があるので、細かいイベントを流しつつほも君をみっちり鍛えている間、今後の育成方針についてお話し致しとうございませう。

とりあえずこちら、S・H・I・N・E。本戦時のほも君と、ちひろちゃんとの試合開始直前のステータス画面をご用意しました。ご覧ください。

ほも VS 大品ちひろ

?? 020HP100

?????????

??????????????	13	魔力	04	??????	07	SP	06	0
??????????	09	敏捷	08	??????	02	精神	08	????????
??????????	01	耐久	09	????????	01	筋力	09	??????
??????????	01	耐久	09	????????	01	筋力	09	??????

はい。目一杯鍛えた魔力と敏捷こそ渡り合える水準に届いてますが、他は酷いもんです。

イスカちゃんがマシに見えるレベルの紙装甲はまさにカミカゼ精神の体現者。

これでKOされたら人生終了ってマジ？ スリルジャンキーにも程があるでしょ（他人事）。

この通りステータスだけなら勝負になりませんが、実際ほんへで倒せたようにプレイング次第で割とどうにか出来ます。

今回のほも君で言えば、長距離射撃特化にする事でほぼ先手を取り、開幕から隙あらばスナイプKOを狙いつつ、更に一年目AIの盲点を突く《ド根性》によるゴリ押しと、苦戦はしても勝てる要素はきっちり揃ってました。

が、二年目からはそうもいきません。

敵のステータス上昇幅こそ大した事はありませんが、問題なのは汎用必札スキル解禁も含めたスキル・特徴の充実と、AIの強化です。

スキルは既存のものから一部強化版を使い始め、特徴は《ド根性》が個人戦の人権と化す勢いの大安売り。既に持つてる連中も他の強力な特徴へ手を伸ばします。

お前らどこからそのBP調達してきたって話ですが、ベリーハードゆえ致し方なし。

何より厄介なのはAIの強化で、敵が全員ちゃんとかっちのスキルや特徴を理解した動きに変わるんですよね。

例えば前回のちひろちゃんや御影ちゃんはピンチになってもほも

君が《ド根性》残してる内は絶対大技仕掛けてきませんし、蒲江さんとかもし三年生じゃなかったら結構な事故要因になりかねなかったでしょう。もう絶対戦いたくない（断言）。

あ、画面の方、指希先輩の信頼レベル上昇イベント入りましたね。

「あ、ほもちゃん。おーい！ こっちこっちー！」

＜連休前の昨夜、久々の休日はどう過ごすか考えていたところ指希先輩から電話が来た。

＜明日買物に付き合っただけで欲しいとの事で、こうして駅前ショップを歩いている。

「ごめんねーわざわざ。折角の休みに呼び出しちゃって」

＜いえ、特に予定も何も浮かんでなかったんで、むしろ丁度良かったです。

「そう？ まあこのところ部活忙しかったし、中々休みの計画立てるのも難しいよね」

＜そう言う先輩はしっかりと押さえている様子だった。

＜一昨日から妙にそわそわしてたので、おそらく今日は例の幼馴染の人に関する買い物だろう。

＜これまでアプローチを重ねてきて、そろそろ大きな動きでもあるのではないか。

まあたエスパイ発動してますね。

そんな簡単に人の思惑を察知出来るなら良い刑事になれそう（小並感）。

実際は犯人サイドなわけですが。良い犯人で何だよ（自問自答）。

「あはは、いやあ……お見通しだったか。流石ほもちゃん」

＜頬に手を当て、照れ笑いを浮かべる指希先輩。

＜例の人絡みの話題を切り出す時、決まって声が少し上擦るのですこぶる分かりやすかった。

「えー……実は、そろそろ彼の誕生日で……」

〈はい。〉

「その、いつもはご近所付き合いの延長でちよつとした物をお母さんと一緒に送ったりしてただけどね？　今年わたし一人で何かあげたいなー、って。」

でもそんな事するの初めてだし、好みは大体知ってるけど、どこまでなら引かれないかなとか考えてたら段々自信なくなってきたやつて……」

〈はい。〉

「あーまた適当に返事してる!!　今度は騙されないよ！」

わたしだってほちゃん結構そういう所あるのわかってきてるんだから！」

〈怒られた。〉

〈一応付き合わされている身なのに、何だろこの理不尽な気持ちは。〉

〈確かに半分聞き流していたけれど。〉

「そういう時のほもちゃんって、いかにもちゃんと聞いてますよって動きするんだよねえ。」

ふふっ、わたしも伊達にみんなの部長やってるわけじゃないんだぞー」

あんた達ほんとに仲良いわね（呆れ）。

じゃれるのはいいから、ちやつちやつと話進めてくれよなー頼むよー（せつかち）。

〈勝ち誇られた。〉

〈今度からは気を付けよう。さっさと本題の買い物を買わせてしまいたい気分だった。〉

〈その後、指希先輩の意見を参考にショッピングモールを巡り、

〈二人でしばし悩みながら、プレゼントは最終的に一步踏み出したつも無難な感じに収まった。〉

〈今は同じ建物内の軽食屋でコーヒー片手に休憩している。

「うーん、本当にこれで良かったかな……？　ちよつと重たく感じない……？」

〈いや……これでそんな事言ったら一生異性として意識されないんじゃないですかね……。

〈最初は商品券で済ませる気だったと聞いて正直あまりの及び腰に驚かされた。

〈好みを知っているとは何だったのか。

「だつ、だつて！　もし面倒がられたらどうしようって思つて……」

相手の前に出た時に度胸足りねえんだよ、相手ぶつ倒すくらいでI

KEA（名言）。

気持ち出さなきや伝わんないダルルオ!?

〈買い物中も何度も聞いた発言だった。

〈少なくとも、意中の相手がいない男子ならよほどでない限り大丈夫だとは思うが。

「……………うん」

〈忙しなく変化していた指希先輩の顔色が、今日一番の曇り模様を見せた。

〈まさかの心当たり有りである。

〈そういう情報は買い物選びの前に教えて欲しかったが、まずは話を聞くのが先決だろう。

「えつとね……彼と話してる時に、時々話題に出てくる子がいるんだけど……」

〈曰く、一つ年下の女子で、二年になってから同じ委員として働くようになった。

〈口が達者で生意気だがどこか放っておけない雰囲気で、つい構つてるうちに親しくなり。

〈最近ではたまに一緒に遊ぶ事もあって、妹が出来たみたいで少し嬉しい、と。

嘘つけ絶対恋愛対象として見てるゾ。

ゲームだからあれだけど、リアル思春期男子だったらその流れで相手を意識しないはずがないんだよなあ……（童貞並感）。

∨……それは怪しいですね。

「だよねえ〜」

∨カップを両手で掴み深い溜息を吐く指希先輩。

∨少なくとも女の子の方は脈ありに思えるが、肝心の幼馴染さんはどうなのだろう。

「うーん、多分まだ大丈夫……だと思っう。」

彼、ほもちゃんと違って隠し事が下手っていうか、本音が顔と仕草に凄く出るタイプだから。

……えへへ、まあ、そこがいい所なんだけど」

チツ（舌打ち）、あーつまんね（投げやり）。

∨こちらは健気にも心配しているというのに、唐突に惚気だした上に名指しでデイスられた。

∨何だろう、案外余裕そうだしもう帰っていいという事だろうか。

「わー待ってごめん！ ごめんて！ 別にはもちゃんデイスったわけじゃないから!!」

頼りにしてるからお願い帰らないでー!!」

∨馬鹿らしくなってきたが必死で袖を掴まれたので、仕方なく浮かせかけた腰を落とす。

∨先代の部長とやらもこんな調子だったとすれば、当時の部員達の苦労が偲ばれた。

「ほ、ほらこれ見て！ この間二人で遊びに行つた時の写真なんだって！

もうそんな仲まで進んじやってるんだよ！ ……………はあ、やだな……」

◁スマホを操作し、画面を見せてくるなり再び落ち込む指希先輩は置いておいて、

◁写真には実直そうな背の高い少年と、野良猫のような雰囲気の背の低い少女が映っていた。

◁大きな公園を背景に、美術の課題だろうか、クロッキー帳などスケッチ用具を手にしている。

「……………」

んにやぴ……（画面見えないんで）よくわかんなかったです。

◁スマホから視線を外すと、少年の爽やかな笑顔とは対照的な先輩のどんよりした目と合った。

◁再び見返す。二人の距離や少女の懐ききつてない表情から、さほど進展はなさそうだが……

◁再び視線を外す。

◁指希先輩、窓の外、あの下のレストラン店のパラソル近く……

「えっ？……………」

◁思わず、といった風に先輩の口から小さな声が漏れた。

◁お互いこの辺りの学生だからこそ、まあ、こういう事もあるだろう。

◁視線の向こう、写真より少しだけ近づいた、笑顔の二人。

◁今日一番の曇り模様が更新されてしまった。

◁きつと用事が終わる所だったのだろう。幸いにしてあちらはすぐに解散していった。

◁残されたのはこちらの二人と、お通夜のような空気だけである。

「……………」

南く無く（ポク ポク ポク）。

◁ここまで良くも悪くも騒がしかった指希先輩は、まるで言葉を忘

れたかのように無言のまま。

∠色の無い表情で、さつきと同じ場所をただ見つめ続けるばかり。

∠掴まれたままの袖には少しも力が入っていないなかつたが、振りほどきにくさは段違いだ。

「……………そつか……………」

∠不意にその手が離れ、先輩が穏やかにも見える小さな笑みを一つ浮かべた。

?……………帰りましょうか。

∠?両手で先輩の顔をぎゅぎゅつと挟む。

あつ、おい待てい (江戸っ子)。

ホラホラホラホラ (ほっぺこね回し先輩)

「んむうっ!!? むお、ちょ、ちよつと……………! えつ、何するのほもちゃんっ!!?」

∠経験上彼女の性格を良く知る後輩として、今の表情は見過ごせなかつた。

∠あれは、個人戦で負けを認めるときにいつもしている顔だ。

「ま、負けて、別にそんな……………んうむむあつ!! むお、わかつた、わかつたから!!」

……………痛いってば!!!」

(ハート) 痛いのは分かってんだよオイ! オラアアアアア!! (激怒) YO! (愛の鞭)

∠腑抜けた先輩に気合を入れてやっていると、ヤケクソ気味に手を振り払われた。

∠キツとした目つきで、普段の余裕があつて気の利く優しい部長らしからぬ顔をしている。

∠そうです。それでいいんです。

「!? なつ、なにが……………!!?」

〈団体戦のときの先輩は強い自信に満ちていて、決して勝負を途中で諦めたりなんてしません。

〈たとえば負けても、絶対このままでは済まさないという顔をしている。

〈笑顔なのに目が笑っておらず、正直おつかないと後輩達の中にもっぱらの評判だ。

「え、ええっ!? それ、ほんと……?」

〈本当である。

〈たとえば練習や模擬戦であれ、口ではどう言おうが団体戦の指希先輩は大の負けず嫌いだ。

〈彼女とチームになって負けた気の弱い部員が、怯えて相談に来た事もある。

薫子様や竜胆さんとのやり取りに片鱗が見えますねえ!

竜ヶ峰入学して敵に回った音咲をぶちのめした際は、下着姿で内心めちやめちや悔しがってるの見て興奮しました(ゲス顔)。

〈だから本気で勝ちたいときの指希先輩は、それでいいんです。

「……………ほもちゃん」

〈チームメンバーと協力し合うのは団体戦の基本中の基本。

〈一人で先走るのはもつとも避けるべき悪手と、誰かに教わった気がします。

「もう……………いじわる」

〈頬を膨らませた指希先輩が、やり返すように両手で顔を挟んできました。

「先輩に対して生意気だぞ、このこのっ」

やめろお! (建前) ナイスウ! (快気祝い)

〈まあ、やふえまふは。

「っっっっっっっっっっっっめんっめんっ。

……………うん、おかげさまで。わたし、まだやれるみたい」
　　＜明るく笑う先輩の目には、さつきまでとは違う強い意志の力が感じられる。

　　＜しつかりとスイッチが入ったようで何よりだ。

「つていうか、そもそもまだ負けてないからっ。

あれぐらいのデートわたしだってついこの間やってたしイーブン！

何ならわたしの方が腕とか組んでるし優勢ですー!!」

　　＜それはつまり、そこまでやって今のところ特に意識されてないという事なのでは。

　　＜ある意味イーブンと言えるが…………。

「ちよつとー!?　そこはちゃんと応援してよ、わたし達チームなんでしょー!」

　　＜もちろん応援している。

　　＜指希先輩と幼馴染さんの二人には、部の安寧のためにもぜひ上手く行って欲しい。

　　＜彼女の健気な後輩として、偽りない確かな願いだった。

　　＜＜調辺　指希（しらべ　しき）の信頼レベルが4に上昇した！
LEVEL UP

てなわけで指希先輩の信頼レベル4上昇イベでした。

遅い遅い遅い（ボタン連打）。パイセン可愛いけど話長いつスよ！

未読テキストのスキップ機能が無いのはこのゲームをRTAする上での難点でしょうか。

今時珍しいと思いますが、まあ逆に実況解説を挟みやすかったり半休憩タイムにもなるので良し悪しといったところ。

さて、話を戻しましてほも君の今後の育

「ほも、この後もうちよつとだけ練習付き合いなさいよ」

　　＜放課後の練習終わり、イスカが声を

マタンカイ！（バー●ニングファイト）

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 11 イスカ信頼Lv. 4

標：信頼レベル上げ

目

&育成

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 ▼1

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

BP： (4BP) (9BP)

休： 7 8 1 2 3 4 5 6

1	2	3	4	5	6	7	8	9

二年目 春合宿② 選抜メ

ンバー特訓

月 10月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

なびきin ↑ S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP)

(38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

「ほも、この後もうちよつとだけ練習付き合いなさいよ」

＜放課後の練習終わり、イスカが声をかけてきた。

＜とりあえず一旦休憩を挟むべきだと、スポーツドリンクを二つ持って来て片方を投げ渡す。

修行するぞ！ 修行するぞ！ 徹底的に修行するぞ!! なRTA

パート11、もう始まつてる！（ホモガキ）

前回は指希先輩の信頼レベル4の上昇イベントが発生、加熱したテキスト量はとうとう危険な領域へと突入したところまで。

やっと済んだと思ったら今度はイスカちゃんの信頼レベル4。やめろお！ナイスウ！（休憩）

「サンキュ」

＜タオルで顔を拭いている状態のまま、見向きもせずになくペツトボトルを掴み取った。

＜彼女との特訓を始めてからすで見慣れた光景である。

＜自分もペットボトルの蓋を開ける。お互い汗だったが、気力と体力はまだまだ残っていた。

「いつでも良いわ。掛かって来なさい」

〈直径1m半の円の中心に入って、目を閉じ脱力した構えを取るイ
ス力。〉

〈そこから更に2m膨らんだ円の外から、手に持った訓練用の小さい
ボールを投げつける。〉

〈靴底に防音カバーを重ねた上でなるべく静かに移動し、前後左右
から緩急をつけて。〉

〈しかし一向に当たらない。〉

「……………」

〈本人曰く、周囲の細かな音まで敏感に聞き取っているらしい。〉

〈始めたばかりの頃、軽快なヒップホップを大音量で流しながらぶ
つけたら凄い悔しがられた。〉

ダイナモ感覚！ダイナモ感覚！YO！YO！YO！YEAH！（妨
害）

みんな踊れー！！（ボール全力連投）

〈今は音楽に合わせてリズムを取るほど余裕がある。〉

「……………」

〈曰く、空気の流れだけでなくそこに混じった人や物の匂いも嗅ぎ
取っているらしい。〉

〈彼女の周りに臭い干物を吊るしながらぶつけたら、悔しがりつつ
食べ物で遊ぶなど怒られた。〉

〈今は代わりに香水を撒いた布がはためいてるが、全く動じない。〉

「……………」

〈曰く、彼女の父兄は一人で一度に無数の飛び道具を投げ、瞬く間
に標的を仕留めるらしい。〉

〈流星にそのままは到底真似られないので、当たっても痛くない代
わりに小細工をする。〉

「っ、っ、の……………」

〈力加減を調節して高く放り投げたいくつものボールが、ほぼ同じ
タイミングで降ってくる。〉

「この特訓を始めてから無駄に鍛えられた両利きとコントロールの賜物だ。」

「は……ツクー！」

「ボールはキャッチしても良い。ただし弾いたり攻撃してはならない。」

「狭い円の中で、回避が間に合わなくなったイスカがとうとうキャッチでの防御を使い始めた。」

「それでも彼女の手は二つしかなく、時間差で降り注ぐボールの数には足りてない。」

「詰めに入って、間を置かず本気の直球に切り替える。」

「——隙あり。」

「あッ!? ああッ!ーまたやられたッ!!! ……あたっ!!?」

「上と前の二方向で攻められ、両手が塞がり完全に体勢を崩したイスカがついに被弾する。」

「倒れた先で最後に降ってきたボールが、駄目押しとばかりに頭を叩いた。」

「ていうか、何であんたまでどんどん上達してんのよ……」

「夕方、二人で駅前のファミレスに入り食事を兼ねた反省会を開く。」

「激しい運動の後とあってお互い食が進む中、一息ついたイスカが恨めしそうに言った。」

「こんな特訓に毎度付き合わされればこうもなる。」

「全部避け切った彼女の得意気な煽り顔がやる気向上に繋がったのは、まあ否定できない。」

「今なら将来は曲芸師として路上でやっていける自信がある。」

「今日び玉投げ芸だけで食ってくとか難しいと思うんですけど、どうなんですかね。」

「ガワが美少女ならモテない男に媚びてりゃそこそこいけるか(問題発言)。」

「ふっ……困ったときは、案外そんな生活も悪くないかもね」

＜片手でストローの紙袋を弄び、折り紙のように器用に形を整えながら呟いた。

＜実家暮らしだけでなく、家業を手伝う事自体も気乗りはしない様子である。

「それにしてもヒロインバトルって便利ね、変身してるだけで動きのキレが上がるんだから。」

おまけに多少無茶しようが怪我もしないし、修行時代にも使いたかったわー。

……いや、無駄ね。絶対それ以上にキツくなるだけだったわ」

＜鳥の形に出来上がった紙袋を軽く指で弾くと、鳥は放物線を描き伝票入れの中に収まった。

＜皮肉な笑みを浮かべ、イスカがそのままデザートの注文をするためテーブルのボタンを押す。

＜そう言えば、実力の方は追いついてきたのか。

「最初は強くなる以前に勘を取り戻す段階だったけど、まあおかげ様で順調よ。」

ヒロインバトル抜きにしても、トレーニング理論とかうちってやっぱり時代遅れ……

あ、すいませーん、オレンジムースパフェーっお願いします」

＜どうやらそれなりに勝算は付いている様子。

＜その顔は過去を語る時よりも前向きだ。

「つつても、一対一でこっちが変身する前提の話だけどね。」

どうせその辺口出ししないだろうし、今お礼参りに行っても良い線行くんじゃない?」

ほんとお? (疑い)

「ま、わざわざあんなどこ帰る気なんか無いけど」

＜ソファにもたれながら笑うイスカ。

＜実家の父兄に負けないくらい強くなるというのは、あくまで本人

の気構えの問題らしい。

＜彼女に倣い自分もデザートを注文し、二人とも満足したところで店を出る。

「……もう準備は済んだって事でいいのか？」

＜突然、すぐ背後から男性の平坦な声が聞こえた。

「ツツギやあああああ?!?!」

＜イスカが年頃の乙女にあるまじき絶叫を上げた結果、何かと周囲の視線が集まる。

＜が、振り向くと声の主の姿は無い。

＜適当に頭を下げつつ人払いすると、しばらくしてラフな私服の男性が一人近づいてきた。

「あまり街中で目立つのはよくない」

「だっ誰のせいよ！ 誰のツ!! このクソ兄貴！」

＜なんと、この人がイスカの兄。

＜声だけでなく、背丈も顔立ちも平凡で、目立たない朴訥な印象の青年だった。

＜人込みに紛れたらすぐに見失いそうな姿は、そう言われるとそれほど忍者っぽい気がする。

＜初めまして、イスカの友達のはもです。

「あー……初めまして、どうも。イスカの兄です。妹がお世話になってます」

「ちよつとバカ！ やめてよ恥ずかしい!!」

「今はイスカって名乗ってるのか」

「言うな〜!!!」

痛いですね……これは痛い……（厨ニツクネーム家族バレ）。

＜顔を真っ赤にしてお兄さんを両手で押し退けようとするイスカ。

＜しかし本気で踏ん張ってるにも関わらず、向こうは軽く足を開いた姿勢からびくともしない。

「今はこの辺りで仕事があつて、ついでに父から様子を見てくるように言われて来た……。」

それで、もう戦う準備は出来ているんだな……?」

「……………」

◁両手を上からそつと押さえられ、イスカの身体が固まる。

◁お兄さんの様子に変わったところは無い。が、彼女にとってはそうではないようだ。

「負けたら連れて帰れとか、別にそういう事は言われてない……。」

逆に嫌だつたら戦わなくても良いと言っていた」

◁変わらない平坦な声に、一瞬、イスカの瞳が怒りに揺れた。

? 黙つて成り行きを見守る。

◁? すいません、もう少し待つてもらえませんか。

ちよ、すいません! すいません! ちよつと止めてもらつていい

すか? (必死)

お兄さん許して! イスカちゃんの自信こわれるく! (懇願)

「……………」

「……………」

◁一方的に爆発しそうだった空気に待ったをかけた。

◁イスカは呆気にとられた顔。お兄さんはこちらを向き、無言で続きを促している。

◁あの、兄妹ならおわかりだとは思いますが彼女、結構見栄っ張りな所があるので……。」

◁目標までには正直もうしばらく掛かると思います。すいません……。」

「な」

「……………」それは、そうかもしれない……確かに……」

「なー!?!」

◁今日の所は一旦お引き取り頂き、後日改めてこちらから連絡……というの駄目でしょうか。

〈もし予定が合わないようでしたら仕方ありませんが……。
「いや……ここにはまだしばらく滞在するから問題ない。

……イスカ、スマホ持ってるか？」

「そりや、こつち来てすぐ持ったけど……あ、こら！ やめろっ！」

黙りや！ おめえに拒否権はぬえ！（スマホ強奪）

〈これです、どうぞお兄さん。

〈イスカのカバンからスマホを拝借して連絡先を交換してもらおう。

〈また暴発しないうちにさっさと話を進めよう。

「ありがとう……じゃあ、準備が出来たらここに連絡してくれ」

〈いえ、お忙しい所わざわざすみませんでした。

〈お互いぺこりと軽く一礼してから、お兄さんは普通に歩き去って
行った。

〈何とか上手くこの場をやり過ごせたようだ。

「……ちよつと、当事者差し置いてなに勝手に仕切ってくれてんのよ
！」

〈イスカって、忍者のくせに我慢とか苦手だよね。

「うっ……?! あ、呆れた顔でこつち見んな！」

〈怒りのやり場を失った忍者娘が威嚇してくるが、仕方がない。

〈あのまま流れで兄妹喧嘩でも始めていれば、どう考えても負ける
のはこちらの方だ。

〈普段練習してるわけでもない至近距離の組み合わせでは到底勝負に
ならないだろう。

〈そもそも変身すらしてないんだから、明らかな準備不足でしょ。

「ぐぬぬ……」

何がぐぬぬだ。反省しろ反省（頭ぺしぺし）。

相手はオヌシの格上。カラテで劣り、ジツも頼れぬ状況で挑み掛
かって何になる、エエ!?

◁その変身も飛び道具もこんな街中では使えない。バレたら停学も
ののご法度だ。

◁つまりあの場ではあつという間にお兄さんに制圧されてお終いで
ある。

「…………ふんっ！ 頭を冷やしてくれてどーもありがとう！

……………悪かったわよ、もう……………」

◁どうやら冷静さを取り戻してくれたらしい。

◁元々挑発には弱い性格だが、お兄さん達への苦手意識や反抗心も
働いているのだろう。

◁向こうもまあ言ってくれたんだし、ここは忍者らしく、ヒロイン
バトルらしく戦おう。

◁この勝負を通じて、少しぐらいは問題を改善してやりたいところ
だ。

◁イスカの信頼レベルが4に上昇した！

LEVEL UP

LEVEL UP

マチカネタゾ！（バーニングフア●イト）

というわけで、イスカちゃんのそこそこ長い信頼レベル4上昇イベ
ントでした。

選択肢カーソルを動かさないといけない時は、ボタン連打ミスにく
れぐれも気を付けましょう。

イベント強制終了で達成時ボーナスが貰えなくなってしまう
(4敗)。

話を戻しましてはも君の育成方針についてですが、射撃を軸とした
スタイルはそのままに、ここから更に攻撃方面を尖らせていきます。

前回話した通り、二年目からは敵もステータス成長や《ド根性》を
筆頭とした特徴で硬くなる上に攻撃もクツソ苛烈になるので、半端に
守りに入るよりアタッカーとして育て上げるのがRTA的に最善で
しょう。タイマンなら負けへん！

当然団体戦で集中狙いされたらサクッと落ちますが、策はあるので
ご安心（激ウマギャグ）。

遅くとも二年目の夏には確実に間に合うのでその時までお楽しみに。

「最近調子を上げてきているな、ほも」

〈高旗先輩。ありがとうございます。〉

「だがしっかり休みは取るんだぞ。上手く行ってる時は無理をしてても気付きにくい」

〈高旗 立（たかはた りつ）の信頼度が上がった！

おっと、『筋力トレーニング』にいた高旗先輩から信頼度イベント引けましたね。いいゾ。

三年の彼女は冬の大会終了と同時に部を辞めてしまうので、その前に信頼レベルを3まで上げて新入部員への引継ぎをスムーズにしときましょう。

画面ではさつきからちよくちよく部員の多いタイミングを狙って筋力トレに励んでいます。これは一定値以上の筋力を取得条件に含んだとあるスキルのため。

キャラ作成で苦手ステを耐久にしてほも君がクツソ紙装甲になった原因です。

強ビルド組もうとしたら、こんな具合に極振りステをさせてもらえないのがこのゲームのジレンマですね。お前中々……やるじゃねえか（バランス調整）。

なお敵は取得条件を度々無視する模様。何でだよっ!!!（H×H）。そんなこんなで練習に励んでると、次の固定イベントがやって来ました。

「はい、全員集合、整列——！」

〈部活終わり、指希先輩が声を上げて部員達を監督の前に呼び集める。〉

〈何だろうか。〉

「集まったな……よく聞け。」

先方との打ち合わせに少々手間取ったが予定通り、十二月に開催されるW・H・I・T・Eに備えて来週からの連休、音咲は他二校と合同で強化合宿を行う事となった」

これは十一月にある全校共通の練習試合合宿イベントですね。

他の学校との練習試合が計二回行われる貴重なBP獲得の機会です。

「えー!?」「来週つてもうすぐじゃないっすか!」「あたし遊ぶ約束しちゃったのにー!!」

「こらそこ三人っ、静かにー!」

〜にわかになぞわつき出した何人かを指希先輩が窘めた。

〜以前聞いたときは決行未定との事だったので、自分の予定を入れなくなるのも無理はない。

〜シルバークが潰れて落胆する部員をよそに、監督が続ける。「全国レベルの学校と練習試合で腕を磨く絶好の機会だ。」

当然だがここでの活躍はW・H・I・T・Eでのレギュラー選抜にあたり参考にするので、大いに奮起し励むように。

とはいえ、急な話になってしまったのは確かだ。

中にはすでに別の大事な予定が入っている者もいるかもしれない。そこで今回の合宿は任意参加として、この場で各員の出欠確認を取らせてもらう」

〜監督の言葉に、再び静かなざわめきが広がった。

〜そんな風に言われては用事があっても中々休みますとは言いつらいのでは……。

〜まあ、部活に打ち込むという事はそういうものなのかもしれない。

いやーきついつす(素)。

部員の練習もまともに見れない奴が一丁前に駆け引き使ってるじゃねえぞ(私怨)。

＜ 欠席者は拳手という事で、渋々と、あるいは気まずそうに手を上げる部員が数名。

＜ 自分は……

？参加する

＜ ？欠席する

「む……ほもは欠席するのか」

＜ はい。すみませんが今回は見送らせてもらいます。

「……………いや、構わん。横に移動してくれ。

他に誰かいるか？ いないようであれば残った全員で合宿に参加するぞ。

保護者の同意や都合が変わった場合のため明日もう一度確認を取るのでよろしく頼む。

……………では解散！」

＜ 話が終わり、後片付けと帰宅準備に散り散りとなる部員達。

＜ やや後ろめたい気持ちだが、気にせず家に帰り、その後たつぷりと連休を満喫した。

＜ 体力が最大まで回復した！

＜ 監督の信頼度がとても大きく下がった。

合宿なんてくだらねーよな！ 家でピザでも食いながら積んでた

アニメー気観しようぜ!!

ビール！ ビール！（未成年飲酒）

実際ほも君が何してるかはさておき、合宿イベントはキャンセルだ。

通常プレイなら他地区から一つ選んで、有利な相手に練習試合勝利と合宿参加分の計3BPも貰えるうまあじイベントですが、RTAなのでカットします。

試合時間自体はともかく、前後の演出やテキスト飛ばしだけで数分ロスはデカイ。

これ以外にも時折ランダムイベントで単発の練習試合が組み込まれてましたが、同様の理由で飛ばしています。

必要な分はS・H・I・N・E。優勝で稼いでるので、他の試合稼
ぎなどフヨウラ！

そもそも一年目のS・H・I・N・E。からして本来必須ではな
いですが、本チャート上どうしてもここで優勝する必要があったので
戦った次第。

世界獲るならどうせどつかで最低限は稼がないといけないし、多少
はね？

それにしてもあの場面、今の信頼レベル的に、多分何かしらデート
でも企ててたのに部長として参加せざるをえなかったであろう指希
先輩の反応が気になりますね。

(信じた後輩に抜け駆け駆けズル休みされて) どんな気持ちや……？

まあ、あんな恋愛クソザコピンクはほつといてトレーニングを続け
ましょう。

イベントで体力回復した分おお捗る捗

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 12 高旗先輩信頼LV. 3 高旗先輩離脱・奏加入

標：信頼レベル上げ

目

&育成

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月	11月▼	12月	1月	2月	7月	8月	9月	1
	レギュラー選抜戦↑		S.H.I.N.E!!					

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P : (4BP) (9BP)

休	7	8	1	2	3	4	5	6
:	0	8	8	9				

二年目								
春合宿②								
選抜メ								

ンバー特訓

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9
---	----	----	----	----	----	----	---

月 10月 11月 12月

なびき in ↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

二年目に向けイベントラッシュが続くRTAパート12、はあじまあるよー!

前回は監督から急遽言い渡された他校との合同合宿参加を蹴って家でゴロ寝した所まで。

やっぱり自宅で過ごす……連休を……最高やな!! (インドア派)

引き続きしばらくは君の試合はありませんが、冬はイベント的に見所さんがいっぱいなので、みんなよう見といてや?

と、まずは予定通り高旗先輩の信頼レベル上昇イベが来ましたね。

◀夕方。練習が終わり、部員達がめいめい散っていく。

◀今日は一段と厳しい内容だったからか、自主練に残っている人数は少ない。

◀自分はどうするか考えていると、高旗先輩が近くにやって来た。「ほも。さっきの模擬戦の動き、悪くなかったが改善点がいくつある。」

疲れてると思うが、これからもう少し時間を取れないか?」

◀高旗先輩……

?すみません、今日の所は……

〽？わかりました。よろしく申し上げます。

オツスお願いしまーす！（素直）

「ああ、きつと後悔はさせない」

〽確かに今日試した立ち回りは自分でもまだ違和感があった。それを直せるなら願ってもない。

〽頭を下げると、高旗先輩は頼もしく頷き返してくれた。

〽キュツ、キュツ。

〽フィールドの床面にステップを刻む。状況に合わせて、緩急をつけた動き。

「そうだ。相手の速さを正確に見極めて、それにタイミングを合わせる。

ただ不規則に動くのでは自分のテンポを崩すだけだ」

〽言いながら、高旗先輩がこちらの意表を突くように間合いを詰め、素早い連携を繰り出す。

〽すでに何度か見せてもらった動きだ。今度はちゃんと対応してみせる。

〽キュキュ……キュツ！

「……よし、掴めたようだな。

何となく動いていた部分が減ってかなり良くなったぞ」

〽武器を収め、訓練の終わりを告げられる。

〽どうやら無事合格点を貰えたらしい。

〽言われた通り動きのキレは良くなったが、思った以上に集中力を使い頭がくらくらした。

「そこは仕方ない。

他の多くの対人スポーツと同じで、ヒロインバトルは集中力と体力、ペースの奪い合いが肝だ。

この立ち回りで主導権を握った先までをしっかり考えておくと良い。

もちろん、新しいやり方に慣れる方が先だがな」

▽一方の高旗先輩は、汗をかいているもののまだまだ余裕そうだが、流石である。

▽教えるのに慣れているのか、彼女の説明はいつも丁寧でわかりやすい。

▽見た目の怖さで後輩に避けられがちな点を考えて、失礼ながらそこは少し意外だった。

「ふ……そういう事を正面から率直に言ってくるのは、私にとってのお前の美点だな」

ほもは大胆、はっきりわかんだね。

礼儀正しく先輩を立てつつ意見もはっきり言う。ムカつく後輩だあ（ひねくれ並感）。

「……二つ下に妹が一人いてな。」

私に似ずとても小柄な女子らしい見た目の元気で素直な子なんだが、昔から遊びや日課のトレーニングなど、何でも私の真似をしたがって親と一緒によく心配させられた」

▽目を細め、懐かしむように語り出す高旗先輩。

▽曰く、普段の練習でするようなメニューに必死で付いて来ようとするらしい。

▽成長期で三歳も離れてる上に素の体格差も大きいとなると、それは確かに無謀だ。

「そう、元気で素直な子なんだが……まあ、なんだ。」

当時の年齢を加味してもあまり物覚えは良くない方で、不器用で、そそっかしかった」

▽何だか、元気いっぱい過ぎる小型犬みたいな妹さんだ。

▽つまりこの教え上手は、危なっかしい妹さんにしっかり理解させるため身に付いたのだろう。

小学校の通信簿の「落ち着きのない子」枠ですねこれは……（担任

の負担大)。

「ああ。おかげで今では後輩に気になる所があるとい世話を焼きたくなる……もつとも、こちらは私の見た目が原因で無駄に怖がらせてしまっている次第だが」

〈腕を組み、少しだけバツが悪そうに俯く高旗先輩。〉

〈まあ、表情は常に険しいし喋り方も怒ってるかのようなトーンの低さだから仕方がない。〉

〈しつかり向き合って接すれば皆すぐに慣れると思うが、中々上手く行かないものだ。〉

「そういう意味では去年は調辺が真っ先に食いついて、こうしてよく教えていたな。」

あいつはあいつで良い性格をしている」

〈確かに、指希先輩なら持ち前の対人能力であつという間に打ち解けてそうだ。〉

「……そう言えば、調辺には前もって伝えているが、一応ほにも頼んでおきたい事がある」

〈二人で後片付けをしていると、高旗先輩が改まってそう言い置いた。〉

〈頼み事とは珍しい、何だろうか。〉

「さつき話した私の妹だが、実は来年うちを第一志望で受験するらしい。」

学力的にはやや厳しいと思っているが、家では毎日頭に煙が出る勢いで勉強していた」

〈なんと、妹さんも音咲へ入学する予定の様子。〉

〈しかし学力的にはやや厳しい……〉

〈……あの、音咲って別に勉強難しい学校じゃないっていうか、むしろ……〉

「言うな。わかっている」

〈視線を合わせないまま一段と重い口調で遮られてしまった。〉

〈そう、我が音咲女子高等学校は学力面では基本緩い。〉

◁音楽系とヒロインバトルの名門として鳴らしてはいるが、入学だけならそこそこ簡単だ。

◁周辺校の中でも下位を争う偏差値に苦戦するレベルとなると、これは中々……。

えっ、そんなん関係ないでしょ（素）。

学校の勉強なんか社会出たら必要ねえんだよ!!（バカ並感）

「ん」っんん!! ……話を戻そう。

妹は入学したら、絶対にヒロインバトル部に入ると言っていた。

もしそうなったとき、無茶な真似をしでかさないうちを見てやって欲しいんだ」

◁心配と恥ずかしさが少し混じった声で、高旗先輩がそう続けた。

◁わかりました。もちろん、引き受けさせてもらいます。

◁何のことはない、今掛けてもらっている手間を妹さんに返してやるだけの話だ。

◁日頃からお世話になっている先輩の頼みとあらば、快諾は当然である。

「そうか……すまん。よろしく頼む。

くれぐれも、一人のところを目を離さないようにしてくれ」

◁念入りをお願いされた。十五歳になってこの心配のされよう……。

◁ほんのりと不安がよぎったが、単に高旗先輩が過保護なだけだと思いたい。

◁高旗先輩と約束を交わした。

◁高旗 立（たかはた りつ）の信頼レベルが3に上昇した！

◁高旗 立（たかはた りつ）と練習時、追加でステータスが上昇するようになった！

◁高旗 立（たかはた りつ）とチーム時、互いのステータスが上昇するようになった！

◁高旗 立（たかはた りつ）が《ライフアップ+》《ド根性》を

取得した！

LEVEL UP

というわけで、苦勞人保護者姉貴先輩の信頼レベル3上昇イベントでした。

ちゃんと見といてやるから大丈夫だって安心しろよ（ベテラン調教師）。

◇《ライフアップ+》3BP 条件：《ライフアップ》からランクアップ。

最大HPが35%上昇する。

元の《ライフアップ》の上昇値20%から更に15%アップした。高耐久の盾役が持つとかなりしぶとくなる。

ついでに高旗先輩が特徴を取得しました。

《ライフアップ+》は最大HP上昇の効果、《ド根性》はもはやお馴染みですね。

序盤に取れたら夏の団体本戦が多少楽だったんですが……。

味方キャラは信頼レベル5になった時点で、キャラ毎に設定された特徴やスキルを取得するというのは以前にお伝えした通り。

ただ、通常一年目のS・H・I・N・E。までにそこまで上げるのは現実的ではないので、三年生達は見せ場を持たせるために取得タイミングを早めにくらしている仕様です。

取得スキルの都合で実質敵専用のキャラとか萎えるからね。しょうがないね。

そしてその後すぐ、高旗先輩が出場する最後の機会である冬の全国大会W・H・I・T・E。がやって参りました。

以降三年生キャラは引退し信頼度を上げる事は出来ません。通常プレイでも気を付けましょう。

「皆、集まれ。」

先日の合宿での練習試合と普段の練習から考慮した、W・H・I・T・Eの出場メンバーを発表する。

まずは団体戦から……

……

「……………」

なんか足んねえよなあ？（全国優勝校エース）

「次に個人戦だが……」

……………以上のメンバーで出場する！」

＜団体戦、個人戦の両方とも、自分の名前は呼ばれなかった。

＜それでも部の一員である事に変わりはない。大会では精一杯仲間を応援しよう。

ここで音咲監督、ほも君をスタメンから完全に外すまさかの采配。

合宿一回休んだだけで言うかちゃんと許可出した癖に、ちよつと横暴ですね……（半ギレ）。

しかしゲーム的にはそれも当然。なんと先の合宿参加拒否、選んだ時点で監督の信頼度が初期値に戻される仕様なのです（屑）。信頼つて何だよ。

リアルだったらこっちが人間不信になりそうなんです。それが……。

まあRTA的には大変好都合。チャート通りの展開です。

任意参加の合宿と違い公式戦出場は信頼度による半強制なので、すでに一定の信頼を得たほも君ではそのままだと一回戦で降参するまでにロスが出るところ、この仕様を活かしてやれば出場自体まるっとカット出来て一石二鳥って寸法よ！

これについては実際に制作サイドがRTAを想定している可能性が高いですね

ありがてえありがてえ。でも監督（こいつ）には絶対感謝せんからな。

〈そして大会本番……〉

〈音咲女子高校は団体戦は準決勝で負け四位、個人戦は二回戦敗退という結果に終わった。〉

〈惜しくも入賞を逃したが、次こそは自分もレギュラーに入って勝ち上がっていききたい。〉

〈翌日。〉

〈部活の時間になりグラウンドに集まると、高旗先輩を始め三年生達が正面から整列しだした。〉

〈場が整ったのを確認して、三年生達の前に立った監督が話し始める。〉

「聞け。まずは皆、昨日のW・H・I・T・E.ではよく頑張ってくれた。

上位入賞こそ出来なかったが、お前達の戦いぶりはしっかりと見届けさせてもらった。

そしてこの大会の終了をもって、三年生一同は部を引退する事になる」

〈一年生を中心に、部員達に静かなざわめきが広がる。〉
〈しかし三年生達は身じろぎもせず立ったままだ。〉

「高旗。三年生代表として最後に何かメッセージを頼む」
「はい。」

〈監督に名前を呼ばれ、高旗先輩が列から一歩前に踏み出た。〉
「この音咲で団体戦を始めるようになって、私はヒロインバトルの奥深さという物を実感出来た。

知つての通り私は他人を遠ざけやすい人間だが、ここのレギュラー連中はどいつも肝の据わった奴らで、その遠慮の無さには度々呆れさせられたが、それ以上に救われた。

一人ではない、背中を預けられる仲間達。冗談を言い合える友人が

出来た。

言葉にすると陳腐だが、私にとって、掛け替えのない大切なものだ。

……そして、S・H・I・N・E 団体戦優勝。

今年の夏に皆で成し遂げたこの大きな成果は、きつと私の生涯の誇りだ」

∨胸を張って、小さく、穏やかな笑みを浮かべる高旗先輩。

∨感じ入った隣の三年生がすすり泣き、それが列の他の三年生達にも伝播していく。

「ありがとう。悔いの無い三年間だった」

「「ありがとうございました!!!」」

アヤツ→ス!! (体育会系特有の万能言語)

∨三年生達の別れの挨拶に、在部生も一同礼を返した。

∨部活の引退、そして卒業。これから彼女達の新しい人生が始まるのだろう。

「なお来年度の部長についてだが、こちらは引き続き調辺にやってみよう。良いな?」

「……はいっ」

ここ←部長キャラの信頼レベルと監督の信頼度が一定以上ではも君が部長になる選択肢が出ますが、今は監督の信頼がヒエツヒエの氷点下なんでキャンセルだ。

おう指希先輩(苦役続行) 冷えてつか〜?

部長になると2BP貰えるんで通常プレイなら基本就任一択ですが、イベント時の追加テキストがそこそこあるのがRTA的にちと微妙。

他のBP獲得手段に比べ時間効率自体は悪くないんで、取るかどうかはチャート次第でしょう。

∨指希先輩の号令の下、いつも通りの練習が始まる。

〈三年生達は部を去っていったが、自分達の高校ヒロインバトルはまだ終わっていない。

〈いずれその時が来るまで、ただ前に進み続けるだけだ。

〈高旗 立（たかはた りつ）が離脱した。

以上、冬大会のW・H・I・T・E. と三年生引退の様子でした。

しかし連続イベントはまだ終わりません。片手フリーの貴重な休憩時間なので、今のうちにラムネでも齧って集中力をキープしときましょう。

（ブドウ糖）キメてるんだろ？ くれよ……。

〈更に翌日。

〈昨日の引退式を思い出しながら、放課後になったのでいつも通り部活へ向かう事にする。

〈と、席を立ったところで一人のクラスメイトが進路を塞ぐように移動してきた。

「……………の……………」

〈放課後は教室で友達と話したりする生徒も珍しくない。

〈なるべく邪魔にならないようにその女子の横を通らせてもらった。

「……………あ、の……………部……………」

先生ー、●●さんの声が小さくて全然聞こえませーんwww（国語授業）

〈……………？

〈ゆつくり横を通り抜けたつもりが、なぜか女子の方もこちらと同じ方向へ歩き離れない。

〈さっきのは誰かに借り物を返しにでも来たんだろうか。

「え、あつ、あのっ……………待って……………わたっ、わたし……………まっ……………」

聞こえませーんwwww

〽おそらくそのまま彼女も部活へ行くのだろう、二人並んで教室を出てズンズン歩く。

〽今は早くヒロインバトル部の皆に会いたい気分だった。「待って!!!」

うるせえ（理不尽）。パチ屋の店内じゃねえんだぞオオン!?

〽突然耳元で大声を出されて、反射的にビクリと身体が跳ねる。

〽声のした方へ振り向くと、さっきの女子が足を止めてこちらを見つめていた。

「あ！ あのっっ！ ほもさん……っ!!」

私、管崎 奏（かんざき かなで）……です!」

〽自己紹介された。クラスメイトだし名前は一応覚えているが。

〽何事かと廊下で注目を集める中、管崎さんは緊張した様子で声を上げる。

「そのっ……ヒロインバトル部に入部、したいんだけど……っ」

〽なんと、入部の申し出である。

〽さつきから近くにいたのは偶然ではなく、この話をするためだったらしい。

〽そうと知らず無視してしまうとは、申し訳ない事をしてしまった。

「ううん、私のはつきり声を出さないから……」

〽片手を胸の前で握る管崎さん。

〽しかし、確か彼女は吹奏楽部の部員だったはずだが。

〽今も背負っている立派な楽器ケースが、その証拠である。

「それは……ちよつと、合わなくて……」

〽気まずそうに言いよどむ姿で何となく察し、この話題は流す事にした。

〽とりあえず重要なのは、管崎さんが今ヒロインバトル部に入りたという事実だけだ。

〈わかった。それじゃ一緒にうちの部に行こう。

「なるほどね、ほもちゃんのクラスメイトかー」

〈練習前のグラウンドで、監督と指希先輩の前に連れて来た管崎さんを引き合わせる。

〈とは言っても、時間ギリギリだったため他の部員達もすでに全員揃っていたが。

「私は構わん。三年生が抜けた上、今年の定員には元々余裕があるからな。

音楽系に比べれば、何だかんだ言っとうちなど小規模なものだ」

黙れや猿ウー！（辛辣）

お前の意見は聞いてねエーンだよこのスカタンがツ！！

「あはは……合唱でも吹奏楽でも、こっちよりずっと人いますからねえ。

まあそれはそうと、管崎さんはヒロインバトルの経験ある？」

「う、いえ、テレビで見てるルールを知ってるぐらいで……」

〈部員達の物珍し気な視線を浴びてたじろぎつつ、何とか受け答えする管崎さん。

〈どうやらほとんど初心者らしい。

「心配しないでっ、みんなと一緒に練習すれば色んな事もすぐに覚えられるから！

ヒロインギアの予備はあるから実践的なメニューもすぐに参加できるけど、どうする？

今日の所は基礎練と見学だけでもいいと思うけど……」

「ん……それは」

〈少しうつむき考える仕草の後、チラ、とこちらを見た気がした。

〈やってみよう、管崎さん。

おいやつちまおうぜ？ やつちやいましょうよ！（鼓舞）

「……………うん。調辺部長、私、やってみたいです」

いいゾ（歓迎）。

「そっかそっか。よし、それじゃ頑張ってみよう！」

ほもちゃんはクラスメイトなんだし、今日は部の先輩としてしっかりと見てあげてね」

＜声を上げて返事する。言われずともそのつもりである。

＜それからいつも通り基礎練習から始まり、次第に変身しての本格的な練習に入った。

＜未経験の管崎さんに動きの基本などを教え、本人の覚えも良くほとんどはすぐに身に付いた。

＜その日は最後に団体での軽い模擬戦が行われたのだが……

ビーーーーーッ

「そこまで！ 勝者、Cチーム！」

「ぐええ……」「つ、つよ……ありがとうございました」

「はあ、はっ……あ、りがとう、ございました……っ」

＜ペこりと、相手チームに向かって礼をする。

＜教育係という事で管崎さん他一名と組んで戦ったのだが、彼女は団体戦に非常に向いていた。

＜状況に合わせて味方がして欲しい支援を的確に行う。とても初心者に出来る動きではない。

「ゼー……ふふっ……ほもさん。

私、こんなっ、激しく動き回るの、はじめて……」

＜こちらに振り返った管崎さんが、息も絶え絶えに話しかけてくる。

＜変身しての慣れない運動に普段使わない筋肉を酷使したせいで、膝が細かく震えていた。

〈しかし汗まみれの晴れやかな笑顔からは、後悔した様子はまるで見られない。

「凄く疲れたけど、すごく、楽しかった……！」

（全力運動）キモティカ？ キモティダロ（若さの特権）

いい年してから急に本気出したら貧血で救急車呼ばれっから気を付けろよ！（1敗）

〈そのまま力尽きたようにその場で大の字に倒れ込んだ。

〈周りの部員達が、気持ちが悪く言わんばかりにうんうん優しく頷いている。

「ねえねえほもちゃん、ひよつとして凄い拾い物しちゃったんじやない……？」

〈後ろから寄って来た指希先輩が口を手で隠しひそひそ声で話しかけてくる。

〈管崎さんの元いた部には悪いが、全くもって同感だった。

〈管崎 奏（かんぎき かなで）が加入した。

てなわけで、高旗先輩と入れ替わりで音咲のレズ枠こと奏ちゃんが入部しました。

彼女はほも君と同じ学年ですが、その加入タイミングから二年目に入る新一年生とほぼ同じ扱いなため、信頼度引継ぎ対象となってます。おお、お徳お徳。

高旗先輩（三年生）引退時に引継ぎボーナスが貰えるのは信頼レベル3以上のとき。

そして引継げる信頼度はレベル3分までで固定。

だから、ぴったり3にする必要があったん

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 13 奏信頼Lv. 2・3 〓正月初詣

標：信頼レベル上げ

目

&育成

| | | | | | | | | |

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 ▼ 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

レギュラー選抜戦 ↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン ♡

BP : (4BP) (9BP)

休： 7 8 1 8 2 3 4 5 6

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月 10月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

なびきin

↑ S.H.I.N.E.

!!
プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP)

(38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

— — — — —

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

ほもとレズの馴れ初めRTAパート13、はあじまあるよー！
前回は三年生引退で高旗先輩離脱からの奏ちちゃん加入したところ
まで。

奏ちちゃんは信頼度引き継ぎ対象の一人なので、ここからまた信頼レ
ベル上昇イベントが二回ほど挟まります。

すいませくん、木下ですけどお、(イベントラッシュ)まあくだ時間
かかりそうですかね？

〜キーンコーン。

〜今日も何事もなくHRが終わり、放課後になった。部活の時間だ。
「あ、ほもさん」

〜荷物を持っていざ教室を出ようとした所で、同じく席を立った管
崎さんと目が合った。

「えつと……部室まで一緒に……」

〜何やらもじもじしている。まだ新顔なので一人で行くのは勇気が
いるのかもしれない。

ほも君の前でだけ露骨に頬染めてて気があるのバレバレなんだよ
なあ…… (プレイヤー視点)。

これ知らんぷりして平然と接するって、結構胆力いりますよ……？

〈行こう、管崎さん。〉

「! うん、うん」

〈いつも通り、二人でヒロインバトル部の部室を目指し歩いて行った。〉

「♪♪」

〈管崎さんが手に持ったトランペットを吹くと、音符の形をしたエネルギーが飛んでいく。〉

〈ヒロインバトルの武器には個人差があるが楽器を演奏するタイプは珍しい。〉

〈本人の手によく馴染んでいるからか、普通なら戦いづらそうな動きはとても自然だ。〉

「♪……ふい!?!」

〈ただし、演奏に熱中しだすと他が疎かになるのはちよつとした難点だが。〉

〈良い音色を出すのに気を取られ、横合いから飛んできた攻撃が管崎さんに直撃した。〉

「あそこのフレーズは、最後まで通したかつた……っ」

〈フィールドを出て悔しそうに語る管崎さん。〉

〈気持ちはわかる。音の区切りが悪いと何やら椅子取りゲームのようで落ち着かない。〉

〈慣れれば避けながら演奏も出来るようになるよ。頑張ろう。〉

「うん。絶対やってみせる……!!」

〈彼女の目がやる気に燃えている。やはり演奏には強いこだわりがあるみたいだ。〉

〈ヒロインバトルに対しても、そのうち同じ気持ちを感じるようになってくれれば嬉しい。〉

〈管崎 奏（かんざき かなで）の信頼レベルが2に上昇した！

〈昼休み。〉

〈多くの生徒達と気持ちを同じく空腹を収めようとした所、管崎さんに声を掛けられた。〉

「ほもさん。お昼ご飯、一緒に食べてもいい……？」

〈どうしようか。〉

〈？もちろん。〉

？今日は一人で食べたい気分で……

あ、いいつすよ（快諾）。

「よかった……待ってて、そっちに行くから」

「そういうえば……ほもさんは、何でヒロインバトル部に入ったの？」

〈教室で管崎さんとお弁当を食べていると、唐突にそんな事を聞かれた。〉

〈ヒロインバトルを始めた理由……考えた事も無かった。〉

〈別に元々やってたわけでもなく、説明会で気になったから何となく入ったとしか言えない。〉

とぼけちゃってえ……（虚偽看破）。

ヒロインバトルはともかく、変身アイテムの扱いについては大ベテランなんだよなあ……。

常に変身状態維持してるとかセル●ゲーム前の孫親子か何か？

「な、なんとなく……他に好きなスポーツとか、趣味もあつたんじや……？」

〈一応他の趣味もあるにはあるが、部活にするという選択肢は無かった。〉

〈そのときやってみたいと思った事に手を出しただけである。〉

〈今ではヒロインバトルを大いに楽しんでいるし、それで良いのではないだろうか。〉

「……そっか……確かに、そうかも」

〈紙パックのストローに一口つけ、難しい表情で頷かれる。

〈納得してもらえたようで何よりだ。

〈逆に、管崎さんはどうしてヒロインバトル部に？

「……うあえっ？ そ、それは………ああっお茶っ！」

〈神妙な雰囲気から一転、しどろもどろになる管崎さん。

〈持ち手に力が入ってしまった紙パックから、ストローを通して中身が少し飛び出した。

〈とりあえず鞆からポケットティッシュを取り出して渡す。

「あ、ありがとう……」

〈何か言いづらい理由でも？

「あ、いやっ、そういうわけじゃ……ない………はずっ！」

とぼけちゃってえ……（虚偽看破）

おら、素直になれよなれよ。

〈お茶を拭き取ったティッシュを捨てて帰ってくるも、どう見ても言いづらそうである。

〈無理に聞くつもりはないが……

「まって、まって。ちゃんと言う、から……！」

……

………えっと、きっかけは、ほもさんを見てて」

〈どういうことだろう。

「私、よく声が小さいって怒られたり、言いたい事を中々口に出せなくて……。

でもほもさんは言葉は少ないけどしっかり自分の意志を伝えてて、すごく羨ましいなって。

………前に吹奏楽部をやったとき、音楽室の窓から校庭で練習するヒロインバトル部が見える日があって………そこで見つけたほもさんは、やっぱりいつも通りだった。

最初は全然ルールも知らなそうだったのに、堂々としてて、楽し

そっで。

「……………私も、そんな風になりたいなって思ったから」

〈胸に手を当てて、若干頬を赤らめながらも心中を明かしてくれた。

〈まさか自分が理由でクラスメイトが同じ部に入ってきたとは。

〈そう言われると何だか照れるけど、どういたしまして……………」

「うう……………やっぱりこういうのってちよつと、すごく、恥ずかしい……………」

〈緊張で喉が渴いたのか、紙パックの中身をストローで一気に飲み干す管崎さん。

〈何やらこちらまで気持ち contagion しようになつてしまふ……………教室に人が少なくて助かつた。

〈緩い気恥ずかしい空気の中で、ぽつぽつと会話しながら残りのお弁当を食べていった。

何やってんだあいつら……………（一般クラスメイト並感）。

同級生二人が急に雰囲気作り出したら普通に聞き耳立てると思うんだけど、お前どう？

「……………あの、ほもさん。折角だからもう一つ言いたい事が……………」

〈食べ終わり、二人して手を合わせていたところで管崎さんが口を開く。

〈思わず少しだけ身構える。もしや今日はこのまま褒め殺しにされる流れだろうか。

「いや、その、違くてっ。」

……………んっん……………私の事、名前で呼んで欲しい……………」

〈軽い咳払いの後、控えめな声量で、けれどはつきりと耳に届いた。

〈なるほど、確かにいい機会かもしれない。お安い御用である。

〈わかつた。奏さん、これから改めてよろしく。

「うん。……………よろしく、ほもさん。ヒロインバトル部、一緒に頑張ろう」

〈真つすぐ視線を合わせた奏さんが小さくはにかんだ。

〓 奏さんと約束を交わした。

〓 管崎 奏（かんざき かなで）の信頼レベルが3に上昇した！

〓 管崎 奏（かんざき かなで）と練習時、追加でステータスが上昇するようになった！

〓 管崎 奏（かんざき かなで）とチーム時、互いのステータスが上昇するようになった！

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

お前もしかして、あいつのことが好きなのか？（青春）

てなわけで奏ちゃんの信頼レベル2〜3まででした。

とりま練習に戻りつつ、キャラ解説を致しとうございます。

この手の主人公に対し恋愛寄りの矢印向けてくるキャラは全校通して結構いて、音咲では彼女がそれに当たりますね。

男の人は男の人同士で、女の子は女の子同士で恋愛すべきだと思うの（同性愛過激派）。

じゃけんメスはお呼びじゃないです（一刀両断）。

普段女体化していようがほも君の性別はほも君なので、言うまでもなく女の恋人などフヨウラ！

ちんぽ生やして出直してこい！！

えー、そんな奏ちゃんのキャラ性能ですが、味方に当たると回復やバフ、敵に当たるとダメージやデバフの二面効果を持った音符を複数ばら撒く魔力型の中距離万能タイプです。

音符スキルは出始めが速いですが一定距離でふんわり停止する性質を持っており、設置技のような時間差を利用した運用が可能。

これを最も有効に扱えるのが味方の回復で、実質彼女は遅延回復のスペシャリストです。

その辺に回復音符適当に置いてるだけでチームがクツソ硬くなるよ！

ポジションによって役割を変える器用さはあるものの、敵味方共通で基本的に後衛でヒーラーしてるのが一番強いでしょう。

なおバフの数だけ威力が上がるといふ音咲のスタイルに合った広範囲専用必札も持ってますが、ほも君とは特に相性良くないので残念ながら試合ではほぼベンチです。

やっぱメスは駄目だな！（競技人口全否定）

「ほもさん、お疲れ様。これ、飲み物もらってきた……」

おまたせ！ アイスティーしかなかったんだけど良いかな？（幻聴）

〈ありがとうございます、奏さん。〉

「ふふ……どういたしまして」

〈管崎 奏（かんぎぎき かなで）の信頼度が上がった！〉

奏ちゃんは魔力得意なのでほも君の育成面では大いに貢献してくれます。

本命じゃないけどキープする分には良い女だあ（クズ並感）。

画面の方では十二月も終わり、正月イベントに入ります。

通常なら体力全快か1BP獲得か選ぶだけの内容ですが、本チャートでは最重要の必須イベントになるので見とけよ見とけよ。

〈年を越した元旦。カーテンから漏れる日差しにぼんやりしたまま目を覚ました。〉

〈時計を見ると、針はいつもの朝練前の起床時間とほぼ同じ所を指しているのがわかる。〉

〈ヒロインバトル部に入って、早起きがすっかり習慣付いてしまったらしい。〉

〈？せつかくだし、初詣にでも行こうか……〉

？せつかくだし、たっぷり寝て過ごそう……

起床ー！ 起きろ朝だぞー！

早く起きねえと罰与えるぞ（人生リセット）。

＜布団の中でしばらくどうするか考えていたが、今年は何となく初詣に行く事にする。

＜身支度を整え、肌を刺すような冷たく澄んだ空気を感じつつ家を出た。

「あ……ほもさん」

＜近所にある大きな神社に足を運ぶと、入口で偶然にも奏さんと遠巻きに目が合った。

＜家族連れのように、ご両親らしき人と一言二言話してからこちらへ小走りでやってくる。

＜あけましておめでとう、奏さん。

「うん、あけましておめでとう。……参拝、一緒に付いて行ってもいい？」

あ、いいですよ（快諾）。

＜白い息を吐きながら、少し嬉しそうな顔で聞いてくる。

＜もちろん構わないけれども、残された家族はそれで良いのだろうか。

＜遠くのご両親を見ると揃って会釈されたのでこちらも応じた。どうやら大丈夫らしい。

「おっと、そこにいるのは……ほもちゃんに奏ちゃん！」

偶然だねー、二人ともあけましておめでとう」

「あ、調辺部長……あけましておめでとうございます」

＜二人で雑談しながら参拝者の列に並んでいると、今度は列の外を指希先輩が通りかかった。

＜鮮やかな振袖と揃いの小物に、目立たないもののメイクも相当な気合が入っている。

〈先輩、今日の格好よく似合ってますよ。……これからですか？
頑張ってください。

「ふふっ……まあね。今日は何とかその言葉を引き出したいなーつて。

ありがとほもちゃん、おかげでちよつと自信出たよ。それじゃまた学校でね！」

こっちは狩りの準備が着々と進んでますね。いいゾ（ヒロイン
レース鑑賞）。

〈口元に手を添え、部活では見せない色気のある笑みを浮かべる。

〈そのままおそらく待ち合わせ場所へ向かい離れていく先輩に、こ
ちらも手を振り見送った。

「……………私も着物で来ればよかったかも……………」

〈隣では何故か奏さんが落ち込んだ空気を出していた。

〈あれは一種の勝負服だから準備も大変だと思うが、奏さんも何か
獲物がいるのだろうか。

（獲物は）お前じやい!!

「ふえ!? え、獲物って……や、そんな大それた事するつもりじゃ
……………」

〈ならば今は機を窺う方が良いかもしれない。

〈指希先輩の行動から、仕掛け過ぎてもかえって効果が薄いという
データがある。

「そ、そうなの……………」

〈ただ、曖昧な姿勢も良くないかもしれない。

〈指希先輩はそれで何度も自分から無駄に機会を逃してきたという
実績がある。

舌の根も乾かぬ内に指希先輩に対する辛辣評価出てくるの草。

やっぱ溜まつてるんすねえ（介護ストレス）。

「え、ええ……ど、え……結局どっち……？」

「わからない。ただいずれにせよ難解な問題という事だけは確かだろう。」

「ええ……？」

「禅問答めいたやり取りに、列を進みながら奏さんが困惑する。」

「きつと自分自身で体験しないと本当の答えはわからないのだから、仕方がない。」

「そうとも言えるし、そうでもないとも言える。」

「どう見えるかだ（無敵の返し）。」

「……あ、順番来たみたい……」

「そうこうしているうちに拝殿に到着したので、二人並んで礼に則って願い事をする。」

「ヒロインバトル部での活動が、上手く行きますように……。」

「一っだけ願ってから、次の人へ順番を譲った。」

「願い事、叶うと良いね」

「やや遅れてやって来た奏さんが微笑む。」

「毎年参拝しているわけでもないのに、ご利益に頼るのは何だか虫が良い気もするが。」

「こうして部の仲間達に出会えると、ほんの少し期待してしまうのであった。」

「ごめんなさい、私ちよっとお手洗いに……」

「それから二人で神社の出店で食べ物を買ったり、世間話をしながら時間を過ごしている中。」

「座席を立った奏さんの分も留守を預かっていると、突然神社の助勤の男性が近づいてきた。」

「そこのお前……間違いない、ほもだな」

何だこのおっさん!?(驚愕)

ホモの間にもマナーありって知らねえのか? 警察に通報しちゃうからなお前!(正当防衛)

〽こちらの顔、次に身体全体とまじまじ視線を巡らせてから名前を言い当てられる。

〽不気味だ。話を聞かれていたのだろうか。

「言い直そう。去年のS・H・I・N・Eで個人優勝した一年のほも、だな。」

俺はこういう者だ」

〽正面に立ち塞がった怪しい男から名刺を手渡された。

〽『日本プロヒロインバトル協会ヘッドコーチ兼トレーナー：河内育夫(こうち いくお)』

〽何やら長い肩書だが、要するにヒロインバトルのプロの指導者……らしい。

〽今度はこちらが向こうを上から下まで見返した。

〽あの……そうは見えないんですけど。さっき甘酒売ってませんでした?」

「待て、誤解するな。これはただの手伝いだ。」

バイトで副業しているわけでもないし、本業はそちらをしつかりこなしている。本当だ」

〽そう言われても、今着てる白装束姿はどう見ても神社の助勤の人である。

〽念のため名刺を束で見せてもらったが、どうも信用出来ないというか、胡散臭さが凄い。

「そんな事はどうでもいいッ! 今は時間がない、用件だけを済ませるぞ。」

ほも、今より更に強くなる気はあるか?」

〽はあ……まあ、あります。

〽目の前の不審者のせいとか何やら周囲がざわついているが、本人は

気にしていない様子。

「ならば一週間後、ここへ来い！ 決して後悔はさせん、俺がお前の望みを叶えてやる」

＜ぎゅつと、両手に両手を重ねるように握られた。

＜ただならぬ熱意を宿した視線が至近距離でこちらを捉えている。

やべえよやべえよ……（児童買春罪ないし淫行条例違反）。

ライダー助けて!!

「くおら!!! この馬鹿たれ、なあにお客さんに色目使つとるか!!!」

「いっつっくくっつお!! ご、ご夫人……っ」

「ごめんねえお嬢ちゃん、うちの身内が迷惑を……ほれ!! さつさとこつち来いッ!!」

「っだああ痛い痛いですご夫人、まって、まってホント……あがああ!!」

＜とうとう背後から現れた年配の女性助勤に後頭部を殴られ、奥へと連れ去られて行った。

＜やり取りの内容から言って、ごく当然の結果だと思う。

「お待たせ、ほもさん。

………? 向こうが騒がしいけど、何かあった……?」

＜さあ。春だけじゃなくて、正月にも変な人達が出やすいのかも少しれない。

＜奏さんが戻って来たので荷物をどけて席を空ける。

＜そのまま鞆の中に入れた手には、先程新たに渡されたメッセージ入り名刺の感触があった。

＜＜BPを1獲得した!

事案回避ヨシ!

付近の住民と神社のおばちゃんのおかげで無事ほも君の貞操が守られ

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 14 ほも覚醒

秘密特訓♂♂で

目標：

真の力を引き出す

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

(4BP) (9BP)

休： 7 8 1 2 3 4 5 6 8 9

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月 10月 11月 12月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9

なびきin ↑ S.H.I.N.E.

!!

プリンセスブレイド!!!
レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP)

(38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

男に生まれた意味を知るRTAパート14、はあじまあるよー！
前は正月イベで不審者のおっさん（年齢不詳）からはも君が突然のお誘い♂を受けた所まで。

翌週、普通に練習メニューをこなしますが、フラグが建ったので練習後に続きのイベントが発生しますよ〜するする……ヌツ！

◁正月にプロのコーチを名乗る怪しい男と接触してから一週間が過ぎ、約束の日が来た。

◁別れ際に渡されたメモには待ち合わせ場所と時間の指定が書いてあるが……

◁？・行く。

？・行かない。

当たり前だよなあ？（ホモは惹かれ合う）

◁……とりあえず、行ってみる事にしよう。

◁あれから名刺の情報を調べて実在は確認したものの、今まで目立った活動実績は特に無し。

◁微妙に信用しきれない所はあるが、あの誘い文句に興味があるのは確かだった。

「電車を乗り継ぎ辿り着いたのは、おそらくプライベート用と思われるスポーツジム。」

「駅ビルの裏手にひっそりと佇む姿にメモの目的地を確認していると、入り口が開いた。」

「やはり来たか、ほも」

「おはようございます。今日はよろしくお願いします。」

「中から例の不審者……もとい、プロコーチの河内さんが現れたので、頭を下げる。」

「今度はきちんとしたスーツ姿だ。」

「フツ、良い挨拶だ。中々礼儀をわかっているな。さあ遠慮するな、入ってこい」

「先週と変わらず自信と熱意に満ちた不敵な笑みで中へと誘われた。」

「……この人に礼儀云々を語られるのは甚だ遺憾だったが、黙ってその後ろを付いて行く。」

「これは……」

「驚いたか。これがプロの練習設備の一端だ」

「室内を早足で歩く河内さんを追い、階段で地下まで降りた先には立派なフィールドがあった。」

「センターラインに沿って並ぶ、本格AIを取り入れた十二体の最新鋭トレーニングダミー。」

「普通のスポーツジムだった一階とは打って変わり、まさにヒーローンバトル専用の空間である。」

地下室でEXP90000にしよう（幻聴）。

「一週間。……今お前を鍛えてやれる期間だ、それ以上はこちらの都合で出来ん。」

お前の能力を見込んで、俺が提示するコースは二種類ある。

一つ、自分の持っている長所を更に伸ばすか!!

二つ、今のスタンスを変えてでも新たに強力な技術を身に着けるか!!

選べほもッ！ お前の望む力をツツ!!!」

〈……………何だろう、この異様なテンションの高さは。

〈力強く拳を握り叫ぶ河内さんのせいで、高揚しかけた気分がすぐに戻っていくのを感じる。

〈わざわざこんな秘密基地みたいな場所を使うのも、そういう好きなのかもしれない…………。

ほも君男の癖に男のロマンに対して反応厳しいっスね（ジエンダー差別）。

謎の人物に「お前の力が必要だ！ 悪いが説明は後にする、いいから来い!!」みたいなのって割と少年が憧れるシチュだと思っんですけど。これがジエネレーションギャップ…………。

「もたもたするなッ!! 時間を無駄にする奴に頂点は取れんぞ!」

〈もうこの人のテンションはこの際置いておこう。

〈言われている通り、折角の貴重な機会を余計な考え事で浪費するのは惜しい。

〈ここは…………

? 持っている長所を伸ばしたい。

〈? スタンスを変えてでも新技術を身に着けたい。

ここは長所を伸ばすを選ぶと、手持ちの特徴からランクアップ可能な最もランクの高い一つをBP消費なしでランクアップ。新技術を選ぶと、手持ちで最もランクの高い特徴をランク毎に決まった特徴へ変換してもらえます（ゲシユタルト崩壊）。

今回選ぶのはもちろん新技術。

どっちにしても某野球ゲーの博士みたいなエグい医療ミスは起きないから安心!

「なるほど、そつちを選ぶか。」

……場合によっては全体的なバランスが崩れるが、本当に良いんだな？」

〈はい、お願いします。〉

「その意気やよし！ では早速トレーニング開始といこう！」

〈ブオンツ!! ブオン!!〉

〈河内さんがフィールド内から一步出て懐から取り出したりモコンを操作する。〉

〈命令を受けたトレーニングダミー達が五体一斉に起動し、各々の武装を取り出した。〉

この地下室提案おじさんの出現条件は一年目S・H・I・N・E.の個人戦で優勝する事。

だから序盤から無理にでも頑張る必要が、あつたんですね（メガトン構文）。

「そいつらにはお前に必要な技術を得るための動きがインプットしてある。」

そしてお前が戦局を変えない限り決して勝つ事は出来んツ！

まずは団体戦を意識した上で、相手チーム三体を倒して見せろ、ほも!!」

〈他のダミー達が場外へ出て行くのを眺めつつ、味方二体がいる陣地へ入る。〉

〈ヒロインギアを起動し、バトルコスチュームを身に纏い構えた。〉

〈フィールドがバリア壁で囲われ、戦いの準備が整う。〉

「試合……始めツ!!」

ビーーーーーッ

「どうしたほもツ！ 全国優勝の実力はそんなものか!!」

「手癖で動くんじゃないやあない!! 自分の最適解を一度全て破壊しろ! 現状に甘えるなツ!!」

「!!! そう、その動きだ!! もう一度、いや何度でもやって見せろツツ!!!」

▽……………

▽……………とても濃密な一週間だった。

男同士、密室、7日間。何も起きないはずがなく……(原文ママ)。

「……………素晴らしい。この短期間で新たな力を見事モノにしたようだな、ほも。

フツ、やはり俺の目に狂いは無かった」

ビーーーーーッ

▽最後の一体を倒し、試合終了を告げるブザーが鳴り響いた。

▽百人組手さながらの一对一の連戦を切り抜けた疲労に、思わず残心も忘れて膝をつく。

「よくやった。帰りの交通費と食事はいつものように休憩室に置いてある。

気が済むまで身体を休めてから帰ると良い。そして、ここでの事は他言しないように」

学校側は無許可の癒着事案だからね、しょうがないね。

まあ女子校で性別詐称してるほも君にとって今更違法行為の一つや二つ、裏ドラ何枚乗るかぐらいのもんでしよう(有罪確定)。

▽用意されたタオルで汗を拭きながら、付きつきりで指導してくれた河内さんを見る。

▽はたして彼は何のためにここまでしてくれるのだろうか。

「…………俺が男なのは見ての通りだ。ヒロインバトル業界は女が中心な

のも、もちろんわかるな？」

〈言われるまでもない。

〈ヒロインバトルは女子限定のスポーツで、必然的に指導者側も女性が圧倒的多数だ。

〈だからこそ目の前の男性がより疑わしく見えたのだが。

「俺はその常識を変える。ここまで数々の手を尽くし、今がまさに成果を出す時だ。

今年のプリンセスブレイド日本代表監督として俺は何としてでも出場し——優勝して見せる。

お前はそのために必要な鍵の一つになる存在だ、ほも」

〈……………あの、そこまで大切な計画であんな行き当たりばったりな事したんですか。

「偉業を果たすには事前の計画に固執しない柔軟性が求められるのだ！！

問題は何も無い！俺はお前が今年のS・H・I・N・Eも優勝すると確信しているツ！！

さあ行けほもツ！！そして勝ってこい！！新たな力で己の未来を掴み取れツツ！！」

こいつあオリチャー発動してますね……………間違いない。

なんだじゃあ俺が勝たしてやるか、しようがねえなあ〜（走者のよしみ）。

〈……………とりあえずシャワーお借りしますね。

「おうツ！行ってこいツツ！！」

〈その後、しばらく休んでからタクシーを呼んでもらい家へ帰った。

〈色々と疲れる一週間だったが、おかげで得る物も大きかった。

〈もし互いに上手く行った暁には……………まあ、彼の夢に協力するのも悪くはないだろう。

〈BPを2獲得した！

◇《テイレシアスの印》が《絶対攻撃》に変換された！

”待”つてたぜエ!! この”瞬間(とき)”をよオ!!(ギャギャリギャリギャリ)

というわけで、キャラ作成時からずっとお荷物だった癖にランクだけは最上級な《テイレシアスの印》を、このイベント限定のクソつよ特徴《絶対攻撃》に変換出来ました。勝ったな(UC)。

ここでは最上級特徴を変換する際に取得時のステータス配分で《絶対防御》との二択になりますが、ほも君のステは攻撃偏重なので問題なくお目当てを引けます。

◇《絶対攻撃》OBP 条件：河内コーチとの一月の特訓イベント

主人公および一部海外選手専用特徴。

自分の攻撃が相手の特徴の影響を一切受けなくなる、《絶対防御》と対の効果。

主に《ド根性》や《精神力》《不動》などを貫通するのに役立つ。あくまでも特徴が対象なので、スキルによる耐性付与には効果が無い。

そして《絶対攻撃》の効果ですが……「自分の攻撃は相手の特徴の影響を受けない」!

そのものずばり、かたやぶりです。

こいつさえあれば《ド根性》なんてゴミクズ同然だぜー!!!

画面の方は四月に入るまで再び重要イベントも無い育成期間なので、適当に流しつつ、本チャート解説の続きをば。

先程手に入れた《絶対攻撃》は、前述した通りベリーハード二年目の攻略を非常に有利に進められる神特徴なんです、RTAを走る場

合その取得条件が結構難しくなってきました。

まず一つ目は、変換元になる最上級ランクの特徴を用意しないといけない事。

ランクは三段階あって、上級は3、最上級は4と計7BPのランクアップ費用が掛かります。

初期特徴から候補を選んで育てるのがベターですが、極力切り詰めて行きたいRTAではこの工面だけでも下手すると逆にロスになりかねません。

次に二つ目、一年目のS・H・I・N・Eで必ず優勝しなければならぬ事。

言わずもがな、地区予選も込みでこのチャートの最難関です。

ただでさえ戦力に余裕がない時期なので、安定を取るなら変換元はなるべく有用な特徴を選んでおくべきでしょう。

そして最後に三つ目、変換元の特徴は以降も再取得出来ない事。

BPは節約したい、S・H・I・N・E優勝のためにはある程度ビルドも形にしたい、しかしこれのせいで折角整いつつある形を崩さないといけないというジレンマです。

選択時にも忠告があった部分ですね。なんていやらしい調整なのだ(ハ●ム太郎)。

「ふーん、やるじゃないほも」

「ありがとう、イスカに負けてはいられないから。」

「あたしに勝とうなんて十年早いわっ！ ほらっ、試しに付いて来てみなさいよ！」

「イスカの信頼度が上がった！」

あつ、イスカちゃんありがとナス！（ステUP＋信頼度）

……えー話を戻しまして、本RTAを走るにあたってこの《絶対攻撃》を無理なく組み込むにはどうすれば良いか考えた所、私はすぐに一つの結論に至りました。

そうだ、TSしよう(名案)。

《テイレシアスの印》のランクが無駄に高い事からおそらく開発が意図的に調整したのだと思われますが、男キャラを選ぶと漏れなく付いてくるこの一見役に立たない特徴こそが《絶対攻撃》の最高の変換元になります。

これならランクアップ費用7BPが丸々浮いて稼ぎを短縮出来る上、特徴としては何の効果も無いので失っても全く痛くありません。

唯一の問題は一年目S・H・I・N・E。優勝までの道のりが更に厳しくなる事ですが、突破率50%ちよいなら十分許容範囲でしょう。

金玉ついてんなら覚悟決めろ（リセ上等）。

かくして男に生まれたほも君は、元気な女子校TS潜入マンになったそうなの。

決してネタや趣味で選んだわけではない。これだけははつきりと真実を伝えたかった（弁解）。

ちなみに《テイレシアスの印》ですが、失っても特に何の影響も出ません。

ほも君はこれまで通り当然の権利のように女体化出来ますし、試合でKOされたら男に戻って即GAME OVERです。

じゃあこれなんだったんだよ（素）。映画の半券かなにか？（TS人生チケット入場説）

とりま、これにてめでたく最強の武器を手に入れました。

後は二年目のS・H・I・N・E。直前に溜まったBPをドバーツと解放してやれば大幅強化されたほも君Mk-2の完成です。

更にその後のプリンセスブレイドではあのおっさんこと河内コーチ（公式HEMギャグ）指揮の下、チームもほも君も最終形態へ華麗に進化するので乞うご期待。

ヒロインバトルに夢見るホモ同士、世界を目指し仲良く盛り合おうや。

「……………ほも。明日、やるわよ」

～イスカ。

▽放課後、部活へ向かう途中合流したイスカが小さく告げる。

おっと、画面の方はいよいよ信頼レベル5上昇イベントが入りましたね。

一番乗りはイスカちゃんです。オツスお願いしまー

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 15 イスカ信頼Lv. 5 (奏信頼Lv. 4)

標：信頼レベル上げ

目

&育成

一年目

高旗先輩out奏in

秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ←

初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 7月 8月 9月 1

レギュラー選抜戦↑

S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

BP :

(4BP)

(9BP)

休： 7 8 1 2 3 4 5 6

二年目									
春合宿②									
選拔メ									

ンバー特訓

月： 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9

月 10月 11月 12月

なびきin ↑ S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

「……………ほも。明日、やるわよ」

＜イスカ。

＜放課後、部活へ向かう途中合流したイスカが小さく告げる。

＜あれから対策を話し合い、更に特訓を重ね…………お兄さんと戦うための準備は整った。

＜彼女にとって、一つの決着の時が来たようだ。

友達料徴収RTAパート15、もう始まってる！（ホモガキ）

前はほも君がおっさんと盛って真の力に目覚めた所まで。目覚めるってそういう…………。

今回はイスカちゃんの最後の信頼レベル上昇イベントからです。

＜翌日である休日練習日、の、終わった少し後。

＜事前に監督を説得し、関係者として呼び出したお兄さんを堂々と校舎内の迎え入れに成功。

「この中で戦うのか…………？」

＜女子達が見守る中、白昼のヒロインバトル用フィールドにプロの忍者を引きずり出した。

〈はい。開始位置はこの白線を隔てた円の内側で向かい合って待機します。

〈ルールを一切知らないお兄さんに、簡単な説明をしていく。

〈彼の同意を得た上で、今回の勝負はヒロインバトルの形式で行う事になっていた。

地力で勝るお兄さんにハンデマッチ吹っ掛ける事にしたほも君&イスカちゃん。

ちやんと許可取って合法かつ一方的に変身状態でボコるつもりの方、俺にとっては一番忍者らしく見えるよ（賞賛）。

〈それと、これを胸に着けて下さい。

「……………これは……………」

〈ヒロインバトルで使っている変身アイテム、の練習用の偽物です。

〈試合中普通に相手を倒すか、これを壊すと勝ちになります。

「そうか……………」

〈ヒロインギアの模造品をしげしげと眺めてから、素直に服の胸元に着けてくれた。

〈イスカはすでに変身した状態で、自分の位置について黙って様子を見ている。

〈武器と飛び道具も、お互い先に選んでもらった練習用の物のみでお願いします。

〈周りの部員は全員変身してるので、流れ弾は心配しないで下さい。

〈バリア壁の展開装置は、変身していない人間を場外に弾いてしまうため使えなかった。

「わかった」

しれつと言ってるけど、何気にこのバリア装置やばい……………やばくない？

これが平和な謎スポーツアニメのノリじゃなかったら他の技術共々軍事転用待ったなしですね。

「お兄さん頑張ってくださいーいつ！ キャー♪」「おい色目使ってんぞこいつ」「イスカもがんばれー」「何かよくわかんないけど強いのか？」
「さあ？ でもイスカの兄ちゃんだし……」

「……………」

「……………あいつらは気にしないでいいから。マジで」

〈思わずといった風にイスカが口を開く。男性が混じる物珍しきで周囲はとても姦しい。

〈完全アウエーな空気だが、お兄さんの様子に変化は見られず。

〈流石、これくらいでは動じないようだ。

お前の凶太さも大概なんだよなあ……（違法入学二年目間近）。
もつと罪の意識とかあってもええんやぞ。

〈説明は以上です。大丈夫ですか。

「ああ……問題ない」

〈最後に確認を終えてフィールド外に出る。

〈ここまで勝つために出来る事は全てやった。あとは本番次第だ。

「……………」

「……………」

〈それではイスカとお兄さんの模擬戦を行います。試合……………始め。

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす！ しまーす まーす ーす……………（エコー）

〈特訓後にいつも使っていたファミレスへ、今日もやって来た。

「イエーイー大勝利っ!! かんぱーイーい!!!」

正解（KBTTT）。

＜満面の笑顔でジュースの入ったコップを掲げるイスカに、こちらも合わせる。

＜コップ同士が軽くぶつかり合い、二人で中身を口にします。

＜記念すべき祝勝会だ。

「ふへへ……ほら、見なさいほも。どうよこれっ！」

＜壊れたヒロインギアの模造品を、誇らしげにテーブルの上に置く。

＜すでに何度も見せびらかされたが、拍手を返すと本人は大得意に胸を張った。

＜良い戦いだった。おめでとう、イスカ。

「ふふん！ あたしが本気になればこのくらい当つつ然よね!!」

＜勝負は短いながらも実に激しいものだった。

＜飛び道具の投げ合いから始まり、互いに目にも止まらぬ素早い攻防。

＜そうして間合いを詰められ掴まれる一瞬の隙を突いてお兄さんのヒロインギアを破壊。

＜うん。最後まで変身状態での全力を隠し通した作戦勝ちだ。

＜特訓の中で磨き上げた、まさに彼女の奥の手である。

＜あとは攻撃を耐えようとしたお兄さんが、ヒロインギアの脆さを知らなかった事も大きい。

＜次は通用しないだろうが、今回は確実に勝ちに行かせてもらった形だ。

「……………けど、ま、そうね。」

この成果の半分は、あなたのおかげって事にしたいげる」

＜イスカが片手で隠していた何かを目の前に飛ばしてくる。

＜反射的にキャッチしたそれは、ここでいつも作っているストロークの紙袋で出来た鳥だった。

＜いつの間折ったのか。

「真つ昼間の衆人環視で本気の技を出せなくして、武器も縛って、弱点まで作らせて。」

向こうがあたしを下に見てるのを良い事に、ほんつと凶々しいくらい注文付けたもんよね」

＜プライドが傷ついたと言わんばかりの目で睨まれた。心外である。

勝てばいい、それが全て（世紀末並感）。

半人前が生意気言ってるじゃねえよオラアン！

「癪だけど、認めるわ。

ただ張り合うだけじゃなく、そういう形振り構わない所も兄貴に勝つために必要だったって」

＜少しふて腐れた顔でポテトを頬張るイスカ。

＜実際お兄さんの実力は凄まじく、特にその投擲術たるや威力・精度とも群を抜いていた。

＜おかげで試合後は部員の何名かが黄色い声を上げていたが、そこは割愛。

「それがあんたに送る今日の勝利の記念品よ。ありがたく受け取りなさい」

＜そう言われたので、手の中の精巧な折り鳥をしばし見つめる。

＜確かに、今日までの日々の象徴としてはおあつらえ向きかもしれない。

＜……………でもこれ、ちょっと材質しよぼくない？

＜元がストローの紙袋では、こう、どうにもチャチな印象が。

「るっさい！ 丁寧に折ってやったんだから文句言うなっ！」

＜怒りつつ、何だかんだ上機嫌なイスカと二人で祝勝会を行った。

＜夕方、店を出てイスカと別れた先の曲がり角で男性が一人待ち構えていた。

＜お兄さんである。

「妹に色々付き合ってくれてありがとう……………あ……………」

＜ほもです。

「ほもちゃん。……おかげであいつも成長したし、親父にも良い報告が出来る」

〈相変わらず声にも顔にも感情が読めないが、何となく嬉しそうな空気は伝わった。

〈本人はああだが、やはり家族からはそれなりに大切にされている感じがする。

いくら愛されてても田舎以前の大自然で修行生活はいやくきつ
いっす(素)。

生まれと育ちの割に、イスカちゃんがなまじ普通の感性してるのが
不運でしたね。

「あいつはおれ達ほど強くないけど、策でその差を埋めるのを嫌う
……あと単純に向いてない。

きつと今日も、ほもちゃんがいなければ負けていた」

〈それはまあ、はい。恐縮です。

「だからおれ達兄弟も、親父も、表舞台に生きる方が良いとあいつの家
出を見送った。

今やってる部活……あー……」

〈ヒロインバトルです。

「ヒロインバトル、あれは性に合ってると思う。

……実はあいつが出て行ってから、うちに女子の門下生が増えて
て、その子達に示す進路として考えてみるのはどうだろうって話に
なってる……」

〈つまり、こちらに来ていたのはその取材調査みたいなものだった
と?」

「ああ。でも男がヒロインバトル……を学ぶのは難しいみたいで、今
回のはもちゃんの提案はとても助かった……」

〈やや俯き気味にそう零す。どうやら慣れない苦勞をしていたらし
い。

〈何だろう、表情も声も平坦だが、段々とお兄さんの人柄がわかる

ようになってきた。

いくら何でもその辺の書店で適当な専門誌買えば多少の知識は付くと思うんですが、ルールどころか競技名もちゃんと覚えられてないってどういうことだよ（疑問）。

あの妹にしてというか、こっちはこっちで微妙に日常生活ポンコツ臭がしますね……。

＜あの、連絡先交換しませんか？

＜今後ヒロインバトルについて知りたい時、少しはお役に立てると思いますけど。

「……あー、それは……すごく嬉しい。ありがとうほもちゃん」

＜それと、もし今度イスカが里帰りする時はパフェ用意しておくよ。凄く簡単に喜びますよ。

＜後でなるべくお手軽な好みのレシピ送りますので、良かったら参考にして下さい。

「おお……」

＜お兄さんの表情が、初めてわずかに笑顔になった気がした。

「ありがとう、何から何まで……。妹の事、よろしくお願いします……」

＜そのまま連絡先を教え合い、互いに一礼して別れる。

＜帰り道、イスカと家族の不器用な信頼と優しさを思い、自分も少しだけ笑顔になった。

＜イスカとの信頼が最大まで高まった。

＜イスカの信頼レベルが5に上昇した！

＜敏捷がとても大きく上昇した！

＜BPを2獲得した！

＜イスカが《心眼》《シャドウステップ》を取得した！

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

というわけで、イスカちゃんの信頼レベル5上昇イベントでした。ついでに、彼女が前世でもも君と戦った時の真の力を取り戻しましたね。

◇《心眼》BP3 条件：精神9以上。

視界悪化のデバフを受けず、攻撃時クリティカル判定が少し大きくなる。

煙幕など広範囲無差別の視界悪化スキルと組み合わせると効果的。単純にクリティカル特化ビルドのお供にも。

◇《シャドウステップ》BP3 条件：敏捷16以上、《回避技術》からランクアップ。

ステップ中の喰らい判定が小さくなり、更にステップ移動の硬直が減る。

元の《回避技術》に硬直減少が付いて格段に使い勝手が良くなった。

なお、《絶対攻撃》は喰らい判定縮小を無視する。

《心眼》は煙幕などの影響を受けず、クリティカルも若干狙いやすくなる効果。

《シャドウステップ》は移動に良し、回避に良しのクツソ汎用性の高い優れモノです。

高旗先輩のとき同様どちらも上級ランクの特徴で、特に《シャドウステップ》は通常プレイでもよくお世話になりますね。

しかしそんな事より、本命はほも君が貰える2BPとステータス成長の方です。

お前の事が好きだったんだよ！（現金）

公式戦で勝つよりBP稼ぎの時間効率が良く、信頼レベル上昇イベントは狙わずとも勝手に発生してしまうので、テキスト分のロスを補うためにもこれを利用しない手はありません。

各キャラ毎に対応する得意ステを底上げしてくれるわけですが、イスカちゃんは敏捷が得意なので中々のうまあじ。

ランダムキャラ枠は魔力、敏捷得意のどちらか一人いると安定します。

イベント完走まで一人あたり二分ちよい掛かる友情ごっこの手間もこの報酬あつてこそ。

お菓子もゲームも無いならお前んちなんか行かねえよ！（子供時代特有の残酷さ）

本チャートでは仲間四人分のボーナスを勘定に入れてるため、残りも早めに回収したい所。

ヌツ！ 言ってるそばから今度は奏ちゃんの信頼レベル4が来てリーチです。

おうさつさと友達料払うんだよあくしろよ（1, 145, 141, 919円）。

〽HRも終わり、放課後のチャイムが鳴る。今日も部活の時間だ。

「ほもさん……一緒に、行く？」

〽一足先に支度を終えた奏さんが、笑顔でこちらに寄って来る。

〽最初の頃は常に遠慮がちだった彼女も、今ではヒロインバトル部にすつかり馴染んでいた。

〽明るい表情もよく見せるようになり、毎日楽しそうで何よりだ。

「……あ、みーん……」

「……………」

〽しかし、二人で教室を出ようとした所で奏さんの顔に陰りが差した。

〽少し緊張した面持ちで、出入口を半ば塞ぐように立った一人のクラスメイト。

〈彼女は確か吹奏楽部の部員で、以前は奏さんと仲良くしていた相手だった。

女同士の痴話喧嘩かな？

はえ、やっぱ女子校だとそういうのも盛んなんすかね（偏見）。
すいませくん、部活行きたいんですけどお（緊急脱出）。

「カナつち……吹奏楽、もう戻ってこないの？」

「……………」

「中学でもカナつちあんなに頑張ってきたじゃん。本当にこのまま辞めちゃっていいの？」

「それ、は……………」

〈話しぶりから、何やら二人はそれなりに長い付き合いの模様。

〈迂闊に口出しするのは躊躇われる雰囲気だ。

「合わない先輩なんて今までもいたんだし、そんなの無視しちやえば良いんだよ！

どうして急に辞めるなんて言い出しちゃったの!？」

「!…………それは、私が決めた事だから…………みーこには関係ない」

「はあ!? 関係なくないしっ! アタシがどれだけ心配……………」

ちよ、すいません! すいません! ちよつと止めてもらっていい
すか?（必死）

（教室内で修羅場は）まずいですよ!!

〈あの。

「何!?!…………あっ」

〈激しい口論の予感に横から声を掛けると、みーこさんはこちらに
気付き止まってくれた。

〈放課後になったばかりの教室はまだ人気も多く、取り巻く空気が
非常に気まずい。

〈ここでは何だし、とりあえず別の場所できちんと話し合った方が

良いのでは？

「ご、ごめん……」

＜奏さんも、今日はこっちで監督に説明しておくから……。

「……………うん……」

＜周囲の注目を集めながら少し肩を落とした二人が出て行くのを見送り、小さく息を吐く。

＜奏さんの退部の経緯はよく知らないが、どうやら彼女達の間では未だ尾を引いているらしい。

＜自分も仲間として多少は力になれるかもしれない、後で話を聞いてみよう。

＜その日の練習が終わり帰る準備をしていると、スマホのチャットに履歴がきていた。

＜奏さんからである。

『あれから二人で話しました。今駅の近く。出来れば練習が終わった後で相談したいです』

＜丁度あちらの方から頼ってくれたので、了解の返事を出しすぐに駅へ向かう事にした。

「……………あ、ほもさん……」

＜待ち合わせ場所にした駅前のファミレス店内で、奏さんと合流する。

＜ホットココアの入ったコップを両手で抱え、俯いたまま気付かないので声を掛けた。

＜先にドリンクバーだけ頼ませてもらい、自分の分を持ってテーブルへと戻る。

＜お待たせ。それで、どんな話を？

「う、うん……」

＜どうにも歯切れが悪い。やはり気の重い話なのだろう。

＜良く見ると顔は少し赤らみ視線もぼんやり移ろい、考えすぎて軽い熱を出しているようだ。

「……………えつと、ね」

〈それから、友達のみーこさんと二人で話し合った内容を教えてくれた。

〈聡明な彼女にしては珍しく、説明が妙に長くわかりづらかったので要約する。

〈曰く、奏さんはヒロインバトル部を辞めないし、吹奏楽部にも戻らない。

〈みーこさんはそれを一旦認めつつ、では奏さんと自分の仲の良い様子を見せてみる、との事。

〈……………

〈……………??? ごめん、どうしてそんな話に？

とぼけちやつてえ……（ラブコメ特有の鈍感）。

こんな時だけ都合よく察し悪くなってんじゃねえよおめえよお！

「へえっ?! そつ、それはあの……………い、今の部に馴染んでるって、証拠に……………」

〈思い切り上擦った声を出す奏さん。なぜ疑問形なのか。

〈しかしそんな条件で良いなら簡単な話だ。

〈? 明日二人で自撮りデートを試してみよう。

? 軽く何枚か写真を撮ろう。

「ンッ! ゴフォ——ッ!!」

〈緊張を誤魔化すようにコップの中身を呷った奏さんが盛大にむせた。

〈彼女の制服とテーブルにココアが飛び散り、中々の惨状である。

〈とりあえずお手拭きを使いテーブルを拭き取りつつ、もう一つを奏さんにも渡す。

「ごっほ、えほっ……………あ、ありがとう。……………えつ、ほんとに、いいの? その……………」

〈いかにも、自撮りデートである。

〈写真ももちろんだが、仲良く遊ぶ様子をしっかりと動画にすれば

きつと文句も無いはず。

〈明日は都合よく部活が休みだし良い考えだと思っただけど、どう
……

「やる……っっ!!」

やりますやります (食い気味)。

当たり前だよなあ (チャンス逃さない女の子の鑑)。

「やろう、ほもさん……! その、でっ、デート……っ!!」

〈言い終える前に即答された。

〈どうやらお互い予定は空いてるようで何よりだ。

〈そうと決まれば早くここを出て、今のうちにあれを買いに行つて
しまおう。

「え、何を……?」

〈言わずもがな、自撮り棒である。正直ちよつと使つてみたかった
のだ。

〈翌日。

〈絶好の外出日和となった昼の賑やかな街に、奏さんと二人で立つ
ていた。

「いつ、いえーい……みーこ見てる……?」

……

「……ごめんなさい今のなしっ! も、もう一回……っ
!」

〈否。この動画にNGは無く、ただありのままを写すのみ。

〈自撮り棒の先に取り付けたスマホが、赤面する奏さんを容赦なく
捉え続けている。

ここ完全にNTRビデオレター。

ウツスみーこ冷えてるか? (煽り)

「どつどうしよう、ほもさん……これ、思ってたよりはっ、恥ずかしい……！」

〈一度やると決めた以上、どうもこうも無いのである。

〈前置きも済んだので、通行の邪魔にならないように次の場所へ行く。〉

〈外付けバッテリーの充電は万全なので安心して欲しい。

「あの、食べる所撮られるのは落ち着かないっていうか……うう」

「ちよっ、こ、このゲーム難しい……わっ、笑わないで……っ！」

「ごこの通り、路上演奏者がいっぱいいるね……ふふ、私も持って来れば良かったかも」

「え？ 演奏してる所を撮って欲しい……？ あの、すみません、これは配信するわけじゃ…… ……ほもさん？ う、うん。はい、大丈夫です……」

「……………あ、上手……………」

「お疲れ様でした。……………あのっ、演奏、凄く良かったです！ これからも頑張つて……」

え、えっ？ 皆でポーズ？ あ、ほもさん……………いい、いえーいつ、ぴーす……………♪」

v (・ω・) v

堕ちたな (確信)。

〈夕方。

〈二人であちこちを歩き回り、少し足が疲れたので広い公園のベンチで休憩となった。

「お待たせ、ほもさん。……………はい、これコーヒー……………と、こつちがチョコクリーム」

＜すぐ近くにクレープ屋台があったので、ジャンケンに負けた奏さんが買って戻って来る。

＜隣に座り一息ついてから、袋に残った自分の分も取り出した。

「いただきます。……………ん、うん……………ふふ、おいしいね」

＜もうカメラの存在にも慣れたのか、自然体のままにこやかにクレープを頬張る。

＜こちらもそれに倣うと、解放的な空気の中、程よい疲労感に甘味が効いてくるのが分かった。

＜どうやら向こうはラズベリークリームらしい……………中々美味しそうだ。

「ん”んつつ!! ……?! え、ひつ、一口交換……………っ?」

＜むせそうになり、再び最初のような動揺ぶりを見せた奏さんに頷く。

＜仲良しアピールをする丁度良い機会だろう、そんなに驚くほどの事でもないと思う。

「そつ、そ、そう……………だよね。うん……………うん……………友達ならこれくらい普通……………」

＜と言うわけで、それをちよつとだけ食べさせて欲しい。

「ん、うん……………どつ、どうぞ……………」

＜おつかなびつくりクラツカーを鳴らす人みたいな姿勢で、奏さんがクレープを差し出した。

＜口を開け、遠慮なくかぶり付く……………クリームの甘さにほのかな酸味が効いてて美味しい。

「おっほ、お……………ほああ……………」

健全ゲーでなんつう声出してんだこの娘は（ドン引き）。

こんなの絶対フィニッシュされて深イキしてる時の喘ぎ声じゃん（エロゲー汚染脳）。

＜隣でじつと見つめて変な声を上げている奏さんへ、お返しにこちらのクレープも差し出す。

「……い、いただきます………あー」

＜意を決したように目を閉じて、ぱくりと、断面から控えめに一口食べた。

＜……咀嚼がやや長く感じる。あまり味が合わなかっただろうか。
「……ん、んっ。」

………えっと、味、味はその……チョコ……チョコが甘くて……
クリームも甘くて……

チョコとのハーモニーがあので、とても良い美味しさを生み出し……
チョコで……」

＜何やら要領を得ない食レポを披露された。

＜このチョコは程よい苦さが合ってると思うのだが、本人がそう感じるなら良しとしよう。

「……ふふっ………ねえ、ほもさん。またこうやって一緒に遊びたいね」

＜クレープを食べながら満足そうに呟く奏さん。全く同感である。

＜自撮りしながらでは入れない場所も多かったし、今度は屋内メイ
ンもありかもしれない。

「うん。……行こう、絶対」

＜目を合わせて、二人で笑みを交わす。

＜アクシデントから思い付きで始まった一日だったが、おかげで楽しい時間を過ごせた。

＜＜管崎 奏（かんざき かなで）の信頼レベルが4に上昇した！

L E V E L U P

L E V E L U P

L E V E L U P

L E V E L U P

ちよつと熱いんじゃないこんなところで？（休日公園）

んなわけで、奏ちゃんレベル4でした。

お兄ちゃん、俺らもちよつと混ぜて欲しいんだけど。ワー

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 16 バレンタインく指希先輩信頼Lv.
5

標：信頼レベル上げ

目

&育成

一年目

高旗先輩out奏in

秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ←

初詣 ↓

0月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P. :

(4BP) (9BP)

休： 7 8 1 2 3 4 5 6

7	8	1	2	3	4	5	6

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月： 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9

月 10月 11月 12月

なびき in ↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

迫真ヒロインバトル部・恋の裏技RTAパート16、はあじまあるよー!

前回は奏ちゃんと同良しだった幼馴染ちゃんの要望に応え、ほも君がガッツリNTRビデオレター作ってあげたところまで。お前生粋のマゾか? 中々やるじゃない!(賞賛)

早速プレイの続きと行きましょう。

カレンダーは二月二週に入ったので、現実でもお馴染みのあのイベントがやって来ますね。

「今朝一緒に電車で彼に渡してきちゃった♥」「うちは放課後デート

♪」「ねーあんた誰かに渡す予定あんの?」「えー、ヒミツ」

◀今日は二月十四日。バレンタインデーだ。

◀学校のあちらこちらで、年頃の女子達のはしゃぐ声が聞こえてくる。

◀音咲は女子校なのでその手の話題は少ないかと思っていたが、どうやらそうでもないらしい。

「ほも」

〈廊下を歩いていると、背後から声と一緒に何かがちらに飛んでくる気配を感じた。

〈振り向きざまにキャッチすると、手の中には小振りな市販のチョコレート。

〈それを投げてきた相手に視線を移すと、予想通り得意げな顔のイスカが立っていた。

「ふふん、やるじゃない。景品にそれ、あげるわ」

〈……友チョコ渡すの初めてで照れ臭いなら、そう言えばいいのに。「うっ！ うっさいわね!!」

あたしがプレゼントしてやるってんだから、ありがたく受け取つてけば良いのよ！」

ありがとナス！（素直）

この回復薬（チョコ）が練習漬けで疲れた身体にスーツと効いて……んまあい！

〈凶星を突いたら逆ギレされた。もし取りこぼしたらどうするつもりだったのか。

〈こんな事もあるうかとポケットに忍ばせていた返礼用小粒チョコを、同じように投げ返す。

〈ありがと、イスカ。

「ふんっ。……こっちこそ、どーいたしました！」

〈見向きもせず二本の指で当然のようにキャッチして、そのままぶつきらばうに去っていった。

〈全く素直じゃない友人である。

〈〈体力が回復した！

〈昼休み。やや浮かれた空気の教室で、いつものように奏さんと二人でお弁当を食べていた。

「あ、あの……ほもさんっこれ、ほん、ほっ、と、ともっ友チョコ………どうぞっ!!」

＜食後、妙に口数の少なかった奏さんが意を決したように、隠していた小さな包みを差し出す。

＜噛み噛みでよく聞き取れなかったが、まあチョコ以外無いだろう。

＜包装を解いた箱の中には、彼女の手作りなのか音符の形をしたチョコが数個入っていた。

おい奏エ！　なんだってテメエはそう恋愛に対して根性がねえんだ？（辛口評価）

でも教室でレズ告白は流石にヤバイのでナイス判断だぞ奏エ!!（手の平ドリル）

＜ありがとう、奏さん。じゃあこれ、お返し。食後のおやつと一緒に食べよう。

＜こんな事もあるうかとポケットに忍ばせていた返礼用小粒チョコを、同じくらい差し出す。

＜ペットボトルの温かいお茶がまだ残っているので、お茶請けに丁度いい。

「わっ……いつ、いいの……？」

ありがとうほもさん！　……あの、大事にするね？」

＜いや、食べようよ。

＜結局一個だけ持ち帰る事にした奏さんと、食後のティータイムを過ごした。

＜＜体力が回復した！

「ほーもちゃん、はいこれどうぞ」

＜その日の部活が終わった後の帰り際。

＜指希先輩に備品買い出しの手伝いを頼まれ、二人で街へ来た矢先に小さな包みを渡された。

＜有名ブランドのお洒落なラッピングが施されたそれは、言うまでもなくチョコだろう。

＜先輩からのチョコならさつき部の皆と一緒に貰ったと思うんです

が。

「いやあ、ほもちゃんには色々お世話になってるし、流石にもう少し良い物あげたいかなーって」

〈ならばこちらも相応の物を出さなければなるまい。〉

〈こんな事もあるうかと鞆に忍ばせていた少しお高い返礼用チョコを、指希先輩に手渡した。〉

「ええっ？ ほもちゃんこそさっきもお返ししてなかった？

何のためにそんな何種類も持ち歩いてたの……？」

〈もちろん、指希先輩ならそう来ると思ってたので。〉

ウソつけ絶対他でも使う用に複数持ってるゾ（神の視点）。

メールとかでもテンプレ山ほど用意してるタイプですよこいつあ、間違いない……。

「もう、相変わらず口が上手いんだから。さーて、それじゃさくつと買い物済ませちやおつか！

こつちはまだ渡したい相手が一人残ってるし……ねっ♪

……ふふ、どう？ ちゃんと出来た？」

〈練習でもしたのか、綺麗なウイंकを返された。〉

〈………もしやこのやり取り自体が本命の前の予行演習だったのでは？〉

〈一本取られた気分だが、まあ、それで指希先輩の役に立てたなら何よりである。〉

〈〈体力が回復した！〉〉

〈〈BPを1獲得した！〉〉

あ、うめえなあ！（体力全快＋BP）

三人とチョコを食わせ合って、もう口中、チョコまみれや（虫歯不可避）。

そんなわけで、信頼度4以上のキャラから回復薬を投げて貰えるバレンタインイベントでした。

誰か一人でも貰えればBPもおまけについてきます。

大体三々四人分あれば体力満タンになるんで、事前にしっかりと絞って調整しときましょ。

引き続き二年目に入るまでの修行期間になりますが、この辺から数値上の効率だけでなく、最終的なステータス調整を意識してトレーニングしないといけません。

前パートで解説した信頼レベル5上昇時のステータス成長。

本チャートでは音咲固有の三人とランダム枠一人の計四人分、今回はランダム枠にイスカちゃんを選んで敏捷が伸びてるので、他の必要ステを優先的に鍛えてますね。

「ほもちゃん、お疲れ。頑張ってるね！」

〳先輩を見習おうと思つて。

「そう？　なんか照れるなあ……。えへへ、それじゃ一緒にもう一セットいこっか」

〳〳調辺　指希（しらべ　しき）の信頼度が上がった！

あゝ筋力練習の追加ボーナスクツソ美味いんじやく。

指希先輩ありがとナス！

そう、特に重要なのがこの筋力。

以前話した通り、とあるスキルの取得にこれが一定値必要なのですが、指希先輩、イスカちゃん、奏ちゃんと、二年目加入する後輩ちゃんのいずれもカバーしてないため伸び辛いです。

また二年目は後輩ちゃんの信頼度稼ぎを最優先したい都合上、夏の大会を見据え積極的に伸ばすなら今この時期しかありません。

他にもイスカちゃん以外のランダム加入キャラと下手に絡むと信頼イベントが発生してロスになるので、それらを上手く避けながらなるべく部員の多い日に鍛えたいところ。

これがなかなか……。難しいねんな……。 (妥協Take多数)。

ヌッ！ 再び筋力練習にうまあじ反応あり！ 風穴ッ！
ヴヴウウウヴウウ（羽音）

奈落の毒蟲（ランダム加入キャラ）!?
ぐああああああつ!!（キャンセル失敗）
法師様!!

……ハイ、こういうね、罨があるんで皆さん気を付けましょ。注意
一瞬ガバ一生（至難）。

こいつは信頼レベル1だからまだセーフです。

今のでレベル2上昇イベント入りましたが、これぐらい誤差だよ誤
差！

余計な連中の信頼度まで上げてしまうのはRTAにおける《魅力
的》のデメリットですね……。

さて、ここまで信頼度管理はチャート通りなので多分そろそろだと
思うんですが……

『もしもし、ほもちゃん?』

〜いつもの放課後、部活へ行こうとした所でスマホに指希先輩から
電話が掛かってきた。

〜この後すぐに会えるのに、一体何の用だろうか。

キタツ！ キタツ！ 来たなあ！

一月のほも君特訓イベントに並んで本チャート必須、指希先輩信頼
レベル5上昇イベントです。

『あー……実は監督にどうしてもってお願いして、今日は特別にお休
み取っちゃった。』

今電話してるのは、ほもちゃんに背中押してほしくって』

〜スマホから聞こえる、悪戯っぽく笑う声。

〈……なるほど、どうやら今日が勝負の日という事らしい。

『えへへ、そういうこと』

〈他の人に事情を説明して良かったんですか？ それとも適当に理由を付けて？

『そりやまあ言いくるめて……って、もー、意地悪言わないでよつ。

ほらほら、そっちもあんまり時間無いでしょ？ 早くお姉さんにエール聞かせて欲しいな』

〈確かに、のんびりお喋りしては練習が始まってしまう。

〈要望通り手早く済ませよう。

〈指希先輩。

『うん』

〈勝ちましょう。もし負けそうになっても、スマートに阻止しましょう。以上です。

『うんー』

〈力強い返事と共に、ぷつりと通話が切れた。

〈さて、こちらも練習に行かなければ。

「……………おい、おい、ほも。ちよつとこつち」

〈はい。

「部長どう……？ 今日休んだのって、多分アレっしょ？ ……イケそうっ。」

〈大丈夫なんじゃないですかね。

「……………おい、ほも」

〈なんでしよう。

「いや、クラスで指希のやつすげえアレだったからさあ……今日アレなんだろう？ どうなん？」

〈大丈夫なんじゃないですかね。

「ほも、こつちへ来い」

〈はい、監督。

「……調辺の件、わかっているな？　もしもの時は、お前がしっかりと励ましてやれ」

〈はい、もちろんです。

指希先輩気付かれスギイ!!

こんだけ筒抜けとかお前恋愛初心者か？　可愛いね♥

〈練習の最中、次から次へと部の人間から個別で指希先輩の心配をされた。

〈誓って口外などしてないが、関係が進展する度先輩が露骨に顔に出していたので無理もない。

〈普段のポーカーフェイスもどこへやら、恋は盲目とはまさにこの事だろう。

「……ねえねえほも！　もう聞いている!?　これナイショなんだけど、調辺部長がさ〜!」

〈うん、大変そうだよね。

「ね！　もしダメだったらわたし達が優しくしてあげなくちゃ!」

〈まあ、あの調子なら最悪引き分けには持ち込めると思うので、どうか頑張っただけ。

「……さーて、そろそろ待ち合わせの時間かな？」

張り切って早く来すぎて緊張してるなんて、我ながら格好悪いなあ。

ま、おかげで頼れる仲間にはっちり応援貰えたしね

『勝ちましょう。もし負けそうになっても、スマートに阻止しましょう』……か。

………確かに、いつもはそんな感じだったっけ。ふふっ

「——あ。

おい、こっちこっち！　もう、遅いぞーっ。

ちやんと時間五分前？　ダメダメ、そんなんじや運動部やってられ

ないよ？

わたしが先輩だったら腕立ての後にダツシユでジュース奢らされてるとだよ。

……あははっ、ウソウソ！　うちはそんな事してないよ……あー、少なくとも、対外的には。

ま、まあ良いじゃん！　君は文化部だからノーカンだって！　ほらっ、早く行こう！」

「ふふふふ……この映画すつごい楽しみにしてたんだよねえ。そう、それそれっ!!

シリーズ物だし一緒に観るのもどうかなって思ってたけど、いやーこんな所で気が合うとは。

幼馴染同士でも意外と知らない事って多いんだね。

？　何、ポップコーンとジュース買ってくるって……あつ、さっきの気にしてるの？

いいよいいよ、わたしが勝手に早く来すぎただけだし……

……え？　俺も勝手に奢りたい気分？　そ、そう……」

ええぞ！　ええぞ！（野次馬）

「んんー！　最っつ高だったね!!　こう、こっちの観たいもの全部詰め込んだーみたいなの！」

話はちゃんとしてる上で全編ファンサービスの塊っていうか！

あつはははははは！　わかるー！　あそこムリーもう完全に笑っちゃった！　つぷふふ……。

あー駄目面白い。公開日に観られてほんとよかったー。

……あ、あのお店とか丁度良いんじゃない？　うんうん、早く入って感想会しよー！」

「それでね……あ、電話鳴ってるみたいだよ？　ううん、どうぞどうぞ。

平気なのに……。

は？ ……あー！ 何で写真なんか撮ってるの？!

うわっ、周りの人達すっごい笑ってる……は、恥ずかしい……っ。

……やり直し！ やり直しを要求します！ 違うVRの方じゃない

くて写真!! ばか!

二人でもつとちゃんとしたの撮ろうよっ。

ほらほら、こっち来て。そんな離れてたらフレーム入んないよ。

もうちよつと寄って……あー、照れてるの？ ふふ、いいじゃん別

に。

よっし、この辺かな。それじゃ撮りまーす。

……？ あれ？ ここを……んー？ おつかしーな。

ごめん、上手く出来ないみたい。ちよつと見てくれない？ これ

……

……

……えへへ、なーんちゃって。はい、も

う一回チーズ」

＜練習が終わり、家に帰って夕飯とお風呂も済んで後は寝るだけとなった夜。

＜枕元のスマホが指希先輩とのグループチャットの新着メッセージを通知してきた。

＜『大勝利！ぶい！v』

＜ログには指希先輩が幼馴染さんの頬にキスをしている写真が一枚。

＜更にその下には、幼馴染さんから先輩の唇にキスしている写真が貼られていた。

＜どうやら上手く行ったらしい。……と、今度は着信が入ってくる。

『もしもしほもちゃん？ うふふふふ………見た？』

＜ええ、お熱い写真が二枚。おめでとうございます。

『ふふふ、あ・り・が・と♪』

＜スマホからかつてないほどご機嫌な様子の声が返ってきた。

＜これならたとえ写真を見ていなくても、結果を当てるのは簡単だったに違いない。

『聞いてよー、試合の時みたいにやったらびっくりするほど上手く行っちゃってね？ うふふ。』

すっごいドキドキしたけど、ふふっ、これもほもちゃんの的確なアドバイスのおかげだね。

やっぱり持つべきものは頼れる仲間かな！ うんうん！』

＜何よりです。もしダメだったら明日バレてた部員達に生暖かく慰められてる所でしたよ。

『えっ、ええ?! ほもちゃん言ってるよ？ ひよつとして結構気付かれてたの……!?!』

じゃあわたし、明日はみんなに質問攻めされちゃう感じ？

……えー？ えへへ、いやあく困ったなあ』

そういうのいいから（キレ気味）。

付き合いたてカップルの惚気とか聞けたもんじゃないさっさと切っちゃおうぜ！

＜少しも困ってなさそうな声の指希先輩。ノリノリのハイテンションである。

＜正直もう寝てしまいたいのだが……

『あつ、彼からチャット来た……えー？ 明日から途中まで一緒に登校したいだつて、えへへへ。』

ごめんほもちゃん、返事したいからもう切っちゃうね。

本当にほんつとーにありがとうごさいましたっ。おやすみ！』

＜幸いにも幼馴染さん、もとい彼氏さんからのインターセプトによって解放された。

＜後は二人だけの時間という事で、外野はさっさと眠るとしよう。

＜翌日。

「ふッ！ 耐えるよ、全員守備隊形！ ……今！ 一斉攻撃ッ!!」

〈フィールドに指希先輩の声が高らかに響く。〉

〈鋭い指示でチーム全体が一つの生き物のように動き、相手チームを完全に圧倒していた。〉

「おお……すっげえ、部長キレツキレじゃん。全然隙がないよ……」

「こりゃきつと上手い事行っただろうなあ」

〈他の部員達と見学しながら、その仕上がりように思わず目を見張ってしまう。〉

〈今までも十分凄かったが、もはや完璧にチームを操っている。まさに絶好調だ。〉

「はい、次！ メンバー入れ替えてどんどん回していくよっ！

今度は……ほもちゃん！ こっち入ってきて！」

「ほも」

〈はい、監督。〉

「……いいか、絶対にだ。絶対に調辺のフォローを怠るんじゃないぞ。

あいつがもしもの時には、ヒロインバトル部の未来がお前の働きに掛かっているからな」

〈はい。〉

〈かなり本気のトーンで念押ししてしまった。〉

〈まあ、これでは伝え聞いた先代の部長の頃とほぼ同じだし、心配するのも仕方ない。〉

〈指希先輩。〉

「何？ ほもちゃん」

〈これからも頑張っていきましょう。お供します。〉

「……うん！ よろしくねっ」

〈大事な仲間である先輩と、ヒロインバトル部のためならば望む所だ。〉

〈フィールドに入り、二人で握った拳を軽く打ち合わせた。〉

〈指希先輩との信頼が最大まで高まった。〉

〈〈調辺 指希（しらべ しき）の信頼レベルが5に上昇した！

〈〈精神がとて大きく上昇した！

〈〈BPを2獲得した！

〉〉 調辺 指希（しらべ しき）が

《《ライフリンク》》『ドレスライトカンパニーフロント』を取得した！

LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP LEVEL
LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP LEVEL
UP

LEVEL UP LEVEL UP
LEVEL UP LEVEL UP

LEVEL UP
LEVEL UP

LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP LEVEL
LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP LEVEL
UP

二人は幸せなキスをして終了。

はい、というわけで指希先輩の信頼レベル5上昇イベでした。ヴォエ!!（砂糖）

これでも君の精神が底上げされてBPも貰い、そして何より本RTA最強の盾である指希先輩の専用特徴《《ライフリンク》》が解禁されました。めでてえ。

練習に戻りつつ、さっそく解説していきましょう。

――

◇《《ライフリンク》》

調辺指希専用特徴。

試合中、味方キャラ全員のHPが共有される（※ミニオンは対象外）。

つまり三人分のHPを削り切られるまで誰一人落ちない。

頭数の維持が強さに直結する団体戦では文句なしに最強クラスの特徴。

クリティカル一発入れれば終わりそうに見せかけて、実際は一人分の

最大HPダメージで済む。

◇『ドレスライトカンパニーフロント』

調辺指希専用必札スキル。

精神を参照に味方全員のHPを中回復、次の被ダメージまで防御上昇（大）と怯み・強制移動耐性、次にダメージを与えるまで攻撃上昇（大）を付与する。

回復量は微妙に物足りないが、大技で反撃する起点としては申し分ない性能。

《ライフリンク》の効果は「味方全体のHPが常に共有される」というもの。

三人分のHPで正面の盾役が硬くなるのはもちろんの事、防御の薄いアタッカーが一発二発殴られても強引に耐えられるのが本当に偉いです。

KO即リセのほも君を事故から守るにはうってつけだあ……（うっとり）。

もう片方の専用必札『ドレスライトカンパニーフロント』は強力なおまけ付き全体回復。

《ライフリンク》で味方のHP管理は万全なため効率よく使えて、お得意の全体バフを撒いて序盤を耐えながら、これを使って一転攻勢に出るのが音咲の必勝パターンになります。

……ここまで話せば、察しの良い初見ホモ達は何となくこう思うのではないだろうか。

「この音咲高校、敵として戦うと相当めんどい学校なんじゃないか？」

残念ながら不正解です。正解は「超クツソ激烈にキツイ害悪中の害悪」でした。

これこそが音咲高校を選んだ最大の理由、「相手したくないから」。
お前の事が嫌いだったんだよ!! (手の平返し)

以前にRTAでは強い味方を引くより弱い敵と当たる方が大事と言いましたが、団体戦の音咲はまさに強くて厄介な敵の筆頭です。

少しネタバレになりますが、この後加入する新一年生である高旗先輩の妹ちゃんが姉同様のタンクキャラでして、これに指希先輩と奏ちゃんを啜えた二年目の音咲は全国でも屈指の難敵。

固定キャラ同士の噛み合った強さもさることながら、その遅延テクは悶絶ものです。

じゃあ一年目なら多少マシかと言うと、むしろこっちの火力が育ってない分より辛いっていう。

ふざけんな!! (声だけ迫真)

大体《絶対攻撃》は《ライフリンク》を無視して一人にダメージ与えられるけど、攻撃時に削り切れなきや結局分散されるから実質無効とかいうふざけた仕様が悪い。

せつかくのTSチャートがこれじゃ台無しだあ…… (怒り)。

RTAやってて時間切れにさせられる危険があるのはこのこともう一校くらいでしょうか。

一〜二年目通して全六試合あるS・H・I・N・E。本戦団体の大外れ枠が二つあるのは流石にキツイので、こうして確率を半分減らしつつ、ほも君の弱点も補ってもらおう事にした次第です。

……お、三月ももう終わったので、ようやく二年目に突入ですね。
仲間共々屈強に育ったほも君が

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

二年目開始〜二年目S・H・I・N・E・優勝
Part17 二年目開始・なびき加入〜なびき信頼
Lv. 2・3

標：信頼レベル上げ

&育成

一年目

高旗先輩out奏in

秘密特訓

入部 春合宿①

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1月 他

レギュラー選抜戦↑

S・H・I・N・E!!

W・H・I・T・E →

バレンタイン♥

(4BP)

(9BP)

休： 0 1 2 3 4 5 6
7 8 9

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月 : 3月 ▼4月 5月 6月 7月 8月 9月
 10月 11月 12月

なびき in ↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

B P : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14
 15 16 16 17

▼ || 現在地点

B P || 総獲得 B

P目安 休 || 総休養回数目安

ペット(後輩) 飼い始めましたなRTAパート17、はあじまあるよー!

前回は指希先輩が待望の信頼レベル5に上がり真の力を解放、特訓後のほも君と並び本チャート最強の力を得た所まで。

今回は二年目突入という事で、音咲最後の仲間を迎えにイクゾー！
 デッデッデデデ！ カーン

◁ 四月。桜舞う始業式を終え、晴れて二年生に進級した。

◁ その翌日である今日は、体育館を使つての大規模な部活紹介・勧誘の日だ。

「うーん、やっぱ最初の吹奏楽部とその次の合唱部って並びが強いなあ。

あれで完全に場の空気持つてかれちゃつてるよ」

「う……でもここは音楽をしに入学してきた人が多いし、仕方ない……かも」

◁ 舞台袖から仲間達と次に来る出番に備え、他の部のアピールを眺める。

〈音楽に力を入れている音咲高校では、まず音楽系の部活から大きい順に優先して紹介される。

〈我らがヒロインバトル部は音楽系の紹介が全て終わった直後、運動部のトップバッターだ。

「まあ、何とかなるなる！　うちだって見た目のパフォーマンスじゃ負けてないし。

「それに去年は全国優勝までしたんだからね」

実際、手品でも何でもなくパツと光つて変身して戦えるとか絶対楽しいんだよなあ……。

プリキ●ユアとか戦う変身ヒロイン好きな女子が殺到しそう。

〈そうこうしているうちに前の部の紹介が終わり、部員達がこちらに捌けてくる。

〈放送部の務めるアナウンスが、続けてヒロインバトル部の紹介を始めた。

「じゃ、みんな行くよ」

〈入れ替わるように舞台に出て、横一列に並ぶヒロインバトル部の面々。

〈制服姿のまま、それぞれヒロインギアを手にとって見せる。

「全隊……変身！」

〈指希先輩の号令で部員達が一斉に光に包まれ、マーチングバンド風のコスチュームへ変身。

〈場内にどよめきの声が広がり、興味の視線。掴みは上々である。

〈その後、息の合った団体パフォーマンスを見せ、ヒロインバトル部の紹介は好評に終わった。

〈放課後。部活の時間がやってきた。

「お疲れ様で……あ……すごい、集まってる？」

「奏ちゃん、ほもちゃん。ふっふっふ、今年は大漁だよ」

〈一緒に到着した奏さんの驚いた声に、指希先輩が満足気な笑みで

答える。

〈グラウンドには去年よりも多くの新一年生達が集まっていた。

「はい、とりあえずここにクラスと名前書いてって」「練習参加で自前のギア持つてるやつは使つていいぞ。無くてもちやんと貸し出すから安心しろーっ」「見学の子はこっちねー」

〈周りでは案内・指導役の二、三年生数名が相手をしている。

〈経験者には得意な種目やポジション確認、初心者には簡単なルール解説など忙しそうだ。

「はいっ!!! 1-A、高旗(たかはた)なびきですっ!!! 団体戦のガードが得意です!! よろしくおねがいますっ!!!」

いい声出てんねえ! 合唱部の希望者かな? (皮肉)

この若干濁点付いてそうな特徴的な声した小つちやい子が音咲固有キャラ最後の一人、高旗先輩の妹のなびきちやんです。

〈経験者の集団から突然飛び出た大声に、周囲の何人かが思わずビクツと立ちすくんだ。

「……うん! とつても元気な返事ありがとうっ。でも今は皆近くにいるからもうちよーっただけ抑えていこうかー」

「あ、ごっごめんなさい……!! アタシ緊張しちやっつてつい……」

〈指希先輩からやんわりと注意され、当事者らしき小柄な女の子が勢いよく頭を下げる。

「び、びっくりした……緊張して声が大きくなる人なんているんだ……」

〈隣で硬直していた奏さんが復帰して、若干羨ましそうな顔をする。

〈あれはあれで日常で困りそうだが、多分この二人を足して割るくらいが丁度いいと思う。

〈それにしても……たかはた……高旗……?」

〈卒業した高旗先輩が、三つ下の妹さんが今年うちに入学予定と言っていたはず。

「よし、それじゃそろそろ始めよっか。見学の子以外全員集合ー!」

〈いつもより人の多いヒロインバトル部で、新入生を交えた練習が始まった。

〈先輩との約束もある。後でさっきの子の様子を見てみよう。

「あ、はい!! アタシは立お姉ちゃんの妹ですっ!」

〈練習開始からしばらく、頃合いを見て本人に確認を取ってみた所、あっさり同意が出た。

「え」「えっ」「高旗先輩の妹?」「マジ?」「ええ……?」

〈なびきちちゃんの元気の良い返事に、今度は別の意味で周囲が驚いている。

〈小柄な体格、愛嬌のある顔立ち、元気さ明るさといい、確かにびつくりするほど似ていない。

「ええっ!!? 先輩が、あのほも先輩なんですか?!」

おうホモ差別やめろや（威圧）。ホモがお前に何か迷惑掛けたんかオラアン!!?

〈なびきちちゃんの練習に付き合いながら、改めて自己紹介をすると今度はこちらが驚かれた。

〈一応、練習の最初に全員の自己紹介があったはずだが……

「す、すみません。緊張して名前も顔も全然頭に入ってませんでした……っ」

〈慌てて頭を下げるなびきちちゃん。

〈別にいいけど、この反応はもしや高旗先輩から何か聞いているのだろうか。

「はいっ!! お姉ちゃんが部で一番図々しい奴だっって言っていました!!!」

〈全く悪気のない満面の笑顔で言われた。

〈遠くで指希先輩や奏さん、ほか数人が吹き出したのが見える……。

「あ、あれ? ほも先輩? ……あ!! 違いますよ!?! これは悪口と

かでは……っ！

お姉ちゃん、認めてる人にはわざとそういう事言うところあつて……!!」

◁こちらの沈黙に慌ててフォローが入ったので、軽く手を上げて大丈夫と伝える。

◁高旗先輩がぶつきらぼうに褒めてる様子が浮かんだが、もう少し言い方を考えて欲しかった。

「あ、あとあと……」

◁まだ何やら言い淀んでいる。他にもあるのか。

「えっ!? いや、そうじゃなくて……」

その、S・H・I・N・Eで優勝したほも先輩にこうやって会えて嬉しいなーって……えへへ」

あゝ、いいねえ(手の平返し)。いゝ子だねお前ほんとに(お気に入り)。

こ→こ←S・H・I・N・E 優勝時の追加セリフ。

R T A的に極微ロスだけど、承認欲求と自己顕示欲が満たされて気持ちが良い!! (極太ボイス)

◁照れたように笑うなびきちゃん。

◁こう正面から尊敬の眼差しを向けられると、慣れてないので少し面映ゆい気分だ。

「よーし、それじゃ次は団体と個人に分かれて模擬戦いくよー」。

休憩挟むけど、新入部員はどっちもやってもらおうから頑張ってね!!」

◁指希先輩の指示が飛んでくる。

◁新入部員達のウォーミングアップも済んで、いよいよお手並み拝見である。

「はい!! アタシ頑張ります!!!」

「やーっ!!」

「たーっツ!!!」

「うりゃーっツ!!!」

ビーっっっっっっ

「そこまで！ 勝者、Aチーム！」

「あ、ありがとうございます」「ぜえ……ぜえ……」「し、しぶとい……」

「ありがとうございますっ!!!」

「高旗さん、一年生なのに凄い体力……」

「うーん、あれだけ動き回って息切れしないのは凄いね。」

それにガードの技術も。基礎と反復練習をしつかりやらなきやあんな風には出来ないよ」

〈場外から皆と見るなびきちちゃんの実力は、一年生にしてかなりのものだった。〉

〈圧倒的な守備能力で相手チームの攻撃を物ともしない。〉

〈体格が小柄で手足が届かない分も運動量でカバーしているので、とんでもないスタミナだ。〉

「ただまあ、守備以外はもうちよつと頑張らないとね……あはは」

〈頬に指を当てて、指希先輩が苦笑いをこぼす。〉

〈そう、なびきちちゃんは守備は上手いが他の技術はほとんど素人並な泥仕合メーカーだった。〉

〈防御以外の基本的な駆け引きくらいは、もう少し何とかする必要があるかもしれない。〉

〈そしてそれを教えるのは先輩である自分達の役目だ。〉

その前に監督の役目では……？（当然の疑問）

部員の指導しないならあいつもうただのバス運転手だと思うんですけど（正論）。

「あ……ほも先輩っ!! アタシの動き、どうでしたか!!」

〈良かったよ。これから一緒にヒロインバトル部で頑張っている。〉

「はい!! よろしくお願いしますっ!!」

〈高旗なびき(たかはた なびき)が加入した!〉

というわけで、なびきちゃんが加入しました。

本RTAでは指希先輩と並んでほも君を支え、世界大会の日本代表として最後まで一緒に戦う事になる真の仲間です。

早速その能力の紹介を……と行きたい所ですが、高旗先輩の信頼度引継ぎボーナスの影響により一週進めると信頼レベル上昇イベントがドバー! っと出て来るので待機。

せっかく目で追えるテキスト速度なんだから、ほら、見ろよ見ろよ(強要)。

「先輩・先輩!! ほも先輩ー!!」

〈なびきちゃん、どうしたの。〉

「さっきの模擬戦の動きすごかったです!! あれって一体どうやったんですか!」

〈あれは相手の動きを読んで、先回りするように避けながら攻撃したんだよ。〉

〈部員同士だとお互い慣れてるけど、公式戦ではどれだけ早く相手の癖を掴むかが大事だね。〉

「わあー! 何だかみんな達人みたいでカッコイイです!!」

あ!! ほも先輩見てください、あの動きはなんですか!」

〈音咲のチームワークからくる息の合った攻防に、興奮して目を輝かせるなびきちゃん。〉

〈確かに、手の内を知り尽くした同士の拮抗は綺麗な演武のように見えなくもない。〉

「ほも先輩!! アタシもやってみたいです! 練習お願いします!!」

〈小さな身体がびよこびよこ飛び跳ねる様子を周囲が微笑ましく眺めている。〉

〈どうやら何回か練習相手をするうちに、いつの間にか懐かれてしまったようだ。

なんか犬っぽいよなあ？（語録改変）

おう、ワンワン鳴いてみるよ（可愛がり）。

「ほも先輩！ ほも先輩!!」

練習前にアタシとランニング競争しましょう!! 先に三周した方が勝ちですっ!」

〈いいけど、練習前にあんまり全力では……

「行きますよー!! よーーいドン!!」

〈……ええ……速いし……。

「うわーん! ほも先輩ー!!!!」

〈どうしたの。今お昼休みっていうか、ここ二年の教室だけど。

「うう、さっきの授業が全然わかんなくて……勉強教えてくださいー!!」

〈それはまず先生か、もしくは家でお姉さんに聞きなさい。

〈………とりあえず、今日の所は特別に奏さんと一緒に見てあげるから。ほら、こっち。

「えっ」

「わーい!! ありがとうございます!!」

〈断ろうとしたが周囲の視線に負け、つい奏さんを道連れに引き受けてしまった。申し訳ない。

〈しかし懐き過ぎである。これが本当に高旗先輩の妹なのか。

〈高旗なびき（たかはた なびき）の信頼レベルが2に上昇した!

〈放課後、いつものように奏さんと部室へ向かうと、なびきちゃんが一足早く着いていた。

「あつ、ほも先輩!! 奏ちゃん!! お疲れ様ですー!」

「うん。お疲れ様、なびきちゃん」

〈屈託のない笑顔に、こちらも挨拶を返す。〉

〈普段の練習相手とお昼も三人一緒に食べるようになり、もはやうちの教室でも顔馴染みだ。〉

〈あれから結局勉強も見てあげたりして、奏さんとはすっかり友達感覚である。〉

「なびき早いつてばー。ちよつと待ってよー」「あつ、先輩お疲れ様ですっ」「今日も頑張ろうなーなびきー！」

「みんな！……うん！ えへへ、それじゃアタシ、先に準備してきますね!!」

「あつ、なびきちゃん前見て……」

「うわわっ!!? あつ、ご、ごめんなさいー!!」

〈練習用具を抱え、途中色々とぶつかりそうになりつつも元気よく部室を出て行った。〉

〈上級生達はもちろん、一年生同士でも可愛がられる姿は何というか、マスコットのようだ。〉

「はいそれじゃ今日はここまで！ 残って自主練する子は各自で後片付けするように！」

以上、解散!!」

「「お疲れ様でしたー!!」」

アヤツ→ス!! (体育会系特有の万能言語)

〈練習が終わり、指希先輩の号令で部員達が散り散りになる。〉

「あーそれと、団体戦のレギュラー候補はフォーメーションの練習が残ってるから集合ね。」

はいそこ、聞こえないふりして帰っちゃだめだよー！」

「やだー!! あんだけやったらもういいじゃん!!」「部長の鬼!

悪魔!!」

「あれあれー? 先輩達があんな事言ってるけど、なびきちゃんはどう思う?」

「えっ?! えつとえつと、えー、ううー……………あ、あのつみなさん!!
アタシも未熟だけど足を引つ張らないようにいっぱい頑張るので、
よろしくお願いします!!」

「なびきを盾にしゃがった!!」「ずるいぞ部長ー!!」

〈なびきちゃんの背後に回って肩に手を添え、渋るレギュラー候補
達を説得させる指希先輩。

〈流石の手管である。ぜひ見習いたい。

〈レギュラー候補達による団体戦の居残り練習は難航していた。

「……………んー、悪くない、悪くないんだけど。

なびきちゃん、もうちよつと皆に動きを合わせられるかな?」

「ごつごめんなさい……………!! アタシのせいでみなさんまで……………!」

「いいのいいの、気にしないで。むしろ一年でこれだけやれる方が凄
いんだから」

「そうだぞー気にすんななびきー!」「うちの部長の要求が鬼なだけだ
からなー!!」

「……………その二人は元気が有り余ってるみたいだし、腕立て20回2
セットね」

「うおおー! 頑張れなびきー!!」「いびりに負けんなー!!」

〈他のレギュラー候補の上級生達が元気付けようとするが、原因で
ある本人の顔色は晴れない。

〈彼女のガード技術は確かだが、今のチームで運用するにはより高
度な連携が必要である。

〈しかし生来の不器用さのせいか、何度教えても中々覚えられな
かった。

ダメみたいですね…………… (冷静)。

人前で失敗してドツボにハマるのはいやあくキツいつす (精神疲
労)。

〈それからもうしばらく練習を続けるも、やはり上手く行かず。

「あつ……………あ……………うう……………」

＜周りど動きを合わせられず、相手チームの攻撃を受け損ねてとうとう倒れるなびきちゃん。

＜ミスが焦りを生み、更にミスを生み出す悪循環。

＜憔悴しきつて完全に明るさを失った姿に、周囲も掛ける言葉が見当たらない。

＜……………

？声を掛けない。

＜？声を掛ける。

＜きつと今までのガードとしての技術は、文字通り必死で身体に覚え込ませてきたのだろう。

＜この不器用さで、歪ながらも形を成した彼女の努力の日々を思った。

＜……………なびきちゃん。立て。

「あ、ほも先輩……………アタシ……………」

＜近づいて、無理やりにその小さな身体を支え起こした。

＜そのまま弱気に揺れる目を正面から捉える。

＜解決策は大体わかった、諦めるのはまだ早い。

＜ここまで頑張つて来た自分を信じて、真つすぐに立つんだ。

「！ え……………ほんと、ですか？」

＜もちろん、約束する。

＜……………指希先輩。今日の所は一旦終わりという事でいいですか。

「うん、そうだね……………。そろそろ皆も疲れてきてるし、これ以上は効率悪いかな」

＜では、今から皆でご飯でも食べに行きましょう。

この辺にいい、美味しいラーメン屋の屋台、来てるらしいっすよ(幻聴)。
行きませんか？

「……………あー、なーるほどね。オツケー！ 行こっか！」

「さんせー！」「正直もうお腹ぺこぺこっす！」

「え、ええ!?! 皆でご飯って……今からですか?!」

◁突然の提案に戸惑うなびきちゃん。

◁上級生達は慣れたもので、あっさりに乗ってきてくれた。話が早くて助かる。

◁もう良い時間だし、お腹空いてるでしょ。

「そ、それは………はい、実はその、さつきからすごく……」

◁じゃあ一緒に美味しい物を食べよう。チームワークの特訓その一だ。

「……………はいっ!! わかりました!!」

「よしそれじゃさつきと後片づけして行くよー!」「うっす!!」「どんどんしまろー!」

◁手を放し、自分の足で立ったなびきちゃんの顔にようやく笑顔が戻った。

◁その後、その体力に見合った量を食べる彼女に皆で一品ずつ分けて、賑やかな食事となった。

◁思い付きの作戦は、ひとまず成功といった所だろう。

◁なびきちゃんと約束を交わした。

◁◁高旗なびき(たかはた なびき)の信頼レベルが3に上昇した!

◁◁高旗 なびき(たかはた なびき)と練習時、追加でステータスが上昇するようになった!

◁◁高旗 なびき(たかはた なびき)とチーム時、互いのステータ

スが上昇するようになった!

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

気の合う仲間や友達と食べる飯は最高って、それ一番言われてるから(真理)。

でも毎日はいんどいでほどほどオナシヤス!(人付き合い苦手部)

そんなわけでなびきちゃんの信頼レベル2・3上昇イベントでし

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 18 春合宿くなびき信頼Lv. 4

標：信頼レベル上げ

目

&育成

一年目

高旗先輩out奏in

秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P. (4BP) (9BP)

休： 7 8 1 2 3 4 5 6

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月： 10月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月

なびきin ↑ S.H.I.N.E.

!!
プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP)

(38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

ドッグブリーダー物語なRTAパート18、はあじまあるよー!

前回は二年目に入り期待の新人なびきちやんが加入。信頼レベル上昇イベントで早速その欠点を晒しておちんこでるのを、ほも君直々に奮い立たせてやった所まで。がんばれ♥ がんばれ♥

スタメン大括約予定の彼女には夏の二度目のS・H・I・N・E。までに実力を引き出してもらおう必要があるのです、ここから練習時はスーキングしまくってバツチェ鍛えてやりましょう。

従順になるまでやるからなあ? (信頼レベル5)

「ほも先輩!! もう一回お願いしますっ!!」

〈なびきちやん。わかった、それじゃもう少しだけ頑張ろう。

「はい! ……えへへ、ありがとうございますっ!!」

〈高旗 なびき (たかはた なびき) の信頼度が上がった!

(信頼度上昇) いいゾ。

なびきちやんは得意練習が耐久系であり伸ばすうまあじがないため、必要回数を減らせる信頼度上昇イベントは大歓迎です。

どのキャラも体感六割程度は他の練習も選びますが、あまりアテにしない方が良いでしょう。

んじや今のうちにキャラ解説の方いきましょ。

ほんへでも触れられてるように、なびきちゃんは姉の高旗先輩と同じく団体戦のメイン盾です。

盾役としての性能ですが、姉が広範囲ガードで自動的にかばいつつ鈍重ながら自分も多少動けるのに対し、こちらは移動とダメージカットを兼ねたスキル『D（ダツシュ）ブロッキング』と、近くの対象を押し出す『Qプッシング』でちよこまか動いてはひたすら手動で防ぐタイプ。

◇『Dブロッキング』3BP（OP込み） 条件：耐久8、敏捷8以上。

相手の攻撃にタイミング良く合わせると受ける被ダメージを大幅に軽減出来る。

D⇨ダツシュの略で、使用時にステップと同等の移動が行える。

通常ステップ移動の慣性も組み合わせるとかなりの範囲をカバー可能。

ブロッキングに成功すると連発出来るが、空振りした場合は少し硬直する。

◇『Qプッシング』3BP（OP込み） 条件：敏捷8以上。

至近距離の相手を大きく突き飛ばす、ダメージはなし。

Q⇨クイックの略で、スキルの硬直時間が短縮される。

敵前衛を突き飛ばすほか、味方やミニオンを特攻させたりも出来る。

このブロッキング系スキル、タイミングは割とシビアですが超低燃費で発生が非常に早いにクールタイムも無く、慣れたプレイヤーが使うと大変実用的かつ楽しいスキルです。

おう打ってこい打ってこい（無敵）、レッツゴージャスティーン！
一方、本人を抜けて後衛に攻め込もうとする相手には『Qプツシン
グ』。

どちらも発生・硬直が優秀なので受けてから突き放せます。どすこ
いどすこい。

なびきちやん自身のブロッキング精度は体感8割と微妙に信用な
らない数字ですが、成功時のリターンと相殺って事で割り切りましょ
う。

むしろ魔力ダメージは下手にミスって直撃するくらいなら、ほも君
と指希先輩で受けた方が被害が減るまであるので一概にデメリット
とも言えません。

どつちみち指希先輩の《ライフリンク》があるのがマジで心強い。
ハハハハ、最強コレ！

一方ステータスの配分も、姉に若干劣るものはかなり高い耐久に、
筋力と魔力は完全に捨てて、指希先輩よりやや上の敏捷と普通に無駄
がなく優秀です。

なお弱点である低めの精神は姉妹共通の模様。そこは真似しなく
ていいから（助言）。

総合的に見ると、単体では姉に負けるけど音咲の盾役としては実質
上位互換、そんな子です。

先輩達とのシナジー意識した大胆なビルド誇らしくないの？

音咲女子高校に1145141919点！（依怙轟負ホモ爺並感）

おっと、画面の方は恒例の春合宿イベントが来ましたね。

「点呼確認！……よし、全員揃っているな？

今日から部員同士の連携能力を高めるため三泊四日春の強化合宿
を行う。荷物を積んだ者からバスへ乗れ」

＜去年に引き続き、再び音咲ヒロインバトル部の春合宿が始まった。

＜未だ緊張の取れない一年生に、共同生活で上級生との親睦を深め
させるのが主な目的である。

〈その手始めに、毎年バスの最後部中央に見た目の怖い先輩を置く度胸試しがあるのだが……

「そうそう、偉そうに腕と足組んで、ゆっくり指トントンやって」

「おー、普段からあんま喋らないだけあって結構迫力あるなほも」
「おっしや一年入れさせるぞ、外の奴に合図しろ」

〈一緒に乗り込んだ協力係の上級生達から手早い演技指導を受ける。

〈真つ先にバスに乗せられ、最後部中央では今まさに自分が脅かし役をさせられていた。

「失礼しまー………うっ」「ね、ここ座ろっ！」「う、うんっ」

〈少し遅れて入って来た一年生達が、最後部のこちらを見るなり目を逸らして席を埋めて行く。

〈事前になるべく学年混合で座るよう言われているが、第一陣はすっかり固まってしまった。

〈まあ、これ見よがしに両隣を空けた柄の悪い上級生達がニヤニヤしていれば無理もない。

全国優勝までしてる先輩とか普通に考えて絶対逆らえないし怖いんだよなあ……。

目つけられたら一生マウント取られていびられそう……いびられそうじゃない？（偏見）

「あ……ふふ……」

〈奏さんが入って来て、今度は笑いを堪える意味で視線を外しながら一年生と一緒に座った。

〈去年の高旗先輩の気持ちが良いわかる。全くもって遺憾である。
「失礼しまーす！ ……あつ、ほも先輩!! そこ座って良いですかっ！」

〈しばらく誰も近寄らなかつたが、唯一自分に懐いてる一年生のなびきちやんがやって来た。

〈確認を言い終えるのとほぼ同時に、こちらの隣にすっぽりと収

まっつてしまう。

「えへへ、よろしくお願いしまーす!!」

〈うん、よろしく。〉

〈悪い上級生達の圧も気にせず、元気な笑顔を見せてくれた。本日の花丸一等賞である。〉

「おー、今年一度胸試しは順当になびきちちゃんが一番乗りだね。」

趣旨に合ってるかはちよつと微妙っぽいけど……まあ、仲が良いなら別にいつか!」

「そこのお前もこつち来い。へっへっへ、一年同士で固まつちや駄目って言われただろー?」

「やっ、やだー! 先輩達なんか怖いっ!」

〈最後に指希先輩と三年生が乗り込み、不幸にも最初に固まつた一年生から一人捕まえて来る。〉

〈案の定こちらのもう片方の空いた隣に犠牲者を押し込め、今回の合宿の目的が説明された。〉

「と言うわけで、第一回レクリエーション勝者のなびきちちゃんには特別メニューのリクエスト権が与えられます!」

なびきちちゃんはこんな練習がしたいなー、とかある?」

「えっ! うーん、うーん………あ、あのお、だつたらアタシ、厳しくてもいいんでほも先輩と同じメニューがしてみたいです」

こ→こ←、一年目同様プレイヤーが好きなようにステを伸ばせませす。

更に二年目はほも君のみならず全員が対象なので、スタメン全員と相性の良いものを選んでやりましょう。何気になびきちちゃんのリアクションが得意・苦手パターンあつて楽しいです。

「だつてき、ほもちゃん。」

……ふふふ、可愛い後輩をどんな練習に付き合わせるのかなー?」

〈リクエスト権を得たなびきちちゃんから、まさかのパスが回つて来た。〉

〈ニコニコと何食わぬ態度の指希先輩をはじめ、周囲のレギュラー陣が皆悪い顔をしている。

〈ただでさえ慣れてない一年生には過酷なメニューだが……仕方ない。

〈?精神を鍛える。

?敏捷を鍛える。

?↑前へ

安定択は耐久・精神・敏捷ですが、今回は精神を選択。

ほも君の残弾が増えつつ、なびきちちゃんも多少魔力ダメに強くなり、手数で攻める相手に対するガス欠の心配も無くなります。SP無いとガチの置物だからね、しようがないね。

「え?! メ、メンタルトレーニング、ですか……?」

〈目の前に嫌いな食べ物を出されたかのように、露骨に硬直するなびきちちゃん。

〈本当に申し訳ない。

「それだけじゃないよー。」

なびきちちゃんの苦手なスキルの効率化も、座学と実践でみっちり教えてあげるからね。

……あれあれー? それともやっぱり違う練習が良かったかな?

「うう……や、やりますっ!! 頑張りますっ!!」

「おっしや、よく言ったなびき!」「ぜってー後悔させてやるから期待してろよな!」

「へう”う”う”う……ほも先輩い……」

〈意地悪な笑みを浮かべた指希先輩の誘導で、もはや後には引けなくされてしまった。

〈まだバスの中だというのに上級生達もすっかりやる気を出している。

〈こちらの袖を掴んでまさしく縋るような目つきをされたが、これが洗礼なので諦めて欲しい。

俺もやったんだからさ（受け継がれる意志）（エコー）。

〈ちゃんど見てるから、最後まで頑張ろう。

「はい”い……”」

「もちろん、あなたもほちゃんの隣座ったんだから一緒に頑張ろうねー?」

「え”っ!?! わ、わたし無理やり連れて来られただけなのに……な、なびき”!!?!”」

「ごめ”ん”な”さいい……”」

〈音咲ヒロインバトル部を乗せたバスが、合宿所を目指し道路を走る。

〈どうやら今年も賑やかになりそうだ。

〈〈体力が大きく減少した!

〈〈部員全員の精神が大きく上昇した!

〈〈BP（ボーナスポイント）を1獲得した!

〈〈高旗 なびき（たかはた なびき）の信頼度が上昇した!

がわ”い”い”な”あ”な”びき”ち”ゃ”ん”。

お勉強苦手なのに頑張つて偉いね♥ 毎日気絶するまでやれ（命令）。

合宿での特訓を経てメンバー全員の精神を底上げ出来ました。

ついでになびきちゃんの信頼度が確定で上昇してくれるのもありがたい。加入時期の遅いキャラはレベル上げの必要ノルマも少ないので、《魅力的》も相まって一回の上昇分でよく効きます。

んでもって、さっそく信頼レベル上昇イベントがやって来ましたね。

「あっ……ほも先輩! 奏ちゃん!! 今日も特訓よろしくお願ひしますっ!!!」

「う、うん。よろしくね」

＜放課後、いつものように部活の時間になった。

＜奏さんと部室へ向かうと、すでにグラウンドで準備しているなびきちゃんが挨拶してきた。

＜？その意気だ。

？今日は休みにしよう。

「はいっっ!!」

＜こちらに身体ごと向き直り、やる気十分の良い返事が返ってくる。

＜彼女をレギュラー陣の動きに合わせるため行っている特訓は、あれから順調に進んでいた。

＜位置について……よい、ドン!

「いっちにっ! いっちにっ!!」

「いっちに! いっ……どおおおなびき! ちよっ速い速いっ……ぐわ!!」

「わあ?! わぶっ! いたた……ご、ごめんなさいー!!」

「……………うーん、足の速さに差があるとまだまだ厳しい、かな?」

＜レギュラー候補達が二人三脚で走る中、転んでしまったなびきちゃんペアに指先先輩が呟く。

＜互いの足並みを揃える事が重要なこの種目は、息を合わせる訓練に丁度いい。

＜申し訳なさそうに目を伏せ、ゴールした後も少し落ち込んでいるなびきちゃんに近づいた。

＜顔を上げて、なびきちゃん。一緒に走ったパートナーと、皆の顔をよく見るんだ。

「え…………?」

＜ほら、別に誰も怒ってなんかいない。

＜緊張で上手く行かないのも、それで不安になる経験も、ここにいる全員よく知ってるから。

＜パートナーになっていた部員をはじめ、周囲の上級生達が皆頷く。

＜明るく元気な性格とは裏腹に、なびきちゃんは自分に自信が無く落ち込みやすい所がある。

〈不器用さからくるコンプレックスや緊張に弱いのが原因と思うが、繊細で扱いが難しい。〉

〈怖がらなくて大丈夫。さあ、もう一回やってみよう。〉

「……………はいっ!! ……あの、先輩! よろしくお願いしますっ!!」
「おう、任せとけ! 何度転んだって付き合ってやるよ!」

〈後は、人懐っこいけど意外と人見知りする子でもあるというのもわかった。〉

〈同学年に比べて気を遣っているのだろう、上級生と一緒にいると動きが固くなりやすい。〉

〈その意識を変えようというのが、この訓練の肝だった。〉

〈焦らず急かさず、リラックスさせるのを最優先に。〉

丁寧丁寧になびきちゃんをお世話するほも君&先輩ズ。

いぬのきもちでも回し読みしたのかな? いいからあくしろよ(ブリーダー失格)。

〈翌日。〉

〈訓練内容は少し進み、二人三脚から三人四脚、コースもより複雑なものへと変わった。〉

〈位置について……………よいい、ドン!〉

「二いち、に! いち、に!」

「なびきちゃん次左曲がるよー! よし、今度は……………なびきちゃ、なびきちゃん!」

「どわあああッ?!」

「うわーん!! ごめんなさいー!!!」

〈中央固定のなびきちゃんが、連続カーブに対応しきれず左右の先輩を巻き込んで倒れた。〉

〈全員変身してるため怪我は無いが、当然他のチームから引き離されてしまう。〉

〈途中までは順調だっただけに惜しい結果だ。〉

「ほもさん、そろそろ時間かも…………」

〽一位を取ったチームから奏さんが戻ってきて、校舎の時計に視線を向ける。

〽根を詰めても逆効果なので、練習後の居残りはほどほどで切り上げると決めていた。

〽では、今日の食事は指希先輩達の一品奢りという事で。

「あたた、今回は自信あったんだけどなあ……」

「まあ負けたもんはしゃーないって」

「あ、あのっ!!」

〽特訓後の恒例となった食事会。

〽上級生同士の間では、罰ゲーム感覚で成績下位者が何かしら奢る流れが出来ていた。

〽が、ここで最下位常連かつ罰則対象外のなびきちやんが、意を決したように手を上げる。

「こないだ特訓のことお姉ちゃんに話したら、みなさんに悪いってお小遣い貰えました!」

なのでこれからはアタシも払いますし、今日は全部出させてください!!」

「え、高旗先輩が? ……あはは、じゃあ遠慮はいらないね」

「へっへっへ、ありがてえ。妹のツケはきっちり姉ちゃんに払って貰わねえとなあ?」

「え、ええっと、はい。」

でもあの、今後負ける分も込みで貰ってるんで、お手柔らかにお願いします……」

〽優しい雰囲気から一変、完全に相手をタカる目つきに変わった上級生達にたじろぐ。

〽この人達は後輩には甘いけど先輩には容赦が無いので、これを機に少し見習って欲しい。

「そーいや、ほもと奏とは息ぴったりだよな。なびき」

「あー確かに。二人ともそこんどこどうなん? 何かコツあんの?」

〽ファミレスでテーブル席を寄せ合い、食事も一息ついた頃。

〈まったりしたムードの中、ふとそんな話題が出て来た。

「私も最初は上手く合わせられなかったけど……多分、お昼と一緒に食べるようになって、なびきちゃんの勉強を見てたりするうちに、こ
う、なんとなく……?」

……あ、でも、ほもさんは最初から上手く合ってたかも……」

〈水を向けられた奏さんが考えながら答え、そのままこちらにパスを回す。

〈言われてみれば、個人としては、なびきちゃんの動きを合わせ辛
いと感じた事は一度もない。

〈いつも通りの動きをしても邪魔にならず、向こうから読み取って
くれてる気さえする。

〈理由は見当もつかないが、何故だろう?」

「あ、あーうう……そ、それはー……」

〈無言の視線が集まり、なびきちゃんがもじもじと両手の指先を合
わせる。

「あらあら、なーになびきちゃん? 何か上手く行く心当たりあるの
?」

「お前の力になりたい先輩達に教えてくれよおー?」

よくわからんけど相手が恥じらいを見せるや否や弄りに行く畜生
の鑑にして先輩の屑。

ええぞ! ええぞ! (悪ノリ)

「そのー……ほも先輩の雰囲気って、何となくお姉ちゃんに似てて安
心できるっていうか……」

普段は黙ってるけど、しっかり見守ってくれてるのがわかるってい
うか……」

〈なんと。

「あー、そういう事かあ……。なるほどね、ちよつとだけわかるか
も」

「口数少ないっつーか、どっちも不愛想な割に面倒見は良い方だもん

な。確かに似てるわ」

〈妹の視点から、高旗先輩と自分が似ているとは……考えた事もなかった。

〈納得した様子の数名に何やら失礼な目で見られた気がするが、まあよしとしよう。

「んじやうちらも真似してみるか。……おい、なびき」

「……ジュースのお代わり飲むか？ なびき」

「わーわー!! 恥ずかしいからやめてくださいっ!!」

〈上級生から雑なモノマネでからかわれ、顔を真っ赤にするなびきちゃん。

〈ひどい羞恥刑である。

「ほもさんと息が合う理由はわかったけど……調辺部長と上手く行かないのは何でだろう？」

〈手に取ったホットココアを一口飲んだ奏さんが、ぽつりと疑問をこぼす。

〈そこは自分も不思議に感じていた。

「えっ?!」

〈なびきちゃんは人見知りで緊張しやすいが、一方の指希先輩は相手の意を汲むのが大得意だ。

〈他の部員達よりも上手に連携を取れそうなものだが、意外にも二人の相性はよろしくない。

〈となると、こちらもなびきちゃん側に何か理由があるのでは？

「……………」

〈先程までの照れた様子から一変、目を逸らし石像になってしまった。完全黙秘の構えである。

〈……何だろう。こんなリアクションをされると、逆に気になって仕方ないのだが。

「なびきちゃん？」

「ひゃっ!? ひゃい!!」

「それ、わたしも気になってたんだよね……。ね、怒らないから教えて?。」

絶対怒るやつ！ 絶対怒るやつじゃないか!! (子供並感)

「……………あ、あの、アタシの小学生の時の担任が、いつもはすつごく優しいんですけど、怒るとすうつつつごく怖い女の先生だったんです。

よく無茶な遊びしてたアタシとか男子は皆何度も怒られて……調辺部長、その先生にそっくりだなあって……」

「ぶっ」「アツハツハ！ あーいるいる、そういう先生」「調辺先生！
くっ、くふふっ！」

教員歴五〇六年目くらいの、若干今期に焦り出したアラサー女教師かな？

彼氏と上手く行ってないときクツソ理不尽なキレ方しそう(偏見)。

＜恐る恐る告白するなびきちちゃんに、指希先輩をよく知る部員達が堪え切れず吹き出した。

＜本人の愛想の良さと、リーダーとしての日頃の努力が不幸にも裏目に出た形だろうか。

＜普通の下級生からは避けられていた高旗先輩とまるで正反対だ。

＜まったく、何がどう転ぶかわからないものである。

「ほもちゃんく？ 珍しくそんなニコニコしてどうしたのかなく？」

＜思わず釣られて笑っていたのを、目ざとく捕まえられてしまった。

＜八つ当たりは良くないと思う。

＜高旗なびき(たかはた なびき)の信頼レベルが4に上昇した！

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

生き物を世話するのは大変だなあ、リアルでは絶対やりたくないなあと思いました(小並感)。

皆よく人の事見てんねえ！(感心)

てなわけになびきちゃん信頼レベル4でした。
ここまで他のキャラも含め信頼度稼ぎは至って順調、夏までにきつ
ちり仕上げてやるの

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 19 奏信頼Lv. 5

標：信頼レベル上げ
目

&育成

一年目

高旗先輩out奏in
秘密特訓

入部 春合宿①

校合同合宿 ← 初詣 ↓

月： 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1 他

0月 11月 12月 1月 2月

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

(4BP) (9BP)

休： 0 1 2 3 4 5 6
7 8 8 9

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月： 3月 4月 5月 ▼ 6月 7月 8月 9月

なびきin ↑ S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP)

(38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

ほぼほぼバトルも出来るギャルゲー状態なRTAパート19、はあ
じまあるよー!

前回はなびきちゃんが信頼レベル4に上がった所まで。

ただでさえキャライベのボリウム多いのに、W・H・I・T・
E・飛ばしたせいで試合要素が空気になりつつあるけど、この手の
ゲームにはよくある事なので気にしない! (KONAMI感)

七月に待つ二度目のS・H・I・N・E・に向け、引き続き練習メ
ニューでなびきちゃんを見つけ次第ねつとりストーリーキングしてやり
ましょう。

おう、とつとと残りのレベル5も見せるんだよあくしろよ。

ヌツ! 『長距離走』になびきちゃん他うまあじ反応多数あり!

風穴ツ!

ヴヴウウウヴウウ (羽音)

奈落の毒蟲 (ランダム加入キャラ) !?

くっ……!! (寸止めカーソルずらし決定)

法師様!!

おいゴルア! (練習) 降りろ!

試合の役にも立たない連中が邪魔すんじゃないやねえ！ お前らは一生ベンチ座つてろ！（暴言）

危うくいらん信頼度上昇イベント起こす所でした。

おそろしく速い判断、オレでなきや見逃しちゃうね（無数敗）。
気を取り直していき

ヌツ！ 『短距離走』になびきちゃん・イスカちゃん他うまあじ反応あり！ 風穴ツ！

ヴヴウウウヴウウ（羽音）

奈落の毒蟲（ランダム加入キャラ）!?

オツヴェ！（寸止めカーソルずらし決定）

法師様!!

あのさあ……イワナ、書かなかった？（半ギレ）

RTAの邪魔すんなって!!

ええい、体力切れたから休養だ休養！

確認出来ないけど、通常プレイでも大体こういうタイミングほど理想的な並びになつてる気がする……気がしない？（物欲センサー亜種）

っしやあ！ 回復!! 練習行くぞコラ!!

……………（カーソルうろろうろ）

……………目標確認出来ず！ 妥協！ 次！

……………（カーソルうろろうろ）

……………目標確認出来ず！ 次！

……………（カーソルうろろうろ）

……………おいゴルア!!（ベッドから）降りろ！

三週連続休みとか舐めてんのかてめえー!! (屑乱数)
部活のストレスで鬱発症してんじゃねーぞなびきイ!!! 頑張れ♥
頑張れ♥ (追い打ち)

ヌツ! 『長距離走』になびきちちゃん他うまあじ反応多数あり!

風穴ツ!

ヴヴウウウヴウウ (羽音)

奈落の毒蟲 (ランダム加入キャラ)!?

くっ……!! (寸止めカーソルずらし決定)

法師様、風穴は使っちゃ駄目!!

いいかげんにしてください……!!! (全ギレ)

クソが (直球)。あーもうあったま来た!!

今まで割と大人しくしてると思ったら、この後半大事な時に反旗を
翻しやがって!

走者をイラつかせる天才にして味方の屑共がこの野郎……!! (血圧
上昇)

じつとしてろ! 逃げられねえぞお前! (神経集中)

蟲出んなよ……蟲出んな…… (ゴンツ)

「ほも先輩!! もう一回お願いしますっ!!」

〈なびきちちゃん。わかった、それじゃもう少しだけ頑張ろう。

「はい! ……えへへ、ありがとうございますっ!!」

〈高旗 なびき (たかはた なびき) の信頼度が上がった!

それでいいんですよ (ねっとりボイス)。

でも出来れば魔力か敏捷の練習に来て欲しかった (強欲)。

……ファツ!? つーかもう猶予一ヶ月切つとるやんけ!

予定ならこの辺でレベル5になってたはずなので、操作にも若干動

揺が見られます（微ロス）。

念のため監督の信頼度をチラ見しましたが、こちらは特に問題なし。

《魅力的》の補正をもつてしてここまで追いつめられるとは思いません。

と、なびきちちゃんより先に奏ちゃんの信頼レベル5上昇イベントが来ましたね。

こっちは夏までに必須なわけじゃないけど、ほも君の火力向上に直結するんで間に合つて良かったです。

〽よく晴れた、ある休日午前の音咲女子高校。

〽人気の少ない校舎の下、グラウンドで二校のヒロインバトル部の面々が各々準備を進める。

〽今日は、はるばる遠征にやって来た学校との練習試合の日だ。

「絶対勝つぞー！ー！！」

「おおおー！ー！！」

「相手のチーム、凄いや熱気……」

……でも、私達も負けてられない……っ」

〽隣で奏さんがこぼした呟きに、小さく頷く。

〽団体戦には特に力を入れているようで、同様の音咲相手に腕試しという事らしい。

〽事前にヤマを張っていたのか、見せ合いを済ませて早々に選出メンバーも決めた模様。

「……こちらの選出は以上だ」

「向こうの予想される選出と戦術はさつき話した通り。これでほぼ間違いないと思う。」

奏ちゃんは司令塔として臨機応変に指示出し、他二人は奏ちゃんを信じて動いて。

わたし達の分まで、頼んだよ奏ちゃん」

「……はいー」

〽自陣ベンチ前で円陣を組み、監督と指希先輩から本日のオーダー

が告げられる。

〈今回は他の部員に経験を積ませるため、チームの中心である指希先輩を欠いた編成となった。

〈おそらくあちらも全力は隠すだろうが、両者共それを理由に勝ちを譲るつもりは一切ない。

〈公式戦さながらのピリピリした緊張感が漂う。

プアプアプア——ツツ

「それじゃ……つとと」

〈審判へオーダー表を提出に行った監督を横目に、指希先輩が号令を出そうとして止まる。

〈校舎の屋上から突然、吹奏楽部のファンファーレが大音量で響いた。

〈慣れていない相手チームも、驚いたように見上げている。

「あはは、こつちで練習試合するの久しぶりで忘れてたなあ」

「あーこれ聴くと、ホーム戦って感じるわ」「向こうはアウエー感。ハないつすね」

実際、こういうのフェアプレイ精神的にはいいんスカね？ まあいつか（適当）。

こんなもん世のスポーツアニメの試合演出に比べりや可愛いもんだぜー！

〈全国常連の音咲ヒロインバトル部の応援が恒例となっている吹奏楽部である。

〈ホームでの練習試合は、彼女達にとっても良い練習の機会らしい。〈……………。

〈ふと、あの集団の中にいるであろう奏さんの友達、みーこさんを思い出した。

〈結局あの自撮りデートの後には何の音沙汰も無かったが、本人はあれで満足したのか……

く月 く☒

「お？ 聴いたことないなこれ……新曲か？」

「……あ、この音……みーこ……」

＜ファンファーレが止み、始まった応援曲の出だしに奏さんがぴくりと反応した。

＜以前教えてもらった、かつて中学でみーこさんと沢山演奏した思いの曲。

＜それは、出会いと別れ、そして変わらぬ友情を表現した曲、らしい。

「……………調辺部長。」

今回は、私が号令を掛けていいですか」

「ふふっ、オッケー。ビシっとお願いな」

＜指先先輩が片手を前に突き出し、そこへメンバーが次々に手を重ね合わせて行く。

＜最後に手を重ねた奏さんが微笑み、高らかに声を上げた。

いいよ！ こいよ！（号令）

天に掛けて天に！ 円陣全開！

「音咲ファイトーーーーッッ!!」

「おーーーーッッ!!」

「残り人数2ー0！ よって第三セット、音咲女子高校の勝利！ 一

同、礼ッ！」

「ありがとうございますましたッッ!!」

アヤツ→ス!!（体育会系特有の万能言語）

＜センターライン前に整列した両チームが、一斉に礼を取る。

＜公式戦は一本勝負だが、今回は練習試合ということで勝敗問わずの三本勝負となった。

＜互いに選手を入れ替えつつ拮抗した対決は、最後の一戦を音咲が

見事に奪い取り勝利した。

「ほもさんっ!!」

〈指希先輩の代わりとして、三回ともフル出場した奏さんがボロボロの状態で駆け寄ってくる。

〈汗まみれで前髪を貼り付けたまま、輝かんばかりの笑顔だ。

〈ナイスファイト、奏さん。

〈こちらも負けず劣らず汗だくの手を振り上げ、強めのハイタッチを交わす。

「うんうん。奏ちゃん達がこれだけやれるなら、来年もうちは安泰だね」

「あつ、部長……。さっきは生意気な事を言つて、その……」

「何言つてんの、立派にリーダーやれてたよ！ もつと自信持つて！」

「そうぞ奏！」「いい判断力だった！」「ナイスガッツ！」

「!? あ、あうつ、皆、痛いつ、いたつ……ふふつ……」

〈近づいて来た指希先輩が満足そうに肩を叩いたのを皮切りに、部員達が次々群がって来る。

〈背中や尻をバシバシ遠慮なく叩かれ怯む奏さんだが、その表情は明るい。

まあ、本RTAでは永遠にベンチなんですけどね（無慈悲）。

奏様の、今後より一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

♪ ♪ ⊠

〈屋上から、祝福するかのように一人分のトランペットの音が鳴った。

〈二人で音のした方を見上げる。

「ほもさん。この後少し時間、良いかな……?」

〈もちろんだ。

「……何よ急に呼び出して。アタシも練習で忙しいんだけど」

〈練習試合が終わり、吹奏楽部の練習時間も知っている奏さんが連

絡を入れてしばらく。

〈待ち合わせ場所に指定した学校近くの公園に、みーこさんはすぐに現れた。〉

〈奏さんを真ん中に、ベンチに三人腰掛けて話す。〉

「うん。わかってる……。今日のみーこ、今までよりずっと上手くなってたから。」

ソロパート、貰えるようになっただね」

「カナつちがいれば、きつとカナつちがやってたよ。」

……そつちこそ、円陣の号令まで任されて大活躍だったじゃん」

「ん……。あれはその、練習試合だから、主力の代役というか……」

「はあ？ こつちだってそんなの似たようなもんなんだけど。大した事ないってわけ？」

「ちがつ、そんなつもりじゃ……」

もっと自信持って自信持ってほら。引っ叩かれたケツの手形が今日のお前の努力の証！

指希先輩からついさつき訓示いただいたばつかダルルオ!？」

〈奏さん、円陣の号令はみーこさんの演奏を聴いてから自分がやりたいって頼んでたよ。〉

「……そうなの？」

「ほっ、ほもさんー!」

〈あと最後の方はバテてたし監督も下げようとしてたけど、絶対やるって譲らなかつた。〉

「そんなの教えなくて良いから……! もっ、もうっ……!」

俺知ってるんですよ? (密告)

うだうだ言っていないでYOUさつさと仲直りしちゃえよ。

「……………ふーん」

〈まんざらでもないといった表情を、すぐに横へ逸らして隠すみー

こさん。

〈無関心を装っているが、そわそわと動いている身体だけでも感情がバレバレだった。

「く〜んっ！ ……みーこ、聞いて」

〈咳払いをして姿勢を正す奏さんに、その横目が向けられた。

「私、やっぱり吹奏楽部には戻らない。

……でも、吹奏楽とみーこの事、今もずっと大好き！

でも、同じくらいヒロインバトルと、ほもさん達の事が大好き!!」

「……知ってる。

今日の試合と……この間のアレね。

あんなの見せられたら、カナつちが本気で楽しんでるのなんて嫌でもわかるよ」

〈この間のアレとは、例の自撮りデート動画だろう。

〈恥ずかしがる奏さんを押さえ、学校で証拠の無編集データを手渡した日を思い出す。

〈彼女はあの数時間の動画を最後まで観たのだろうか。

一切飛ばさず観てたとしたら逆に怖いと思うんですけどそれは……。

お前AVの冒頭とかどうでもいい茶番までじっくり味わう派か？

(偏見)

「……………また一緒に話したり、遊んだりしても良い？」

「いいよ。アタシもあれから話したい事いっぱいあるし。ほい、仲直り」

「！ うん…………っ！」

〈軽く差し出された小指に、もう一本の小指が固く合わさった。

「ほもさん、でいいよね？」

面倒な事に付き合わせちゃってごめん。おかげで助かった」

〈とんでもない。こちらとしても、みーこさんとの仲を元に戻せて何よりである。

「……アンタ結構慣れ慣れしいな。まあいいや、あんがと」

〈ついでのように拳を向けられたので、こちらも軽く突き合わせる。

〈めでたしめでたし、これにて一件落着だ。

「ていうかカナっちさあ……」。

ヒロインバトルはともかく、もう片方の好きは全然同じくらいじゃないっしょ

「え、えっ?!」

「いや、今更そんなびっくりされても……」。

あれから他の先輩達に聞いたんだけど、そもそもカナっちがあの特徴な先輩と喧嘩した悪口の内容って……」

「わーっ!!! だめ、だめっ絶対だめ!!!」

〈何事か言おうとしたみーこさんの口を、奏さんが両手で塞ぎに掛かる。

〈仲直りした途端に賑やかなものだ。

「別に良いけどさあ、気持ちの順番はちゃんと伝えとかないとマズいんじゃないの?」

黙ってるうちに他に取りられちゃっても知らないよ?」

「うううううううう……」。

……………

……っあ……………ほもっ、ほもさん!!!」

〈隣で何度か小さく深呼吸してから、耳まで真っ赤にした奏さんがこちらを振り向く。

〈はい。

「あのっ!」

さっきはああ言ったけどわたっ、私、一番好きなのは、ほもさんだから!!」

〈良く晴れた空の下、まばらに見える通行人も構わないとばかりの大声で宣言された。

〈もちろん、知っている。

〈奏さんとの信頼が最大まで高まった。

〈〈管崎 奏（かんぎき かなで）の信頼レベルが5に上昇した!

◇◇ 魔力がとても大きく上昇した！

◇◇ B Pを2獲得した！

◇◇ 管崎 奏（かんぎぎき かなで）が

《魔力ブースター+》『コンチエルトバーストカデンツア』を
取得した！

LEVEL UP LEVEL UP

LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

うーんこの確信犯（誤用）。

伊達に日頃から女に化けて確信犯（正用）してないですね。面の皮の厚みが違いますよ！

というわけで奏ちゃんの信頼レベル5上昇イベでした。

魔力ボーナス+B Pゲットめでてえ。

◇◇《魔力ブースター+》B P 3 条件：《魔力ブースター》から
ランクアップ。

試合開始時、自動的に魔力バフが入る。

「攻撃バフ」ではなく「魔力バフ」なのでバフの種類は重複しない。

◇◇『コンチエルトバーストカデンツア』

管崎奏専用必札スキル。

魔力依存の全体貫通攻撃で、味方全体のバフの種類・量が多いほど
威力上昇。距離減衰あり。

最大威力の場合は怯みの追加効果。

回避不能な攻撃であり、攻撃バフと絡めた際の最大威力は圧倒的。

《魔力ブースター+》は試合開始時に魔力バフが入る特徴。

上昇量は通常の攻撃バフスキルほぼ一回分に相当し、おまけにそれらとはバフの種類が違うため、組み合わせると単純な重ね掛けよりも少し効果の高い優秀な火力補助。

当然ほも君にも後で覚えさせます。

そして『コンチエルトバーストカデンツァ』は味方全体のバフが多いほど威力の上がる、持久戦向きの必札スキルにして、貴重な全体攻撃。

当然指希先輩との相性は抜群ですが、アタッカーはほも君で間に合ってるのでキャンセルだ。

「ここが、今日の対戦相手の学校……ごくり……！」

～バスから降りたなびきちや

ヌツ！ 来たつ、来たつ来たなあ！

マチカネタゾ！ なびきちちゃんの信頼レベル5がギリギリ間に合っ

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 20 なびき信頼Lv. 5レギュラー獲得

標：信頼レベル上げ

&育成

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月	11月	12月	1月	2月	7月	8月	9月	1
月	月	月	月	月	月	月	月	月

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B P : (4BP) (9BP)

休 : 7 0 1 2 3 4 5 6
 8 8 9

二年目

春合宿②

選拔メ

ンバー特訓

月 : 3月 4月 5月 6月 ▼ 7月 8月 9月

月 10月 11月 12月

なびきin ↑ S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

「ここが、今日の対戦相手の学校……ごくり……!」

▽バスから降りたなびきちゃんが緊張した様子で校舎を見やる。

▽今日は他校へ遠征しての練習試合の日。

▽あれから更に特訓を続け、ようやく形になった結束力のお披露目の機会だ。

ギャルゲーパートもいよいよラストなRTAパート20、もう始まつてる! (ホモガキ)

前回は奏ちやん迫真の告白をさらっと受け流した所まで。

一番好きとは言ったけどLOVEとは言っていないし、現状維持もしゃーなしやな!

エピソードでお相手に選ばれば正式にお付き合いする様子が見れますが、そもそも信頼レベル最大からなぜ一人しか選べないのか、コレガワカラナイ (SLG特有の周回強要)。

今回はなびきちやんレベル5上昇イベントから。オツスお願いしまーす!

▽肩の力を抜いて行こう、なびきちやん。

「そうそう、ここまでの練習で身体が覚えてるはずだから大丈夫だつて！」「ミスってもしつかりフォローしてやるから任せとけ！」

「は、はいっ!! みなさんよろしくお願いします!」

◁他のレギュラー陣と一緒に声掛けると、元気な返事が来る。

◁皆との信頼を深めた練習の日々は決して無駄ではない。

◁まだ少し表情が硬いが、声にはいくらかの自信が窺えた。

なおモブ連中は公式戦でスタメン落ち確定の模様。悲しいなあ……。

「はい整列! お喋りはそこまで。お迎えの人も待つてるしもう行くよー!」

◁指希先輩の言葉で、音咲ヒロインバトル部はグラウンドへと向かった。

「今日の練習試合は一回勝負の公式戦と違って、勝っても負けても三セット。」

メンバー六人全員に出番があるから気を引き締めてね」

「はい!!」

◁両チーム挨拶と準備も済み、団体戦の時間となった。

◁見せ合いを終えて、ベンチ前にそれぞれ輪を作って作戦会議を始める。

「それと、なびきちちゃんにはフル出場してもらいます。」

調整確認もそうだけど、相手チームは力任せのアタッカーが多いからね。

とつても忙しくて大事な役目になるよ。行ける?」

「がんばりますっ!!」

「ん、よし」

◁ウォーミングアップで緊張もほぐれたのか、なびきちちゃんの力強い返事に指希先輩が微笑む。

「それじゃ、まずなびきちちゃんと組む二人の内一人は……ほもちちゃん、お願いできる?」

〈はい、もちろんです。

「じゃあ後は……これでよし、と。

なびきちちゃんは体力使い過ぎないように気を付けて。他は思いきりいっっちゃって良いからね?」

あゝ(モブ校蹂躪) いいっすね。

まあ、こっちはテキスト送るだけですが。実際戦わされたらすげえロスだぜ? (安堵)

どうせ一ヶ月後には予選でぶっ飛ばす予定だから楽しみにしててくれよな。

「おいなびき、折角だし号令やってみるか?」 「賛成」

「えっ!!?」 「ア、アタシですか?」

〈言うが早いのか、三年生達が見る間に片手を突き出し重ね合わせていく。

「ふふ……なびきちちゃん、ファイト」

〈奏さんが重ねた手の上に、更に自分の手を重ねた。

〈最後に、動揺していたなびきちちゃんが覚悟を決めて手を伸ばし深呼吸を一つ。

「スウウ……」

……がんばるぞーーーっっっ!!!」

「おーーッツツ!!!」

〈大きな大きな声が、グラウンドに響き渡った。

「残り人数1ー0! 第一セット、音咲女子高校の勝利!」

〈わっ、と音咲のベンチから歓声が沸く。

〈初戦から激しい攻撃の応酬になったが、どうにか勝つ事が出来た。

「やったー!!」 「ありがとうございます!」

〈先にKOされていたなびきちちゃんがこちらに飛びついてくる。

〈嬉しいが、勝負はまだまだこれからだ。

〈一緒にベンチに戻り、二セット目の作戦会議に入る。

練習試合とは言え、ほも君個人は社会的生命が掛かっていると
ヒヤヒヤものですね。

一応負けイベントでもKOだけは絶対してないんですが。

この人なんでこんな無茶してんの（素）。

スポーツに対する文字通りの命の賭けっぷりは三●杉君といい勝
負してそう（キャ●プ翼）。

まあ、こっちは氏んだら悲しまれるどころか間違いない笑いのネタ
になるでしょうけど。

「みんな良い感じだったよ！ それに向こうの出方もわかったかな。

次のセットは……………と……………奏ちゃん。お願いね」

「はい……………」

「奏ちゃん、ガードは任せてっ!! バツチり守るよ!」

〈選出に应じる奏さんに、隣のなびきちゃんが疲れを感じさせない
様子で意気込む。

〈さっきのセットで実戦での自信が付いたようだ。

「うん、頼りにしてる…………。行こう、なびきちゃん」

「おー!!!」

「残り人数2―0! 第二セット、音咲女子高校の勝利!」

「いい守備だったぞなびき!」

「おかげでこっちは動くやすくなつて、しっかり勝てた」

「えへへ……………ありがとうございますっ!!」

〈なびきちゃんと奏さんともう一人の上級生がハイタッチを交わ
す。

〈一セット目に続き、またもこちらの勝利だ。

「あ、ほも先輩!! あのっさっきアタシ、こう、ブワーツ! ピカツ!!
て感じで!」

なんかうまく言えないんですけど、すっごく良い感じで……!!」
　　<見てたよ。凄かった。

「え、えへへへ……っ!!」

　　<再び途中でやられてしまっていたが、なびきちゃんの動きが明らかに良くなっていた。

　　<どうやら何かを掴んだらしい。

　　BPドバーツと注いでスキルと特徴取得したのかな? (プレイヤー並感)

　　大胆な成長はルーキーの特権。

　　<そして三セット目。

「ふふふ、さーて、それじゃ残り一セットも決めに行こっか。

　　出るのはわたしと……ほもちゃん。よろしく。

　　なびきちゃんも、最後だし体力気にせず全力で、どこまでやれるか試してみよう」

　　<はい!

「はいっ!!」

　　<最後は指希先輩と自分が、なびきちゃんと一緒に戦う事に。

　　<もはや特訓を始める前のぎこちなさは微塵もない。目指すは完勝だ。

　　これ相手チーム氏ゾ (本RTAガチメンバー)。

　　ビーーーーーッ

「残り人数3-0! 第三セット、音咲女子高校の勝利! 一同、礼ッ!」

「ありがとうございますごさいましたッ!!」

　　やっぱりな (レ)。

そら（全国優勝レベルとぶつかったら）そうよ。

「ほも先輩ほも先輩!! アタシ、ちゃんと出来てましたよねっ!!?」

＜帰りのバスの中は大いに賑やかな空気になっていた。

＜よほど嬉しかったのか、隣で座りながらぴよんぴよん飛び跳ねるなびきちちゃん。

＜もちろん。特に最後の第三セットは大活躍だった。

＜指希先輩の指示に従い、縦横無尽にフィールドを駆け回って攻撃から味方を守るその姿。

＜どつしりと構えていた高旗先輩とはまた違うが、今では同じぐらい頼もしく感じる。

「えへへ、もつと褒めて下さいっ」

＜よしよし。よーよし。

＜撫でて欲しそうに頭を預けて来たので、要望通りわしゃわしゃと手で撫で回す。

＜……こうしていると、本当に犬の相手をしているようだ。

ワン、ワン、ワン（迫真）。

「……………私も褒めてあげるね、なびきちちゃん。よーよし……」

「奏ちゃん！ わっ……あはははっ！ くすぐりたいよ〜！」

こ→こ←奏ちゃん信頼レベル5（最大）の時の追加テキスト。

ヤキモチかな？ 可愛いね♥ ロスになるので直ちにやめろ（辛辣）。

「なににな〜？ お姉さんも仲間に入れて欲しいな〜」

「ひゃわあっっ?! あはっ！ ぶ、部長っ、あ、あははは！ だ、だめですってばー！」

「おらこっち来いなびぎ！」「たっぷり可愛がってやるからなあ」

んでこつちは指希先輩レベル5の分！ あと関係ないモブの分!!
メインの最終加入キャラでフラグ管理楽だからって絡み多すぎイ
！
真つ先にレベル5になったのに他のキャライベでは一切姿を見せ
ないイスカちゃんを少しは見習って、どうぞ。
まあ、このイベント最大の絡みロスはこの後なんですけどね。

＜他の部員達も混ざり、皆で今日の功労者であるなびきちちゃんをも
みくちやにする。

＜本人もまんざらでもない様子で、残りの時間までこの日の達成感
を存分に味わっていた。

＜そして、その後。

＜自宅から電車で一本離れたとある一軒家にて。

「ただいまー！！！！」

「おかえり、なびき。……それと、よく来たな。ほも」

＜どうも、高旗先輩。お久しぶりです。

アヤツ→ス!! (体育会系特有の万能言語)

てなわけでこちら、高旗先輩信頼レベル3以上で発生するお宅訪問
になります (必要経費)。

＜玄関先で迎えてくれたのは、去年まで見慣れていた大きな体格に、
無愛想な強面。

＜なびきちちゃんに誘われるまま、どういうわけか流れで高旗家にお
邪魔する事になっていた。

「今母さんが夕飯の買い出しに行ってるから、先にシャワーで汗を流
して来るといい。」

その様子だと、二人とも随分激しく動き回ったみたいだからな」

「わーい！ ほも先輩っ、一緒に洗いっこしましょう!!」

〈別々でもいいのでは……?〉

〈そう言いかけたが、なびきちゃんの期待と、高旗先輩の生温かな眼差しに負けてしまった。

なびきちゃん!?! (裸の付き合いは流石に) まずいですよ!

〈……………〉

〈……………〉

「えへへ、ぽつかぽか♪」

〈……………いいお湯でした。

あーさつぱりした(事後)。

つーかほも君どうやって変身維持してんだ。描写が無いからわかりませんが、ペンダントみたいにヒロインギア括り付けてるんスカね?

それともトニー・ス●タークみたいに胸に直で埋め込んでるとか?

「ああ、上がったか。もう母さんも帰って来て、夕飯の支度中だ。

そのままこつちに座って待っていてくれ。なびきは、先に道具を部屋に片付けるように」

「うんー」

〈荷物を持って二階へと上がっていくなびきちゃん。

〈促されるまま食器の並んだ四人掛けテーブルに、高旗先輩と向き合うように席に着いた。

「話はなびきから毎日聞いている、随分良くしてくれていたみたいだな。……………ありがとう」

〈先輩にしてもらった事を、なびきちゃんに返しただけですよ。

「そうか。……………ふ、後輩達に避けられながらもお節介を続けてきた甲斐があつたな」

〈久しぶりに見る先輩の顔は、以前よりも少し穏やかに見えた。

〈卒業後はヒロインバトルをしているのだろうか、気になったので聞いてみる。

「してるぞ。今は大学チームで団体戦をやっている。

新入りとして毎度先輩達に叩きのめされて、まだまだ教わる事だらけと痛感する日々だ」

〈軽く上着をめくって見せると、鍛えられた身体にいくつもの新しい痣があった。

〈どうやら相当しごかれていらしい。それでも表情は楽しげだ。

〈その後も、お互いの近況報告が盛り上がる。相変わらず高旗先輩の話は丁寧でわかりやすい。

「あー！ お姉ちゃんずるい!! 二人だけで楽しそうに喋って!」

「……む、なびきが世話になった礼をするつもりが、つい話が逸れたな。

まあ、続きは食べながらにでもしよう……ほら、今日はなびきの好物ばかりだぞ」

「ほんと?! やった!!」

〈高旗先輩がお母さんのいる台所へ配膳の手伝いに行き、料理の入った皿を並べて行く。

〈どうやら先輩の見た目は母親譲りらしい。よく似ているお母さんと改めて挨拶を交わした。

〈せっかく歓迎を受けている事だし、ここはひとつ……

〈えー、それではなびきちゃんの活躍を祝しまして、乾杯。

「ふ、それはいいな……乾杯」

「かんぱーいっ!!」

卍解く (KBTTIT)。

〈程よくウケたようで良かった。

〈そうして高旗家で少し早い夕食と、しばらくの歓談を楽しんで過ぎました。

〈なびきちゃんとの信頼が最大まで高まった。

！
◇高旗 なびき(たかはた なびき)の信頼レベルが5に上昇した

◇耐久がとても大きく上昇した！

◇B Pを2獲得した！

◇高旗 なびき(たかはた なびき)が

《回復力》『オートレジスト』を取得した！

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

というわけでなびきちゃん信頼レベル5上昇イベでした。

これにて全員分終わり！ チカレタ……。

◇《回復力》3 B P 条件：耐久16以上。

試合中、HPが自動回復する。回復量は最大HP依存。

また、状態異常から復帰する時間が半分に短縮される。

安定感抜群、耐久型垂涎の一品。半端な攻めならこれと防御スキルだけで完封出来る。

◇『オートレジスト・オブ・オール』4 B P 条件：耐久12、精神14以上。

自動発動スキル。発生・硬直・SP消費なし。

状態異常・ステータスダウン等に掛かったとき、80%の確率で発動、無効化する。

ノータイムかつノーコストでデバフを防げる優れモノだが、確率にはやや不安あり。

スキル三棒のうち一棒潰すのも難点だが、反面《絶対攻撃》でも無視出来ない点は強力。

《回復力》はHP自動回復&デバフ復帰短縮効果の特徴。

回復量は最大HP依存なれど、残念ながら《ライフリンク》とのシナジーはないです。

当たり前だよなあ？（ぶっ壊れ不可避）

そして『オートレジスト』はデバフを自動で治してくれるスキル。スキル枠が一つ埋まってしまうものの、プロツキング・突っ張りコンボ以外にスキルを持たないなびきちゃんとは好相性。

いずれも彼女のビルドを支える重要なパーツなので取り忘れ厳禁。硬いぜ（ご満悦）。

さて、画面の方ではいよいよ二年目のS・H・I・N・E・レギュラー争奪戦が始まりましたね。

∨監督が部員の皆をフィールドに呼び集めた。

∨何だろうか。

「よく聞け、そろそろ今年のS・H・I・N・E（シャイン）本戦前の地区予選が始まる。

今日はそのメンバーを選考するための模擬戦を行うぞ」

マチカネタゾ！（戦闘欲求）

おう、あくしろよ。

「まずは団体戦から、模擬戦のため三人一組でやってもらう。

チーム分けは暫定レギュラーメンバーを分割してのドラフト制だ。順番はくじで決めるぞ……

………む、ほも。まずはお前から選べ」

今回の団体戦は、味方にいるランダム加入キャラ三人から一人選択＋モブとほも君で三人チームを組み、一戦目に奏ちゃん・なびきちゃん＋モブ、二戦目に指希先輩＋ランダム加入キャラ二人と戦います。

ここで相棒に選ぶのは当然彼女！

✓よろしく、イスカ。

「ふふん、わかってるじゃない」

イスカちゃん！ 好きっす！（直球）

単体で強い性能を誇る高速アツカー、かつランダム加入キャラで唯一信頼バフあり、更に能力解放済みとあれば選ばない理由はありません。

オーダー画面に入りますが、ほも君の強化は特訓で得た《絶対攻撃》と練習のステ増加分だけで十分なのでフヨウラ！

そんなわけでようやくと久々のバトルになるわけですが、あいにくこちら全編消化試合となっております。

所詮レギュラー選抜戦だからね。しょうがないね。

指希先輩というバファアを欠いた奏ちゃん・なびきちちゃんチームは、奏ちゃんが最大火力を發揮する前に各個撃破余裕。

そして指希先輩チームも《ライフリンク》こそ脅威なもの、お供が能力未開放のランダム加入キャラ達なら、被弾を避けつつ地道にごりごり削って、《絶対攻撃》の確札圏内に入ればほも君が一人ずつ始末してやれます。

強力なシナジー組める奴が混じってたらプチ事故ポイントでしたが、いないのでセーフ！

一応監督の信頼度さえあれば二戦目は勝てなくてもBP貰えないだけでレギュラーは取れるので、通常プレイでも安心！ じゃ、流しますね……（倍速）。

少女暴行中……

「つう、しくじっちゃったかも……」

「何よ、もう終わり？ 修行が足りないんじゃない？」

ドヤ顔イスカちゃん煽り力高いっすね。

きつと実家で兄貴達に散々同じ事言われたんやな……（哀れみ）。

「そこまで！ ……ほもチームは良い動きだったな、よくやった」

「一緒に戦ったチームメイトと喜び合う。なんとか指希先輩のチームにも勝つ事が出来た。」

「各自休憩は済んだな、ではここからは個人戦を行う。呼ばれた者はフィールドに出るように」

お次は個人戦ですね。

こちらは去年と違い容赦なくタイマンで強い奴を上から二人ぶつけてきます。

今回ですと一戦目指希先輩orなびきちちゃん、二戦目イスカちゃんって所でしょうか。

「ほも先輩!! よろしくお願いしますっ!!」

あつ、なびきちちゃんだ。やったぜ（紙魔防）。

ビーーーーーッ

ノロマな高旗先輩と違い、高い敏捷で突っ込みながらブロックン出来る彼女は意外とタイマン性能高いです。

半端な物理型だと、距離を詰められてから相手だけ鍋被ったまま叩いて被ってジャンケンポンするみたいにポカポカ殴られる事請け合（泥仕合不可避）。

まあほも君は半端じゃない魔力型なんで、鍋ごと頭へこます勢いでぶっ叩けます。

うりやっ！ 馬鹿になっっちゃえ！（頭蓋陥没）

おっとラッキー、初っ端からブロックングミスってくれたのでパッと片が付きました。

「あぐろろろろ……っっ!!!」

星柄お子様パンツ可愛いね♥ 公式戦でハマしたら頃すぞ(脅し)。

「よし……では、次は勝った者同士で二戦目を行う！ 呼ばれた組み
合わせはフィールドに出ろ！」

……………

……次、ほも対イスカ！」

＜無事なびきちやんに勝てた。

＜どうやら、今度はイスカと戦うらしい。

「あんたには悪いけど、恨みっこは無しよ」

二戦目はやはりイスカちゃんでしたね。さっきの友が今の敵(光速
反転)。

もつとも彼女には前世の壁際誘導戦法がそのまま通じちゃうんで、
タイマンなら一切苦戦する事はありません。

ここまで倒したチームメイト達同様、二年目ゆえ当然の権利のよう
に《ド根性》を所持してますが、このほも君にそんな小細工は通じぬ
わ!!

ビーーーーーッ

カバデイ、カバデイ、カバデイ……(うろろろ)

ヌツ!(煙幕確認)

イヤーツ!(Fスタン) イヤーツ!(ハイパーシユート)

「あたしが捕まるなんて……っ」

へっ、サンシタニンジャが。

しかしこの勝ち方だと下着見れないのが難点つすね（観客サービス）。

「やるなほも。これなら個人戦も期待できそうだ」

〈息を整えながらぐつと手を握り締める。なんとか二回とも勝つ事が出来た。

〈今回の模擬戦は団体戦、個人戦共に良い結果を出せた。

〈監督からも褒められ、確かな手応えを感じる。

〈監督の信頼度が上がった！

〈B Pを2獲得した！

〈翌日……

「皆、集まれ。

昨日の模擬戦と普段の練習を考慮した、S・H・I・N・Eの出場メンバーを発表させてもらう。

まずは団体戦から……

……

……ほもー！」

アヤツ→ス!!（体育会系特有の万能言語）

「次に個人戦だが……

……ほも！ 以上のメンバーで出場する！」

〈団体戦、個人戦の両方に選手として出られる事になった。

〈二度目のS・H・I・N・E、果たしてどこまで勝ち進めるだろうか……。

まあやれるとこまで（全国制覇）。当たり前だよなあ？（世界目線）
監督の無能采配（計画的犯行）のせいで、かれこれ一年ぶりの公式戦出場となるほも君。

彼の存在を忘れかけているヒロインバトル界に、再びその雄姿を見

せ

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 21 S.H.I.N.E. 予選団体一回戦〜決勝

I.N.E. 地区予選突破

目標：二年目S.H.

易度★☆☆☆☆

難

一年目

高旗先輩out奏in

秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 7月 8月 9月 1
 レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P. : (4BP) (9BP)
 休： 0 1 2 3 4 5 6
 7 8 9

二年目

春合宿②

選拔メ

ンバー特訓

月： 3月 4月 5月 6月 7月 ▼ 8月 9

月 10月 11月 12月

なびき in ↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

鍛えたホモが大暴れするRTAパート21、はあじまあるよー!

前回はレギュラー選抜戦でチームメイト達をボコった所まで。

やっぱつえーぜ、《絶対攻撃》! おかげでオーダー画面で強化を

挟む手間が省けました。

他キャラがド根性やら各種耐性を標準装備してるベリーハード二

年目では、文字通り抜群の効果を発揮してくれます。

主人公専用特徴に括約の機会をしっかりと用意するバランス調整誇

らしくないの? (賞賛)

お、画面では吹奏楽部の部長さんが来ましたね。ご無沙汰じゃない

ですか! (去年ぶり)

「おいつすーヒロインバトル部のエース! 調子はどうー?」

〈S. H. I. N. E. 地区予選を控えたある日、廊下で吹奏楽部の部長と出くわした。

〈周囲を見回すが、他にヒロインバトル部の部員はいない。

〈エースとは、自分の事を言っているのか。

「あつたり前じゃん!」

え、去年の全国大会個人戦でこっちはキミを応援してたんだけど、ひよつとしてそっちは記憶にもない感じ?」

「そんな事はない。大舞台での迫力ある演奏に興奮したのを覚えている。」

「そりや良かった、ウチらも暑い中頑張った甲斐があつたつてね!

いやホント、団体に続いて個人戦でもテレビで全国に映れるなんて冥利に尽きるよ。」

ま、一番のラツキーはこっちのコンクールと日程被つてなかつた事だけどねっ!」

「快活に笑う吹奏楽部部长。」

「もしや結構目立ちたがりなタイプなのだろうか。」

「当然、目立つの大好き! そんなわけで、今年もぜひ頑張っちゃつてよね」

キーンコーン

「げっ! もう予鈴鳴ってるし!」

あつそうだ、あと管崎さんにも応援してるつて伝えといて! じゃあねー!」

「軽く手を振つて、慌ただしく去っていった。何とも賑やかな人だ。」

「自分も早く教室へ戻らなくては。」

「歩きながら、練習へのやる気が沸いてくるのを感じた。」

「体力が回復した!」

確定回復イベおおタスカルタスカル、マダガスカル(激ウマギヤグ)。

ほんじゃ腹ごしらえも済んだ所で、いよいよ予選に行きまっしよい。」

「バスに乗り、音咲ヒロインバトル部はS・H・I・N・E地区予選の競技場へ到着した。」

「が、去年とは会場の雰囲気はどうも少し違う気がする。」

「そーなんですか?」

「ん……私もその時はヒロインバトル部に入ってなかったから、ちよつと……」

〈去年を知らないため、なびきちちゃんと奏さんはいまいちピンと来ないようだ。〉

「一昨年が続いて、今年はプリンセスブレイドの年だからね。」

実質S・H・I・N・E・がその予選みたいなものだから、去年より注目が集まってるんだよ」

〈横から指希先輩が解説してくれた。〉

〈これが二年に一度開催される世界大会、プリンセスブレイドの影響……。〉

〈S・H・I・N・E・優勝の更先にある夢の舞台に、果たして自分は出られるのだろうか。〉

出そうと思えば（王者の風格）。

むしろ本チャートの二年目S・H・I・N・E・は絶好のヌルゲーポイントなんで、ただ早く勝てるかどうかだけが心配ですね。

ザッ！ シュババツ！

「オー……ッホッホッホ!!」

〈どこからともなく長大なレッドカーペットが敷かれ、聞き覚えのある高笑いが響く。〉

「よくいらしたわね音咲女子高校の方々。そして調辺さんに……ほもさんー!」

オッハー……!!! (答礼)

出たな金髪縦ロール!

「ほも先輩っ! なんだかすごい人が出てきましたー!!」

「レッドカーペットの上を歩く人、初めて生で見た……」

「あはは……久しぶり、黄金十条さん」

〈お付きの黒服と部員を従え、黄金十条さんが去年と同じように優

雅な足取りでやって来た。

〈相変わらず溢れ出る金持ちオーラが凄い。

「去年は団体戦、個人戦ともあなた方に譲る結果になりましたが、このわたくしがプリンセスブレイドに出場するためにも！ 今年は一味も二味も違いましたよ!!」

〈闘志に燃える眼差しで、高そうな扇子をビシッと向けて来る。

〈こちらこそ。よろしくお願いします。

「……フフフ、その様子、あれからあなたも随分腕を上げたようね？

よろしい！ 決勝戦の相手として不足はありませんわ!」

「？ あの、何でもトーナメント表知ってるんですか……?」

〈不思議そうに質問する奏さん。

〈去年もそうだったが、言われてみれば対戦表は当日競技場に入らなければ見られないはず。

「そんなもの、先に確認に行かせたに決まっていますでしょう!」

〈その間わざわざここで自分達を待っていたという事だろうか。

〈……実は暇なのでは?」

! 渋滞想定してたら早く着いちゃって時間持て余すのありますねえ

まあ金持ち校ですし、クツソ豪華なバスの中で快適にご歓談あそばされてたんじゃないすかね。

「では挨拶も済んだ事ですし、あとは試合で語り合ひましょう。ごめんあそばせ。

オー……ッホッホッホ!!」

〈言うだけ言って、黄金十条さん達はそのまま競技場へ歩き去っていった。

「すごいです！ みんなキラキラのドレスで、本物のお姫様みたいでした!!」

〈生徒は全員お金持ちで、学校の中に専用の娯楽施設もあるんだって。良いよね。

「放課後に劇場で音楽聴いたり出来るのかな……いいなあ……」
「はいはい！ お金の力に圧倒されない！ ヒロインバトルならうちも負けてないよ！」

さっ、それを証明するためにも試合で頑張っていこう！」

◁ 指希先輩に促され、自分達も後を追うように会場入りした。

◁ いよいよ戦いが始まる……。

そんなわけで、始まりました二年目S・H・I・N・E・地区予選団体の部。

一回戦のお相手はクソ雑魚一般モブ校で、正直レギュラー選抜戦の方がキツイレベルです。

なのでオーダー画面の編成・強化から退屈な試合までの時間を使い、みなさまのためにいゝ

今のうちに、今回のほも君の強化内容を説明致しとうござりまする（真面目）。

BP溜め込み過ぎてて尺足りないからね、しょうがないね。

基礎ステータスや所持済みのスキル・特徴も合わせまして、これがほも君Mk-2です。

ホラ、見ろよ見ろよ（一時停止推奨）。

名前	筋力	耐久	魔力	精神	敏捷	合計	通常攻
撃タイプ							
ほも	08	04	22	08	16	58	魔力・遠
距離							
（一年前）：	01	01	12	02	08	24	〃
通常スキル							

1 『Fスタンバレット』2BP（OP込み）

NEW 2 『ハイパーシユート』2BP ⇒ 『Pハイ

パーシユート』(OP分+1BP)

NEW 3 『Wソニックブラスト』4BP (OP込み)

必札スキル

NEW 『アルティメットフュージョンビーム』8BP

特徴

1 《絶対攻撃》7BP (実質0BP)

2 《ド根性》3BP

3 《魅力的》0BP

4 《クイツクドロ》0BP (累積2BP)

NEW 5 《シャープリロード》3BP (累積3BP)

P)

NEW 6 《魔力ブースター》0BP (累積4BP)

P)

所持33BP | (消費済み9BP+新規消費(スキル13BP・特

徴10BP) 23BP) || 残り1BP

去年の同時期に比べ、基礎ステータスが見違えましたね。

まあこれはベリィハードの成長補正が原因で、他キャラも低難易度より相対的に伸びてて手強くなっています。対戦モード用に育てるなら難易度上げろってこったな!

そしてお楽しみスキル・特徴欄!

数が多いので表示を複数回に分けます、まずはスキルから。

◇『Pハイパーシユート』2BP(OP込み3BP) 条件:筋力8、

魔力12以上。

P||ペネトレイトの略で、障害物や防御スキルを貫通するオプション。

貫通時に若干の威力減衰があるものの、軌道上の全ての対象にダメージを与える事が出来る。

絶対ダメージ通すマン。

まず序盤から使っていた『ハイパーシユート』には、貫通効果のオプシヨンを追加。

ちひろちゃんや御影ちゃんの必札スキルに付いてたやつで、メイン火力としての性能にますます磨きがかかりました。

このオプシヨン取得のために、筋力を上げる必要があつたんですね（メガトン構文）。

通常プレイならもうワンランク上のスキルと取り換えたい所でしたが、BP節約のため『Fスタンバレット』共々最後まで括約してもらいましょう。次！

◇『Wソニックブラスト』3BP（OP込み4BP） 条件：魔力14、精神8、敏捷8以上。

ハイパーシユートの亜種。弾速が上がり強めのノックバック効果あり。

W||ワイドの略で、攻撃判定が広がるオプシヨン。同速以下の近接相手に対しては、これを当て続ければ一方的に殴り勝てる。

◇『アルティメットフュージョンビーム』8BP 条件：魔力16以上、射撃スキル2つ以上所持。

超長射程、高威力、貫通付き、魔力依存の射撃系必札スキル。

試合中に使用した射撃スキル全ての特殊効果を併せ持つ。

必札攻撃スキルの中では基本スペックは至って平凡だが、最大のウリはその拡張性。

スキル枠3つ全てを射撃系で固めれば専用必札並の性能を引き出せる。

三棒目のスキル『Wソニックブラスト』は吹っ飛ばし効果のあるハイパーシユートって感じで、オプションにより攻撃判定拡大まで付いたハメ技にして、主砲その2。

《絶対攻撃》持ちのほも君が使う事で、耐性を特徴に頼ってる連中は接近もままなりません。

基本はこちら、防御スキル持ちには『Pハイパーシユート』と撃ち分けて行きます。

そして、これら射撃系スキルだらけのフルアタ構成を活かす必札スキルがこの『アルティメットフュージョンビーム』！

基本性能はさておき、その効果は「試合中で使用した射撃スキル全ての特殊効果を持つ」！

詰め込めるだけ詰めっ……詰め込もうぜえ〜（噛み噛み）。

実際ほも君が全部乗せ状態で撃てば、「攻撃判定拡大・ノックバック強・貫通・確定怯み付与」が加わり、攻めに良し、牽制に良し、切り返しに良しの欲張り性能になってくれます。

一見Pハイパーシユートと貫通が被ってるように見えますが、これが重なると超貫通に変化し、なんと減衰なし、更に相手の耐久・精神の半分を無視したダメージ計算になります。

ステのインフレしたベリハ環境においては下手な超火力技より有効な場面多々あり。

これって……勲章ですよ？（ねっとりボイス）

理想はなるべく敵を一行かごちゃつと集まってる所にぶち込みたいですね。

そのための貫通？ あとそのためのFスタン？

難点は、効果を発揮するには先に他の射撃スキルを使わないといけない所でしょうか。

特に初手限定のFスタンは状況により腐る事もあるので、今撃てばどの効果が乗るかはしっかり把握しときましょ。

んじゃ残りは特徴！

◇《シャープリロード》3BP（累積コスト3BP） 条件：敏捷14以上、《クイックドロ》所持。

射撃系攻撃スキルの硬直が減少する。

シンプルに強い。

遠距離アタッカーの欠点である回転率の低さを補い、結果的に火力も増強してくれる。

◇《魔力ブースター》0BP（累積コスト4BP） 条件：特徴4つ以上所持。

試合開始時、自動的に魔力バフが入る。

汎用性が高く強力な特徴だが取得条件がBP的に厳しく、序盤には早々手が出せない。

《シャープリロード》は射撃硬直を減らしてくれる上位特徴。ギル●テイギアかな？

《クイックドロ》を取得済みである事が条件で、どっちかと言えばこっちが本命。

《魔力ブースター》は奏ちゃんが覚えた《魔力ブースター+》の下位特徴ですね。

後でランクアップさせますが、この段階でも結構火力上がります。初期特徴に選ばせてくれるなら迷わず取る所ですが、そう都合よくは行かない模様。

以上、大体こんな感じででしょうか。

「やりましたー！ アタシ達の大勝利ですっ!!」

そうこう言ってる間に画面ではモブ校が粉碎されましたね。

信頼レベル最高だと信頼度上昇の演出がなくなってわずかにタイムも短縮されます。いいゾク。

なおせっかく覚えた新技の披露は特になし。

まあ貫通ハイパーシユートが普通に便利だし、他を使うまでもない相手だったんでしゃーなし。

それに楽しい試し撃ちの機会はこのあとすぐ来ますからね（ゲス顔）。

「オーーーーーッホッホッホ!! 流石ですわね、音咲女子高校!」

「まあね、こつちもみんな本気で頑張ってるから」

＜団体戦の決勝。見せ合いでフィールドに対峙した両チームの中、部長同士が睨み合う。

「ええ、ええ、大変結構。これで言い訳の余地もなく、安心して直々に叩き潰せますわね」

「そうなの? 黄金十条さん達には悪いんだけど、わたしは全然負ける気しないかなあ」

「……フッフ」

「……あはは」

「ほぼ先輩! な、なんだか怖いですーっ!!」

「観客席で応援してた時は聞こえなかったけど……公式戦っていつもこう、なの……?」

＜まあ、大体こんなものだと思う。

「吠え面かかせて差し上げますわ」

「上等」

真つ向の煽りはスポーツマンシップ的にどうなんだ（今更感）。

でも審判が何も言わんならセーフやな!

「両チーム、ベンチへ戻りメンバーを選出して下さい!」

てなわけでオーダー画面。

1	2	1	2	1	
敏	精	耐	0	5	宝川
捷	神	久	S	0	たま
1	1	魔	P	1	まき
1	3	力	1	6	
			0	0	
			筋	0	
			力	9	

ヴォーツエー（インフレ並感）。

「それではただ今より、音咲女子高等学校と黄金十条女学院の決勝戦を行います。

試合………始めっ!!」

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす！（開幕Fスタンバレット）

「薰子様！」「お願いします！」

「受けなき……くっ！」

相も変わらず先制バフからの開幕ぶっぱとは芸がないな！
 実際《精神力》で怯み耐性きっちり用意してるんですが、そんなの
 関係ねえ！

「うぐうっ！」

問題は取り巻きのたまきちゃん！
 こいつは離れた味方一人のダメージを肩代わりする自動発動スキ

ル持ちで、薰子様の外付けHPタンクとしてがつつり守護してきやがります。卑怯だぞ!! (ブーメラン)

◇『Aスケープリンク』4BP 条件：耐久9、精神9以上。

最も離れた味方一人へのダメージを自動的に全て肩代わりする。

AIIオートの略で、試合開始直後に自動発動。

使用中はSPが徐々に減少していき、0になるか自分一人になると解除される。

アタッカーを暴れさせるための短期決着向け。手数を使わないのは偉い。

音咲以外の学校で、大抵《ライフリンク》の下位互換的な扱いになる。

「全隊ステップ！ 動きを止めないで！」

指希先輩の全体敏捷バフ入りました。超スピード!? (レ)

ぎゆうううう……くぎゆううううう!!! (灼眼のシャ●ナ)

「そこまでよ！」

「させませーんっ!!」

先制バフの強制怯みを無効にするスキルを積んだもう片方の取り巻き麗奈さんが、ハイパーシユートの敏捷デバフ(小)付き版『アイスビーム』をほも君に撃ってきませんが、すかさずなびきちゃんがブロッキング! いいゾ。

去年は麗奈さんから倒してましたが、今年の薰子様は超火力の近接筋力・魔力技を自在に使い分けるのでフリーにしたらなびきちゃんへの魔力ダメージがヤバイです。

なんでここはほも君が責任持って受け持ちましょう。おらっWソ

ニックブラストじゃい！

「くっ、小賢しい……ッ！」

グワハハ！ 貴様のAI挙動は見切っておる、敏捷差がなければこのエイムは避けられまい！

怯み耐性もノックバック耐性も無視される気分はどうだ？ 感想を述べよ！（CNCN亭）

「もう一回！ テンポ上げてくよ！」

ぎゅうううう……くぎゅうううううう！！（ア●イドルマスター）

「まとめて、凍り付けッ！」

「効きませーんっ!!」

麗奈さんが敏捷デバフ付き超広範囲必札攻撃『アルティメットブリザードウェイブ』を放ってきましたが、これは非貫通技なのでなびきちゃんの後ろにつけば無問題。

でも離れすぎると普通に当たるので注意な（2敗）。

◇『アルティメットブリザードウェイブ』8BP 条件…魔力18

以上。

魔力依存の長射程、高威力、超広範囲の汎用必札攻撃。追加効果の麻痺+敏捷低下が凶悪。

波の速度はやや遅めだが、範囲が広いため回避は困難。

なびきちゃんが麻痺らなかったたので、これはもう勝ち確ですね。

「うううっ！ 薰子、様……」

しれつと後方でたまきちゃんが回復スキルで延命を凶ってましたが、ダメージが上振れて確定数変わらずに削り切れました。やったぜ。

んじやHPタンク失った薫子様達をハメて剥き剥きしましょうね
く(ゲス顔)。

ほらほら、お得意のロイヤルゴールデンスラッシュ撃ってみろよ。
当たんねえけどな!

「音咲女子高校……ここまで強いなんて……っ!」

「薫子様……! 申し訳……!」

「ね? わたし達の勝ちだったでしょ」

最後は指希先輩渾身の煽り投げキッス&ウインクで黄金十条女学院戦勝利!

まあ、ほも君MK-2の慣らし運転くらいにはなりましたね。この調子で個人

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 22 S.H.I.N.E. 予選個人一回
戦〳決勝

I.N.E. 地区予選突破

目標：二年目S.H.

易度★☆☆☆☆

難

一年目

高旗先輩out奏in

秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P.:

(4BP) (9BP)

休： 7 8 1 2 3 4 5 6

8 8 9

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月： 3月 4月 5月 6月 7月 ▼ 8月 9

月 10月 11月 12月

なびきin

S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP: (52BP) (33BP) (38BP)

休: 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

お嬢様にたっぷりちかえしするRTAパート22、はあじまあるよー！

前回は二度目のS.H.I.N.E. 地区予選の団体戦を難なく突破した所まで。

敵が全体的に硬くなってるんでやや試合時間が伸びましたが、苦戦する要素はないな！

◀一緒に戦ったチームメイトと喜び合う。地区予選の団体戦で優勝する事ができた。

◀来週の個人戦に備えて、帰ったらゆっくり休もう。

お次は個人戦ですね、特にイベントも挟まる事なく翌週へ移行。

さて一回戦のお相手は……ヌツ！ うまあじおやつの土門ちゃん！ 土門ちゃんじゃないか！

どうやら祈りが通じたのか今年もやって来てくれたみたいです。

ウレシイ…ウレシイ…(ニチニチ)。

ここまでのタイムは目標よりかなりの好調、これはいよいよ流れ来

てるで!

もちろんオーダー変更はフヨウラ!

彼女の誠意に応えるべく、サクっと始末してあげましょう(サイコパス)。

／パパラパパラパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッ
デンデン パーパー／

ほも VS 土門夕呼

150	SP	1	0	0	0	60	HP	0	60	0
敏捷	1	1	0	8	筋力	0	5	4	耐久	0
2	魔力	1	3	0	精神	1	7	0	7	0
1	6	敏捷	1	1	0	8	精神	1	7	0

「それではただ今より一回戦、音咲女子高等学校所属ほも選手と黄金十条女学院所属土門選手の試合を行います。

試合………始めっ!!」

ブーーーーーーッ

オツスお願いしまーす! (開幕Pハイパーシユート)

「精霊よ、応えたまえ………つぐう!」

二年目の土門ちゃんは《開幕多重召喚》と《守護者の鎧+》で強化された土のゴーレム君をいきなり三体も召喚してきます。チートか?

でも貫通なんて普通に抜けます。馬鹿野郎お前俺は勝つぞお前！
(天下無双)

◇《開幕多重召喚》BP 4 条件：精神16以上、《開幕召喚》からランクアップ。

試合開始時にセットした召喚スキルを最大三回、SPが足りなくなるとまで自動で使用。

消費SP増大、使用したスキルと回数に応じて大幅な強制硬直が入る。

非常に重いデメリットと、それを補って余りあるパフォーマンスを持つ最上位特徴。

これに特化したビルドを組めば、もはや試合中の操作は必要なくなる。

◇《守護者の鎧+》BP 3 条件：耐久10、魔力10以上、《守護者の鎧》からランクアップ。

ミニオンを強化する特徴、守護者シリーズの一つ。

ミニオンの最大HPが上がり、被ダメージ軽減を付与。ランクアップで更に強化量が増えた。

手堅く強い。肉盾の質で押す運用ならぜひとも欲しい一品。

動き出した土のゴーレム君達は、遠距離攻撃持ちに対しては主人を守るため防御スキルで対応。二体ほどで射線を遮られると普通の貫通じゃダメージも通りません。

.....
が、こちらはすでに条件を満たしているッ！

関係ねえんだよそんなもん!! (超貫通アルティメットフュージョン

チーム)

「っそんな……っ」

黄金十条所属の成金衣装のくせに飾り気の無い貧乏パンツ聡ずかしくないの？ (家庭事情言及)

てなわけで式撃決札完了！ F○○→気持ちい〜！

やっぱ減衰なし・防御ステ半分無視の超貫通を……最高やな！

フィジカルお留守な魔力・精神特化型はいいカモです。

お次は薫子様との決勝戦。

一年目では散々苦しめられましたが、もはや今のほも君の敵ではありません。

引き撃ち戦法は止めて、堂々と迎え撃ってやりましょう。

＜一回戦突破後、他の学校の選手達と戦いながらどうにか決勝まで勝ち進んだ。

＜フィールドに上がり、小さく深呼吸する。

＜観客席の一角で応援する音咲の仲間達の姿が見えた………よし。

「ごきげんよう、ほもさん。この再戦の時を待っていましたわ」

＜白線を隔てたセンターゾーンに対峙した黄金十条さんが、静かな闘志に燃えた視線を向ける。

＜それを真正面から受け止め、頷きを一つ返した。

「フツ……どうやらあなたとの戦いに言葉は無粋のようね。よろしい」

＜互いに構えを取り、途端、彼女の闘志が膨れ上がっていく錯覚を感じた。

「さあ、踊りましょう」

踊るのはお前だけなんだよなあ…… (暗黒微笑)。

俺の下であがけ (直球)。

パパパラパパラパッパッパッパッパッパッ
 パッパッパッパッ パーデンデン パーパッパッ
 パッパッパッパッ パーデンデン パッパッパッ

黄金十条薰子

1	2	1		
6	2	5	0	
敏捷	魔力	SP		
2	1	1		
0	7	0		
		0		
0		筋力	0	
8		1	6	
精神		7	0	
0		耐久	H	
7		1	1	
		0	3	
			0	

「それではただ今より決勝戦、音咲女子高等学校所属ほも選手と黄金十条女学院所属黄金十条選手の試合を行います。
 試合………始めっ!!」

ビーーーーーッ (カーン)

オッスお願いしまーす! (開幕Wソニックブラスト)

「くっ!」

まずは警戒しながら前進する薰子様如初弾がかすりヒット! 三歩進んで二歩戻れ!

これ完全に避けられない時点で終わりだな? おらっ、もう一発!

「くっ、小賢しい……ッ!」

フェイント挟んだステップ回避を入れてきますが、もうパターン

入ったので直撃余裕です。

この距離だとガード効果付きの突進攻撃連打してくるんでしょ？
知ってる知ってる。

アルティメットフュージョンビーム（貫通・弾拡大・ノックバック）
撃てえい！

「あつぐううツツ!? こ、のツツ!!」

直撃よし！ 残りHP確一圈内！ 完璧なダメージ調整だあ……
（うっとり）。

こちらが退かないので最後にギリギリ一太刀入ってしまいましたが、
どうせ《ド根性》で耐えられるんで喰らってやりましょう。

じゃあの（Pハイパーシユート）。

「このわたくしが、一度ならず二度までも……ッ」

四度なんだよなあ……（団体戦含む）。もっと負けを認めて、どうぞ。

そんなわけで薫子様とのタイマンにも完全勝利！

圧倒的な成長を実感する、俺もなー（無能ボイス）。

＜仲間達の歓声が観客席から聞こえてくる。

＜試合終了のブザーが鳴り、集中を解き……少し遅れて勝利の実感が湧いてきた。

「フツ、フフ……同年代でこうも完膚なきまでに負かされたのは初めてですわ」

＜黄金十条さんが起き上がり、軽く埃を払い落としてから優雅に手を差し出す。

＜応えるようにこちらも手を伸ばし、固い握手を交わした。

＜黄金十条さんも強かったです。

「薫子と呼んで頂戴な、ほもさん。あなたの戦いぶり、美しくってよ」

〈……はい。ありがとうございます、薫子さん。

握手はせめて両方服着てからにした方がいいと思った（小並感）。

あ、ちなみに黄金十条の恋人枠って薫子様らしいですよ。はえ（納得）。

二年目の薫子様は元々高い攻撃性能と敏捷に、それをゴリ押すための耐性も充実した全国屈指の近接札人マシーンなんですが、肝心の耐性を何もかんも《絶対攻撃》で射程外からぶち抜いちやうほも君は天敵レベルに相性悪いです。

彼女にも銃があればこのような悲劇は起きなかった（全米ライフル協会）。

〈表彰式と閉会式が終わった。

〈帰り支度を済ませ皆とバスに乗り込む所で、黄金十条女学院のバスが手前を通りすぎる。

「音咲女子高校！ ほもさん！ S. H. I. N. E. 本戦では応援していますわよ〜!!」

〈窓から半身を出しハンカチを振る薫子さん達に、音咲ヒロインバトル部も手を振り返した。

「がんばりまー！ すっつ!!」

「あの人達、上流階級な割に意外と……フレンドリー？」

「そういう色んな相手と仲良くなれるのが、スポーツの良い所だよ、奏ちゃん」

〈S. H. I. N. E. 地区予選を団体、個人とも優勝し、本戦への出場資格を得た音咲女子高校。

〈二度目の全国の舞台、そしてその先にあるというプリンセスブレイド。

〈ぜひとも勝ち上がりたいと思った。

〈チームメンバー全員の信頼度が上がった！

〈監督の信頼度が上がった！

〈BPを4獲得した！

(BP+4) あくうめえなあ!

これでまたほも君の強化が捗ります。

このまま来月のS・H・I・N・E。本戦まで練習と細かいイベントが入りますが、それはさておき。

今更ながら、本チャートの獲得BP計算についてお話し致しとうござりまする。

何度もBPは大事だと言ってきたけど、具体的に最大どれくらい入るのか、どのタイミングで入るのかまでは詳しく説明してなかったからね。本当に申し訳ない(メタ●ルマン)。

とりま、右枠の解説をば。

◇獲得BP計算式

①練習6週 || 1BP

1年目4月〜3月末までの12ヶ月 || 48週 || 8BP

2年目4月〜12月末までの9ヶ月 || 36週 || 6BP 計21ヶ月

|| 84週 || 14BP

そこから約4.5週に1回、体力回復イベントも考慮すると通算17回ほど休養あり。

よって14 - (17 ÷ 6 || 2 (端数切り下げ)) || 12BP

②試合1勝 || 1BP

1年目での獲得機会はレギュラー選抜戦、S・H・I・N・E。地区予選および本戦。

練習試合合宿とW・H・I・T・E。には不参加なので、2+4+6 || 12BP。

2年目もBPの入らないプリンセスブレイド以外は全く同様の試合スケジュール。

よって12+12 || 24BP

③キャラライブ完走1キャラ \parallel 2BP

これらは2年目S・H・I・N・E・までに最低6BP、遅くとも10月には満額入手可。

指希、イスカ(ランダム枠)、奏、なびきの計4人なので $2 \times 4 \parallel 8$ BP

④その他、採用したBP獲得イベント

1年目5月 春合宿(+1)

2年目1月 初詣(+1)

2年目1月 河内コーチとほも君の秘密特訓(+2)

2年目2月 バレンタイン(+1)

2年目5月 春合宿(+1)

2年目10月 河内コーチの団体・個人選抜メンバー特訓(+1×2)

よつて $1+1+2+1+1+2 \parallel 8$ BP

以上、①～④を合計すると $12+24+8+8 \parallel 52$ BP

このゲームの獲得BP計算式と、それを本チャートに当てはめたものになります。

つまりほも君の最終的な獲得BPは $12+24+8+8 \parallel 52!$

これがプリンセスブレイドで団体・個人両方優勝するための必要経費というわけですね。

通常プレイなら普通に60後半は稼げるので、その分しっかりタイムを縮めています。

少なくともTS男子チャートの場合、あとはもうキャラライブくらいしか削る余地がないでしょう。

あれはあれで目当てじゃない奴らを避ける手間自体が微ロスになるし、これがベストだと思いたい……。

その他、序盤の鬼門こと1年目S・H・I・N・E、これから挑む2年目S・H・I・N・Eでの獲得BP目安も必要だったんで、スケジュールにちゃんんと書いてあったんですね(激遅報告)。

ネタバレ加味して黙ってた話すタイミング中々無かったもんだから許し亭ゆるして。

……画面の方では何やらまた余計なランダム加入キャラを避けるのに難儀してますね。

おうあと少しで選抜メンバー入りでお別れなんだから邪魔すんなや！

「ふーん、やるじゃないほも」

＜ありがとう、イスカに負けてはられないから。

「あたしに勝とうなんて十年早いわっ！ ほらっ、試しに付いて来てみなさいよー！」

＜敏捷が更に上昇した！

あ、イスカちゃん能力ボーナスありがとナス！

ついでに他の流れ者連中をベンチに縛り付けといてくれよなく頼むよ。

……ん？

＜ある日の下校途中、何となく立ち寄った書店でヒロインギアについての専門誌を手を取った。

＜軽くページをめくってみると、変身エネルギーの効率化・容量拡大といった欄が目に入る。

＜読み進めていく内に、段々と興味がそそられてきた。

＜そこには自分で改造を施すための詳しい手順や、必要な道具なども書かれていた。

＜型番を調べると、どうやら自分の持っているヒロインギアも対象になっている模様。

〈……上手く行けば、これでもっと強くなれるかもしれない。

〈物は試しに、その本と一緒に改造用の道具も買って帰る事にした。

これはヒロインギア改造のランダムイベントですね。

選択肢なしの強制進行、成功で1〜2BP獲得、失敗で体力が減少するレアイベの一種です。

〈自室に戻った後、専門誌を読み込んでから準備を整え、さっそく改造を始める。

〈まずは……

こ→こ←男状態のほも君が動いてる貴重なシーン。

行動選択前の自室ニユートラル画面でうろろうろゴロゴロしてる姿以外は基本見る機会無いんで、ある意味レアイベの中でもレアなやつです。

カチャカチャカチャ、カチツ、カチ。

〈……

〈……

〈……

ガチツ、カチン！

〈それなりの時間をかけて、改造が終わった。我ながら中々の手際だったと思う。

〈試しに調整が済んだばかりのヒロインギアを使い、その場で変身してみる。

〈……これは良い。

〈本に書かれていた通り、確かにエネルギーの変換効率が上がっているように感じる。

〈初めての事なので不安だったが、何でもやってみるものだ。

〈〈BPを1獲得した！

ええ……（困惑）。ここで成功しちゃうのか……。

体力減らずに済んだしBPはあつた方がそりゃ良いんだけど、今更
1BP貰つても余るツピ！

せめてレギュラー選抜前に来てくれれば指希先輩チームとの団体
二戦目をカットしてたものを。

まま、ええわ。

このぐらいで心を惑わされては記録は出せませぬ。切り替え
て行け（走者の心得）。

チャートを微調整する段階を過ぎてる以上、あとは操作技術でベス
トを尽くすの

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 23 S.H.I.N.E. 本戦団体一回戦

I.N.E. 本戦(団体)

目標: 二年目S.H.

易度★☆☆☆☆

難

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1

レギュラー選抜戦 ↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン ♥

BP: (4BP) (9BP)

休: 7 8 1 2 3 4 5 6

二年目				
春合宿②				
選抜メ				

ナンバー特訓

月: 3月 4月 5月 6月 7月 8月 ▼ 9

月 10月 11月 12月

なびきin

S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP:

(33BP) (38BP)

(52BP)

休: 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

迫真光輪狩りRTAパート23、はあじまあるよー! (2)(黒)(黒)(黒)

前回は土門ちゃん、薫子様と、本来なら手こずる強敵をあつさり打ち倒しS.H.I.N.E. 地区予選を完全に突破した所まで。

《絶対攻撃》と超貫通の相性はほんま抜群やで。最強コレ! (慢心)

今回は本戦出場の様子から、オツスお願いしまーす。

▽部員全員でバスに乗り、全国大会であるS.H.I.N.E. 本戦が行われる会場へとやってきた。

▽一年ぶりに訪れたそこは、当時すら上回るほど多くの人と熱気に包まれている。

「うわあ……人がいっぱいです!!」

「去年は吹奏楽部の皆で応援に来たけど、ここまでじゃなかったような……。」

「これも、プリンセスブレイドの影響……?」

▽……うん、間違いない。

〈高校世界大会、プリンセスブレイド。〉

〈今感じるこの熱量さえも、まだほんの前哨戦に過ぎないという事なのか。〉

〈どこか現実味の無かった話が、こうなってくるとその存在を明確に意識してしまう。〉

「はい、全員整列！ 話は後で、とりあえず入場しちゃうよー！」

〈関係者入場口に控えているテレビのカメラに撮られながら、連れ立って中へ入った。〉

やって参りました二年目S・H・I・N・E・本戦。

まずは団体戦ですね。

画面で話してた通り、ここは年末に控えるプリンセスブレイド出場を賭けた前哨戦。

団体・個人いずれかで優勝すればプリンセスブレイドルート、そうでない場合は去年同様W・H・I・T・E・ルートへそれぞれ分岐します。

もちろんこのRTAはプリンセスブレイドの両優勝かつさらうのが目的なので、こんな前座で躓くわけにはいきません（0敗）。

一年目ならいざ知らず、鍛え上げたほも君達に敗北は無い！（ロスがないとは言っていない）

さて第一試合のお相手は……ヌツ！ 聖オリーブエ女学院！

去年個人決勝で戦った蒲江さんのいた所ですね、彼女は三年だったのでもういませんが。

二年目の聖オリーブエ固定メンバーは、部長でタンク兼バファアの永留 美夏（ながとめ みか）、その妹でぶっ壊れアタッカーの被理（かぶり）、ヒーラー兼バファアの愛（らぶ）の三人姉妹という構成。

シスター服と天使をイメージしたこの学校は、固定メンバーが全員《飛行》持ちなのは以前お話しした通り。それを活かした戦法を使って来るので、基本この三人が変わる事はないでしょう。

◇《飛行》0BP

試合開始から自動的に浮き上がり、そのまま移動と行動が可能。
炎上地面のスリップダメージなど地上の影響を受けない。

ジャンプすると近距離攻撃はほぼ当たらず、相手の上からも回り込めたり攻守に地味に役立つ。

怯み・大ダメージを受けると落下し、追加ダメージと硬直が入るのが大きな弱点。

(相手チーム確認)……うむ、代わりになるような面子はいないな！
オーダー画面に入ったのでまずは陣形変更、並びはそのまま全員ま
とめて前衛に。

本ゲームでも屈指の大縄跳びゲーになるこの試合では、一塊でいた
方が都合がいいです。

そんでほも君を強化するぞい！ (右枠表示)

名前	筋力	耐久	魔力	精神	敏捷	合計	通常攻
撃タイプ							
ほも	08	04	22	08	17	59	魔力・遠

距離

通常スキル

- 1 『Fスタンバレット』2BP (OP込み)
- 2 『Pハイパーシユート』3BP (OP込み)
- 3 『Wソニックブラスト』4BP (OP込み)

必札スキル

『アルティメットフュージョンビーム』8BP

特徴

- 1 《絶対攻撃》7BP (実質0BP)
- 2 《ド根性》3BP

NEW 3 《魅力的》0BP ⇒ 《カリスマ》
3BP

4 《クイックドロ》0BP (累積2BP)

5 《シャープリロード》3BP (累積3BP)

NEW 6 《魔力ブースター》0BP ⇒ 《魔

カブースター+》3BP (累積4BP)

所持39BP | (消費済み32BP + 新規消費(特徴6BP)) || 残り1BP

◇《カリスマ》3BP 条件：《魅力的》からのランクアップ。

チームメイトや監督の信頼度上昇に補正が付く。

更に団体戦で他の味方の全基礎ステータスに上昇補正が入るようになる。

他の味方のSP自然回復量を上昇させる《ムードメーカー》とはランクアップ元が同じ。

どちらも強力だが、片方しか取得出来ない。

◇《魔力ブースター+》BP3 条件：《魔力ブースター》からランクアップ。

試合開始時、自動的に魔力バフが入る。

「攻撃バフ」ではなく「魔力バフ」なのでバフの種類は重複しない。

《魔力ブースター+》は何度か話した通りです。普通に強い。

《カリスマ》は《魅力的》の上位特徴で、信頼度バフの半分程度のバフを他の味方に与えます。

よその学校では薫子様や百獣学園の玲央先輩、これから戦う聖オリーブエの美夏さんも持ってますね。

ちなみに指希先輩は《ムードメーカー》の方を持っています。

一年目のほも君や高旗先輩、そしてなびきちゃんと、SPカツカツ

勢の継戦能力にまで行き届いた配慮はまさに部長の鑑。日本の心。

その心意気に感謝して、今日も好きなだけ銃弾ぶっ放そうぜ（トリ

ガーハツピー並感）。

パパーパパーパパーパパーパパーパパーパパーパパーパパー
／ワアー ワアー／
／ワアー ワアー／
音咲女子高校 VS 聖オリーブエ女学

院

高旗なびき

永留美夏

ほも

永留優理

??
2 2 1 2 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
0 5 ???
敏 魔 1 敏捷 耐久 0 HP 1 7 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
1 1 2 1 0 永留優理 0 8 6 7 筋力 0 SP 8 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
6 1 1 1 3 ???
??
神 力 P 2 9 精神 0 4 4 0 4 0 4 0 4 0 4 0 4 0 4 0 4 0 4 0 4 0
1 0
3 7 4 0 H 1 0 5 4 0 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
??
久 0 8 0
9 0
????????????? ?????????? ?????????? ?????????? ??????????
??
??
??
??
??

調辺指希

永留愛

??	2	1	6	0	HP	0	9	0
????2????????????	8	2	1	4	耐久	1	0	???????
8	2	1	4	精神	2	0	3	0
敏捷	1	2	魔力	1	0	???????	9	0
1	6	1	0	0	?????	筋力	0	3
6						???	???	???
??								

「それではただ今より、音咲女子高等学校と聖オリビエ女学院の試合を行います。

試合……………始めっ!!」

ビーーーーーーッ

オッスお願いしまーす！（開幕Fスタンバレット）

「う……………つぐう!？」

まずはFスタンで被理ちゃんを怯ませ墜落させます。（追加ダメー
ジ＋大幅足止め）いいゾ。

こ→こ←敏捷で上取れないと美夏さんに防がれるので注意。

「全隊ステップ！ 動きを止めないで！」

「主よ、かの者に慈悲を」

「迷える者達を守る盾を、この私に……………！」

指希先輩の敏捷バフにやや遅れて、ラブちゃんが被理ちゃんを回復、美夏さんも懐かしの広範囲ガードを展開。

貫通しちゃえばどうって事ないですが、そもそも専用特徴でチーム全員硬くしてきやがりますのが非常にうざったい。

◇《光翼の守護》

永留美夏専用特徴。

試合開始時、味方全員に空中にいる限り被ダメージが減少するバフを付与する。

聖オリーブエの守りの要。

被ダメージ減少量が大きく、あくまで開幕バフ付与なため《絶対攻撃》の対象外。

反面バフ剥がしなどは普通に効くのが弱点。

「これしき……！」

「ううー！」

すっ転んでる被理ちゃんにPハイパーシユート。美夏さんのガードを貫通してダメージ減衰があるものの、接地状態なんで《光翼の守護》が機能しない分トントンといった所。

おう指希先輩バフのおかわり早くしてくんな！

「もう一回！ テンポ上げてくよー！」

「主よ、かの者に慈悲を」

「この巻物を開くのにふさわしい者はだれか——」

あー、今の敏捷ではやはりギリギリ間に合いませんでした。

しやーなし、被理ちゃんの必札スキルのド派手な演出を眺めつつ、

彼女の無敵状態が切れたらいつでも撃てるように備えましょう。

◇『黙示録』

永留被理専用必札スキル。使用時に全SP消費し、威力は魔力と消費SP依存。

以下の効果が一定時間毎に連続して切り替わるように発生する。

①四頭の馬と大量の人型ミニオンを召喚し攻撃させつつ、地震を起こして動きを止める。

この間まで本人は無敵状態。

②地面が火の海になり、毒付きの魔力弾が降り注ぎ、フィールドが暗闇になる。

③巨大な多頭の竜と獣のミニオン二体を召喚して攻撃させる。

④敵全体に毒と回復無効を付与、フィールドが暗闇になり、地震を起こして動きを止める。

⑤ランダムな敵一人を即氏、それ以外の敵全員に最大HPの半分ダメージ。

一分半に渡るミニオン召喚、デバフ、攻撃ダメージ、果ては即氏とやりたい放題の超大技。

本人はその間移動力大幅低下、攻撃等の行動不能かつ、倒せば効果も強制終了となるため、攻略には早期撃破あるのみ。

有効な対策として、《飛行》を持っていれば暗闇以外のデバフは回避可能。

『黙示録』は、シンプルな名前と裏腹に効果盛りすぎな被理ちゃんの専用必札です。

第一段階は物理・魔力に分かれた状態異常付き馬ミニオン四体と、物理攻撃のみの人型ミニオン軍団の大量召喚、ついでのように地震で移動力を大幅に下げてきます。

ばらけてるとあつという間に各個袋叩きに合うので、互いが邪魔に

なって殴りかかれる面積を減らすため、一塊になっておいたんですね。

んじやお膳立ては済んでるんで、ここは彼女に任せましょう。

おめえの出番だ！ なびき!! レッツゴージャステイーン！

「させ」させま「効き」さ「効」させ「さ」さ「効」効きませーんっ!!」

F O O →連続ブロッキング気持ちいゝ(快感)。

波状攻撃の間隔が短すぎると逆に決めやすいんで、防ぐ対象に困らないここではまず外さないですね。いいゾ。

指希先輩の全体敏捷バフを更に受けつつ、ほも君は適当に美夏さんへWソニック撃つてから、今度はPハイパーで美夏さん諸共ラブちゃんを削っていきます。

……そろそろかな？ どうかな？

段階移行前になびきちゃんから離れ、わざと攻撃を喰らいに行きます。

おい、痛つてえ(笑)。あつ、先輩やばいつすHP五割切りましたよ

！ 助けてー！（棒）

「さあ、ここが盛り上げどころつてね！ 行くよみんな！」

しゃあ！（火力増強） いいところ見せたる！

◇『ドレスライトカンパニーフロント』

調辺指希専用必札スキル。

精神を参照に味方全員のHPを中回復、次の被ダメージまで防御上昇(大)と怯み・強制移動耐性、次にダメージを与えるまで攻撃上昇(大)を付与する。

回復量は微妙に物足りないが、大技で反撃する起点としては申し分ない性能。

プアーーーーーッ

『黙示録』第二段階移行を知らせる七つのラツパが鳴り、ミニオン達が消失。

地面が火の海になり、暗くなったフィールドの真上から毒付きの光弾が降り注ぎます。

そして被理ちゃんの無敵状態が切れた今がチャンス！ 位置覚えてりや見えなくても当てられるんだよ！

おらッ！ アルティメットフュージョンビーム全部乗せ喰らえ!!

「ぎゃあああああッ!!?」

「あつぐ……ッ!!」

堕ちたな（ダブルミーニング）。

ラブちゃんが直前の全体回復スキルのクールダウンが明ける前に、ガードが解かれた二人の落下予測地点へクツソ素早くなったほも君が追撃のWソニック！

……『黙示録』の演出終了確認！ 敵アタッカー撃破よし！

あとは残党狩りじゃ！ みんな踊れー！

「これもまた、試練なのですね……」

「ううっ、参りましたー……」

下着は全員純白だけど、その布面積で清純アピールは無理があるでしよ。

淫婦どもめ、ほもの裁きを思い知れ！（恥辱刑）

てなわけで聖オリビエ戦突破。

ベストは尽くしたものの、そこそこ時間を取られてしまいました。

まあおかげで味方全員に見せ場もあったし、動画的には悪くないやろ（悔し紛れ）。

自傷行為からの指希先輩との必札コンボも、今後相手によってガン使う事でしよう。

基本が回復技ゆえに、使うタイミングをある程度こちらで操作出来るのがうまあ

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

勝 Part 24 S.H.I.N.E. 本戦団体準決

I.N.E. 本戦(団体)

目標：二年目S.H.

易度★★☆☆☆

難

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月	11月	12月	1月	2月	7月	8月	9月	1
	レギュラー選抜戦↑		S.H.I.N.E.!!					

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

B.P : (4BP) (9BP)

休 : 7 8 1 2 3 4 5 6

二年目																
春合宿②																
選抜メ																

ンバー特訓

月 : 3月 4月 5月 6月 7月 8月 ▼ 9

月 10月 11月 12月

なびきin

S・H・I・N・E

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP:

(33BP) (38BP)

(52BP)

休: 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼||現在地点

BP||総獲得B

P目安 休||総休養回数目安

盗人集団を御用するRTAパート24、続き行くよー。

前回はS・H・I・N・E。本戦団体一回戦で聖オリエエを撃破した所まで。

いやあ『黙示録』は強敵でしたね(MST)。

遊び始めた当時、こいつに何度もわからん頃しされたのが今では懐かしく感じます。

さあて、次はもっと早く済む相手だと良いですが……

◁一回戦突破後、流れに乗った音咲女子高校は準決勝まで勝ち進んだ。

「すごいです!! アタシ達、準決勝まで来ちゃいました!」

「あと二回勝てば……音咲の二年連続優勝? なんだか、本当に凄い

……」

「ふふ、わたし達ならやれるよ。ね、ほもちゃん?」

◁はい、全員で頑張りましょう。

◁トーナメント表を眺める仲間達のそばで、指希先輩の言葉に強く頷いた。

「ふふーん！　そうは行かないニヤ！」

＜背後から届いた声に振り返ると、そこには目元を隠すマスクとタキシード姿の女子がいた。

＜小柄な体格で口には挑発的な笑みを浮かべ、自信に満ちた雰囲気だ。

ヌツ！　お前は泥棒メスガキキャッツ！　やべえよやべえよ……
(微焦り)。

「……えっと、確か……」

「次で当たる開東（かいとう）高校の部長さん、だったかな？」

「音咲女子高校の二連覇、この怪盗キャットがズバツと盗んじやうんだから！」

悪いけど、覚悟しててよね！」

＜一方的に宣言し、こちらが話しかける前に何かを投げつけてくる。

＜胸元に飛んできたそれをキャッチすると、本人はすでに角を曲がって去ってしまっていた。

「なにになに……」　団体準決勝、怪盗キャットが頂戴します」

「……………これは、予告状？」

「かつ、かつこいいですー!!!」

＜……目の前で同じ事を言ってから渡すのは二度手間なのでは？

＜そう思ったが、はしゃいでるなびきちゃんに水を差すのも野暮なので黙っていた。

多分馬鹿だから作法知らないだけだゾ（指摘）。

それはさておき、準決勝のお相手は開東高校。際どいレオタードの上にタキシードとマジシャンハットとマスクを身に着けた手品師衣装と、見た目通りトリッキーな戦法が持ち味の学校です。

問題はさつき出て来た猫耳メスガキ、部長の猫田　みけ（ねこたみけ）が指希先輩とクツソ相性悪いという事。

◇《怪盗参上!!》

猫田みけ専用特徴。

攻撃、またはスキルを当てた相手の、試合開始後に付いたバフを全て奪う。

複数対象に当たった場合、それら全てに有効。

凶悪なバフ戦法メタ。

AI相手には見せ合いの段階で選出を縛れるほどの強制力を持つ。

《魔力ブースター》など特徴由来で付くバフにも当然効く。

一方で、《ライフアップ》など常時ステータス上昇系特徴には効果が無い。

《絶対攻撃》の対になる《絶対防御》があれば無効化出来る。

◇《すりぬけ》3BP 条件：魔力8、敏捷10以上。

障害物やキャラをすりぬけて移動可能(同じ座標に重なる事は出来ない)。

おおむね通りぬ●けフープみたいなもの。

同じ座標に重ならない仕様を悪用して、オブジェクトを通して疑似的にワープしたり、

接近戦で相手にぶつかって正面から裏に回り込むなどといった芸当も。

◇『Aステートデバフ・オブ・スピード』4BP (OP込み) 条件：魔力8、精神10以上。

指希先輩の使う全体敏捷バフのデバフ版。

《怪盗参上!!》を持つ猫田みけが使うと、敵全体デバフ+バフ奪取というぶっ壊れ技に。

デバフ自体は防いでも、おまけのバフ奪取は基本的に防ぎようがないので注意。

奴の前には純正バファアである指希先輩はエサ同然。《ライフリンク》はバフじゃないので奪われないものの、主力スキル使用を禁じて本当にそれだけの置物にするのはあまりに弱いです。

バフを積んでの専用必札が持ち味な奏ちゃんも同様に、交代要員としては不資格。

なんで、ここは再びイスカちゃんの力を借りるとしましょう。

去年の準決勝でも回避盾として括約してくれた彼女ですが、今回はほも君とのダブルアタッカー運用で、あのすばしっこい猫ガキを追っかけ回してもらいます。

高速で避けながら戦うスタイルはなびきちゃんが守るには不向きですが、そこはほも君だけ守るよう指示を出せばOK。代わりにほも君でイスカちゃんを援護射撃してやるって寸法よ！

……ていうか、何気に敵のランダム加入キャラに相性の良い面子が見えますね。

これはスーパー障害物鬼ごっこ開幕の予感……！

陣形は一回戦と変わらず全員前衛。下手に遠距離戦していると、強制移動でいきなり引き込まれて袋にされるぜよ（初見頃し）。

んじゃオーダーも済んだので、試合開始といきまっしよい。

／ピーッピーッピッピッピッ　パッパラパパーパーパーパ
パパーパーパパパーパーパーパッパッパッパパーパーパー／

／ワァー　ワァー　ワァー／

／ワァー　ワァー　ワァー／

音咲女子高校　VS　開東高校

高旗なびき

白帽子羽美

友情は奪えない、はつきりわかんだね（美談）。

なのでご安心。

ちなみに信頼度バフは試合開始前から付いててバフ奪取の対象外

イスカ										ほも																			
2										2	2									1									
7										0	5	????????????								9	6								
敏										敏	魔									敏	耐								
捷										捷	力									捷	久								
1	2	1		0	2	2				2	1	1		1	0					1	0								
2	精	1		4	0	0				3	1	1		1	3					4	9								
神										精										神									
1	力			0						神										0									
2	2	8			1	0				1				0	0	3				8	0								
0					7	7				3				7	2	0				精									
					0	0								0						神									
														久						1	0								
														1						7	4								
														3						魔									
																				力									
																				1									
																				8									
																				????????????									
																				????????????									

「それではただ今より、音咲女子高等学校と開東高等学校の準決勝戦を行います。」

試合……………始めっ!!」

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす! (開幕Fスタンバレット)

「怪盗キャット、参じよ…………ニヤーツ!」

まずは開幕全体敏捷デバフをかまそうとしてくるみけを足止め。敏捷はあちらが上ですが、スキルの発生速度で先手を取れます。さあやれっ、イスカ!!サン!

「遅い!」

「いたいっいたいっ!」

「ショータイム、始まります」

「~~~~♪~~~~♪」

—————

◇『ファンタステイクイリユージョン』

白帽子羽美専用必札スキル。

広範囲に巨大なシルクハットを魔力依存で複数召喚。

シルクハットは一定ダメージを受けると破壊され、中から更に大量のハトを召喚する。

ハトはランダムに飛び回り、触れた敵に最大HPの1/20のダメージを与える。

身を隠せる巨大トラップは《すりぬけ》と相性抜群。

少なくとも羽美本人とみけの固有キャラ同士が《すりぬけ》持ちなので、腐る事はまずない。

ハトはダメージを与えれば消えるが、数が多いので一度散らばると対処は困難。

◇『Wバウンスバブル』3BP（OP込み） 条件：魔力12、精神8以上。

フィールドを漂う人間大のシャボン玉を複数生み出す魔力依存の攻撃スキル。

Wワイドの略。サイズが更に一回り大きくなった。

速度は緩やかで、壁や床、障害物などに当たると跳ね返り、一定時間経過で消滅。

味方キャラの攻撃が当たると破裂し、近くの敵にダメージを与える。

ダメージは大きいが単体では機能しないコンボ用。

漂っている泡はオブジェクト判定なため、《すりぬけ》などにも利用できる。

猫ガキの相方の鳩ガキこと羽美ちゃんが専用必札で巨大シルクハットを、ランダム加入キャラの人魚の歌恋ちゃんがつかいシャボン玉をそれぞれ複数出してきました。

「はッー！」

「当たらないよっー！」

これにより《すりぬけ》持ち二人の逃走経路が大幅増加。

さっそくみけがシルクハットをすりぬけワープして距離を取りますが、イスカちゃんもAI特有の把握力で瞬時に位置を捕捉し猛追尾。本格的追いかけてこの始まりです。

でもその前に、《すりぬけ》持ってない仲間外れを狩りましょうね（Pハイパーシユート）。

「~~~~っ!?!?」

シルクハットの裏に隠れた歌恋ちゃんを、構わず前進しながら撃ち抜きます。

当然目の前のシルクハットから大量のハトが飛び出しかなり危険ですが、ヘイなびきちちゃん！ いっちよやっつくんな！

「効き」効「させ」効「さ」効「さ」させ「さ」効「効き」させませーんっ!!」

ムツハハ！ 無敵!!

散らばる前の群れに自分から突っ込めば、あとはなびきちちゃんが全部防いでくれるぜー！

ブロッキングすればハトも消えるしまさに一石二鳥！

「種も仕掛けもございません」

◇『Wデンジャーボール』4BP（OP込み） 条件：筋力8、魔力12、精神8以上。

当たると最大HPの1／3ダメージとノックバック強を与える人間大の鉄球を召喚する。

Wワイドの略。更にデカイ。

敵味方問わずダメージを与える。壁に当たると跳ね返り、試合終了まで消えず、破壊不能。

フィールドに二つまでしか存在できない。

ミニオンの中でも特殊な破壊不能タイプかつ、無差別ダメージ。

弾速は遅めだが、強い攻撃を受けると威力に応じてスピードを増して跳ね返る。

最強の壁になり得るが、これ自体がかなり危険。

《すりぬけ》があればリスクを無効化できるのでセットで取りたい。

おうインチキ鉄球ドッジボールやめろや（抗議）。
自分達だけ当たらないとかおかしいだろオ!?

「効きませーん、えいやーっ!!」

やりますねえ！（賞賛）

なびきちやんがブロッキングからのプッシングで、綺麗に歌恋ちやんの方に跳ね返してくれました。えらいぞく♥

「~~~~つっ!」

最後の仕事にもう一度シャボンを飛ばしましたが、哀れ人魚はそのまま鉄球に跳ねられ、怯んだ所にほも君の追撃を喰らいK.O。

「せッ！ はッ!」

「むくだニヤっ♪」「当たらないよっ!」

イスカちゃんも攻撃スキル『P（パラライズ）トライショット』で3wayの麻痺付き飛びクナイをばら撒きますが、障害物をワープしながら逃げるみけは未だ捉えきれず。

手が空いたほも君は、壊してしまったシルクハットから出たハトの群れをWソニックでなるべく減らしておきましょう。拡散されたら百害あって一利なし。

「怪盗キヤット、参上ニヤー!」

あー、ついに全体敏捷デバフを撃たせてしまいました。ついでにはほも君の《魔力ブースター+》のバフも没収です。

しかしここまで来れば状況はクリアしたも同然！（カメラぐるぐ

る)

「鉄球マジック、もう一回」

はい鳩ガキ見つけ。

身体隠して鉄球隠さずとはこの事よ！（アルティメットフュージョ
ンビーム全部乗せ）

「んううう……っ!!」

ヌツ！ 魔力バフ取られた分仕留め損ねたか。

まあいいや（冷静）。怯んでる所にもっぱPハイパーぶち込んで
とどめ。

鉄球が射線に割り込んできたけど貫通だから関係なし！

残るは一人、おら覚悟しろ猫ガキ！ 三人に勝てるわけないだろ！

ホラホラホラ、お友達のおハトさんはもう消えちゃったぜー？

チツ（舌打ち）、おいゴルア！ その邪魔臭いシャボン玉どけろ！

（こちらから破壊不可）

逃げんじゃねーよ！ オイ!!!（プチ焦燥）

よしイスカそのまま追い詰める！ っしやあ!!（ワープ予測Wソ
ニック直撃）

「ひいうっ、まっ負けちゃったニヤ……!!」

はい勝ち……（男の中の男であるホモがメスガキに負けるはずな
いので）。

おらっレオタードの下の際どい前貼り見せろ（カメラズーム）。

「まっ、あたしにかかればざっとこんなもんってわけ」

というわけで開東高校撃破。イスカちゃんありがとナス！（感謝）
素の音咲メンバーだともっと手間取るんですが、彼女がきつちり
マークしてくれたおかげで全体敏捷デバフを筆頭に、敵の遅延行為を
未然に防げました。

オーダー画面操作分のロスはどうにもなりません、ここ相手なら
悪くないタイムで

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

!!
プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP) (38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

変身ヒロインってなんだよ(哲学)なRTAパート25、はあじまあ
るよー!

前回は開東高校のメスガキ共をほも君のほも君♂でわからせて
やった所まで。

今回はいよいよ団体決勝戦、さつそく続きと行きまっしょい。

▽会場内を一際大きな歓声が包み込む。

▽S・H・I・N・E 本戦の団体決勝戦。両チームの選手達が
フィールドに立ち、場内アナウンスの紹介を受けながら行う見せ合
いは、応援団のパフォーマンスもあり大変な盛り上がりを見せていた。
「……ふふ、みーこ演奏頑張ってる」

「ヒロインバトル部のみんなも手振ってくれていますっ! おーーい
!!」

「これに勝てば二連覇、か。」

「ここまで来たからには絶対引けないよね、ほもちゃん」

「はい。勝ってプリンセスブレイドに行きましょう。」

「あははっ、流石。頼りにしてるぞー?」

「あーっツ!? キミは去年の、確かほも!!」

「相手チームの一人から、急に名指しで声を掛けられた。」

「どこか見覚えのある彼女は……確か大品ちひろさん、だったか。」

〈久しぶり、今日はよろしく。

おう特殊会話やめーや（微ロス）。

ちひろちゃんがいるって事は、お相手はZMC学園ですか。ええやん（短期決着見込み濃厚）。

「この前は負けちゃったけど、今回はそうは行かないよ！」

「その通り！ 我がZMC学園が誇る最強ロボ、メカチヒロの前に敵はないのだ!!」

「ゼツタイ負けナイヨ！」

〈ZMC学園の部長、真木 奈々未（まき ななみ）さんの力強い宣言に、隣の人型ロボが続く。

〈……そう、今気付いたがフィールドに一体、明らかにロボットが混じっている。

〈寸胴ボディに手足が付いた、やたらレトロな見た目のやつだ。

〈……指希先輩、あれは。

「う、うーん……？ 協会が認めたからここにいるんだし、多分選手……かな？」

「多分ではない！ メカチヒロはうちの立派な選手である！」

「ゼツタイ負けナイヨ！」

「両チーム、ベンチへ下がってメンバーを選出して下さい」

「え!? もー、わたしが話してたのにーっ！」

〈審判の人に下がるよう告げられ、ZMC学園のチームが騒がしくも離れて行った。

〈変な人達でしたね……。

「……人……人？」

「なんだか微妙に脱力しちゃったけど、まあ、わたし達のやる事は変わらないって事で。

いつも通り、勝利を目指してみんな頑張ろう！」

「おー!!!」

そんなわけで、団体決勝戦はZMC学園。

《開幕多重召喚》持ちの奈々未さんが呼び出す多彩なメカに、ちひろちゃん、メカチヒロと物理攻撃特化の学校。

AIはHP少ない奈々未さんと魔防皆無なメカチヒロを絶対選出して来るので、魔力攻撃かつ遠距離貫通持ちのほも君は非常に良く刺さります。

代わりに向こうも超クツソ激しい暴力を振るってくるんで、なびきちゃんの負担がマツハ。

中には貫通攻撃も含まれ、ほも君自身なるべく回避しないといけません。

◇ 『究極合体ロボ・メカチヒロMAX』

メカチヒロ専用必札、合体変身スキル。試合開始から30秒後に使用可能。

範囲内の全ての味方キャラ・メカミニオンと合体。

味方全員のHP・SPを合わせ、他ステータスは本人を基礎に他メンバーの三分の一を加算。

合体したミニオンは本人とは別にそれぞれ攻撃が可能。

各個撃破できなくなったミニオンとの強化された波状攻撃がかなり厄介。

メカのミニオンならどんな形とでも合体するので、場合によってはかなりカオス。

特に使わせちゃいけないのがこの必札スキル。

これをやられる前に速やかに片を付けましょう。

編成は前衛なびきちゃん、中衛ほも君、後衛指希先輩の基本フォーメーションに。

地区予選の時点でプリセット登録してあるので変更ロスはないぜよ！

んじやS・H・I・N・E・本戦団体決勝、イクゾー！ デッデッ
デデデデ！

／ピーッピィッピィッピィッ
／パイッパイッパイッパイッ
／ワイッワイッワイッワイッ

／ワイッワイッワイッ

音咲女子高校 VS ZMC学園工業

高校
高旗なひぎ
大品ちひろ

1 9 0 H P 1 8
2 6 耐 久 1 5
0 8 精 神 1 0 4 4 魔 力 0 5
0 7 筋 力 1 5 1 0
0 6 筋 力 5 1 0 0
0 6 筋 力 5 1 0 0
0 6 筋 力 5 1 0 0
0 6 筋 力 5 1 0 0

ほも
メカチ

調辺指希

1 6 0 H P 0 7 0
2 0 敏 捷 1 1 0
2 5 魔 力 1 0 1 0
1 0 1 0 筋 力 0 9 0 0 H
0 7 0 0 耐 久 2 5 0
0 7 0 0 耐 久 2 5 0

??	2
8 2 1 8	2 0
敏捷 精神 魔力	S P
1 1 0	2?
4 8 2	?? ????? 2?
??	5
??	0
??	筋力
	0 5
	?????

「それではただ今より決勝戦、音咲女子高等学校とZMC学園工業高校の試合を行います。
試合……………始めっ!!」

ビー————ツ (カーン)

オッスお願いしまーす! (開幕Fスタン)

「くう……っ!」

「いでよー! 我がロボット軍団ー!!」

まずは近接前衛のちひろちゃんを怯ませつつ、奈々未さんの位置と、《開幕多重召喚》の中身をねっとり確認。
さあどこに何が出るかな?

◇『Hメタルジャマー』4BP (OP込み)

魔力依存、相手のバフの効果を軽減させる防御・魔防に優れたメカを召喚する。
HIIハイパワーの略。SP消費が増加するが、基本性能が向上するオプション。

◇『Pメタルドリラー』4BP（OP込み）

魔力依存、物理属性で多段判定のドリルミサイルを発射するメカを召喚する。

P||ペネトレイトの略。貫通を付与するオプション。

◇『Qメタルシューター』4BP（OP込み）

魔力依存、物理属性で弾速に優れた銃弾を発射するメカを召喚する。

Q||クイックの略。全体的な攻撃速度が上がるオプション。

◇『アルティメットメタルジャイアント』8BP 条件：魔力18

以上。

魔力依存、物理属性で高威力・貫通付きパンチを振るう巨人メカを召喚する汎用必札スキル。

全ミニオンの中でも屈指のHPと攻撃力を誇る鉄の巨人。

動きはそこまで素早くないが、リーチが長く攻撃判定も大きいので油断は禁物。

チツ（舌打ち）、やっぱり出やがったなメタルジャマー！ だが良い位

置だ！

一切の防御をなびきちやんに任せ、あのバフ妨害装置と奈々未さんを同時に射線に捉える位置へ巨人パンチを避けつつ全力移動。ここが勝負どころぞ！

「メカチヒロ、ミサイルポッド、発射シマス」

「全隊ステップ！ 動きを止めないで！ ……あぐっ!？」

「させま」さ「効」効き「させ」効きませーんっ!!「いったあー!？」あうっ!?!？」

……配置ヨシ！ メタルジャマーは移動不可ミニオン。そして巨人に隠れて全然見えませんが、奈々未さんも《開幕多重召喚》のクソデカ硬直で一步も動けないので問題なし！

狙い撃つぜ！（Pハイパーシユート）

「ギャー……ッ?!?!」

シャアツ!!（スナイプ成功） おつぶえ!?（ドリルミサイル回避）
奈々未さんは首尾よく撃破。次は砲台モードになったメカチヒロと、メタルジャマーを同じ射線に捉えるポイントへ回避しながら移動。

サモナー不在でも当然の権利のようにミニオンが残り続けるのマジFuck。

団体戦の強みを存分に活かしやがって……（憤怒）。

「逃がさないぞ！」「えいやーっ!!」「わわっ?！」

押し出しナイスウ！（安堵）

ここでちひろちゃんにまで絡まれたらとても攻撃に回ってらんないっしゅ！

巨人パンチ二発目！ 回避！ こんなのも君に直撃したらチーム全員んじやうだるルオ!?

誘導ミサイルは後ろの指希先輩に擦りつけーの、配置ヨシ！ 撃てい！

メタルジャマー破壊確認！ 行ってえ!!（ライフル被弾）

「もう一回！ テンポ上げてくよ！」

封印がとけられた！（BRNT） 超スピード!?!（レ）

魔力バフも戻った駄目押しもう一発しゃぶれおらっ！（ステップ回

避+Pハイパーシユート)

「ピーー！ ガガガ……、ハカセ、チヒロチャン……ダ、イスキ……」

メカチヒロ爆発四散！ こんな嬉しくないノーパン（寸胴鉄板ボディ剥き出し）ある？

残すはちひろちゃんのみ！

そしてここで巨人パンチ三発目、チームのHPが五割を大きく切つて計算通り！

指希先輩、『ドレスライトカンパニーフロント』オナシヤス！

「さあ、ここが盛り上げどころってね！ 行くよみんな！ ……あぐっ!？」

ぬんんん!!（HP回復+攻撃・防御バフ大）

「でやああああ!!」

「効きま「いっ」「いっ」たあー!？」

最後の一発くれてやるよオラ！（超貫通・怯みアルティメットフュージョンビーム）

「きやあああああッ!!」

（無言Wソニック）

「つぐう!?! ま、また負けちゃった……っ」

フンツザゴカ!

てなわけでZMC学園撃破！ 攻めに行った甲斐あって良いタイムだあ（満足）。

「やったー!! お姉ちゃん、みんな、アタシ達勝ったよー!!」

締め台詞はなびきちちゃん。マジでありがとナス！（功劳賞）

指希先輩の《ライフリンク》共々、遺憾なく性能を発揮した試合でした。

＜試合終了のブザーが鳴った直後、それをかき消すほどの割れるような大歓声が会場に響く。

＜S. H. I. N. E. 本戦団体部門。自分達が今、再びその頂点に立ったのだ。

「ほもちゃん、ん」

＜汗だくの指希先輩が、こちらに向かって手を掲げる。

＜合わせるように、互いに女子らしからぬ力強いハイタッチを交わした。

「ナイスフアイト」

＜先輩こそ。

「ほもさん……っー」

「ほも先輩!! やりましたよー!!」

＜奏さんになびきちちゃん、他にもチームの仲間達が続々と駆け寄って抱き合う。

＜音咲の応援スタンドはもう完全にお祭り騒ぎだ。

「うぬうう!! まだアップデートが足りなかったとは……!」

「ハカセ、ゴメンナサイ」

「メカチヒロのせいじゃないのである！ 絶対、絶対もっと強くしてやるのである!」

「まあまあ博士、その辺で。」

……あつ、ほも！ 今回はまたやられちゃったけど、わたしも次こそ絶対勝つからね!!」

＜センターラインの向こう、整列した仲間をなだめながらちひろさんがリベンジ宣言をする。

〈もちろん、望むところだ。

〉うん。また戦おう。

「へへっ、約束だからね！」

「選手整列——ッ！ 気を付け——礼ッ!!」

「ありがとうございますました!!!!」

アヤツ→ス!!!! (体育会系特有の万能言語)

〈歓声が鳴り止まぬ会場を後に、音咲の皆と選手達に用意された宿舎へ戻っていく。

〈来週はS・H・I・N・E 本戦個人部門。

〉団体戦は終わったが、自分の戦いはまだ続いている——。

そうだよ(便乗)。まま、今のほも君タイマンならマジ強いんで安心してくれよなー(0敗)。

勝つだけなら余裕とくれば、後はめんどいのと当たらない事をひたすらお祈りしておき

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございます。

Part 26 S.H.I.N.E. 本戦個人一回
戦し決勝

目標：二年目S.H.

I.N.E. 本戦(個人)

易度★★☆☆☆

難

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1月
レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

休 B P : (4BP) (9BP)
: 0
7 8 1 2 3 4 5 6

7 8 9

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月 : 3月 4月 5月 6月 7月 8月 ▼ 9

月 10月 11月 12月

なびきin

S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP: (52BP) (33BP) (38BP)

休: 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

真の頂点はただ一人なRTAパート26、はあじまあるよー！
前は二年目S.H.I.N.E. 本戦の団体を優勝した所まで。
間に一週分練習挟まるのでうっかりボタン連打しないよう気を付
けつつ、パパパツとメニューを選びましょう。

「ほもさん、お疲れ様。これ、飲み物もらってきた……」

「ありがとうございます、奏さん。」

「ふふ……どういたしまして」

奏ちゃん魔力追加ボーナスありがとナス！（激ウマガヤグ）

練習メンバーとしてはほんと役に立ってくれますねえ！

んじゃ選抜メンバー移行前の最後の練習も済んだし、この先に待つ
プリンセスブレイドに向け、個人戦も一気に片付けて行きますよーイ
クイク……

「翌週。S.H.I.N.E. 本戦の会場に、再び足を踏み入れた。」

「開会前の選手控室は団体戦の時より人が少なく、ピリピリした静
かな緊張感に包まれている。」

〈やがて開会式は問題なく終わり、観客席の声援を受け選手達の試合が始まった。

「あのっ、ほもさん、がっ頑張って……!」

「えっとええっと! 観客席でアタシ達もいっぱいいっぱい応援してますー!!」

「こちら、二人の方が緊張しちやっつてほもちゃんに伝染ったらどうするの。」

……なんて、正直そんなに心配してないんだけどね。

行つてらっしゃい、ほもちゃん。

一年生でチャンピオンになった実力、見せてあげなよ」

見たけりや見せてやるよ（王者の風格）。

〈控室へ入る前、音咲の仲間達を代表して、指希先輩達から激励の言葉を受け取った。

〈そうしてしばらく待っていると、係の人に自分の名が呼ばれる。

〈行こう、試合の時間だ。

そんなわけで一回戦のお相手は……ヌツ!

精霊殿女子学習院の部長、不思議系ロリな源（みなもと）マナちゃん!

チツ（舌打ち）、お前硬いんじゃない!（不満）

マナちゃんは精霊殿固有キャラの例に漏れない純正サモナー。

前回戦った奈々未さんが多彩なミニオンを繰り出すタイプなのに
対し、彼女は一体のクツソ強力なミニオンに注ぎ込むタイプ。

本体が隙だらけな《開幕召喚》系サモナーの中では珍しく貫通スナイプが一切効かないので大分面倒ですが、頑張るしかないよ!（気合充填）

／ピーッピーッピッピッピッ パッパラパーパーパーパ

パパーパーパパーパーパーパッパッパッパッ
 \ワアー ワアーワアー

			\ワアーワアーワアー		
??????					
	1	2			
	7	2	????????		
	敏捷	魔力			
	0	2	1	4	
	6	7	0	0	
????????			SP		
	0		0	8	3?????
	8		筋	力	3
	精神		0	0	6
	2		???	力	0???
	6		??0???	0???	0???
			4	2	H
????????			耐	久	P
			0	2	0
			??	??	3
					0
					???
					源
					マ
					ナ

なんだこの極端なステは、たまげたなあ……（驚愕）。
 ちよつとSP限界突破してんよー。

「それではただ今より一回戦、音咲女子高等学校所属ほも選手と精霊
 殿女子学習院所属源選手の試合を行います。」

試合……………始めっ!!

ビーーーーーッ

オツスお願いしまーす！（開幕Pハイパーシュート）

「おつきなキラキラさん、戦ってくれるの」

|
 |
 |
 |
 |
 |
 |
 |
 |
 |

◇『グレートスピリットオブマナ』

源マナ専用必札スキル。SP全消費。

自身を包み込む巨大なマナの精霊を召喚し、代わりに戦わせる。強

さは魔力と消費SP依存。

召喚中、術者は無敵状態。

基本性能がそこそこ高く、本人の魔力とSPの高さも相まって実質最強のミニオン。

移動は非常に遅いが、ミニオン召喚、超威力の遠距離多段攻撃、全体攻撃と行動全てが強力。

――――

《開幕召喚》でマナちゃんが専用必札『グレートスピリットオブマナ』をさっそく披露。

本体の貧弱さを豪快に無視するインチキ技、汚いな流石部長汚い(BLNT)。

こいつを怯ませてる時間がもったいないので、こっちも最初から攻めに行きます。

おらっ！ もっぱつ喰らえ！

『――――、――――』

『グレートスピリットオブマナ』の行動パターンは、ミニオン召喚⇒遠距離多段攻撃⇒全体攻撃(開始ランダム)のローテーション。今回は全体攻撃から始まるツンパターンっすね。

何の光!? アツーーーーー♂(HP全損)(《ド根性》発動)

潤沢な魔力・SP補正を受けた回避不能のエネルギー放射に、紙装甲なほも君の衣装がいきなり下着と切れ端のみになってしまいました。が、なあに氏ななきや安い。

今の火力なら行動がループする前に倒し切れるので、次のミニオン召喚に備えて距離を取っておきましょう。

ノックバックはちゃんと効いてくれますし、的がデカイので外す心配もナシ！

ホラホラホラ、ホラホラホラ（引き撃ちWソニック連射）。

『□、■□□■□□■□』

『グレートスピリットオブマナ』が周囲に四体の精霊ミニオンを召喚。

ゆっくりとした4way光弾を回転しながら放射状に各自ばら撒いて来ますが、こんだけ離れてたらまるで脅威にならないので当たりそうなのだけちよい避け、後はひたすら攻撃あるのみ！

ほら撃ってこい撃ってこい（挑発）。そんなんじゃ虫も頃せねえぞお前ら。

『■、■□□■□□■□□■□□』

最後の行動パターンは弾速・威力申し分なしの、太おい多段判定レーザービーム。終わり際までねつとり照準合わせて来るで！

先の弾幕と組み合わせり回避難度が急に上がりますが、心配ゴム用。

こんなもん予習して来ないわけないだろ！（本走0敗）

『□□□□■□、□□、□□、□』

もはや完全に弾幕ゲーの自機と化したほも君が華麗に舞い、そしてループ前にきっちり撃破！

おう手間取らせやがって出て来いやクソロリ!!

ビームってのはこうやって撃つんだよ、おらっ！（アルティメットフュージョンビーム）

「キラキラさん、負けちゃったの……」

このゲームロリの前貼り・ニプレス率高い……高くない？（衣装の

都合)

というわけでもず一勝。時間を取られたものの、対処自体は最速でやれました。

大体二ループ目ぐらいに入ってから倒すと《開幕召喚》の硬直が解けてて、今度は通常スキルで似たようなミニオンを纏ってきやがり更なるロスに繋がるので要注意。

油断してはいけないのは彼女自身の魔防がクツソ高く、ほも君の普通のスキルではかなりの高乱数で一発耐えてくる事。

だから超貫通の必札スキルを温存する必要がある、あつたんですね(構文)。

〈一回戦を無事勝利し、続く二回戦、三回戦も流れに乗って勝ち進む事が出来た。

〈控室に戻って中継モニターで試合を眺めていたが……どうも通路の方が騒がしい。

さて準決勝ですが、この前振りは……あつ(察し)。

「待ちなさい！ 貴女があの方の妹である事はわかっています、さあ！ 居場所を教えなさい！」

「ええいつ、しつっこいわね！ 知らないつつつてんでしょ！ ……あ、ほも！」

〈何やってるの、イスカ？

〈言い合いをする二人の片方が彼女だと認識するや否や、背後に回り込まれてしまった。

「む……っ！」

「確かあんた達、次で当たるんだったわね。

……あたしのチームメイトのこいつに勝てたら、兄貴に連絡くれてやってもいいわよ」

「……………その言葉、一言はありませんね？」

〈あの……

ビーーーーーッ

「フイールドで試合終了のブザーが鳴った。そろそろ呼ばれる時間かもしれない。

「……ほもさん、でしたか。私は忍ヶ岳高校の吹雪（ふぶき）と言います。」

準決勝では、どうぞよろしく」

「丁寧な口調と裏腹に、鋭い眼光でこちらを一瞥すると、踵を返して去っていった。」

「……で、イスカ。あの人は？」

「うちの兄貴のストーカー。お偉いさんのお嬢様で、昔仕事で護衛されて惚れたんだとか。」

「まったく、何だってこんな所で会うんだか。」

「死ぬほどどうでもいいけど、面倒だしあんた絶対勝ちなさいよね」

「ええ……？」

「なぜその話の流れで、自分が代わりに相手をしなければならぬのか。」

「心底うんざりした様子 of イスカだったが、溜息をつきたいのはこちらの方だった。」

「だから（特殊会話テキスト）痛てえつつつてんじゃねえかよ（微笑ス）。」

「で、準決勝のお相手は忍ヶ岳の部長、お忍びお嬢様（激ウマギャグ）の吹雪さん。」

「名前の通り氷雪系ニンポの使い手にして、ニンジャ特有の素早い身のこなしで陰キヤ戦法を図る層中の層です。」

「一度彼女を見逃したが最後、クツソ不利な隠れんぼに付き合わされるのは必至。」

「距離を詰めるためほも君の初期位置を最前に変更、速やかに処分して差し上げる（3敗）。」

◇『忍法・大豪雪』

吹雪専用必札スキル。

フィールド全体を大雪状態に変えて、自分以外に極小ダメージと敏捷低下・麻痺（スキルクールダウン増加）・視界悪化（弱）を継続的に与える。

回避不能、対処法が無ければ撃つてから時間切れまでガン逃げ安定のクソ技。

絶対に許してはならない（憤怒）。

安定して狙い撃つためフブキIIサンのジツは止められず、ほも君の動きと視界がやや阻害されますが、一旦怯ませちまえばこつちのもの。

少しでも着弾を早めるためにすかさず前ステ！

貴様に次のターンはない！！ アルティメットフュージョンビーム！（怯み付与）

「ぎやあああッ!!？」

魔力依存の怯み攻撃は痛かろう、エエ!!? 更に前ステで距離詰め！これでとどめだッ、かわせるものならかわしてみろ！ イヤーッ！（近距離Wソニック）

「っ、強い……っ」

ムツハハ！ 弱敵！

その大人びた黒レース下着、陰で見守っているイスカ兄にも見せてやると良いわ！

てなわけで準決勝は鮮やかに勝利！ スピード決着いいゾ（ご満悦）。

さっきの特殊会話の分を差し引いても好タイムです。

並程度のHPと魔防相手ならこの通りよ！

一回戦の不思議ロリといい、《ド根性》その他諸々をぶち抜ける《絶対攻撃》がすっげー活きてる。はつきりわかんだね（実感）。

＜周囲が完全に静まり返った控室で、椅子に深く腰掛け身体を休める。

＜ここまで激闘の連続だったが、緊張と興奮のせいか、思っていたほど疲れは感じていない。

＜他に観れる試合のなくなった観戦用モニターはもう消した。

＜今頃は解説や応援団のパフォーマンスで、最後の休憩中の場を持たせてくれているだろう。

＜……なんだか、一年前も同じような事を思ってた気がする。

思ってたんだよなあ……（文章コピペ）。

＜不意に去年の思い出が蘇り、懐かしい気持ちが胸に広がっていった。

＜S・H・I・N・E 本戦、個人決勝戦。

＜全国でただ一人の頂点を決める勝負に、今再び、この身を置いている。

「ほも選手、時間になりました。フィールドへ入場してください」

＜係の人に呼ばれ、熱狂の舞台へと足を踏み入れた。

「二ワアー……二ツツ!!」

＜途端、一際大きな歓声が観客席全体から沸き上がった。

＜何事かと一瞬立ち止まってしまったが、音咲女子高校の応援席から見える横断幕で納得した。

＜そう言えば、自分はチャンピオンなのだった。

『目指せ二連覇!!』『頑張れチャンピオン・ほも!!』

「流石は去年の優勝者、すごか人気やね。

うちは一刀 命(いっとう みこと)です。よろしゅう」

◁センターライン前まで来ると、対戦相手に剣山西高校二年の一刀さんが挨拶をしてきた。

◁ほもです。よろしくお願いします。

アヤツ→ス!! (体育会系特有の万能言語)

「うち、ヒロインバトルが好きです。

剣道と違って色んな武器、色んな戦い方の相手がおって、何が起るかわからんけん」

◁同感だ。

◁ヒロインバトルはまるで異種格闘技を当たり前にしたような、何でもありの魅力がある。

「ふふふ、やろ?」

こげん賑やかすぎる場所は得意やなかけど、一番強かっていうあんたと戦えるなら、ここまで来た甲斐があるわ。

……ん、そろそろみたいやし、しよつか」

◁選手紹介の時間が終わり、互いに元の立ち位置へと戻る。

◁決着をつけよう。

「いぎ、尋常に」

そんなわけで決勝のお相手は剣山西高校の命ちゃん。

脇とか腰とか無駄に露出多い袴姿に、白髪ポニテの剣客ガールです。

彼女はなびきちちゃんと同じ『D(ダッシュ)ブロッキング』の使い手にして、対人戦最強格とも言われている真のブロッキング神拳伝承者の一人。

◇『Dブロッキング』3BP(OP込み) 条件:耐久8、敏捷8以上。

相手の攻撃にタイミング良く合わせると受ける被ダメージを大幅に軽減出来る。

DIIダツシユの略で、使用時にステップと同等の移動が行える。通常ステップ移動の慣性も組み合わせるとかなりの範囲をカバー可能。

ブロッキングに成功すると連発出来るが、空振りした場合は少し硬直する。

◇『無明の型』

一刀命専用スキル。

自身に状態異常・能力低下を打ち消し、無効にするバフを付与する。連続使用不可。

『修羅の型』とは両立できず、古い方が解除される。

隙が小さく、消費SPも少ない構え系スキルの一つにして専用技。便利な耐性バフだが、ノックバックは状態異常ではないため防げない。

◇『修羅の型』

一刀命専用スキル。

自身に次の攻撃まで攻撃力・敏捷上昇と貫通のバフを付与する。連続使用不可。

『無明の型』とは両立できず、古い方が解除される。

こちらはガン攻め用。

貫通持ちの攻撃スキルに乗せればお手軽超貫通になる。

◇『アルティメットダブルスラッシュ』8BP 条件：筋力16、敏

捷12以上。

筋力依存、中距離・高威力の貫通二段斬りを放つ汎用必札攻撃スキ

ル。

単純にして強力。

必札スキルの中では優秀な発生・硬直で、二段攻撃である点も《ド根性》を破るのに便利。

硬直中にステップキャンセル可能なスキルと、防御用かつ成功時に同様の効果を持つブロッキング系スキルを組み合わせ、一瞬で相手の懐に潜り込んでボコるのがこの戦法。

命ちゃんの通常攻撃は中距離なので回転率は並ながら、筋力がゴリラな上に一対一なら必札スキルでイナフという大変札意に溢れた技構成。

通常プレイだったらこう育てたいけどなー俺もなー（羨望）。

試走段階では現在のビルドと比較してましたが、一年目S・H・

I・N・E・では安定性・速度ともに劣り、《絶対攻撃》をスルーした場合の二年目は《絶対攻撃》持ちのこちらと大差なし、結果トータルタイムで負けてたため廃案になった次第。

悲しいけど、これRTAなのよね（諸行無常）。

オーダーは一年目の薫子様戦と同じ最奥配置・引き撃ち戦法で行きます。

お互い速攻型なんで、ちゃっちゃと終わらせちゃいましょう。

パパーパパーパパーパパーパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッパッ
／ワァー　ワァーワァー／
　　／ワァー　ワァー／
　　　　／ワァー　ワァー／

?????????????	1		
	4		
	0		
???????	3		
	P	0	?????
0	筋力	7	0
		0	6
2	筋力	2	?????
5			H
?????????????			1
			4
			0
?????????????			

ほも　VS　一刀命

??????	??????	??????	??????
17	22	03	
敏捷	魔力		
20	03		
??????	??????	??????	??????
	08		
	精神		?????
	08		04
??????	??????		耐久
			06
			??????

「それではただ今より決勝戦、音咲女子高等学校所属ほも選手と剣山西高等学校所属一刀選手の試合を行います。

試合………始めっ!!」

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす! (開幕バクステ+Fスタン)

「無明——ハッ!」

あんのじよう向こうの初手は怯み対策の『無明の型』からの『Dブ
ロッキング』。

ブロッキングも耐性が無ければダメージ以外素通りなんで、これは
当然の判断。

良いよ! 来いよ! 無明解いて無明! (Wソニック×n)

「フッ! ハッ!」

そして賢い二年目AIはこちらの『アルティメットフュージョン
ビーム(怯み)』を警戒して射程に入れるまで無明の型を解けず、得意
のステキャンがブロッキング経由しか出来ないって寸法よ!

ま、どっちにしろノックバックはしてもらうんやけどな。げへへ
(下衆笑い)。

「セツ! 修羅——フッ!」

おつ、来ましたね。

馬鹿め、チャンスに釣られ寿命を縮めたな！

「これぞ我が剣、我が奥義——」

ステキヤンの飛び込み含めてクツソ速い攻撃ですが、二撃目さえ避けられいいんで読んでいけば抜けるのは簡単です（HP全損＋《ド根性発動》）。

ほらね？（硬直差し込みアルティメットフュージョンビーム）

「くあああつ?!」

じゃあの（Wソニック）。

「ふ、ふふ、世間は広いなあ……」

はい、上下の隙間からチラチラ見えてたサラシと紐パンいただきました。
てなわけで個人戦の決勝も無事突破！ イッチバァーン!!（HL

K）

いかにブロッキング神拳なれど、AI相手ならこんなものよ！

欲を言えばどっかでブロッキングミスってくれたら楽出来たんですが、命ちゃんは三度目までは成功率100%、以降75%と、ほも君で試行回数を稼ぐにはちよい分が悪いんでしやーなし。
早く倒せた事には変わらないんでよしとしま

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

日本代表フェイズくプリンセスブレイド優勝
Part 27 日本代表フェイズ移行くチーム結成

目標：日本代表チーム

結成

の仲間を集める

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月 11月 12月 1月 2月 8月 9月 1
月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 1

レギュラー選抜戦 ↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン ♥

B P : (4 B P) (9 B P)
休 : 0 1 2 3 4 5 6
7 8 8 9

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月 : 3月 4月 5月 6月 7月 8月 ▼ 9

月 10月 11月 12月

なびき in ↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

いよいよ終盤戦なRTAパート27、はあじまあるよー!

前回は二年目S. H. I. N. E. 本戦の個人戦もめでたく優勝
決定した所まで。

あ、やつと……夏が終わったんやな…… (疲弊)。

さっそく試合後のイベント進めて行きましょ。

◁ 決着が付き、割れんばかりの大歓声が会場に響いた。

「ふふふ……あんたばり強かねえ。楽しかったわ」

◁ よろけながら立ち上がった一刀さんと、再び間近で向かい合う。

◁ 負けてなお晴れやかな笑顔からは、全力を尽くした試合への純粹
な喜びが感じられた。

◁ わかる。強くなつて、強い相手と戦うのは、それだけでとても楽
しい。

◁ ありがとうございます。またいつか、戦いましょう。

「うん、約束。きつとあんたに勝てたらすごか気持ち良さそうやね。

……チャンピオンさん、うちに勝つて二連覇するんはどげん気分
?」

◁ 控えめに言つて、最高です。

「ふっ、ふふふふ！ 良かね。そうこな」

〈固い固い握手を交わし、数秒、二人で歓声に身を打たれた。

バトルジャンキー同士爽やかに通じ合ってますねクオレワ……。怖いなーとずまりすところ。

〈S. H. I. N. E. 本戦。激闘の渦を巻き起こした夏の全国大会はこうして幕を引いた。

〈団体戦、個人戦ともに、音咲女子高校の堂々の二連覇である。

〈帰りのバスの中はやはりというか、お祭り騒ぎになった。

「ハーイ、みんな笑って笑って！ ほら、ほも！ 表情硬くなってるぞー！」

〈……………散々撮ったしもう良くないですか。

〈ここもうバスの中ですし……………ていうか、このやり取り去年もやったと思うんですけど。

こ→こ←去年の高旗先輩ポジションにはも君がいるの、世代交代を感じさせて好き（小並感）。

「ま、まあまあ、せっかくのほもちゃんと音咲の優勝なんだし、ね？

それにほら、一年目の子達にとっては初めての経験だから」

「はい部長！ アタシもつとっぱい撮りたいですーっ!!」

「あの、ほもさん……………実は、私も」

〈両隣を固めるなびきちやんと奏さんに、他の部員達もそうだそうだと声を上げる。

〈何という事だ、今年はレギュラー内に賛成派が二人もいる。

〈はあ……………それじゃ、もう少しだけ。

「えー、そんじゃS. H. I. N. E. 本戦、団体・個人ともめでたく二連覇を果たした、我らが栄光の音咲を祝しまして……………はい、チーズ！」

〈そうして、音咲ヒロインバトル部のアルバムにまた思い出の写真が増えた。

〈……個人的には途中から明らかに疲れが顔に出てて嫌だったけど、まあ、これはこれで。

〈チームメンバー全員の信頼度が上がった！

〈監督の信頼度が上がった！

〈BPを6獲得した！

母校へ二度目の錦を飾ったほも君一行。

きつとリアルだったら校舎外壁に横断幕やら垂れ幕が堂々と飾られている事でしょう。

『祝・第〇〇回S・H・I・N・E・個人戦優勝 二年×組 ほも』
とか、見たら吹き出しそう。

それはさておき、これでいよいよシナリオも終盤へ突入。

舞台は音咲女子高校から、世界大会プリンセスブレイドへ向けた日本代表編へと移ります。

〈S・H・I・N・E・本戦が終わった翌週、練習もないある日の事。

〈監督から内密の呼び出しを受け、まだ夏休み中の学校、それも校長室へとやってきていた。

「あ、ほもちゃん」

〈下駄箱前で、偶然にも指希先輩に出会う。いや、これは多分同じ用なのかもしれない。

〈もしかして、先輩も？

「あはは……ほもちゃんも呼ばれてるって事は、これはいよいよ間違いないかな？」

〈お互いに顔を見合わせ笑い、何となく察する。

〈この年、S・H・I・N・E・で優勝したこのタイミングで呼ばれるなら、きつと理由はアレのはず。

性別詐称発覚から優勝取り消し・退学処分のお知らせかな？（破滅一直線）

自分がしてる事考えたらもうちょいビビリそうなもんだけど、ほも君ポジティブ過ぎイ！

◀そのまま二人で校舎内を歩き、やがて校長室の前までたどり着く。

◀ノックをすると、入室許可の返事がきた。

「失礼します」

◀中へ入ると、先程まで話していたのか、応接テーブルの近くに三人の大人が立っていた。

◀上機嫌な様子の校長先生と、監督、そして……

「まずは自己紹介をさせてもらう。俺の名は河内 育夫（こうち いくお）。

今年のプリンススブレイド日本代表監督であり、お前達を選んだ者だ」

◀正月に出会い、秘密で特訓をしてくれた男性プロトレーナーの河内さんがいた。

◀どうやら、あのととき語った夢は本気らしい。

河内コーチオッスオッス！ お前の事が好きだったんだよ！

彼こそは日本代表編の監督にして、どこぞの無能とは違う本物の指導者です。

今後はガッツリお世話になるんでよろしくオナシヤス！（最敬礼）

◀それから色々説明を聞いて、プリンススブレイド日本代表の選手として出場する事を決めた。

◀指希先輩も一緒だったのがとても心強い。

◀二人して承諾すると、あらかじめ話を通していたのか、河内さん

以外の大人が席を外す。

「そして早くも最初のミーティングが始まったのだが……」

「えっ、他の代表選手ってまだ決まってるんですか？」

「そうだ。無論こちらでも目星は付けているが、お前達の推薦があるならそちらを優先する」

「それは、どうして？」

「このチームの核がお前達だからだ。」

お前達が最大限の力を発揮できるメンバーを集め、徹底的に鍛え上げるのが俺の役目だ。

本気でこれと思う奴がいるなら言ってみろ。俺が何としてでも確保してきてやる」

やだ、かつこいい……（キュン）。

《絶対攻撃》をくれた正月特訓に続き、さっそくその敏腕っぷりを見せつけてくれますね。

これが監督になった河内コーチの有能ポイントその1、『チームメイト入れ替え権』です。

お言葉に甘えて画面から選択しつつ解説をば。

彼の言葉通り、日本代表編（団体）では主人公と入学先の部長キャラ以外のチームメイト四人を、これまで対戦した選手の中から自由に選ばせてもらえます。

通常プレイならほぼ選り取り見取りなんで、わざわざ入学ガチャをするまでもなく、他校の固有キャラまで混ぜたドリームチームが組めちゃうわけですね。ありがてえありがてえ……。

まあ新規加入したキャラは、上昇値に大幅補正有りとは言え信頼レベル2スタートなんで、得意練習バラバラの総入れ替えはあまりおすすめできませんが。

ちなみに個人戦のみ日本代表になった場合選択権はなく、代わりにほも君のステ上位二つのうち必ずどちらかを得意練習とした5人がランダムに選ばれます。

すっげえ臍負されてる。はつきりわかんだね（確信）。

へいあんちゃん、ここに書いた娘っ子四人攫ってきてくんない！

「なるほど……指希、お前はこれで問題ないか」

「う、うーん………そう、ですね。」

わたしもこのメンバーなら、みんな全力を出せると思います。

あはは、それにまあ、ほもちゃんの選択はかなり信用してますんで」

「………わかった、任せておけ。四日後に必ず全員揃えよう。」

ほも、指希、お前達はそれまでにここに書いてある合宿所へ来て各自練習している。

宿泊手続きはすでに済んであるし、残る四人もすぐに合流する。いないな？」

〈ポケットから説明書きが付いた地図と旅券、連絡用の名刺を渡してきたので受け取る。〉

「何か質問はあるか？ ……無いようだな。後で何かあればその連絡先へ掛けるように。」

では今日はここまでだ、解散！」

〈そう言うと、河内さんは校長室から足早に出て行ってしまった。〉

〈約束した通り、残りのメンバー集めをすぐにもするつもりなのだろう。〉

〈あまりの勢いと用意の良さに取り残された二人で、手元の資料を見つめる。〉

「ヒロインバトルで男の監督って初めて見たけど、すごい人だったねえ。」

何だか、ちよつとほもちゃんに似てるかも」

〈それは、どの辺が？〉

「えーつと……無茶を平気でやりそうな行動力とか、思い切りの良さとか？」

〈失礼な事を言われた。全くもって心外である。〉

おっそうだな（適当）。

〈ところで、指希先輩は本当に良かったんですか。

〈彼氏さんとは、きつと年末まで会えなくなると思いますけど。

「ふふっ、水臭いぞーほもちゃん！ わたし達の仲間じゃない。

こんな事もあるうかと、彼とはしつかり相談してあるから安心してよねっ。

「……ま、まあ、今日このあとたっぷり充電はするつもりだけど……」

〈なるほど、ごちそうさまでした。

〈翌日の練習日、代表入りした事を監督から部員全員の前で発表される。

〈突然の発表に驚きとしばしの別れを惜しまれつつ、練習後にささやかな壮行会も行われた。

「これだけ応援されたんだもん。みんなの分まで頑張らなくちゃね」

〈はい。

〈指希先輩と共に、仲間達の思いを胸に受け止め、音咲女子高校を離れた。

〈そして約束である四日後。

〈用意された山奥にある本格的な合宿所で練習していた所、河内さんがやって来た。

〈その背後に、四人の少女を引き連れて。

「これで全員揃ったな。お前達、まずは順番に自己紹介と挨拶だ」

「音咲女子高校二年の、管崎 奏です。えっと、よろしくお願いします

……？」

「はい!! 音咲女子高校一年、高旗 なびきです！ よろしく願いますーす!!!」

「音咲女子高校二年、イスカ。ま、選ばれたからにはきっちりやってやるわよ」

「……え、えと、あのお、みけは、開東高校二年の猫田 みけニヤっ」

〈四人の少女達による立て続けの自己紹介に、頷きを返す。

〈河内さんは宣言通り、本当に自分の推薦した選手を集めてくれたようだ。

はい、これが今回のほも君の真の仲間達になります。

日本代表なのに学校被り多過ぎて権力の臭いがやはりヤバイ(他人事)。

RTAなんで、試合以外の時間も極力短縮しようとするると必然的にこうなっちゃうんですねえ。

「音咲女子高校三年、調辺 指希です。これから一緒に戦う仲間として、みんなよろしくねっ。

はい次、ほもちゃんの番」

＜集まった視線に、胸を張って応じる。

＜音咲女子高校二年、ほもです。よろしくお願いします。

「そして俺が代表監督の河内 育夫だ。以後はコーチと呼ぶように。

お前達はプリンセスブレイドに優勝するため、俺が集めた最強のチームだ。

これから十二月の大会当日まで、お前達の才能と連携を全身全霊をもって鍛え上げてやる！

己を信じ、互いを信じ、俺を信じて力を磨け!!」

＜突然始まった河内さん……河内コーチの身振りを交えた熱い演説に一同が戸惑う。

＜そういえばこういう人だった。

「この場へやって来たお前達に今一度問う！

我こそは世界一の栄光を目指さんとする者は手を挙げるッ!!」

＜周りが未だテンションに付いていけないようなので、黙って真つすぐ手を挙げる。

＜やがて他の皆もコーチの人柄を察して乗ってくれる気になったのか、後に続いた。

「その、あんまり実感が湧かないけど……でも、やってみます」

「みんな優勝できるように、いっぱい頑張ります!!!」

「ひよっとして、合宿中このテンションずっと続くわけ? ……ハァー」

「あつあつ、みつ、みけも！ みけも頑張りますニヤー！」

「当然、やるからには勝たなくっちゃね」

「拳を握れッ！ たった今掴み取ったソレが、来たる舞台へと進む意志だ!!」

＜少女達が宙へ掲げた掌を思い思いに握り締める。

＜自分も、ぎゅつと強く。

＜団体戦の最初のメンバー練習が終わり、残りは自主練となった時間。

＜いくつも用意されたフィールドの一つで、河内コーチと二人で向かい合っていた。

「ほも。お前は日本代表の団体戦メンバーだが、同時に個人戦の選手でもある。

こちらについては別枠で時間を設け、俺と徹底的に詰めて行くぞ」

＜はい。

「どちらの練習も欠かせない以上、当然割けるリソースは限られる。

が、だからと言って団体戦の経験が個人戦に応用出来ないわけではない。逆もまた然りだ。

費やした時間で得た物を余すことなく吸収してみせろ。ほも。

……フツ、もつとも、ここまで来たお前にとっては今更な話かもしれないがな」

こ→こ←団体・個人両方で選手を務めるほも君を河内コーチが心配してくれるシーン。

実際ゲーム的にもビルドがブレやすいゆえ、気を揉むのもやむなし。

まあ両優勝レギュ走るなら当たり前前の事なんで。大丈夫だって安心しろよ。

＜どうやら選手として選んだなりに、こちらを心配してくれているようだ。

〽正直今まで同じようにやってきてたので実感は薄いですが、気に掛けてくれるのはありがたい。

〽任せて下さい、コーチ。

「ああ、期待しているぞ」

〽はい。ヒロインバトルの常識を変える夢、手伝わせてもらいます。

「……ん”、ん”ん！ 何を言っているかわからんが！」

話はそれだけだッ、渡したメニューもこなしてるようだし、今日の所は身体を休めておけい！」

〽わざとらしい咳払いで話を遮り、河内コーチが去っていった。

〽……やはり、あのときの事をすっかり覚えた上で選んでくれたらしい。

〽ならば、その期待に応えなければ。

〽決意を新たに、練習場を後にした。

〽プリンセスブレイド日本代表選手に選ばれた。

〽チームメイトが変更された！

〽体力が回復した！

てなわけで、日本代表編が始まりました。

母校音咲へは今後エンディングまで戻る事はなく、練習メンバーもこの6人+河内コーチのみになり、あの忌々しいランダム加入キャラ避けも不要となります。あーサツパリした（本音）。

んじやさっそく、邪魔者のいない新天地で練習開始と行きま

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 28 みけ信頼Lv. 3 选拔団体特訓

目標：信頼レベル上げ

育成

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	他
----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	---

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

(4BP) (9BP)

休	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
---	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

なびきin

↑

S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

B P :

(3 3 B P) (3 8 B P)

(5 2 B P)

休 :

9

10

11

12

13

14

15

16

16

17

▼ || 現在地点

B P || 総獲得 B

P 目安 休 || 総休養回数目安

ギヤルゲーパートは終わりと言ったな？ あれは嘘だ。な R T A
パート 2 8、はあじまあるよー！

今回はプリンスブレイド日本代表に選ばれ、新たな仲間達（身内
三分の二）との長期合宿生活がスタートした所まで。

画面ではさっそく唯一の他校生であるみけの信頼度を上げるついでに、魔力・敏捷関連のトレーニングで鍛えてますね。みけが敏捷得意なんで無理なく狙えるのがおおタスカル。

さて、実力採用枠としてチームに啜えたメスガキこと猫田みけ。

今言ったように得意ステがほも君の育成方針と噛み合っているのもさることながら、やはり最大の魅力はその専用特徴《怪盗参上!!》を用いたバフ奪取能力にあり。

S・H・I・N・E 準決勝で指希先輩を選出から追い出させたガンメタっぷりは味方になっても健在で、こいつがチームにいるだけで A I から固定選出以外のバフアートを封じられます。

シユバルゴ！（選出） あゝもう……もう抵抗しても無駄だぞ！（バフ全没収）

逆にバフアールが固定選出されるようなチームは絶好のカモなので、枠が空いてれば完全入れ得。

本人もイスカちゃんと追いかけてこ出来るレベルの敏捷・回避特化キャラゆえ場持ちも上々。

敵としてはクソウザかったけど、拾えて良かったって思うわけ（手の平返し）。

「ほもちゃんっ。どう、みけのこの華麗な身のこなしっ！」

〈猫田さん。……うん、凄く格好良いと思う。何かコツとかあるの？

「ニユフフ、しよーがないニヤ〜！ 怪盗キヤットのワザ、特別に教えたいっ」

〈猫田 みけ（ねこた みけ）の信頼度が上がった！

信頼度上昇いいゾ〜（にっこり）。

お、更に信頼レベル上昇イベントも来ましたね。

日本代表編の補正に《カリスマ》補正も重なって、あつという間に上がってくれます。

ちな、学校編とは信頼レベル上昇イベントの内容も異なります。そもそも環境違いますしね。

こっちは選択肢もなくテキスト短めなのがRTA的にありがたい。

「あ……ほも、さん。ど、どうも……」

〈練習も終わり、入浴の時間になったので大浴場へ向かうと、更衣所で猫田さんと鉢合わせた。

〈変身中とは打って変わり、普段の彼女はとても引っ込み思案な性格である。

〈会釈を一つ交わすと、いそいそと服を脱いで先へ行ってしまった。〈……………

〈自分も素早く服を脱ぎ、洗い場にいる猫田さんのぴったり横に付いてみた。

「〜♪〜♪ ……？ つひ、ひニヤツ?!

ほ、ほもさんっ、なっなんで隣に来るの……っ?」

〈猫田さんと話してみたくて。

「いついきなりそんなこと言われても……っ!」

ほもさん何考えてるかわかんなくて、こ、怖いニヤっ」

その通りだよ。よくわかってんじゃん（カオスな行動は主人公の特権）。

じゃけん受け入れましようね〜。

〜うん。だからお互いわかり合いたいと思って。

〜……猫田さんは、変身するの好き？

「え、えっ？ へん、しん？」

〜ヒロインバトルの練習してる時の猫田さんは凄く生き生きしてるから。

〜でも基礎練とかはそうでもないし、それなら変身する事自体が好きなのかなって。

「……………うん」

〜身体を洗いながら、猫田さんが頷く。黙って続きを促した。

「えと、みけは元々手品がしたくって、学校でも手品同好会を作ったのね？

でもヒロインバトル部が廃部になりそうだからって、部員集めに無理やり合併されちゃったの。

戦ったりするスポーツって知ってたから、怖くて嫌だったニヤ」

〜どうやらヒロインバトルとの出会いは不意な形だったらしい。

〜しかし手品……というよりイリュージョン的な意味では、悪くない組み合わせなのでは？

「そうっ！ そうなの！」

初めて変身した日の練習で、本当に魔法みたいな事ができちゃって！

やってみたかった難しい手品とか、アニメみたいなカッコいいアクションとか、みけの思い通りに何でもやれちゃうんだって！

それからみけはずっと、変身するのがすっごく、すっごく楽しくいニヤ!!」

〜まるで変身した時のように明るく饒舌になる猫田さん。

「いわゆる変身願望が強い人ほどヒロインギアの力を引き出せると、以前調べた覚えがある。」

「多分彼女はその適正に恵まれているんだろう。」

「わかる、色んな事が出来て楽しいよね。それこそ変身ヒロインの真似とか。」

「おっそうだな（女体化）。」

「ほも君の場合むしろ変身する段階でどうやったって感じですが。」

「まあ人魚だの精霊の化身だのが選手に混じってる世界だし、男が女になるくらい誤差だな！」

「ニヤハっ、なんだあ意外と話せばわかるタイプだったりする？」

「ぎばあと泡を洗い流し、互いに笑みを交わす。」

「それから二人で湯船に浸かり、手品の事や、好きなアニメの話で盛り上がった。」

「こんな所にアニメ好きの仲間に出えるなんて、思わぬ収穫だったニヤ！」

「えへへ、やる気沸いてきたかも！ また明日ねっ、ほもチャン！」

「大浴場を出る頃にはすっかり打ち解ける事ができた。」

「廊下まで一緒に歩いた猫田さん、もとい、みけに手を振り返しそれぞれ部屋へ戻る。」

「これからは、彼女とより良いプレイが出来るだろう。」

「みけと仲良くなった。」

「猫田 みけ（ねこた みけ）の信頼レベルが3に上昇した！」

「猫田 みけ（ねこた みけ）と練習時、追加でステータスが上昇するようになった！」

「猫田 みけ（ねこた みけ）とチーム時、互いのステータスが上昇するようになった！」

LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP

ちよろい（確信）。

！
ボッチのオタクなんかちよいと趣味合わせてやりやこんなもんよ

この代表編の信頼レベル上昇イベント、全員共通、全レベル一貫して裸の付き合いをする事から通称風呂イベとも呼ばれてたり。レズのハツテン場かな？

会話内容も相応にお色気成分多めなんで、まあアニメで言うサービ
ス回みたいなもの。

んじや練習の続きといきましょう。

ほも君の封札速攻戦法を磨き上げるべく、ひたすら魔力と敏捷を伸
ばすべし！

ヌツ！ お次は河内コーチの固定イベが来ましたね。

「……む、疲れがたまっているようだな。ほも」

＜コーチ。

「一旦ストップだ、こっちへ来い。」

俺の見立てではまだ問題なかったはずだが……さては昨日の自主
練を余計にしていたな？」

＜こちらをじっと見つつ、指摘された内容に返す言葉もない。

＜昨日は個人的に納得のいかない部分を詰めていたら遅くなってし
まったのだ。

「やる気があるのは良い。」

だが問題点を見つけたならまず相談しろ、そのために俺がいるんだ
からな。

……とりあえず、左足首を見せてみる。さつきから負担が掛かりす
ぎている」

＜素直に差し出した箇所を触診されると、自分でも気付かなかった
小さな違和感が。

＜手早く処置を施し、河内コーチが立ち上がる。

「お前達は若さで誤魔化してしまうが、オーバーワークのしわ寄せはどこかで確実に来る。」

今日の練習はここまでだ。戻ってゆっくり身体を休ませておけ」

＜はい。ありがとうございます。

＜流石はプロである。合宿が始まってから、河内コーチの指導はとても的確だ。

＜これで時々妙なテンションに振り切れなければ完璧なのだが……。

＜＜体力が回復した！

＜＜練習での体力消費量が軽減されるようになった！

(回復+体力消費軽減) いいゾ〜これ。

回復自体は代表チーム結成イベントに続いて二度目ですね。

どっちもタイミングが固定なので、調整しやすくて非常にうまあじ。

これが河内コーチの有能ポイントその2、『豊富な体力ケア』！

シナリオイベントで月一回復してくれるその姿は、まさに日本代表の名誉ヒーロー。

特に体力消費軽減は重トレも軽トレ感覚で回せるようになるので、ほも君がすすく育ちます。

軽トレのみだとずっと練習してられますが、効率的にもタイム的にもこちらがおすすめ。

……そしてお気付きいただけただしょうか。

さつきからほも君の選ぶ練習メニュー全てに河内コーチの姿が見える事に。

これが河内コーチの有能ポイントその3、『全ての練習をちゃんと見てる』！

日本代表編では一般モブ部員達が一切いない代わり、四人分の補正を持つ河内コーチが常に練習に付いてくれます。粋スギイ！

この名監督っぷりを味わうと、高校編のあのバス運転手マジなんなのって気持ちにさせられます。仮にも強豪校を指導する身でアレとか、やめたらこの仕事？（辛辣）

一応フォロースると、高校の監督も信頼度最大まで上げたらBPとかくれるんですけどね？

学校によつては固有イベント等でいくらかマシな例もありますし。でも河内はんには比べたらあんたらやつぱカスや！（擁護拒否）

「ほもさん、お疲れ様。これ、飲み物もらってきた……」

〈ありがとう、奏さん。〉

「ふふ……どういたしまして」

魔力練習のステボーナスうめうめ。奏ちゃんありがとうナス！

家庭で夫を支えるええ女房やこれは……（万年ベンチ）。

プアーープアーープアーー!!!

〈まだ朝日も姿を見せない早朝。〉

〈安眠を切り裂くように突如けたたましいアラートが鳴り響き、布団から飛び起きた。〉

起床ー！ 起きろ朝だぞー！（大迷惑）

スマホから緊急地震速報鳴って起こされた時クツソビビる……ビビらない？（クソデカ動悸）

〈まさか火事か、地震か。最低限の準備をして慌てて部屋を出る。「ひうつ!? うっ、うるさつ……」「な、ななんっ、なんニャ?!」

〈廊下にはすでに他の部屋の子達も寝巻姿で出ており、互いに何事かと周囲を見渡す。〉

〈と、急にアラートが鳴り止んだ。よく見ると、通路の出入り口に河内コーチが立っている。〉

〈さらにその脇に抱えられたスピーカーの存在にも気付いた。〉

〈まさか……

「おはよう諸君！ これより特別訓練を開始するツ!!」

「……死ぬ……」

〈隣の寝癖全開なイスカから物騒な低い声が聞こえたが、コーチは無視するように踏み出す。

「全員、三分以内にグラウンドへ出ろッ！

メニューはそこで……ん？ おい、指希となびきはどうした」

〈せめてトイレだけでもと部屋に戻ろうとしたが、確かに二人の姿が見えない。

〈部屋のドア自体が開いてなかったので、コーチから合鍵を渡され確認に向かわされた。

〈……あの、二人とも完全に寝てますけど。

「すぐに起こせ。起きなければその分お前達の時間を減らす」

〈大急ぎで二人を起こす羽目に遭った。

これは特訓イベの団体編ですね。

結構長いテキストで、メンバー全員の信頼度とIBPが貰えます。固定イベゆえロスにはならないんで気楽に片手を休ませときましよう。

こんな始まり方ですが、体力消費も一切ないのでご安心。

それにしてもほも君の女体化生活に対する意識の高さが相変わらず凄いです。

ドツキリ慣れたベテラン芸人みたいな反応速度してんなお前な
(畏怖)。

〈どうにか時間までに全員がグラウンドに集合する。

「全員揃ったな。

では改めまして……皆さん、おはようございますツ!!」

「……おはようございます……」

「おはようございますーすっ!!」

「いい返事だなびき！ 元気があって大変よろしい！ お前達も見習

えい！」

「うっさいわね……さっさと用件を言いなさいよ」

＜盛大に安眠を妨害され、メンバーの大半から強い不満の眼差しが注がれる。

＜ろくな朝の手入れも許されず、乙女にあるまじき姿を晒されているのだから無理もない。

「この合宿もすでに一ヶ月半が経ったが、お前達、互いの連携は上手く行っているか？」

＜出し抜けにそんな事を言われた。連携……。

「その……上手く行ってる、と思います。この間の大学生との練習試合も良かったですし……」

「みけもそう思いますニヤッ。みんなとつても上手ニヤ」

「うんうん、そうだろうそうだろう。ほも、お前はと思う？」

＜はあ、良い感じだと思えます。

「たわけが!!! 駄目だ駄目だツ!! お前ら全つつ然、これっぽっちもなつとらん!!」

＜ええ……。

イヤだから何の話だよなんなんだよ（キレ気味）。

寝不足状態にこんなノリツツコミかまされたらうっかかり拳が飛んでも文句言えんぞ！

「いいか？ 今上手く行ってるように感じるのは、お前達個人の實力が高く、そしてまだ格上の強敵と戦っていないからだ！

選抜チームでもない大学生に勝てる程度で世界に通用すると思うな！

それを今から、身をもって教えてやるツ!!」

＜河内コーチが懐からタブレットを取り出し、何らかの操作をする。

＜するとグラウンド横の倉庫から、明らかに特別製なトレーニングダミーが六体現れた。

「このトレーニングダミーにはお前達のデータをそれぞれ可能な限り

模倣させ、そして各組合せ毎に俺が最適の戦術AIを組んである。

これからこいつらと団体戦を行い、勝てるまで宿舎へは戻れないのでそのつもりで」

＜コーチの背後、宿舎の出入り口と窓全てに唐突にシャツターが降りた。

「……………はあっつ?!?!?」

「ひよつとしてご飯も抜きですかーっ!!」

「安心しろ、すぐに勝てば朝食だつて食べられるぞ」

「え、えつと……………お手洗いは……………」

「そうニヤ! そうニヤ!」

「心配するな、裏手にやや旧式の物だがちゃんどある」

「あはは……………コーチ、無理な練習は絶対させないって言ってますんでしたっけ?」

「ああ、お前達ならこの課題を無理なくクリア出来ると思ってる」

＜何という事だ。これでは乙女の危機どころか、下手をすれば生命の危機だ。

「ようするに勝てば良いんでしょ。ふん、上等じゃない」

＜こうなればなるべく早く終わらせるしかない。

＜さつそく互いに見せ合いからの選出を行い、トレーニングダミー達との団体戦が始まった。

「う……………つ、私達と同じ動きなのに、強い……………っ!」

「うわーん! お腹空きましたー!!」

「おう、どうしたどうした! この程度でお手上げか!! あまり俺を失望させるなよ!」

「うっさい! こんな大人げないもん持ってきてんじやないわよ!!」

＜ここまで強いトレーニングダミーがあるとは。まるで本当に自分達と戦ってるようだ。

＜それでもおそろく、個々の実力ではこちらが勝っている。

＜ならばこの勝負の明暗を分けているのは……………」

「まあコンディションの悪さと、悔しいけどチームワーク不足って事だね」

〈小休憩を兼ねた作戦タイム中、指希先輩が問題点をまとめた。

「ニヤァ……もう少し寝かせて欲しかったニヤァ……」

〈……多分、プリンセスブレイド本番の時差ボケとかを想定してるんだと思う。

「ふふっ、流石ほもちゃん。わたしも同意見かな。

わたし達は今、不調でも戦えるための予行演習をさせられてるんだよ」

〈最初はただの無茶振りに思えたが、河内コーチの指導自体にここまで不合理な点はない。

〈そうになると、考えられる妥当な理由はこれくらいしか見当たらなかった。

その分早く現地入りすれば良いと思うんですけど……（マジレス）。世界大会ともなると、やっぱ選手へのえぐい嫌がらせ工作とかもあるんでしようかね。

まあ実際あるんですが（微ネタバレ）。こわいなくとづまりすところ。

「それに、あのトレーニングダミー達の連携精度も。

あれがそのまま、コーチが今のわたし達に求めている動きで、つまりはお手本って事。

……みんなはどう？ 覚えたって人手上げて」

〈問いかけに対し、チームが丁度半々に分かれた。

「決まりかな。じゃあ、次はまだ覚えてない子チームで行こう。

そもそも、自分のコピーをほとんど見せてもらってない子もいるしね。

……コーチー!! こっちと同じメンバー選んでもらっても良いですかー!？」

「……………フツ、構わん!! 受けて立ってやるツ!!」

「……………と、いうわけで。お言葉に甘えて目一杯勉強させてもらおう。

もちろん、勝ってきてもいいからね？」

「は、はい……！」

「次こそ見切つてやるニヤ！」

＜フィールドに向かうメンバーを見送り、ベンチには指希先輩と自分を含めた三人が残る。

「一応確認するけど、二人とも、本当に覚えたんだよね？」

「はっ、誰に向かって言ってるのよ」

＜そう言う指希先輩こそ、どうなんですか？

「あはは、この分なら問題なさそうだね。

……コピー相手に何度も負けるなんてちよつと我慢出来ないから、良かったよ」

同キャラ戦であつたまるのありますねえ！（格ゲー並感）

プレイングの差でわからせてやると、もう気が狂うほど気持ちええんじや（闘争本能）。

＜体力的にもこれ以上は不利になる一方です。決めに行きましよう。

「だね」「当ッ然」

＜その後、見事トレーニングダミーの動きを吸収し勝利を収めてその日は終了。

＜追いつめられた集中力のおかげで、なんとか昼前には宿舎に戻れた。

＜さらにその翌日には皆が完全に動きを覚え、全ての組み合わせで勝てるように。

＜特訓を通じて、チームとしての一体感と確実な成長を感じ取れた。「やれやれ……予定ではもう少し手こずる計算だったんだが、大した奴らだ」

＜＜チームメンバー全員の信頼度が大きく上がった！

＜＜BPを1獲得した！

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 29 みけ信頼Lv. 4・5 選抜個人特訓

目標：信頼レベル上げ

育成

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

(4BP) (9BP)

BP:

休:	7	8	1	2	3	4	5	6
	0	8	8	9				

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月:	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
▼	10月	11月	12月				

なびきin ↑

S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

B P :

(3 3 B P) (3 8 B P)

(5 2 B P)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

B P || 総獲得 B

P 目安 休 || 総休養回数目安

風呂入ってサツパリするRTAパート29、はあじまあるよー！

前回は団体特訓で代表メンバー達と結束を深めた所まで。

その影響でネコガキの信頼レベル上昇イベが来たんでさつそく見てきまひよ。

「あつ！ お疲れほもチャン！ ほもチャンも今からお風呂ー？」

＜長めの個別メニューが終わり、汗を洗い流しに大浴場へ向かうとみけと鉢合わせた。

＜今日は後半の練習が皆バラけていたが、たまたま同じ時間に終わったらしい。

「代表選手がこんな大変とは思わなかったニヤ〜……」

まるで漫画やアニメの世界……ここは超人育成機関ニヤ……」

＜まあ、ヒロインバトル自体が他の競技に比べてかなりファンタジーだしね。

＜そこが魅力みたいな所はあると思う。

「ニ”ヤ”〜……変身ヒロインも楽じゃないニヤ〜」

＜まったくである。

＜二人で合宿生活の感想などを喋りながら、入口の暖簾をくぐった。

「……前から思ってたけど、ほもチャンおっぱいおつきくない？

何食べたらそんな風になるニヤ」

〈身体を洗い、大きな湯船に浸かって寛いでいると、正面から不躰な視線を向けられる。

〈そう言われても、別に何もしてはいない。これが生まれつきである。

生まれる前から弄ってるんだよなあ……（キャラクリ並感）。

まあ見た目はデフォからランダムですが。

ここ←とか他のイベントで主人公のバストによって細かいテキスト変わるの、製作のこだわり感じてちよつと好き。やっぱお色気ゲーなんすねえ（サービス重点）。

「富める者はみんなそう言うニヤ。傲慢ニヤ。

………ね、ねえねえ、ちよつぴり触つてみていい？ ノブレスオブリージュして？

怪盗キャット一生のお願いニヤっ」

〈その名乗りは変身ヒロインとして駄目すぎない……？

〈本人的にこだわりのあるらしいリングネームをそんな事に使つて良いのか。

〈勢いと情けもあり、つい了承してしまった。

「ふおおおお……極楽ニヤ……」

〈それは何より。

※お使いのモニターは正常です。

暗転状態だから削除対策の必要なくて偉いね♥（建前） 見せろよオラアン!!（本音）

「ねえねえこのあとご飯食べたらみけの部屋で一緒に持ってきたアニメ見よ〜？

ほもチャンもきつと楽しめると思うから〜！ ねっ？ お願い

ニヤ〜！」

〈湯上りして上機嫌のみけからお誘いを受ける。

〈どうせ今日の予定はもうないし、それも良いかもしれない。

〈その後、みけの部屋で就寝前まで二人ごろごろしながらアニメ鑑賞した。

〈猫田 みけ（ねこた みけ）の信頼レベルが4に上昇した！

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP LEVEL UP LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

てなわけで、信頼レベル4でした。テキスト短くておおタスカル。この調子でさっさと5に上げて専用特徴も解放してもらいましょう。

あとはそれ込みでひたすら練習して、河内コーチの個人特訓受けて、プリンセスブレイドに出て勝つだけなんですけど、そろそろ話す事もなくなって参りました（嘘）（前振り）。

退屈するの嫌だよなあ？ 俺もソーナノ。

なので、みーなーさーまーのーたーめーにー……

本RTAにおける主人公の学校選択ベスト3の発表と、それぞれの評価を致しとうございます。

こういうの見るの好きだからやってみたかった（白状）。

さて、学校選びの主な判断基準は以下の三つ。

◇両優勝RTA 学校選び三箇条

? 味方としての強さ（ランダム加入キャラ、代表編のスカウトに頼らず済むか）

? 信頼度の上げやすさ（主人公の育成方針に無駄なく組み込める

か)
？固定敵の倒しやすさ(時間を取られるかどうか、ほか単純な強さも)

味方としての強さはそのまま団体戦での安定性、ひいては完走までの試行回数に直結します。

特に代表編でも通用するキャラがいるかどうかはかなり重要。

弱い味方で全国勝ち上がってスカウト候補まで微妙だと、結構な率で泣きを見ますぞ(数敗)。

信頼度の上げやすさは育成面での安定性とタイムの両方に影響あり。

練習メニューで悩む手間を減らせるのはやはり重要。

固有キャラの信頼度を上げたいのに邪魔なランダム加入キャラと得意練習が被ってるとか、地味なストレスがチクチク効いてきます(体談)。

固定敵は地元ライバル校と、一年目S・H・I・N・Eの決勝相手の事ですね。

レギュラー選抜戦で当たるチームメイトなんかも該当します。

もちろん早期決着が見込めるほど良し。勝率に関してはある程度は妥協前提で。

(※一年目W・H・I・T・Eにもこの枠は設定されてたりしますが、今回は関係ないので割愛)

で、これらを総合した速さと安定性から順位を付けていきます。

あくまで両優勝RTAでの話なので、他レギュや通常プレイの評価とは異なる点にご理解をば。

まずは第三位の発表から！ デケデケデケデケ……ジャーン！

◇忍ヶ岳高校(しのびがたけこうこう)

強さ：C 信頼：S 敵：B

速さ：A 安定：C

固有キャラが全員敏捷得意なので、速攻型の育成にうってつけ。個人戦向けの学校。

一年目S・H・I・N・Eから近接クリティカル特化ビルドを現実的に組めるのはこと七篠ぐらい。

極めれば全試合最速決着を狙えるのが魅力だが、難易度高し。団体戦は特に注意が必要。

第三位、忍ヶ岳高校！

イスカちゃんの地元にして、スピード狂が集まる忍者の里です。

ここのメリットは全校中最も速攻型ビルドが捗る事。

防御手段は高い敏捷からくる回避やブロッキングに任せ序盤から一撃必札を狙えるスタイルは、ハマると脳汁出るくらい気持ち良いぞい！

団体戦では味方が決め手に欠けるものの、開幕に放たれる吹雪さんの専用必札『忍法・大豪雪』が耐性のない相手にぶっ刺さり、敏捷差とスリッパダメージの二重苦を迫ります。

問題はそれが敵味方無差別に効いてしまう事。

視界不良や麻痺、敏捷低下はともかく、スリッパダメージは基本防ぎようがないので《ド根性》が意味を成さず、ガチのオワタ式を強いられるのはんまあそう……（擁護不可）。

ランダム加入キャラによるお味方ガチャが戦力面で非常に重要になるでしょう。

総評、「育てやすいがチームワーク悪し」

素材は良いけど、速攻型ビルドと部長の陰キャ戦法の噛み合わなさがとにかく辛い。

んじゃ次行きましよ。第二位の発表！ デケデケデケデケ……
ジャーン！

◇七篠女子高校（ななしのじよしこうこう）

強さ：E 信頼：SSS 敵：C

速さ：SS 安定：F

学校固有キャラが部長一人のみ、練習ではモブ部員もない超絶弱小校。

おまけにランダム加入キャラも二人しかいないので、団体戦の選出不利がガチでヤバイ。

他校に比べて、とにかく時間を取るイベントが圧倒的に少ない。理論値最速。

第二位、七篠女子高校！

本動画では一度も登場する機会のなかった学校ですね。

どんな学校か軽く解説すると、統廃合を繰り返したけどやっぱり廃校寸前な過疎校で、これまた廃部寸前なヒロインバトル部にて、部長の流され系クールな空 真白（そら ましろ）ちゃん先輩とイチヤコラしつつ廃校阻止のためにがんばるぞい！ って感じ。

ここのメリットは何と言ってもそのRTA的な無駄のなさ。

部員全四名（主人公含む）！ レギュラー選抜戦なし！ 部長は練習時必ず主人公と一緒に！

必要なものまで削りすぎて試合の安定性をぶん投げた校風はまさにハイリスクハイリターン。

ビルドは先に挙げた忍ヶ岳と同じものが最も強く、地獄の一年目 S・H・I・N・E。さえ何とか凌げば、部長の性能差でむしろこちらが有利です。

問題はそこへ至るまでの差がクソデカいって事だけだな！（試走数十敗）

総評、「俺が使うにはまだ早い」。

真の最速を狙うなら正直こしかないですが……いやーキツいです（素）。

そして栄えある第一位！ デケデケデケデケ……ジャーン！

◇音咲女子高校（おとさきじょしこうこう）

強さ：S 信頼：C 敵：A

速さ：A 安定：S

全校共通でしんどい一年目S・H・I・N・E 地区予選さえ突破すれば大安定の強豪校。

二年目S・H・I・N・E はもはや負ける方が難しいレベル。

最安定択。主要メンバーの信頼度稼ぎが速攻型ビルドと噛み合わないのが唯一の欠点。

第一位、音咲女子高校！

我らが指希先輩率いる団体戦最強、RTA最優の学校です。当たり前だよなあ？

本編を見ての通り、そのメリットは言うまでもなく味方の強さと敵の倒しやすさ。

高旗先輩（なびきちちゃん）が守り、指希先輩が支え、ほも君が倒す。序盤から終盤まで通じる基本にして盤石のコンビネーションこそが音咲の強みです。

固定敵に関しても強いけど早く倒せる一年目薫子様をはじめ、好タイムで完封余裕の黄金十条、竜ヶ峰、何より音咲自体と戦わずに済むなど文句なし。

二位、三位と比べて非常に高い完走率は錬度向上にも良く、まさに実家のような安心感。

もうここから出たくないっシュ！（子供部屋おじさん）

欠点はそのバランスの良さゆえ部員の得意練習がバラバラな所。

作中でも団結力を売りにしてる割に意外と信頼度上げにくいので、そこは慣れが必要です。

皮肉にもベンチ常連の奏ちゃんが一番やりやすいっていうね。
総評、「音咲よいとこ一度はおいで」

こと団体戦における安定感は、RTAでも通常プレイでも病みつき
になりまっせ！

◇◇猫田 みけ（ねこた みけ）の信頼レベルが5に上昇した！

◇◇敏捷がとて大きく上昇した！

◇◇猫田 みけ（ねこた みけ）が

《怪盗参上!!》《シャドウステップ》を取得した！

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP LEVEL UP

LEVEL UP

LEVEL UP

……大体こんな所でしようか。

画面の方ではみけの信頼レベル5上昇イベントが無事終わってま
したね。

これでお目当ての専用特徴《怪盗参上!!》が解禁です。

敵の時は普通に使ってたくせに、味方になった途端なぜ忘れるの
か。コレガワカラナイ。

そして固定イベである河内コーチの特訓個人編も入ってきました。

「ほも。今日から来週まで、お前に特別メニューを与える」

◇朝練と朝食を軽く済ませたあとのミーティング中、河内コーチが
唐突にそう切り出した。

◇予定だとこの一週間は、また大学選手との個人戦練習試合期間
だったのでは？

「そうだ。ただし今回は都合が付いて、国内最高レベルの相手を用意
することが出来た。

……入って来てくれ」

「ちよつと河内さん？　そこは国内最高つて言い切つて欲しかったなあ。

「どうも、失礼しまーす」

「<コーチが大きめに声を上げると部屋のドアが開き、一人の女性が入つて来る。」

「<……なんとなく、これまでの対戦相手達とは違う雰囲気を感じた。」

「紹介しよう、彼女は王子　昴（おうじ　すばる）。」

「前回プリンセスブレイド日本代表の個人選手にして、ベスト16入りを果たした超一流選手だ。」

「そのときの怪我が原因で今までリハビリ生活だったが、ようやく復帰出来たらしい。」

「アポを取り最終調整も兼ねてこちらへ来てもらった」

「怪我がなければもつと行けたんですつて、いやホントに。」

「あ、ほもちゃんだったよね。今日から一週間よろしく」

「<爽やかな笑みで握手を求められたので応じる。」

「<こちらこそ、よろしくお願いします。」

「キミ、可愛いね。練習終わったら僕と一緒に背中を流し合わない？」

「<もう片方の手が肩に添えられたかと思うと、ごく自然に距離を詰められ囁かれる。」

「<あまりにも手馴れた仕草に、反射的に一步引いてしまった。」

「<これはいわゆる……そういう感じの人だろうか。」

「すつげーグイグイくる、はつきりわかんだね（性的嗜好）。」

「性癖は見ての通りだが、これでも国内無敗の記録を持つ本物の天才だ。」

「世界に通じる実力をここで存分に味わい、学ばせてもらえ。」

「………ただし、俺はこの一週間でお前が勝つ事を期待している」

「<コーチ……」

「？わかりました、やってみます。【※キャラ操作あり】」

「<？その前に、この人離してください。【※テキストのみ】」

こ→こ←実際に操作して戦うか選べて、操作しなければ1BP、操作して勝てば2BPが貰えます。

ここでのみ戦えるレズ王子は世界級の強敵ですが、ほも君で倒せないって事はありません。

でも戦うと試合時間どころかテキストまで長くなるのでキャンセルだ（残当）。

チャートによっては最後のBP調整に利用するかもしれませんね。

「えー、つれないなあ。

ふふ……でもまあ、これから仲良くなれば良いことだね」

＜本当にこの人と一週間もやるのか。別の意味で不安になってきた。

＜それから一週間、王子さんとの個人戦に明け暮れた。

＜実際に戦ってみると彼女の凄さはすぐにわかった。明らかに今までの相手とはレベルが違う。

＜これでまだブランク明け、本調子でないというのだから驚きだ。「最後の最後でまさか本当に一本取られてしまうなんてね。

悔しいけど、日本代表の先輩としては可愛い後輩が頼もしくて嬉しくもあるかな」

＜終始圧倒されっぱなしだったが、王子さんの洗練された動きは大いに参考になった。

＜最終的にどうにか目標だけは果たせたものの、正直実力ではまだまだ勝てる気がしない。

「河内さんの期待通り、君なら僕の無念も晴らしてくれるかもしれないね。

あいにく現地で直接とはいかないけど、大会本番はテレビの前で応援してるよ。ほもちゃん。

くれぐれも、つまらない怪我だけはしないようにね」

＜いつの間にか何だかんだで仲良くなってしまい、別れが少し寂し

く感じた。

〈宿舎から手配された車で去っていく彼女を見送り、待ち受ける大舞台に思いを馳せる。〉

〈きつとこの先は、持てる力の全てを振り絞らなければ進めない。〉

〈高まる激闘の予感に、意識が研ぎ澄まされていく。〉

〈BPを1獲得した！〉

ヒロインバトル素人だったほも君も、度重なる経験から選手としてのメンタルが大分仕上がってきたように見えますね。

RTAとしても詰めの段階なんで、この辺から精神を集中し直します。

敏捷はもう足りてるので練習メニューは魔力の重トレのみ。体力減ったら即休養。

余計な思考の負担は極力減らします。

王子さんも言ってた通り、ここまで来てつまらないロスは絶対避けたいですからね。

「ほもちゃん、お疲れ。頑張ってるね！」

〈指希先輩を見習おうと思つて。〉

「そう？　なんか照れるなあ……。えへへ、それじゃ一緒にもう一セットいこっか」

指希先輩ほか二名、ボーナスも付いていいゾ。

彼女となびきちゃんには世界の舞台でもほも君と共に戦つてもらおう事でしょう。

このメンツなら最低限どこぶつかつても勝ち目があるので、本当に頼りになるぜよ。

……個人的には試合云々より、プリンセスブレイドの開催地までの飛行機にほも君がどうやって乗り込んでるかの方が気になりますが、これもまあ他の人外連中でも通れる以上どうにかしてるんでしょう。多分（ガバガバ搭乗検査）。

何にせよ、中身男だろうと最後まで遊べるなら文句はありません。
世界中にその真の姿を隠し通し、彼を最強のお姫様にしてや

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

Part 30 プリンセスブレイド団体一回戦

目標：プリンセスブレ

イド(団体)

難易度★★★★☆

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月

一年目

高旗先輩out奏in 秘密特訓

入部 春合宿①

他

校合同合宿 ← 初詣 ↓

0月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月

レギュラー選抜戦↑ S.H.I.N.E.!!

W.H.I.T.E. →

バレンタイン♥

(4BP) (9BP)

休	BP	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6

二年目

春合宿②

選抜メ

ンバー特訓

月	10月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月

なびきin

↑ S.H.I.N.E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

いよいよラストスパートRTAパート30、はあじまあるよー！

今回は選抜個人特訓と残りの練習メニューを済ませた所まで。

これにて本RTAで必要な能力値、BP、そして仲間、全ての準備は整いました。いざ鎌倉！

＜合宿所を出て、飛行機に乗り半日ほど。

＜日本代表チームは今、開催国、そして前回優勝国でもあるイタリアの地を踏みしめていた。

「凄い……こんなに沢山の人が……」

「空港のときよりずっといっぱいですよー!!」

＜まだ当日まで間があるというのに、会場のドーム付近の広場は見渡す限りの人ばかり。

「げ、流石にこれは人酔いしそうだわ……」

「ニ”ヤ”く……見てるだけでクラクラするニヤ……」

＜巨大スクリーンに各国代表チームの紹介ビデオが流れ、多くの注目を集める。

＜合法の賭けクジ販売もやっているようで、特にその辺りの熱気が凄い。

＜あそこの国はどうだ。どこが強い、どこが勝つか。

＜雑多な会話からかろうじて拾える英語や、時折聞こえてくる日本

▽ドームを埋め尽くす満員の観客が盛り上がる中、変身してフィールドに出る日本代表チーム。

▽更に相手チームが反対側から同じく入場し、センターライン前で両者が整列した。

▽一回戦の相手は、イタリア代表。

ファツ!? タイマン強要デスマッチ軍団じゃねえか!

やめてくれよ…… (コンセプト破壊)。

■この辺の敵

◇イタリアチーム

ローマ剣闘士風コスチュームで統一されたチーム。

ステータスは全員が魔力以外高水準の近・遠距離物理型。

団体戦だけど団体戦じゃない、ちよつとだけ団体戦なえげつない戦法が持ち味。

こいつらが存在するせいで、選抜メンバー内に個人戦要員を二人は用意しておきたくなる。

一。個人の強さより選出メンバー、ひいてはチーム全体のシナジーが第一。

そんな団体戦のセオリーをぶち壊してくるのがこいつらイタリアチームです。

その原因はこれ。

イタリア代表選手のマドウが使ってくる専用必札、『デュエルコロシウムデスマッチ』。

◇『デュエルコロシウムデスマッチ』

マドウ専用必札スキル。開幕先制自動使用。

円形のフィールドを三等分に区切る半透明の巨大な壁（破壊不能）を召喚。

敵味方を距離の近い順に組み合わせ、それぞれの区画へ耐性を無視してワープさせる。

全ての区画でキャラが一人以上KOされると壁が消える。

強制的に1対1×3の状況を作り出す必札スキル。団体戦って何だよ（哲学）。

壁に阻まれると範囲スキルなども通らないので注意。

一方で貫通やすり抜け、フィールド全体を対象としたスキルは有効。これらを利用したい。

この技の前には盾役は役割遂行不可、支援役は働いてたら撲札不可避と、ほとんど全てのまともな選出は崩壊の憂き目に遭います。

全員が屈強な個人戦向け選手と1対1させられたらそらそうよ。

当然、お手本のような連携力を誇る音咲メンバーも例外ではありません。

ほも君が頑張れば倒せなくはないですが、相応のリスクとロスは免れないでしょう。

しかし安心魔界神。

うちにはここのリカバリーに使える人材がちやんと二人も入ってるな？

「いきなり前回優勝国かあ……クジ運とはいえ、参っちゃうね」

＜隣の指希先輩の声すらも、かき消されてしまいそうな凄まじい大声援。

＜巨大モニターに選手紹介が映る見せ合いの時間は、アウエーの空気を感ずるのに十分だった。

『~~~~、~~~~~!!? ~~~~~! ~~~~~!!』

＜係員からマイクを借り受けたイタリア代表のリーダーが、何事か喋っている。

＜会場中に大きく手を振り、そのまま自分の胸に、最後にこちらへ向けて指差した。

＜更に沸き立つ観客席。

『頂点は誰か、そう私達だ。日本には、私達が祖国へ捧げるショーの始まりを飾ってもらう』

＜こちら側の係員曰く、大体そんな感じの事を言ったらしい。

＜マイクがこちらにも渡される。どうやらマイクパフォーマンスを挑まれたようだ。

「今、日本代表のリーダーはほもちゃんだよ。決めちゃって」

＜託すようなウインク一つ。

＜そういう事なら応えよう。

＜こんなに立派な舞台を用意してくれてありがとう。あとはまあ、ゆっくり休んでて欲しい。

『~~~~ツツ?!?!』

「ふっふふ……っ！ いやあ、良い根性してるなー」

＜指希先輩に非常にウケたが、会場の方も怒号と歓声で大盛り上がりだ。

＜お互い吐いた唾を飲めなくなった所で、さあ勝負といこう。

ほも君が舌鋒鋭く煽り返して暗転、オーダー画面へと突入。

まずはほも君最後のビルドアップから。

手持ち特徴の《クイックドロ》《シャープリロード》《魔力ブースター+》をそれぞれランクアップさせて、残りのBPをステータス成長にイン！

これがほも君最終形態じゃい！

名前	筋力	耐久	魔力	精神	敏捷	合計	通常攻
撃タイプ							

ほも	:	08	04	29	08	26	75	魔力・遠
距離								

通常スキル

- 1 『Fスタンバレット』 2BP (OP込み)
- 2 『Pハイパーシュート』 3BP (OP込み)
- 3 『Wソニックブラスト』 4BP (OP込み)

必札スキル

『アルティメットフュージョンビーム』 8BP

特徴

1 《絶対攻撃》 7BP (実質0BP)

2 《ド根性》 3BP

3 《カリスマ》 3BP

4 《クイックドロ》 0BP ⇒ 《マツハド

ロー》 3BP (累積2BP)

5 《シャープリロード》 3BP ⇒ 《レボ

リューションリロード》 7BP (累積3BP)

6 《魔力ブースター+》 3BP ⇒ 《魔

カブースターEX》 7BP (累積4BP)

その他、ステータス成長(初回1BP、一回毎に1BPずつ累積) ×

2

所持53BP | (消費済み38BP + 新規消費(特徴11BP + ステータス成長3BP) || 残り1BP

◇《マツハドロ》 3BP 条件：敏捷14以上、《クイックドロ》からランクアップ。

射撃系攻撃の発生が速くなり、更に弾速自体も向上。

元々弾速の早いスキルと合わせれば、遠くの相手にも簡単に当てられるように。

◇《レボリューションリロード》 7BP 条件：《シャープリロード》からランクアップ。

ヴォーツエー（ベリハ特有の終盤インフレ）。
相手の面子はまあ予想通り、どいつもこいつもタフすぎイ！（正攻
法でのロス不可避）

そんじやいっちよ気合入れて行きまっしよい。

『ヒロインバトル、レディー……ファイツ!!』

ビーーーーーッ

オツスお願いしまーす！（開幕ポジションチェンジ）

『皆々照覧あれ！ これぞ我らが死闘の舞台!!』

まずはマドウが開幕『デュエルコロシウムデスマッチ』を使って地
形を変えてきました。

演出成立まで敵味方全員無敵状態ですが、この短い隙に位置調整を
して対面操作を試みます。

地鳴りと謎フラッシュが入って……今じゃ！

『出でよッ！ 武勇の誉れ高き決闘場ツ!!』

ワープと分断確認……っしやあ！ マッチング成功！

マドウこの野郎！ ぜってえ許さねえからな！（即Fスタン）

『おぐッ?!』

チツ（舌打ち）、一発じゃダメか！

ノロマが、お前なんぞに構ってる暇はないんじやい！（照準微調整・
Wソニックスナイプ）

『オオオオオツ?!?!? バ、バカな……ッ』

まず一人！ ぐえーッ！（被弾）（HP全損）
やっぱ飛んできやがったなクソ槍！

◇『アメントウムジャベリン』

イタリアチーム専用スキル。

高威力かつ減衰率の低い筋力依存の長射程貫通攻撃。

一対一の状況で油断していると、死角からこれが飛んでくる。位置取りにはくれぐれも注意。

これが怖いから対面を初撃で仕留めたかったんだけど、喰らったもんはしゃあなし！

おうイスカ！ みけ！ そいつらしっかりマークしとけ！ 今度はこつちが狙い撃つ番よ！

「おっ 「そんなもん？」「おっそ」

「むくだニヤっ♪」「当たたら「当たらないよっ！」」

◇《絶対防御》OBP 条件：河内コーチとの一月の特訓イベント

主人公および一部海外選手専用特徴。

相手から攻撃時の特徴の影響を一切受けなくなる、《絶対攻撃》と対の効果。

イタリアチームではリーダーのグラディウスが所持している。

これを持つてる奴は漏れなく耐性特徴も充実してるので、真っ向勝負あるのみ。

敵リーダーのグラディウスは《絶対防御》持ちかつクリティカル無効特徴持ちなので後回し！

次の獲物はフックアクス、お前じゃい！（Pハイパー）

『ぐうッ！　こんなモン！』

（クリティカル）避けんじゃねえよ！　おつぶえ!?（クソ槍回避）
隙あらばこっち狙いやがってあのグラディウス野郎……！

『アタシは不死身だアアア!!』

この火力ですら普通に削っても時間が掛かる上、硬直大きめなアルティメットフュージョンビームではこっちが逆に狩られる！

ならばもう一度、フックアクスのヒロインギアが見える瞬間が勝負！

決めるぞほも！　それが全日本のエースアタッカーよ！

「怪盗キャット、参上ニヤー！　……いたいたいっ！」

みけナイスウ！（敏捷デバフ+四回）

そのモーシヨン見切った！　くたばれい!!（偏差撃ちPハイパー）

『ガッ?!　ア、んだと……!?』

F00→二連スナイプキル気持ち良い（クソ槍回避）。

これで残るはイスカと戦ってるグラディウスのみ。

そこへフリーになったみけが《すり抜け》でダイナミックエントリーだ！

じゃあ今までのちかえしをたつぷりとさせてもらおうじゃないか

(リンチ開幕)。

三人に勝てるわけないだろ！ みんな踊れー!!

「あたしが捕まるなんて……っ」

『やるな日本ッ……こんなところで、我らが、破れるとは……ッ』

質実剛健なチューブトップブラ・スポーツビキニ頂きました(カメラズーム)。

背景の巨大スクリーンにも大写しされてんの、やっぱそういうスポーツなんすねえ(納得)。

というわけでイタリアチーム撃破。

二人クリティカル決めただけあってタイムはかなり良い感じですよ。

「世界のどんなお宝も、キャットに盗めぬモノはなし！ ニヤー！」

勝利演出は初出場のみけ。中々やるじゃない！(賞賛)

向こうも向こうで三対一からイスカちゃん捉えて倒してるのがやはりヤバイ(単体性能)。

伊達に国代表のリーダー背負ってないですね。敵ながらあっぱれと

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP :

(52BP)

(33BP)

(38BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

日本チーム大勝利！ 希望の未来へレディ・ゴーツ!! なRTA
パート31、はあじまあるよー！

前回はプリンセスブレイド団体一回戦でイタリアを破った所まで。
RTA終盤でクリティカル狙わないといけない試合は、いやーキツ
いっす (脈拍)。

ここまで自己ベタイム出せてるのがより緊張に拍車をかけます。
しかしこちらとて予習は万全、この好機、逃さず駆け抜けてくれる
わ！

▽初戦でイタリア代表を破った日本代表チームは、その後も勢いに
乗り勝利を重ねた。

▽どの国も非常にハイレベルな戦いを繰り広げ、決着の度に大歓声
が上がる。

▽そして団体戦最終日。

▽準決勝を見事勝ち抜いた日本は、最後の試合へ臨もうとしていた。

「お前達、ここまでよく戦ってきた。

俺はお前達を世界一にするために鍛え上げ、お前達はそれに応え
た。

その成果が今、ここに実を結ぼうとしている」

▽日本代表の控室で行われる決勝戦前のミーティング。

〽河内コーチがおもむろに演説を始めた。

〽すでに作戦方針も固まり、無言で集中を高めていたチームメンバーが注目を向ける。

「代表合宿初日、チーム結成時に俺がした話を覚えているか」

？……何でしたっけ。

〽？自分を信じ、仲間を信じ、コーチを信じろ、ですか。

この選択肢は下を選択。

どっちもゲーム的な意味はないですが、テキストが若干短く済むので注意（1敗）。

「ああ。

どうだ、信じてみて良かったろう？」

〽いつものように、自信に溢れた笑みを浮かべるコーチ。

「あはは、まあ、あの早朝抜き打ち特訓は流石にどうかと思いましたがどね……」

〽指先輩が苦笑を返した。

「あれは……耳が聞こえなくなるかと思った……」

「女の子に寝起きドッキリはデリカシーなさすぎニヤ」

「おかげでしばらく寝不足よ。二度とごめんだわ」

「アタシはとっても楽しかったです!!」

〽だそうです。

「そうだろうそうだろう、良かったなー特訓。皆の絆が深まって」

〽どうやら話を聞く気はないらしい。

〽言いたい事があるならさっさと行ってはどうか。

「なに、そんな楽しい合宿生活も、食事に関しては初日以外徹底して管理していたからな。

最後まで良い物を食っても罰は当たらん。

喜べ、今日のデザイナーは一流の本場イタリアンを押さえてある。お前達の望み通り、デザートもテイラミスだろうがジェラートだろうが食べ放題だ」

〈！

「!!!」

〈唐突な宣言に激震が走る。

〈無理もない。

〈栄養を考えない純粹に美味しい物。甘い物。

〈厳しい練習と食事制限の日々で我慢していたそれらが、解放されると言われたのだ。

「嬉しい……やっとうまい物が食べられる……!」

「本場のパスタニャー! ピッツアニャー! ドルチェニャー!」

「やるじゃない! ちょっと見直したわよあんだ!」

「わー!! ホントにいいんですか!? ありがとうございますー!!」

〈おかげで支持率急上昇である。なんとというバラ撒き政策……。

やっぱ好きなんすねえ (甘味)。

まあ女子じゃなくてもスポーツ選手の食事制限って普通にキツイだろうし、無理もなし。

学校編で散々外食してたほも君達にはさぞや効いた事でしょう。

「おっと、そろそろ時間のようだな。では改めて、ここから気持ちを入れ替えて行け」

〈……………

〈……チームの緊張をほぐしてくれたんですね。コーチ。

〈控室内にいつの間にか漂っていた重たい空気、緊張感がすっかり霧散していた。

〈どうやらまた、こちらの足りない所に気を回してくれたらしい。

〈思えば、この人が妙な事を言い出すのは決まってそんな感じの時だった。

「知らん。俺は予定を話したままでだ。

さあ行つて来いッ! 勝つて最高に上手い美味しい飯を食うぞッ!!」

「おー!!」

〈皆、もはやその目論見を半ばわかつていながら、肩の力が抜けた

表情で控室を出て行った。

「ふふっ、やっぱりうちの代表監督は凄いな、ほもちゃん」

〈違うない。〉

〈プリンセスブレイド団体決勝戦。〉

〈文字通り、世界中の歓声を浴びて両チームが入場。〉

〈フィールド前で一斉に変身し、センターラインを挟んで対峙した。〉

〈対戦相手は、メキシコ代表。〉

や っ た ぜ 。

ボーナスステージいただきました。

もろたで工藤！

■この辺の敵

◇メキシコチーム

アステカ戦士風コスチュームで統一されたチーム。

攻撃面に偏ったステータスに、それを補う専用特徴のおかげで実際の数値以上にタフ。

半端な立ち回りではあつという間に不利を背負わされてしまう。

頭数の減らし合いが本領のチームなため、《ライフリンク》は天敵に等しい。

◇《生贄の儀式》

メキシコチーム専用特徴。

敵味方問わずキャラがKOされる度に自分のHPとSPを中回復する。

敵のミニオンが倒れる度に自分のHPとSPを小回復する。

殴り合い上等と言わんばかりの専用特徴。特にミニオンでの物量作戦は厳禁。

こちらは一人ずつ集中狙いし、相手には逆にさせない立ち回りが重要。

メキシコ代表は全員が超攻撃的な能力とAIを積んだ、速攻ダメージレースが売りのチーム。

《絶対攻撃》持ちのリーダージャガーの戦士を中心に、アタッカーか火力補助のバファアのみで固められたメンバーは、百獣学園をより尖らせたようなガン攻めっぷり。

その反面防御面が弱点と見せかけ、チーム専用特徴《生贄の儀式》によって敵味方が倒れる事で全員が回復するため、互いの消耗速度が噛み合う限り継戦能力も上々。

イタリアに比べればまだフェアな方ですが、しっかり対策しなければ敗北は避けられません。

まあ、慣れればカモですがね。

その特性上、指希先輩の《ライフリンク》がクツソよく刺さる相手でもあります。

代表編の団体戦で最も安定して、最も早く倒せるチーム。それが君達だあ（邪悪笑顔）。

『この誇りある戦いこそ、我らが古の血、そして我らが神へ捧ぐ最上の儀式なり。』

おお！ 戦士たちよ！ その血肉、魂の一片までもツ！！』

『オオオーツツ！！』

＜向こうのマイクパフォーマンスで、メキシコ応援席を中心に観客席が大いに沸いた。』

「うーん、物々しい。文化の違いを感じるなあ……。」

で、今度はどんな事を言うつもりなの、ほもちゃん？」

＜実は昨日の時点で、決勝で使うためのパフォーマンスはもう決めていた。』

＜係員からこちらに渡されたマイクを受け取り、一歩前へ。』

▽指希先輩と、日本代表の仲間達へ向き直った。
▽そして手を天高く、高く伸ばす。

▽——この場へやって来たお前達に今一度問う！

▽我こそは世界一の栄光を目指さんとする者は手を挙げるッ!!

こ→こ←のほも君の不敵な笑み好き。河内コーチへのリスペクト
感じますねえ！

「……あつはは！ それ使うんだ、いいね！」

「はい……！」

「はいっ!! はーいっっ!!」

「つたく、しようがないわね」

「みけ達が世界一ニヤー！」

▽——拳を握れッ!!

▽さあ行くぞ、お前達が掴んだその意志を、栄光に変えてみせろッ
!!

「フツ……あいつらめ」

▽日本代表チームが、宙へ掲げた掌を思い思いに握り締める。

▽観客席が再び盛り上がり、ボルテージが最高潮に高まった所で見
せ合いが終わった。

▽さあ、決着を付けよう。

なんか感動的……（最終戦並感）。まあ、こっちはまだ個人戦も控え
てるんですが。

ほも君が激熱なマイクパフォーマンスを決めた所でオーダー画面
突入。

団体戦最後の編成はなびきちゃん、ほも君、指希先輩の基本形で臨
みます。

敵の厄介なバファアーに対しみけの睨みが効いてる以上、こちらの処
理能力を大きく超える展開は来ないでしょう。あとはほも君が各個
撃破していけばオールライト。

??	2	5	0	S	P	4	0	筋力	1	0	????????????
??	2	5	1	1	4	耐	1	久	1	1	??????????
??	敏捷	精神	魔力	耐久	1	1	2	1	??????????	2	?
??	9	5	2	?	1	??????????	2	?	0	4	0
??	????????????	????????????	????????????	????????????	????????????	????????????	????????????	筋力	1	0	????????????

『ヒロインバトル、レディー……ファイツ!!』

ビー………

オツスお願いしまーす! (開幕Fスタン)

『ぬう?!』

まず狙うのは敵リーダー、《絶対攻撃》持ちのジャガーの戦士!
 飛び抜けた火力と突破力を持つこいつだけは絶対にほも君が受け
 持ちましょう。

でないとは逆にも君が《絶対攻撃》の一撃で狩られますぜ!

『オオオオオオツ!!』

「させ」さ「効きませーんっ! えいやーっ!!」「させませーんっ!
 えいやーっ!!」「効き」効「いったあー!」

超高速アタッカー驚の戦士の相手はなびきちやんに任せます。
 突き飛ばしても突き飛ばしてもすぐ距離を詰めて殴り続けてきま
 すが、序盤の勢いさえ凌いでくれればそれでよし!

「全隊ステップ! 動きを止めないで!」

超スピード!? (レ)

ぎゆうううう……ぎゆううううう!!! (楽●園追放)

『偉大なる戦士の神よ！ 我らが捧げし戦場、とくと照覧あれーッ!!』

◇『ウイツイロポトリ』

鬮體の戦士専用必札スキル。遅延誘発型ミニオン召喚。

スキル使用后、試合中の総ダメージ量が敵味方全体で見た最大HPの半分を超えると条件達成。

盾と槍を持った巨大な戦士神の化身を召喚する。

また、このミニオンが倒れると味方全員が強制的にKOされる。

祭りと聞いて我慢できずに駆けつける系の神。

他大型ミニオンより動きが早く、リーチ・攻撃力とも凶悪。

HP的には倒せなくてもないので、敵チーム全員かこいつのどちらを狙うかは状況次第。

鬮體の戦士が専用必札でミニオン召喚準備をしてきますが無視！
ひたすらジャガーの戦士を攻撃じゃい！

動くな、俺はホモだ！（自己紹介）（Wソニック+Pハイパー）

『ぐお……ッ!! 我死せりとも、全ては供物なり……ッ!』

敵リーダー撃破ヨシ！

「もう一回！ テンポ上げてくよ！」

『見よ、これぞ魂の炎……!!』

◇『Hソウルファイア』4BP（OP込み） 条件：筋力8、魔力1

6、精神8以上。

魔力依存、超威力、燃燒（ほぼ毒と同じ）の状態異常付きの中距離
範囲攻撃。

使用时、S P 以外に最大HPの1／6を消費する。

H II ハイパワーの略。S P 消費が増える代わりに、更に高火力に。
火傷の付く特殊版フレ●アドライブみたいなやつ。

中射程で範囲もそこまで広がらないが発生は優秀、何より当たると超
クツソ痛い。

「えいやーっ!! させま「効き」効きませーんっ! えいやーっ!」あ
うっ?!? 「いったあー!?!」

おう魔力攻撃でなびきちゃんの隙狙ってんじゃねえぞ髑髏野郎!
(残りHP三割)

くたばれ! (アルティメットフュージョンビーム全部乗せ)

『ぎゃあああッ!! い、偉大なるウイツィロポチトリよ……っ』

『□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
!!!!』

計算通り! 来るのが一足遅かったなお祭りゴッド! (ステップ回
避)

指希先輩仕上げオナシヤス!

「さあ、ここが盛り上げどころってね! 行くよみんな! ……あ
ぐっ!?!」

「効」させませ「あうっ!?!?」

うし、エンジン全開! (HP回復+攻撃・防御バフ大)
残りHP四割、《ド根性》もまだあるなら後は全力攻撃あるのみ!

誇り高き戦士が神を盾にコソコソしてんじやねえ！（Pハイパー）

『□□□□□□————ツツ!!』

『ぐツ……！ オアアアアアアツツ!!』

「効」効き「さ」「させま」「いったあー!？」

これで仕舞いじゃ！（Pハイパー）

『カハ……ツ！ み、見事……!!』

『□□□□□□——……』

はいニプレス+禪いただきました。

イタリアもそうだけど、元ネタ的にはこれ多分ノーパンノーブラな
んやろなあ（しみじみ）。

てなわけで団体決勝メキシコ戦、速攻撃破の完全勝利です！

「やったねみんな。わたし達が世界一、最高のチームだよ！」

最後の決め台詞は指希先輩。マジでありがとナス！

全体バフでの味方強化、《ライフリンク》でなびきちゃんの負担を
減らし、『ドレスタイトカンパニーフロント』の全体回復+強化のダメ
押しと百点満点の括約を見せてくれました。

なびきちゃんも格上相手によく頑張った。偉いぞー♥

ワアアアアアアアアアアアアツツ!!!

＜今日一番の大歓声の雨に身を打たれる。

＜決着はここに付いた。

＜——日本代表の、私達の優勝だ！

「ほも（ちゃん）（さん）（先輩）（チャン）っ!!」

＜チームの皆が駆け寄り、一切の遠慮なく飛びついてくる。

＜五人分の衝撃を受けもみくちやにされたが、興奮しすぎて痛みも

苦しみもまるで感じない。

〈ただひたすら楽しくて、嬉しかった。

ほほイキかけました（イチ●ロー）。

こんなのそりや気持ち良いわな。世界一やで。

「よくやった、お前達。

……………本当に、本当によくやってくれた」

〈それでもベンチの方へ視線をやるのは忘れないが。

〈河内コーチが感動に震える様子は、中々の見物だった。

〈試合終了後の整列。

〈向かい合ったメキシコチームのリーダーが、通訳を通して再びこちらに話しかけてきた。

『やるな日本。お前達のような強く勇敢な戦士と戦えた事を、誇らしく思う』

〈こちらこそ、いつかまた世界の舞台上で戦おう。お互い全身全霊、魂を込めて。

『ハハ！ それは偉大なる戦いの神もさぞ喜ぶだろうな！』

〈一礼の後、選手達が固い握手を交わし合う。

〈プリンセスブレイド団体戦。

〈世界の頂点を競った両チームへ、惜しみない万雷の拍手が送られた。

〈だが、まだだ。

〈来週に続けて行われるプリンセスブレイド個人戦。

〈自分の戦いは、まだ終わっていない。

今回はここまで。ご視聴、ありがとうございました。

月 10月 11月 ▼12月

なびき in ↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

プリンセスブレイド団体戦・個人戦両優勝RTA最終回、はあじまあるよー!

前回は団体戦決勝でメキシコのアステカ軍団相手に無事優勝をもち取った所まで。

残すは個人戦のみ!

最後の練習日ですが、ここは体力に関係なく休養に当てます。

視聴者ニキは合宿中の特訓での河内コーチや王子さんの助言を覚えていくでしょうか?

『世界の舞台で体調不安・ケガには気を付けろ』。

あれはフレイバーでもなんでもなく、ここで練習を選ぶとBPを貰える代わりに、他国の陰謀によって負傷(HP・SP半減)か体調不良(全基礎能力低下)を引く確定イベントが起こるのです。

スポーツを汚す屑がこの野郎……(憤怒)。

通常プレイならBP稼ぎと歯応えを求めて練習するのもありますが、これはRTA。

無用のリスクは避けるに限ります。あとテキストがロスいんじゃない!

てなわけでごつすり就寝、即起床。ほらいくどー。

〈団体戦の終わりから間を挟んだ翌々日。

〈巨大なドームに再び集まった各国代表を応援する観客達は、最初から大盛り上がりだ。

ワアアアアアアアアア!!!

〈ドーム入場までの道のり、そして控室越しからでも十分伝わってくるこの熱気。

〈むしろ、一日の休みを経てその勢いはより高まっているように感じた。

「ほもさん、頑張つて。……わたし達、信じてるから！」

「観客席からみんなでいっぱい応援してますー!!」

「情けないとこ見せたら承知しないわよ！」

「ほもちゃんならきつと世界が相手でも負けないニヤ！」

「だつてさ。期待には応えなくちゃね、ほもちゃん。

もちろんわたしも信じてるぞっ」

〈日本代表チームの皆が、試合前の激励に来てくれた。

〈ここまで厳しい練習を共に乗り越えてきた、大事な仲間達だ。

〈皆、ありがとう。

〈……それにしても、一昨日から好きなだけ美味しいもの食べてるせいか肌つや良いね。

「……………」

〈そしていち早く食事制限から解放された裏切り者達でもある。

〈おのれ、団体とスケジュールが逆ならこんな拷問めいた思いをせずに済んだものを……。

ほも君だけ両方参加だからね、しようがないね（諦め）。

皆で頑張った団体戦優勝後のディナーもきつちり管理されたんやろなあ……。

「あ、あはは……これはまあその、つい……ね？」

でつでもほら！ この個人戦さえ終われば、ほもちゃんも好きなも

の食べられるから！

ですよね河内さんっ！」

「おう、もちろんだ。」

優勝したら俺がどんな店だろうが好きなかだけ食わせてやるわ！」

「それじゃ、今のうちにとびきり上等なお店を押さえといてくださ
い。」

「!!」

「予定よりも早く、呼び出しの係員がやってきた。」

「そろそろ試合の時間である。」

「……フツ、良いだろう。」

「キャンセル料も俺が持つてやるから安心しろ」

「河内コーチがニヒルな笑みを浮かべる。」

「ありがたい言葉だが、あいにくお店の人に迷惑をかけるつもりは
ない。」

「勝ちますよ。」

「よう言うた！ それでこそ男や！」

「いくつもの激戦を潜り抜けたその実力、世界中に見せつけてやろう
ぞ！」

「プリンセスブレイド個人戦、一回戦。」

「会場内に響くアナウンスに名前を呼ばれ、変身、フィールドに上
がる。」

「センターライン前、対戦相手はすでに待ち構えていた。」

「へい！ 遅かったじゃないジャパニーズ！ ビビって逃げたか心配
しちゃったわ！」

「アメリカ代表選手、名前はホープ。」

「マイクを手に、早速アピール勝負を挑まれた。」

「おっ、ぶっぱ脳のアメコミガールちゃんオツスオツス！」

「相変わらず正統派にカツコイイスーツしてんねえ！」

■この辺の敵

◇ホープ

アメリカ代表の二年生。

焦げ茶のボサボサショートカット。変身時は若干逆立って赤く輝き、強化時は真っ白に輝く。

おっぱいは小さい。

アルセ ●ウスみたいな合計ステと万能ぶり、そして復活強化スキルが特徴のアメコミガール。

スペックは文句なしに強いが、AIがあまり賢くないのが付け入る隙になる。

彼女は本作最高の合計ステと三つの専用スキル・特徴を兼ね備え、薫子様やちひろちゃん、御影ちゃんの良い所取りをしたような真の万能キャラ。

国柄的に流石スーパーヒロインといった感じですね。

その専用スキル・特徴がこちら。

どれも非常に強力でシナジーも抜群なラインナップです。

◇『アウェイクニング・スーパーヒーロー』

ホープ専用必札スキル。HPが0になったとき自動発動。

全ての能力変化・状態異常をリセットし、HP半分の状態で復活。

更に自身に全ステータス上昇とHP自動回復(微小)、飛行、超貫通、攻撃射程拡大を付与する。

《絶対攻撃》では対処出来ない復活スキル。

バフを剥がすスキルがあれば多少楽だが、それでも厄介な事に変わりはない。

◇『ヴァリアブルアタック（至近・近・中・遠）』
ホープ専用スキル。至近く近距離⇨筋力、中く遠距離⇨魔力依存。
相手との距離によって発生・硬直、威力と判定、技エフェクトが変
わる攻撃。

近いほど判定が狭くて隙が少なく、遠いほど判定が広く高威力。
実質四種類の攻撃である主力技。

そのままでもかなり強力だが、復活強化後は必札スキル並の性能
に。

◇《ヴァリアブルパワー》

ホープ専用特徴。

攻撃時、ダメージ計算を相手の物防・魔防のいずれか数値の低い方
を参照する。

薫子様と似たような感じの攻撃的な専用特徴。

他の海外エース選手と比べ《絶対攻撃》《絶対防御》を持たない
代わりにこれがある。

何と言っても最大の注意点は、マ●ブカプ3で大暴れしたあいつを
思わせる自動復活強化スキル『アウェイクニング・スーパード
ロー』。

強キャラを倒したら、狂キャラになって第二ラウンド開始でござる
の巻。

ふざけるな！（声だけ迫真）

演出中は時が止まり、本家のダー●クフェニックス頃すマンみたい
な技も使えないので、素直に二回ぶっ倒してやりましょう。

流星にあっちの強化後ほど壊れ性能でもないしヘーキヘーキ。

『せっかくの大舞台なんだしさあ、あっさり負けてガツカリさせない

『よね!!』

〽翻訳されるまでもなく理解できる英語。

〽というより、声の調子と顔を見るだけで挑発されてるのが嫌でもわかる。

〽傍に立つ係員からこちらにもマイクを手渡された。

〽上等だ、受けて立ってやる。

〽ファッシュョンチックの時間だアメリカ人。

〽——ちゃんと良い下着履いて来たか確かめてやるよ。

『?!? 言ってくれんじやんよ……ッッ!!』

〽KO予告に、いささか品のない大歓声と指笛の音が会場中に広がっていく。

〽……なんだかんだ言ってヒロインバトルってこういう競技である。

〽さあ、勝負と行こう。

このマツチ煽り文句がキレッキレで好き。

やっぱ女子高生にやらせていいスポーツじゃねえなこれ！（再認識）

んでオーダー画面入りますが、配置も能力成長も弄る所なし！

そのままいざ脱がし合いじやい！

ドドド

パーパパーパー パーツパラパーパパーパパー／

／ワアアアアアアアアアアアアア／＜ピーピー／＜キヤー／

ワー／ キヤー／ ピー／

ワアアアアアアアアアアアアア／

????????????
 170S
 ??????2
 08筋00
 ??????2
 0
 ?????????????
 H
 210
 ?????????????
 VS
 ホープ

??????	??????	??????	??????
2	2		
6	9		
敏捷	魔力		
2	2		
0	0		
0	8		
	精神		????
	2		0
	0		4
??????	??????	耐久	2
			0
			????????????????

嘘みたいだろ……こいつこれでまだ変身残してるんだぜ……？

『ヒロインバトル、レディー……ファイツ!!』

ビーーーーーッ

オツスお願いしまーす！（開幕Fスタン）

『いっつツ!!』

当然命中！

ガハハ！ 貴様の素の速度では、もはやほも君のいかなる攻撃も避ける事は出来ぬ！

おらっどんどん行くぞ！（Wソニック×n）

『落ちろおツ!! ……ぐううツ!?!』

お返しにあつちも目からクツソ速くて痛いレーザーを飛ばしてきますが、無問題。

そんなトロい予備動作で当たるかよ！（ステップ回避）
 ホープ対策ですが、彼女の主力技『ヴァリアブルアタック』のうちの大きい長距離での反撃を誘うため、いつも通りひたすら近づけないよう撃つてれば余裕で勝ってます。

普通だな！

『クソッ！ 当たれ!!』

HPあるうちに素直にちよつとずつ距離詰めて戦えばいいものを、なまじ全距離対応してるせいでAIが安易な反撃を選んでしまうんですねえ（欠陥）。

至近距離の掴み投げとかマジ強いのもつたいたいない。

実際レーザーも予備動作はともかく弾速は見てから避けられないレベルなんで、初見頃し性能はそこそこ高いんですが、慣れてるプレイヤーならまあこんなもんです。

まして通常時のこいつに苦戦するようでは、復活強化後にはまず勝てないでしょう。

お、そろそろ倒れますね。意外と粘って直撃避けやがって（小口ス）。

さっさと本気出せやオラアン！（Pハイパー）

『やってくれんじゃん……ッ！ 言つとくけど、もう加減は効かないわよ!!』

はい復活強化の演出入りました。

でも残念、ほも君の前で空飛んだら氏ゾ。

仕切り直しの強化レーザー一発は甘んじて受け入れましょう。

発生も早くなって判定まで拡大してるし、こっちも万が一にも外したくないですからね。

おう撃ってこい撃ってこい（挑発）。今度こそドメ刺してやんよ！

『落ちろおツツ!!』

てめえが落ちろ！（HP全損＋《ド根性》発動）（アルティメットフュージョンビーム全部乗せ）

『キャアアーーッ?!?!?』

じゃあの（Wソニック）。

『ウソ……ッ?!? アタシの、負け……?!?』

そうだよ（追い打ち）。

おう結構セクシーなスポーツビキニ着てんじゃねえの（カメラズー
ム）。

てなわけで一回戦勝利！

下着で煽ったほも君の方が素朴に可愛い系なのちよつと締まらな
いな？

まあ勝てばいいんだよ勝てば！ 次行こうぜ！

＜初戦を突破した勢いに乗り、その後の試合も順調に勝利を重ねて
いった。

＜どの選手も非常にハイレベルな実力だったが、今や自分もその一
人。決して遅れは取らない。

＜そして個人戦最終日。

＜準決勝の相手を下した後の控室で、最後の試合を待っていた。

「よくここまで勝ち上がったな、ほも。

フツ、流星はこの俺が見込んだ選手だ」

＜一緒に待機してる河内コーチから、褒めてるのか自慢なのか微妙
なお言葉をもたらった。

＜わざわざ言われずとも、この人の指導者としての手腕はよくわ
かっている。

＜何せ代表選手になる前からその力にお世話になっていた身だ。

＜今更疑う余地はない。

こ→こ←も正月特訓してた場合の特殊会話ですね。

テキスト分ロスになります、必要経費ゆえしやーなし。

〈そう言えば、聞きそびれていたんですが。

「なんだ、言ってみろ」

〈コーチは代表監督になる前に、他の選手にもああいう事はしてたんですか？

〈これだけの手腕と熱意を兼ね備えた男性である。

〈その上で語った、女社会のヒロインバトル界を自らが変えてみせるという目標。

〈あの正月、あんな偶然の出会いだけに全てを賭けていたとは想像しがない。

「……」

〈……。

〈こちらの視線から顔を逸らす河内コーチ。

〈互いに沈黙したまま、遠くの歓声だけがやけによく聞こえた。

「実は、言ってなかったがな」

〈はい。

「あれは偶然ではない。張り込みの成果だ」

〈やはりそうか。

〈あの状況で仕事用の名刺をわざわざ持っているのは妙だと思っていた。

「それまで他の選手も考えてはいたがな、あの一年前のS・H・I・N・Eで俺の計画は大きく変わった。

まだ未熟ながらあの激戦を勝ち抜いたお前という可能性に、全てを賭けてみたくなった。

……つまりなんだ、ほも。お前が本命だし、他に手を回す暇などなかったから安心しろ」

はえー、まるで河内コーチの信頼レベル上昇イベ（暗喩）みたいだあ……。

なりゆきとはいえ、クソ雑魚だった一年目序盤でS・H・I・N・E。個人優勝したほも君のポテンシャルを思えば、そりゃ自身の夢の

ためにも臍履して鍛えてやりたくありませんわな。

〈……コーチ、その言い方ちよつとセクハラっぽいですよ。

「!? 何を……このアホが！ そんなもんと違うわツ!! 一緒にすな
!

お前ら女子高生ときたら、こつちが何か言う度すーぐそういう方向
に持ってきよつて!!

むしろお前らを逆セクハラで訴えてやりたいくらいだわツ!!」

〈怒られた。

〈どうやら日頃のストレスを思い出させてしまったらしい。

〈そうは言っても、これからはより一層気を付けなければならない
のでは？

「む」

〈何せプリンセスブレイドに優勝した日本代表監督にして、初の男
性監督になるのだ。

〈せっかく注目を集めた所に、些細な言動を不祥事と取り沙汰され
ては困るだろう。

「……まったく、お前は」

〈遠く歓声が響く。ドア越しに、係員から呼び出しの声が掛かった。

〈試合の時間だ。

〈では、ティアアラを頂戴してきます。

「おう、行ってこいッ!」

ああ〜、いいつすねえ〜 (決戦前会話)。

ほも君の意気込みも十分といった所でいよいよ最後の勝負と行き
ましょう。

初見プレイ時この流れで負けてクツソダサかったゾ…… (思い出)。

〈プリンセスブレイド個人決勝戦。

〈文字通り、世界中の歓声を浴びて入場する。

〈フィールド前で変身し、センターラインの向こうにいる相手と対

峙した。

『わたしアリス。よろしくね、お姉さんっ!』

◇イギリス代表選手、名前はアリス。

◇まだほんの子供に見えるような幼い少女だが……

◇彼女から感じる奇妙で底知れない魔力が、ただならぬ存在であると強く告げている。

ヌツ! 出やがったなクソゲー強要邪悪ロリ!

■この辺の敵

◇アリス

イギリス代表、一年生。

薄い金髪セミロングでおっぱいはぺたんこ。推定人外勢。

ステータス詐欺集団の一員にして、抜け道を許さない別ゲー強制勢の頂点に立つクソガキ。

他のギミック連中共々、このゲームの氏に覚え要素を大きく担っている。

彼女はアリス。元ネタは外見通り、かの有名な童話のアリスから来ています。

スペック的に多分こいつも化身か何かだと思っんですけど(名推理)。

奴こそは本作最悪のギミック戦闘を仕掛けて来るわからん頃の王。

ゲーム終盤、こいつに敗れたプレイヤーは数知れず。その恐るべき二つの専用スキルがこちら!

◇『イン・ワンダーランド』

アリス専用必札スキル。個人戦限定、開幕先制自動使用。相手を耐性を無視して小人化し、ハートの女王を召喚する。

ハートの女王は多彩な小型ミニオンを召喚し続け、女王を倒すまで小人化は解除されない。

小人状態の相手からの、あらゆる行動の影響を受けない。

ハートの女王が呼び出すミニオン一体一体はかなり弱いですが、増え続けるので持久戦は不利。

ただ簡単に倒せるHPでもないので、焦らず冷静に対処したい。

◇『イン・ミラーランド』

アリス専用スキル。全体効果。

プレイヤー相手の場合、コントローラー操作の上下左右を反転させる。

AI相手の場合、耐性を無視して50%の確率で怯ませる。

初めてこのスキルを使った時のみ、ジャバウオックを召喚する。クソオブクソ。

この手のギミックは大抵移動操作のみ反転だが、こいつはボタン配置まで反転させてくる。

下手にキーコンフィグを弄ると混乱が加速するので注意。

ジャバウオック自体も地味に厄介だし、緩急とフェイント混ぜるのはマジでやめろ（威嚇）。

馬鹿じゃねえの（直球）。

最後の最後にマリ●パみたいなミニゲームやらせんじゃねーよオラアン！

せめてもつと控えめな難易度にせんかい！（猛抗議）

……と、キレ散らかしていたのが初心者時代の話。

RTAを始めて練習を重ねた今では、他の敵同様に軽く一捻りよ！

（0敗）

ワンダーラーン♪

『ヒロインバトル、レディー……ファイツ!!』

ビーーーーーッ

オッスお願いしまーす！（開幕前ステ+Fスタン）

『不思議な不思議なおとぎの国。お姉さんにも見せてあげるわ!』

そんな事なくていいから（良心）。

開幕先制・自動発動の『イン・ワンダーランド』で、ほも君が小さくされてしまいました。

小人化の影響でFスタンは無駄撃ちですが問題なし。

『アルティメットフュージョンビーム』の弾にさえなればオツケーよ！

『!!』———『ツ!!』

そしてハートの女王とそのお供が出現。

こいつを倒せば実質勝利、行くぞオラツ！（前ステ+Wソニック）

『!』———『!』

ハートの女王は数秒間隔で兵士達を召喚、常にこちらの前方一定距離に出現します。

なので最初に近づき、後は横へ後ろへファイールドを広く使って逃げ回り、女王をひたすら撃ち続けるのが速攻撃破の鍵です。

判定の広いWソニックは射線を塞がれる恐れがある（&的が遠の

く)ので、貫通効果もあるPハイパーメインで攻めましょう。

雑魚に構ってる暇はないぜよ！(横ステ×2+Pハイパー)(バクステ回避)

『すごいでしょ！ 他には鏡の国にも行ってきたのよ！』

『□□□□□□□□□□——ツツ!!!』

いいよ！ 来いよ！ ウ”エアツ！(操作反転)

さあここからが本番、フィールド壁面まで鏡写しになった世界で眼前に現れたジャバウオックの攻撃をバクステ回避！ 兵士来る前にPハイパーパなしてまた横ステ回避！

この流れクツソ練習したぞコラ！(思い出し怒り)

女王その他は視界の端に捉え、注目するのはアリスの足だけ！(バクステ×2)

ヌツ！ その動きはマジックショット！(横ステ回避)

《絶対攻撃》持ちかつゴリラ魔力から繰り出される最強の通常攻撃やめやめろ！(即氏不可避)

『——ツ!! ——ツ!!』

『!——!——!——!——!——!——!』

『□□□□□□——ツ!!』

だが状況は整った！

まんまと一直線に誘導されよったな馬鹿共がツ！(照準調整)

アルティメットフュージョンビーム！(超貫通・範囲拡大・ノックバック・怯み)

ガハハ雑魚一掃！ そして怯んでは仲間も呼べまい！

おらっ！(Wソニック) 女王撃破ヨシ！

覚悟しろクソガキ！

∨——世界中の高校生の頂点、私がプリンセスだ。

表彰式のムービー入りましたね。

満員の観客に見守られつつ壇上で選手達が表彰され、最後に記念撮影で締めの流れです。

ここ←団体戦だと優勝旗、個人戦だとティアラがそれぞれ渡されますが、両方優勝したほも君はどっちも持った状態となります。いいゾ（達成感）。

∨プリンセスブレイド（団体）（個人）に優勝した!!

——はい、ここでタイムストップ！

記録は1時間15分33秒。

試走から20分、自己べから3分短縮しての、堂々の更新です！成し遂げたぜ。

完走した感想ですが、チカレタ……（疲労困憊）。

終わってから実際色々思う事もあったんで、細かく分けていきましよう。

まず編集。

初RTAなんで、こげなキツかと思っとらんかったばい。

基本が足し算だから、やればやるほど（作業）終わらないよオーツ!?

でも終わってみれば楽しかったです。

チャートについて。

自分の腕に合わせたものを良く組めたと思います。最後まで走るならやっぱり音咲がナンバーワン！

BPの切り詰めはこれが限界だけど、初期特徴の《魅力的》は他と差し替えてもいいかもしれないですね。

これのおかげで信頼バフ獲得が安定すれど、余計なランダム加入

キャラ達のお手つき猶予回数まで減って、中盤〜後半は逆に神経を削られ練習コマンド選択の遅れが頻発しました。

序盤は割り切って先輩二人の練習先をお祈りする方が最適に思えます。

次、実際のプレイ。

中々やるじゃない！（自画自賛）

地区予選の土門ちゃんを筆頭に、敵のガチャは平均してうまあじ多めでした。

ギミック系の敵と妙に当たったり主軸の指希先輩が三度もメタられ、うち二度ほど選出外にさせられる目にも遭いましたが、フオロー自体はできてたのでヨシ。

要所所でクリティカルをしつかり決められたのも良い感じ。

しかし安定にはまだまだ及ばず。これがキツイねんな……（修行）。

最後は、ゲーム自体の感想。

やっぱ美少女だらけの、青春スポ根ものを……最高やな！

特にグラフィックは可愛く仕上げてやろうというスタツフの気合が伝わって好印象。

テキストもゲームテンポを損ねないほどほどの塩梅かと。

キャラ一人あたりの文量は多くないですが、全体的には十分なボリュームです。

本編で頑張ってたテキスト連打も、一度読んだやつはスキップ可能になるのでご安心。

戦闘面は氏に覚え要素の多い、見た目によらず硬派な作り。

お色気押しならそんな難しくないと始めの当時、いいようにハメ頃されたゾ（遠い目）。

興味を持ったライトゲーマー兄貴は、素直に難易度ノーマルで遊ぼう！（忠告）

……大体こんな所でしようか。

このあとおまけとしてエンディング&エピソードなんかも流しますが、一旦ここで締めとさせていただきます。

それでは、以上を持ちましてプリンセスブレイド団体戦・個人戦優勝RTAは終了になります。

長時間のご視聴、ありがとうございます。

月 10月 11月 12月 ▼

なびき in ↑ S. H. I. N. E.

!! プリンセスブレイド!!!

レギュラー選抜戦

BP : (33BP) (38BP)

(52BP)

休 : 9 10 11 12 13 14

15 16 16 17

▼ || 現在地点

BP || 総獲得B

P目安 休 || 総休養回数目安

おまけのコーナーはあじまあるよー!

こちらではプリンセスブレイドで両優勝を果たし、ほも君がゲームのエンディングを迎えるまでの様子をお届けしたいと思います。

ついでにほんへで取得した実績一覧なんかも右枠に記載をば。
んじゃウイニングラン行きまっしょい。

く少女完走中く

く高校ヒロインバトル国際選手権大会、プリンセスブレイド。

く世界中に熱狂を巻き起こした祭典は幕を閉じた。

く次に開かれるのは二年後。

くそのときは、きつとまた素晴らしい選手達が集うに違いない。

く……ところでコーチ、この乾杯前の挨拶まだ続くんですか？

「話長いつつのー!」「お料理冷めちゃう……」「もうお腹ペコペコですー!!」

く宿舎から近い所にある、高級イタリアンレストランを貸し切りにした祝賀会。

く華々しい成果を収めた日本代表チームへ、河内コーチからのご褒

美であった。

〈なので、さっさとご馳走にありつきたいのである。

「ええい、食い気の張った奴らめ!! わかったわかった!

全員グラスを持っていッ!

世界の頂点、プリンセスブレイド団体・個人を完全制覇した我ら日本代表に……ッ」

「かんぱーいッッ」

◆取得実績一覧

実績：ジャイアントキリング

難易度ベリーハードで一年目S・H・I・N・E・個人戦に優勝した

実績：エースアタッカー

50人以上KOした

実績：最強の力

《絶対攻撃》または《絶対防御》を取得した

〈長い空の旅を終え、日本へと帰って来た。

〈疲れた身体に大勢の記者に囲まれての凱旋となったが、メンバーの表情は誇らしげだ。

「ふふっ、本当に飛行機の中で記念写真撮っちゃったね。

周りの人達までノリノリで混ざって来るのはびっくりしたけど」

〈指希先輩が苦笑してスマホを見せてくる。

〈日本代表チームを中心に、他の乗客までもが皆いい笑顔で写り込んでいた。

〈音咲の皆にはもう送りました？

「もっちゃん! ほら、さっきから通知鳴りっぱなし」

〈なるほど、これは凄い。

〈画面の端に次々写り変わる懐かしい名前に、二人してつい顔が綻んだ。

実績：秒殺

公式戦で5秒以内に勝った

実績：一撃必殺

1回クリティカルKOした

実績：スナイパー

5回クリティカルKOした

実績：崖っぷち

残りHP1の状態で1回勝った

実績：土俵際のエンターティナー

残りHP1の状態で5回勝った

実績：露出狂

残りHP1の状態で10回勝った

〈空港からは、コーチや他の代表メンバーともお別れになる。

「こちらでそれぞれ車を手配してある、住所まで送るので安心して休むと良い」

〈はい、お世話になりました。

「フツ……これからのお前達の活躍、期待しているぞ」

「本当、凄い経験だった……ふふ、帰ったらみーこにも話さないよ。

あ、ほもさん……そ、その……また来年も、一緒に頑張ろうねっ！」

「もしもし、お姉ちゃん！ えへへ！ アタシいっぱい頑張ったよー

!!

それで……あ！ ほも先輩ー!! お疲れ様でしたー!!」

「あーっつかれた……。んじや、また学校でね。ほも。

は？ スマホ鳴ってる？ ……ほっときやいーのよこんなもん。ったく」

「ほもチャン！ 今日まで大変だったけど、すっごく楽しかったニヤ！

また来年、合同合宿とかで会えたらいっぱいお喋りしようね！」

「もしもーし、見ててくれた？ あははっ、世界一の彼女を持った感想はどう？

あ、ほもちゃんバイバイ!! ……え？ 今のが誰って？

……うふふふ、わたしの背中を押してくれる、頼れるチームメイトだよ」

実績：恋愛だつてチームプレイ

学校編で指希の信頼レベルを最大まで上げた

実績：トランプペットに想いを込めて

学校編で奏の信頼レベルを最大まで上げた

実績：褒めて褒めてー!

学校編でなびきの信頼レベルを最大まで上げた

実績：交喙渡りて止まり木に

学校編でイスカの信頼レベルを最大まで上げた

〳送迎車に乗せてもらい、家路につく。

＜駆け抜けて行く景色と共に、高校に入学してから今日までの思い出が次々と蘇る。

＜団体戦の強豪、音咲女子高校。

＜皆優しく、でも容赦はまるでなかった春合宿。

＜S・H・I・N・E 地区予選、本戦。

＜初めて経験した公式戦。本当は控室で震えるくらい緊張してた。

＜日本代表入り、そしてプリンセスブレイド。

＜河内コーチや代表メンバーの皆と、世界の舞台上、全ての力を合わせて戦った。

「ラジオ流しましょうか？ 今は優勝した日本代表の話題で持ち切りですよ」

＜運転手の人が気を利かせてくれた。

＜河内コーチに聞いた話では、日本のプリンセスブレイド優勝は数十年前に一度あったきり。

＜どうやら巷では大変な騒ぎになっているらしい。

＜何とも恐ろしいような、楽しみなような。

＜ありがとうございます。

＜……でも今は、このままでお願いします。

＜走行音だけが静かに聞こえる車内で、”旅”の余韻に浸らせてもらった。

あ、エンディングムービーきましたね。

今までのイベントや、試合のハイライトが順番に流れ、締めには大会の優勝写真が写りますね。

ベタだけどそこがいい（安心感）。

＜長いようで短かった二年間。

＜その中で、もっとも気になった相手は……

さらにムービー途中、ほも君のモノログでこのゲーム最後の選択

肢が出ました。

これを選ぶと、この後のエピソードがそのキャラとものになります。

候補に並ぶのは学校編までに信頼レベルを最大まで上げたキャラ達。

また、誰も選ばないままムービーを終えるとほも君ソロのエピソードとなります。

ただその際に例外が一つ。

正月特訓イベントを済ませ、さらにプリンセスブレイドで優勝していた場合……

実績：全国制覇

S・H・I・N・E で優勝した

実績：栄光をその手に

プリンセスブレイドで優勝した

実績：欲張りプリンセス

プリンセスブレイドで団体戦・個人戦両方優勝した

〓〓〓それから一年と少しが経った。

〓三年最後の大会までヒロインバトル部での活動を続け、高校を卒業した後――

「おっと、久しぶりほもちゃん。

W・H・I・T・E での戦いぶり、見せてもらったよ」

〓新設されたチーム本拠地。

〓目的地へ向かいピカピカに磨かれた廊下を歩いていると、横から

声を掛けられた。

「相変わらず、惚れ惚れするくらい強くて魅力的だね。君は。

これからはチームの一員として共に頑張ろうじゃないか」

＜王子さん。

＜同じヘッドハント仲間の王子さんだった。

＜どうやら彼女も今日に呼び出しを受けたらしい。

「情報は全員公表されていたけど、まずは顔合わせって事かな。

ふふ……わざわざ新チームを作ってプロリーグに殴り込みを掛けるなんて。

あの人も面白い事をするよね？」

＜これまでの人脈の半分を敵に回したと本人は言っていた。

＜そうしなければ、”夢”は叶わないとも。

＜まったく、大した情熱である。

＜ええ、手伝ってみたくありません。

「ははっ、やっぱり君も変わってるなあ。

ま、僕や他のメンバーも人の事は言えないけど」

＜二人で廊下を進み、やがて大きな扉の前で立ち止まった。

＜ノックをし、許可が出たので入る。

「失礼します。王子昂、ただいまよりチームへ参入させていただきます
！」

＜同じくほも、ただいまよりチームへと参入します！

＜広い室内にいたのは他のメンバー達に、チームのオーナー。

＜そして――

「――揃ったな。まずは自己紹介と行こう。

俺の名は河内 育夫。

今年新たに立ち上げたこのプロチームの監督にして、お前達を選んだ男だ!!

チーム目標は二つ！ 日本を制し、そして世界を制すツ!!

この場へやって来たお前達に今一度問う！

我こそは世界一の栄光を目指さんとする者は手を挙げろツ!!」

▽天井へ届けとばかりに、高く高く手を伸ばした。

お前の事が好きだったんだよ！（大胆告白）

いやあ、実際男主人公にした場合一番しつくり来る相手だと思いま
すね（ホモは惹かれ合う）。

《絶対攻撃》取得に男が最適なのもあって、製作の意図が見える見
える……。

え、他のキャラのエピローグも見たい？

……画面の前の君もやろう！ プリンセスブレイド!!（ダイマ）

実績：卒業・音咲女子高校

音咲女子高校でゲームクリアした

実績：バレなきや平気

主人公の性別を男にしてゲームクリアした

はい、タイトル画面に戻りました。

これで本当の本当に終わりっ！ 閉廷！ ……以上！ 皆解散！